2026年度
大学院経営学研究科
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧 ［発行日：2026/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

修士課程（昼間）授業科目【X7005】 経営管理特論Ⅰ ［洞口　治夫］ 春学期授業/Spring 1
修士課程（昼間）授業科目【X7006】 経営管理特論Ⅱ ［洞口　治夫］ 秋学期授業/Fall 3
修士課程（昼間）授業科目【X7009】 人的資源管理特論Ⅰ ［藤本　真］ 春学期授業/Spring 7
修士課程（昼間）授業科目【X7013】 国際経営特論Ⅰ ［安藤　直紀］ 春学期授業/Spring 9
修士課程（昼間）授業科目【X7014】 国際経営特論Ⅱ ［安藤　直紀］ 秋学期授業/Fall 11
修士課程（昼間）授業科目【X7022】 財務会計特論Ⅰ ［齋藤　真哉］ 春学期授業/Spring 13
修士課程（昼間）授業科目【X7023】 財務会計特論Ⅱ ［齋藤　真哉］ 秋学期授業/Fall 15
修士課程（昼間）授業科目【X7024】 経営分析論Ⅰ ［福多　裕志］ 春学期授業/Spring 16
修士課程（昼間）授業科目【X7025】 経営分析論Ⅱ ［福多　裕志］ 秋学期授業/Fall 18
修士課程（昼間）授業科目【X7027】 管理会計特論Ⅰ ［福田　淳児］ 春学期授業/Spring 20
修士課程（昼間）授業科目【X7028】 管理会計特論Ⅱ ［福田　淳児］ 秋学期授業/Fall 21
修士課程（昼間）授業科目【X7029】 ミクロ経済論Ⅰ ［宮澤　信二郎］ 春学期授業/Spring 22
修士課程（昼間）授業科目【X7030】 ミクロ経済論Ⅱ ［宮澤　信二郎］ 秋学期授業/Fall 24
修士課程（昼間）授業科目【X7033】 組織経済学［奥西　好夫］ 秋学期授業/Fall 26
修士課程（昼間）授業科目【X7036】 ファイナンス入門［芝田　隆志］ 春学期授業/Spring 28
修士課程（昼間）授業科目【X7037】 ポートフォリオ理論入門［芝田　隆志］ 秋学期授業/Fall 29
修士課程（昼間）授業科目【X7038】 デリバティブ入門Ⅰ ［山嵜　輝］ 春学期授業/Spring 30
修士課程（昼間）授業科目【X7039】 デリバティブ入門Ⅱ ［山嵜　輝］ 秋学期授業/Fall 32
修士課程（昼間）授業科目【X7040】 コーポレートファイナンス入門Ⅰ ［金　瑨晋］ 春学期授業/Spring 34
修士課程（昼間）授業科目【X7041】 コーポレートファイナンス入門Ⅱ ［金　瑨晋］ 秋学期授業/Fall 36
修士課程（昼間）授業科目【X7042】 国際経済学Ⅰ ［髙橋　理香］ 春学期授業/Spring 38
修士課程（昼間）授業科目【X7043】 国際経済学Ⅱ ［髙橋　理香］ 秋学期授業/Fall 39
修士課程（昼間）授業科目【X7044】 国際金融論特論Ⅰ ［羅　鵬飛］ 春学期授業/Spring 40
修士課程（昼間）授業科目【X7045】 国際金融論特論Ⅱ ［羅　鵬飛］ 秋学期授業/Fall 42
修士課程（昼間）授業科目【X7046】 産業組織論Ⅰ ［大木　良子］ 春学期授業/Spring 44
修士課程（昼間）授業科目【X7047】 産業組織論Ⅱ ［大木　良子］ 秋学期授業/Fall 46
修士課程（昼間）授業科目【X7048】 日本経済特論Ⅰ ［平田　英明］ 春学期授業/Spring 48
修士課程（昼間）授業科目【X7049】 日本経済特論Ⅱ ［平田　英明］ 秋学期授業/Fall 50
修士課程（昼間）授業科目【X7050】 統計学Ⅰ ［牧草　夏実］ 春学期授業/Spring 52
修士課程（昼間）授業科目【X7051】 統計学Ⅱ ［牧草　夏実］ 秋学期授業/Fall 54
修士課程（昼間）授業科目【X7052】 リサーチ・メソッド［田路　則子］ 春学期授業/Spring 56
修士課程（昼間）授業科目【X7056】 物流管理とサプライチェーンマネジメント特論Ⅰ ［李　瑞雪］ 春学期前半/Spring(1st half) 57
修士課程（昼間）授業科目【X7057】 物流管理とサプライチェーンマネジメント特論II ［李　瑞雪］ 春学期後半/Spring(2nd half) 59
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7063】 企業家活動［稲垣　京輔］ 春学期授業/Spring 61
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7064】 企業家史［二階堂　行宣］ 春学期授業/Spring 63
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7065】 経営史［韓　載香］ 秋学期授業/Fall 65
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7066】 経営戦略論［木川　大輔］ 春学期授業/Spring 67
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7067】 イノベーション・マネジメント概論［近能　善範］ 秋学期授業/Fall 68
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7068】 企業間関係論［金　容度］ 秋学期授業/Fall 70
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7072】 人的資源管理論［佐野　嘉秀］ 春学期授業/Spring 71

修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7073】 キャリアマネジメント論［小川　憲彦］ 春学期授業/Spring 73
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7074】 人事制度論［奥西　好夫］ 春学期授業/Spring 75
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7075】 労働市場論［藤本　真］ 秋学期授業/Fall .. 77
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7076】 労使コミュニケーション論［呉　学殊］ 秋学期授業/Fall 79
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7077】 経営組織論［長岡　健］ 秋学期授業/Fall .. 81
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7081】 組織マネジメント論［戎谷　梓］ 秋学期授業/Fall 83
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7082】 経営管理論［中西　善信］ 春学期授業/Spring 85
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7085】 ワークショップ（マーケティング）［朝岡　崇史］ 秋学期授業/Fall 86
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7086】 マーケティング論［岡田　庄生］ 春学期授業/Spring 89
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7087】 消費者行動論［新倉　貴士］ 秋学期授業/Fall 91
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7088】 マーケティング・リサーチ論［西川　英彦］ 春学期授業/Spring 93
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7090】 マーケティング・サイエンス論［長谷川　翔平］ 秋学期授業/Fall 95
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7091】 サービス・マネジメント論［木村　純子］ 春学期授業/Spring 96
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7093】 定性的方法論［田路　則子］ 春学期授業/Spring 98
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7097】 経営学基礎［福島　英史］ 春学期授業/Spring 99
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7098】 財務会計基礎［齋藤　真哉］ 秋学期授業/Fall 101
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7100】 ファイナンス基礎［山嵜　輝］ 春学期授業/Spring 102
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7101】 経営分析［福多　裕志］ 春学期授業/Spring 104
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7102】 経済学基礎［宮澤　信二郎］ 春学期前半/Spring(1st half) 106
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7103】 日本経済基礎［平田　英明］ 春学期前半/Spring(1st half) 108
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7106】 e-ビジネス論［入戸野　健］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 110
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7107】 統計データ解析［高橋　慎］ 春学期授業/Spring 111
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7110】 国際経営論［安藤　直紀］ 春学期授業/Spring 112
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7113】 物流管理とサプライチェーンマネジメント論I［李　瑞雪］ 春学期前半/Spring(1st half) 114
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7114】 物流管理とサプライチェーンマネジメント論II［李　瑞雪］ 春学期後半/Spring(2nd half) 116
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7120】 基礎ファイナンス［山嵜　輝］ 春学期授業/Spring 118
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7121】 経営分析［福多　裕志］ 春学期授業/Spring 120
修士課程（昼間）授業科目【X7122】 租税法Ⅰ［藤井　誠］ 春学期授業/Spring 122
修士課程（昼間）授業科目【X7123】 租税法Ⅱ［藤井　誠］ 秋学期授業/Fall 123
修士課程（昼間）授業科目【X7124】 税務会計論Ⅰ［藤井　誠］ 春学期授業/Spring 124
修士課程（昼間）授業科目【X7125】 税務会計論Ⅱ［藤井　誠］ 秋学期授業/Fall 125
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7150】 企業家養成演習［近能　善範］ 春学期授業/Spring 127
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7151】 企業家養成演習［近能　善範］ 秋学期授業/Fall 128
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7152】 人材・組織マネジメント演習［奥西　好夫］ 春学期授業/Spring 129
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7153】 人材・組織マネジメント演習［奥西　好夫］ 秋学期授業/Fall 130
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7154】 マーケティング演習［長谷川　翔平］ 春学期授業/Spring 131
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7155】 マーケティング演習［長谷川　翔平］ 秋学期授業/Fall 132
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7206】 アカウンティング・ファイナンス演習［北田　皓嗣］ 春学期授業/Spring 133
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7207】 アカウンティング・ファイナンス演習［北田　皓嗣］ 秋学期授業/Fall 134
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7208】 アカウンティング・ファイナンス演習［福田　淳児］ 春学期授業/Spring 135

修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7209】アカウンティング・ファイナンス演習［福田　淳児］秋学期授業/Fall 137
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7210】企業家養成演習［二階堂　行宣］春学期授業/Spring 139
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7211】企業家養成演習［二階堂　行宣］秋学期授業/Fall 140
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7212】企業家養成演習［稲垣　京輔］春学期授業/Spring 141
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7213】企業家養成演習［稲垣　京輔］秋学期授業/Fall 142
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7214】企業家養成演習［金　容度］春学期授業/Spring 143
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7215】企業家養成演習［金　容度］秋学期授業/Fall 144
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7216】企業家養成演習［福島　英史］春学期授業/Spring 145
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7217】企業家養成演習［福島　英史］秋学期授業/Fall 146
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7218】人材・組織マネジメント演習［中西　善信］春学期授業/Spring 147
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7219】人材・組織マネジメント演習［中西　善信］秋学期授業/Fall 148
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7220】人材・組織マネジメント演習［佐野　嘉秀］春学期授業/Spring 149
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7221】人材・組織マネジメント演習［佐野　嘉秀］秋学期授業/Fall 151
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7222】人材・組織マネジメント演習［長岡　健］春学期授業/Spring 153
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7223】人材・組織マネジメント演習［長岡　健］秋学期授業/Fall 155
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7224】人材・組織マネジメント演習［小川　憲彦］春学期授業/Spring 157
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7225】人材・組織マネジメント演習［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 158
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7226】マーケティング演習［岡田　庄生］春学期授業/Spring 160
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7227】マーケティング演習［岡田　庄生］秋学期授業/Fall 161
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7228】マーケティング演習［新倉　貴士］春学期授業/Spring 162
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7229】マーケティング演習［新倉　貴士］秋学期授業/Fall 163
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7230】マーケティング演習［田路　則子］春学期授業/Spring 164
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7231】マーケティング演習［田路　則子］秋学期授業/Fall 165
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7232】マーケティング演習［西川　英彦］春学期授業/Spring 166
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7233】マーケティング演習［西川　英彦］秋学期授業/Fall 167
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7234】マーケティング演習［木村　純子］春学期授業/Spring 168
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7235】マーケティング演習［木村　純子］秋学期授業/Fall 169
修士課程（昼間）授業科目【X7238】経営学演習Ⅰ［戸田　裕美子］春学期授業/Spring 170
修士課程（昼間）授業科目【X7239】経営学演習Ⅱ［戸田　裕美子］秋学期授業/Fall 172
修士課程（昼間）授業科目【X7240】経営学演習Ⅰ［左三川　郁子］春学期授業/Spring 173
修士課程（昼間）授業科目【X7241】経営学演習Ⅱ［左三川　郁子］秋学期授業/Fall 175
修士課程（昼間）授業科目【X7242】経営学演習Ⅰ［川島　健司］春学期授業/Spring 176
修士課程（昼間）授業科目【X7243】経営学演習Ⅱ［川島　健司］秋学期授業/Fall 178
修士課程（昼間）授業科目【X7244】経営学演習Ⅰ［北田　皓嗣］春学期授業/Spring 179
修士課程（昼間）授業科目【X7245】経営学演習Ⅱ［北田　皓嗣］秋学期授業/Fall 181
修士課程（昼間）授業科目【X7246】経営学演習Ⅰ［近能　善範］春学期授業/Spring 183
修士課程（昼間）授業科目【X7247】経営学演習Ⅱ［近能　善範］秋学期授業/Fall 185
修士課程（昼間）授業科目【X7248】経営学演習Ⅰ［戎谷　梓］春学期授業/Spring 187
修士課程（昼間）授業科目【X7249】経営学演習Ⅱ［戎谷　梓］秋学期授業/Fall 189
修士課程（昼間）授業科目【X7250】経営学演習Ⅰ［洞口　治夫］春学期授業/Spring 191
修士課程（昼間）授業科目【X7251】経営学演習Ⅱ［洞口　治夫］秋学期授業/Fall 193
修士課程（昼間）授業科目【X7252】経営学演習Ⅰ［李　瑞雪］春学期授業/Spring 194
修士課程（昼間）授業科目【X7253】経営学演習Ⅱ［李　瑞雪］秋学期授業/Fall 196
修士課程（昼間）授業科目【X7254】経営学演習Ⅰ［岡田　庄生］春学期授業/Spring 197
修士課程（昼間）授業科目【X7255】経営学演習Ⅱ［岡田　庄生］秋学期授業/Fall 199
修士課程（昼間）授業科目【X7256】経営学演習Ⅰ［安藤　直紀］春学期授業/Spring 200
修士課程（昼間）授業科目【X7257】経営学演習Ⅱ［安藤　直紀］秋学期授業/Fall 201
修士課程（昼間）授業科目【X7258】経営学演習Ⅰ［韓　載香］春学期授業/Spring 202

修士課程（昼間）授業科目【X7259】 経営学演習Ⅱ ［韓　載香］ 秋学期授業/Fall 204
修士課程（昼間）授業科目【X7260】 経営学演習Ⅰ ［金　容度］ 春学期授業/Spring 205
修士課程（昼間）授業科目【X7261】 経営学演習Ⅱ ［金　容度］ 秋学期授業/Fall 207
修士課程（昼間）授業科目【X7262】 経営学演習Ⅰ ［長谷川　翔平］ 春学期授業/Spring 208
修士課程（昼間）授業科目【X7263】 経営学演習Ⅱ ［長谷川　翔平］ 秋学期授業/Fall 210
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7400】 博士演習ⅠA（履修登録用代表コード）［経営学専攻　専任教員］ 春学期授業/Spring 211
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7401】 博士演習ⅠB（履修登録用代表コード）［経営学専攻　専任教員］ 秋学期授業/Fall 212
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7406】 博士演習ⅡA［新倉　貴士］ 春学期授業/Spring 213
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7407】 博士演習ⅡB［新倉　貴士］ 秋学期授業/Fall 214
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7408】 博士演習ⅡA［西川　英彦］ 春学期授業/Spring 215
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7409】 博士演習ⅡB［西川　英彦］ 秋学期授業/Fall 217
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7410】 博士演習ⅡA［川島　健司］ 春学期授業/Spring 219
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7411】 博士演習ⅡB［川島　健司］ 秋学期授業/Fall 221
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7412】 博士演習ⅡA［戎谷　梓］ 春学期授業/Spring 223
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7413】 博士演習ⅡB［戎谷　梓］ 秋学期授業/Fall 225
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7414】 博士演習ⅡA［佐野　嘉秀］ 春学期授業/Spring 227
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7415】 博士演習ⅡB［佐野　嘉秀］ 秋学期授業/Fall 229
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7416】 博士演習ⅡA［北田　皓嗣］ 春学期授業/Spring 231
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7417】 博士演習ⅡB［北田　皓嗣］ 秋学期授業/Fall 233
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7418】 博士演習ⅢA［西川　英彦］ 春学期授業/Spring 235
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7419】 博士演習ⅢB［西川　英彦］ 秋学期授業/Fall 237
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7420】 博士演習ⅢA［新倉　貴士］ 春学期授業/Spring 239
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7421】 博士演習ⅢB［新倉　貴士］ 秋学期授業/Fall 240
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7422】 博士演習ⅢA［小川　憲彦］ 春学期授業/Spring 241
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7423】 博士演習ⅢB［小川　憲彦］ 秋学期授業/Fall 243
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7424】 博士演習ⅢA［坂上　学］ 春学期授業/Spring 245
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7425】 博士演習ⅢB［坂上　学］ 秋学期授業/Fall 247
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7426】 博士演習ⅢA［北田　皓嗣］ 春学期授業/Spring 249
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7427】 博士演習ⅢB［北田　皓嗣］ 秋学期授業/Fall 251
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7450】 博士コースワークショップⅠA［経営学専攻　専任教員］ 春学期授業/Spring 253
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7451】 博士コースワークショップⅠB［経営学専攻　専任教員］ 秋学期授業/Fall 254
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7452】 博士コースワークショップⅡA［経営学専攻　専任教員］ 春学期授業/Spring 255
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7453】 博士コースワークショップⅡB［経営学専攻　専任教員］ 秋学期授業/Fall 256
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7454】 博士コースワークショップⅢA［経営学専攻　専任教員］ 春学期授業/Spring 257
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7455】 博士コースワークショップⅢB［経営学専攻　専任教員］ 秋学期授業/Fall 258

MAN500F1 – 0147（経営学 / Management 500）

経営管理特論 I

洞口　治夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数多くの企業が活動し、経営によって利益をあげている国や地域は、豊かな国、豊かな地域になっています。企業が世界的に活躍の場を広げていける理由は何でしょうか。この授業はセミナー形式で行い、経営管理の主要な領域とその理論について理解し、それに基づいて企業における組織活動を検討していきます。修士課程にふさわしい学術的な日本語文章力の錬成を目標にして、修士論文の書き方についても様々な例をもとに紹介します。

【到達目標】
経営管理の理論研究と実証研究を理解するとともに、論文作成に必要な日本語によるロジカル・シンキングの能力を高めていきます。たとえば、以下のような課題です。リサーチ・クエスチョン（研究課題の設定）とは何か。用語の定義をいかに行うか。先行研究のサーベイとはどのような作業なのか。テキスト・クリティーク（資料批判）とは何か。仮説とはどのような言明であるのか。仮説をつくる、という作業は、どのようなプロセスを経て行うのか。実証とは何か。実証的研究には、どのような研究方法があるのか。一次データと二次データの違いは何か。データ収集の方法には、どのような方法があるのか。統計的な解析が可能なのは、どのような課題に対してか。内生性（endogeneity）とは何を意味するか。論文の結論部分には何を記載するべきか。こうした思考方法を積み上げることで修士論文の作成が可能になります。この授業では、そうした課題の基礎を理解することを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業はセミナー形式で行います。参加学生諸君は、割り当てられた課題についての「まとめ」を作成し、授業内で報告するとともに、その内容に関する疑問について議論をしていきます。そのなかで、必要なテーマについては、講義によって補っていきます。学生諸君と相談のうえ、商店街ないし会社・業界団体などを訪問し、その内容をレポートにまとめてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Orientation	授業の進め方、テキスト、参考文献などについて説明。 Explanation of class procedures, textbooks, references, etc.
2	経営管理とは何か What is business management?	教科書第１章。経営管理の全体像の説明。 Explanation of the overall picture of business management.
3	ロボットと人間 Robots and humans	テイラーによる科学的管理法の内容と現代的な意味。 The content and contemporary meaning of the scientific management method by Taylor.
4	人口知能と集合知 Artificial Intelligence and Collective Intelligence	バーナード＝サイモン理論による組織の定義。代表的な定義による管理の理解。 Definition of organization according to Bernard-Simon theory. Understanding of management by typical definitions.
5	繰り返し作業と仲間 Repetitive tasks and peers	教科書第2章。戦略論入門。人間関係論。疲労の発生要因と現代的な意味。 Corporate Strategy, Human relations theory.
6	社会科学における実験の可能性 The Potential of Experimentation in the Social Sciences.	教科書第3章。ホーソン実験の内容と現代的な意義。 The Hawthorne experiment and its contemporary significance.
7	やる気と報酬 Motivation and Reward Motivation and incentives.	教科書第4章。モティベーションとインセンティブ。個人を動かすものと組織を動かすもの。 What motivates individuals and what motivates organizations.
8	目標管理 Goal Management	目標管理の内容と企業への導入。ＭＢＯとドラッカー。 The content of goal management and its introduction into companies. MBO and Drucker.
9	成果主義 Outcome Based Management	教科書第5章。日本企業における成果主義について。 The results-oriented approach in Japanese companies.
10	管理原則と管理過程論 Management Principles and Management Process Theory	教科書第6章。ファヨールの理論と組織の柔軟性について。 Fayol's theory and organizational flexibility.
11	コアコンピテンス Core Competence	教科書第7章。ペンローズ理論の重要性。 Importance of Penrose Theory.
12	バーナード理論 Barnard's Theory	教科書各章の復習。バーナード理論の概要の説明。 An overview of Barnard's theory.
13	インフォーマル組織と排除のメカニズム Informal Organizations and Mechanisms of Exclusion	教科書各章の復習。インフォーマル組織の形成条件と、そこで作用する排除のメカニズムについて。 The conditions for the formation of informal organizations and the mechanisms of exclusion that operate in them.
14	限定された合理性 Bounded Rationality	サイモンの意思決定論の説明。囚人のジレンマ。授業内試験。 Explanation of Simon's theory of decision-making. Prisoner's The Prisoner's Dilemma.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各時間ごとに、予習・復習の内容を指示します。教科書は必須ですので購入して下さい。それ以外に論文のコピーなどを配布します。準備・復習時間は2単位科目では1回につき4時間以上となっています。

【テキスト（教科書）】
洞口治夫・行本勢基『入門　経営学－はじめて学ぶ人のために－（第2版）』同友館、2012年.（2200円＋消費税）
【Textbook (textbook)】
Haruo Horaguchi and Seiki Yukimoto, Nyuumon Keieigaku: Hajimete manabu hito no tameni (Introduction to Business Administration: For Those Learning for the First Time) (2nd Edition), Doyukan, 2012.

【参考書】
高橋伸夫編著『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房、2011年.
【Reference book】
Nobuo Takahashi (ed.), Yokuwakaru Keieikanri (Understanding Business Management), Minerva Shobo, 2011.

【成績評価の方法と基準】
授業への参加（30％）、宿題の提出ないし授業内出席確認テスト(mini-test)（20％）、中間レポート(20％)、期末レポートないし授業内試験（30％）によって判定します。

【学生の意見等からの気づき】
本科目は2022年度新設科目であり、2023年度は休講でした。2022年度について学生からの意見が特になかったため、本項目は該当しません。授業参加学生からの要望を聞きながら学期中の授業改善に努めていきます。
This course was newly established in 2022 and was not offered in 2023. This item is not applicable since there were no specific comments from students in 2022. We will make efforts to improve classes during the semester while listening to requests from students participating in the class.

【学生が準備すべき機器他】
学生諸君は、ノートテイキングのためのノートと筆記用具、英和辞書機能つき電子辞書ないしスマホ、授業内容の告知のためには授業支援システムを利用しますので、それが閲覧できるパソコンが必要です。
【Students are required to prepare the following equipment】
Students will need a notebook and writing utensils for note-taking, an electronic dictionary with English-Japanese dictionary function or a smart phone, and a computer with access to the class support system, which will be used to inform students of class contents.

【その他の重要事項】
授業の一部はオンラインで開講する場合があります。この科目を履修する学生には、経営組織論、経営戦略論といった科目の履修を薦めます。レポート作成の対象、日時、訪問場所などは学生諸君と相談のうえで、いくつかの候補のなかから決定します。洞口のオフィスアワーは、木曜日昼休み、12:20～13:00、ボワソナードタワー 18階、1814 研究室です。
【Other Important Information】
Some classes may be held online. Students taking this course are recommended to take courses such as Management Organization Theory and Management Strategy Theory. The subject of the report, the date and time, and the place to visit will be decided among several candidates after consultation with students. Prof. Horaguchi's office hours are Thursday lunch break, 12:20-13:00, Boissonade Tower 18th floor, Room 1814.

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際経営論
＜研究テーマ＞国際経営、知識管理
＜主要研究業績＞ Haruo H. Horaguchi, 2023. Forecasting foreign exchange rates as group experiment: actuality bias and fact-convergence effect within wisdom of crowds, Review of Behavioral Finance 15 (5), 652-671
Haruo H. Horaguchi. 2022. Foreign Direct Investment of Japanese Firms: Investment and Disinvestment in Asia, c.1970-1989, Academic Research Publication.
原田順子・洞口治夫編著『改訂新版　国際経営』放送大学教育振興会、2019年.

【Outline (in English)】
Countries and regions with many thriving companies are considered wealthy, and their prosperity is evident. What factors contribute to the global expansion of companies? This seminar-style class aims to provide students with a comprehensive understanding of key areas in business management and associated theories. Students will analyze organizational activities within companies through this lens. Additionally, the course focuses on enhancing academic Japanese writing skills suitable for a master's degree program, including guidance on crafting a master's thesis using diverse examples.
[Goal] This course aims to help students grasp both theoretical and empirical research in business management, while enhancing their logical thinking skills in Japanese for effective paper writing. Assignments include exploring key questions such as: What constitutes a research question or the framing of a research problem? How do we define terms? What's involved in a review of prior research? What is textual criticism? What role does a hypothesis play, and how is one formulated? What does "empirical" mean, and what research methods are used in empirical studies? We'll also delve into distinctions between primary and secondary data, various data collection methods, the application of statistical analysis, understanding endogeneity, and crafting impactful paper conclusions. Building on these concepts is essential for successfully completing a master's thesis. The primary goal of this class is to establish a foundational understanding of these essential topics.
[Methods] The class will be conducted in a seminar format. Each student will prepare a "summary" of the assigned topic, report it to the class, and discuss questions related to its content. In the course of the seminar, necessary topics will be supplemented by lectures. After consultation with the students, they will visit shopping areas, companies, industry groups, etc., and write a report on their visit.
[Work to be done outside of class (preparation, review, homework, etc.)] The contents of preparation and review will be given for each class period. Reading the textbook and reference books is required to earn credits. In addition, copies of articles and other materials will be distributed. For a two-credit course, the required preparation and review time is at least four hours per session.
[Feedback] Regarding feedback on reports and other assignments, students will give presentations in class and receive comments from both the professor and fellow students.
[Grading Methods and Criteria] The evaluation will be based on participation in class (30%), submission of homework assignments (20%), mid-term report and/or presentations (20%), and the final report (30%).

MAN500F1 – 0148（経営学 / Management 500）

経営管理特論 II

洞口　治夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営管理特論Ⅱの授業では、修士課程１年次の留学生、研修生、日本人学生を対象に、経営に関する修士論文作成に必要な研究方法論について学習します。大学院入学試験の段階で提出した研究テーマをもとにして、それを修正し、研究を進めていく方法を学びます。仮説と命題、演繹と帰納、理論と実証といった科学的な考え方を学習し、学会、学術雑誌、レフェリー制度など、経営学研究の成果発表方法についても学習します。学術的な研究を将来にわたって進めていきたいと考える修士課程二年生の学生諸君、博士課程に在籍する学生諸君の参加も歓迎します。
【Outline】
In this course of the Study in Business Administration class, master's students and occasional students learn about the research methods required to write a master's thesis on management. Based on the research topic submitted for the graduate school entrance exam, students will learn how to revise it and conduct further research. Students will learn scientific concepts such as hypothesis and proposition, deduction and induction, and theoretical and empirical research, as well as how to present the results of their management research at conferences, academic journals, and refereed journals.

【到達目標】
日本語検定１級を取得した留学生、あるいは、それと同等の日本語力を有する留学生、また、日本国内で大学を卒業した日本人学生を対象として、修士課程でのリサーチペーパーを書くためのアカデミックな日本語文章力の向上を目標とします。半期授業での少人数クラス指導を通じて、学術的に見て価値の高い経営に関するリサーチペーパーを完成させるために必要な技能の習得を目指します。研究課題の発見能力、先行研究の理解力、英語・日本語文献の読解力、インタビュー調査での質問構成力、ノートテイキング、図表の作成能力、統計的分析力、日本語文章力、論理的思考能力など高度な思考能力を養い、経営に関する修士論文作成に役立つ能力の獲得を目指します。
【Goal】
This course aims to improve academic Japanese writing skills for writing master's research papers for international students who have passed Level 1 of the Japanese Language Proficiency Test or have equivalent Japanese language skills, as well as for Japanese students who have graduated from universities in Japan. Through small-group instruction in semester-long classes, students aim to acquire the skills necessary to complete an academically valuable research papers on management. The course aims to develop advanced thinking skills such as the ability to find research topics, understanding of previous research, reading comprehension of English and Japanese literature, skills for interview surveys, note-taking, charting, statistical analysis, Japanese writing skills, logical thinking skills, and other skills useful for writing a master's thesis on management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
レポートなどへのフィードバックについては、授業内でのプレゼンテーションを行って教授と学生からコメントをもらいます。(期末試験としてのレポートはこの限りではありません。)

修士課程・研修生のなかには留学生も多数いるため、日本語教科書の音読を中心に授業を進めます。日本語を見て意味がわかるだけではなく、正確に読めることが大切です。そのうえで日本語文章力を高めます。参加学生諸君の論文作成準備状況に応じて、論文作成の段階を想定して必要な準備について学習します。
修士論文ないしリサーチペーパーの執筆を予定している１年次生は、各コースごとにテーマに関する報告を行うことが求められており、そこで指導教員が決まります。また修士論文ないしリサーチペーパーを作成する２年次生は、その作成過程でコースの院生全員が参加する修士論文の中間発表会で報告します。そうした報告の準備として経営に関する研究方法を学習します。
【Methods】
Since there are many international students in the master's program and occasional students, the class will be conducted based on reading Japanese textbooks aloud. It is important not only to be able to understand the meaning of Japanese, but also to be able to read it accurately. In addition, students will improve their Japanese writing skills. First-year students who are planning to write their research papers are required to present a report on the theme. In preparation for a presentation, students study research methods related to management.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経営管理の学び方:科目の意義についてのイントロダクション Introduction to the subject	教科書①、はじめに、第１章の輪読。 We will create and confirm an annual plan for writing the master's thesis. Textbook ① Introduction, Chapter 1. リサーチペーパー執筆の年間計画を確認する。
第2回	経営管理研究の意義:研究計画の作成指導 Guidance on developing a research plan	リサーチペーパーのテーマと執筆計画の概要作成。ケース・スタディとケース・ディスカッション。教科書①第２章、第３章。 We prepare an outline of your master's thesis topic and writing plan. We will learn about case study and case discussion. Textbook 1) Chapters 2 and 3.
第3回	経営管理研究方法論の検討 Discussion on research methodology	理論研究と実証研究。アンケート調査と参与観察。教科書①第４章、第５章。 Theoretical research and empirical research. Questionnaire survey and participant observation. Textbook 1) Chapters 4 and 5.
第4回	ロジカルシンキングと仮説 Logical thinking and hypothesis	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。教科書①第６章、第７章。 We will examine, report, and discuss previous research. Textbook 1) Chapters 6 and 7.
第5回	研究成果の表現技術 Techniques for expressing research findings	リサーチペーパーのテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。教科書①第８章、第９章。 We will discuss prior research on the topic of the master's thesis. Textbook 1) Chapters 8 and 9.

第6回	調査計画の作成指導 Guidance on developing a fieldwork plan	修士論文のテーマに関する調査計画を報告し、議論する。教科書①第10章、第11章。 Students will report and discuss the research plan for the topic of the master's thesis. Textbook 1) Chapters 10 and 11.
第7回	フィールドワークの発表 Presentation of fieldwork	フィールドワークの発表をして議論する。教科書①第12章、あとがき。 Students will present and discuss their fieldwork. Textbook 1) Chapter 12, Afterword.
第8回	ケーススタディの発表 Presentation of case studies	ケーススタディに関する発表をして議論する。教科書②第1章、第2章。 Presentation and discussion of the case study. Textbook 2: Chapters 1 and 2.
第9回	調査データ収集の方法 Methods of survey data collection	調査結果の有効性について議論する。教科書②第3章。 We will discuss the validity of the research results. Textbook 2, Chapter 3.
第10回	経営管理研究の視角 Perspectives on business management research	経営管理の研究テーマに適合的な調査の仕方について議論する。教科書②第4章。 We will discuss how to conduct a survey that fits the research theme of business management. Textbook 2, Chapter 4.
第11回	アンケート調査とグループインタビュー Questionnaire survey and group interview	経営管理の研究テーマに適合的な調査の仕方について議論する。教科書②第5章。 To discuss how to conduct a survey suitable for an academic paper. Textbook (2), Chapter 6.
第12回	証拠分析の方法 Methods of evidence analysis	学術論文に適合的な調査の仕方について議論する。教科書②第6章。 Discussion on how to conduct research suitable for academic papers. Textbook 2, Chapter 6.
第13回	経営管理研究論文の構想 Conception of a business management research paper	論文の論理構成と表現について検討する。教科書②の総復習。引用論文の確認。 To discuss the logical structure and expression of academic papers. Review of Textbook 2. Review of cited papers.
第14回	授業内試験。研究報告の準備。 In-class examination. Preparation of research report.	期末レポート提出。リサーチペーパー作成の中間報告準備を行う。 Submission of final report. Prepare for the mid-term report meeting in your course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。
第1回　リサーチペーパーのテーマを構想する。
第2〜3回　リサーチペーパーのテーマと執筆計画の概要を作成する。
第4〜8回　小売店ないし飲食店を2店舗以上比較して発見した事実を発表し、そのレポートを作成する。
第9〜13回　修士論文ないしリサーチペーパーのテーマに関連した先行研究を収集し、報告レジュメを作成する。具体的な調査方法を考案する。
第14回　リサーチペーパー中間報告のための資料を作成してレポートを提出する。

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
Class 1: Conceptualize the theme of the master's thesis.
Class 2-3: Create an outline of the master's thesis theme and writing plan.
Class 4-8: Students will compare two or more retail stores or restaurants, present their findings, and write a report on their findings.
Class 9-13: Collect prior research related to the theme of the master's thesis and prepare a report resume. Students will devise specific research methods.
Class 14: Prepare materials for the interim report of the master's thesis and submit the report.

【テキスト（教科書）】

教科書①、洞口治夫著『ＭＢＡのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文眞堂、2018年、2400円＋税。
教科書②、ロバート・Ｋ・イン著『新装版　ケース・スタディの方法　第２版』近藤公彦訳、千倉書房、2011年、3500円＋税。
＜アマゾンなどで中古本も購入できます。＞
その他、必要な教材は授業内ないし学習支援システムによって配布します。

【Textbooks】

Textbook (1), Haruo Horaguchi, MBA no Narejji Manejiment: Shugochi Souzou no Genba toshiteno Shakaijin Daigakuin (Knowledge Management in MBA: Graduate School for Working Adults as a Site of Collective Knowledge Creation), Bunshindo, 2018, 2,400 yen plus tax.
Textbook (2), Robert K. Yin, Shinsoban Keisu Sutadii no Houhou, Dai 2-han, (Newly Revised version, Case Study Research, 2nd Edition, SAGE Publications, 1994), translated by Kimihiko Kondo, Chikura Shobo, 2011, 3,500 yen plus tax.
＜ You can also buy used books from Amazon.com. ＞
In addition, other necessary materials will be provided in class. Other materials will be distributed in class or through the learning support system.

【参考書】

①小池和男・洞口治夫編『経営学のフィールド・リサーチ－「現場の達人」の実践的調査手法』日本経済新聞社、2006年。＜調査と参与観察の現場を知る。＞
②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント』白桃書房、2008年。＜とくに第11章。＞
③小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000年。

【成績評価の方法と基準】

評価方法と配分: 出席と授業参加（42％）、授業内報告（18％）、期末試験(レポート提出)(40％)。
評価基準：出席と授業内での発言を重視します。授業内の報告については満たすべき基準を授業内で指示します。期末試験(レポート提出)の評価基準は、理論的なフレームワークの確かさ、実証分析の手堅さ、論理的な首尾一貫性、テーマの斬新性、日本語文章力などです。

【Grading Criteria / Policy】

Evaluation method and distribution: Attendance and class participation (42%), in-class reporting (18%), final exam (report submission) (40%).
Evaluation criteria: Emphasis will be placed on attendance and in-class comments. The criteria to be met for in-class reports will be indicated in class. The evaluation criteria for the final exam (report submission) will be: solidity of the theoretical framework, solidity of the empirical analysis, logical coherence, novelty of the theme, and Japanese writing ability.

【学生の意見等からの気づき】
本科目は2022年度新設科目であり、2023年度は休講でした。2022年度について学生からの意見が特になかったため、本項目は該当しません。授業参加学生からの要望を聞きながら学期中の授業改善に努めていきます。
This course was newly established in 2022 and was not offered in 2023. This item is not applicable since there were no specific comments from students in 2022. We will make efforts to improve classes during the semester while listening to requests from students participating in the class.

【学生が準備すべき機器他】
日本語の漢字を調べることのできる電子辞書、あるいは、その機能をもったスマホ。課題をワードファイルでダウンロード、アップロードできるインターネット端末に接続したパソコンの利用も必須です。
An electronic dictionary that can look up Japanese kanji, or a smart phone with that function. The use of a computer is also required. It must be connected to Internet that can download and upload assignments as word files.

【その他の重要事項】
いくつかの授業はオンラインで開講される場合があります。
本科目は、修士課程一年次からリサーチペーパーの構想を考えたいと思う学生諸君の準備を助けることを目的にしています。修士課程二年次でリサーチペーパー作成に取り組んでいる学生諸君の参加も歓迎します。スタートが早い場合には、完成した修士論文の評価も高いものになるでしょう。修士課程一年次にたくさんの科目を履修しすぎて修士論文作成の準備がまったくできなくなるのは、賢い選択とは言えません。修士課程一年次から調査データを積み上げることで優れた研究成果を提出することが可能になります。
洞口は法政大学経営学部教授であるとともに、東証プライム市場上場企業の社外取締役を拝命しています。つまり、経営理論と実務の関係を考察しています。取締役会のメンバーとして現時点の企業実務に関わることで、現在の経営課題を知ることができ、コーポレートガバナンスという単語の意味を実感を持って理解できます。この授業では、社外取締役という仕事での経験をもとに経営管理の現代的課題を指摘し、研究課題の設定に活かす方法を探求します。
洞口のオフィスアワーは、木曜日昼休み、12:20～13:00、ボワソナードタワー 18階、1814 研究室です。
【Other Important Information】
Some classes may be held online. Students taking this course are recommended to take courses such as Management Organization Theory and Management Strategy Theory. The subject of the report, the date and time, and the place to visit will be decided among several candidates after consultation with students. Prof. Horaguchi's office hours are Thursday lunch break, 12:20-13:00, Boissonade Tower 18th floor, Room 1814.
The purpose of this course is to help prepare students who want to start thinking about their master's thesis concept in the fall semester of their first year of the master's program. Students who are in their second year of the master's course and are working on their master's thesis are also welcome to participate. The earlier you start, the higher the evaluation of your completed master's thesis will be. It is not a wise choice to take too many courses in the first year of a master's program and be completely unprepared to write a master's thesis. By accumulating research data from the first year of the master's program, you will be able to submit excellent research results.
In addition to being a professor at Hosei University's Faculty of Business Administration, Prof. Horaguchi is also an outside director of a company listed on the prime market of the Tokyo Stock Exchange. In other words, he examines the relationship between management theory and practice in the same way as working graduate students. By being involved in current corporate practice as a member of the board of directors, I am able to learn about current management issues and gain a real understanding of the meaning of the word "corporate governance. In this class, we will use our experiences in our work as outside directors to point out contemporary issues in business management and explore ways to apply them to the setting of our research agenda.

【Outline (in English)】
In this course of the Study in Business Administration class, master's students and occasional students learn about the research methods required to write a master's thesis on management. Based on the research topic submitted for the graduate school entrance exam, students will learn how to revise it and conduct further research. Students will learn scientific concepts such as hypothesis and proposition, deduction and induction, and theoretical and empirical research, as well as how to present the results of their management research at conferences, academic journals, and refereed journals.
【Learning Objectives】
This course aims to improve academic Japanese writing skills for writing master's research papers for international students who have passed Level 1 of the Japanese Language Proficiency Test or have equivalent Japanese language skills, as well as for Japanese students who have graduated from universities in Japan. Through small-group instruction in semester-long classes, students aim to acquire the skills necessary to complete an academically valuable research papers on management. The course aims to develop advanced thinking skills such as the ability to find research topics, understanding of previous research, reading comprehension of English and Japanese literature, skills for interview surveys, note-taking, charting, statistical analysis, Japanese writing skills, logical thinking skills, and other skills useful for writing a master's thesis on management.
【Methods】
Since there are many international students in the master's program and occasional students, the class will be conducted based on reading Japanese textbooks aloud. It is important not only to be able to understand the meaning of Japanese, but also to be able to read it accurately. In addition, students will improve their Japanese writing skills. First-year students who are planning to write their research papers are required to present a report on the theme. In preparation for a presentation, students study research methods related to management.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
Class 1: Conceptualize the theme of the master's thesis.
Class 2-3: Create an outline of the master's thesis theme and writing plan.
Class 4-8: Students will compare two or more retail stores or restaurants, present their findings, and write a report on their findings.
Class 9-13: Collect prior research related to the theme of the master's thesis and prepare a report resume. Students will devise specific research methods.
Class 14: Prepare materials for the interim report of the master's thesis and submit the report.
【Textbooks】
Textbook (1), Haruo Horaguchi, MBA no Narejji Manejiment: Shugochi Souzou no Genba toshiteno Shakaijin Daigakuin (Knowledge Management in MBA: Graduate School for Working Adults as a Site of Collective Knowledge Creation), Bunshindo, 2018, 2,400 yen plus tax.
Textbook (2), Robert K. Yin, Shinsoban Keisu Sutadii no Houhou, Dai 2-han, (Newly Revised version, Case Study Research, 2nd Edition, SAGE Publications, 1994), translated by Kimihiko Kondo, Chikura Shobo, 2011, 3,500 yen plus tax.
＜ You can also buy used books from Amazon.com. ＞ In addition, other necessary materials will be provided in class.
Other necessary materials will be distributed in class or through the learning support system.
【Grading Criteria / Policy】
Evaluation method and distribution: Attendance and class participation (42%), in-class reporting (18%), final exam (report submission) (40%).

Evaluation criteria: Emphasis will be placed on attendance and in-class comments. The criteria to be met for in-class reports will be indicated in class. The evaluation criteria for the final exam (report submission) will be: solidity of the theoretical framework, solidity of the empirical analysis, logical coherence, novelty of the theme, and Japanese writing ability.

MAN500F1 – 0151（経営学 / Management 500）

人的資源管理特論 I

藤本　真

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の企業が実践する人的資源管理の基本的な考え方を学び、その特殊性（海外の企業及び制度との国際比較）について議論していきます。
取り上げるテーマは、人材の募集・採用、人材の配置・異動、評価・賃金制度、能力開発、労働時間管理、労使関係管理、多様化する人材の管理（非正規化・国際化）、退職・解雇などです。これらの領域について現状と歴史、主要な議論を把握するとともに、参加者は、各領域に対応するケースや論文を取りまとめ、その構造や課題について報告・議論します。
こうした学習活動を通じ、人的資源管理にかかわる理論や議論をふまえて、人的資源管理の現状や課題について考える力を身につけることを目標としています。

【到達目標】
①人的資源管理論の対象領域の広がりと基本的な考え方を知る。
②人的資源管理の個別分野に関する基礎的な理論や議論を理解する。
③そのうえで、日本企業における人的資源管理の特殊性について理解・評価する。
④身近な人的資源管理の事例について考察する視点を得る。
⑤人的資源管理に関連する論文について批判的に検討する視点を得る。
⑥修士論文等で研究するテーマについてのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
１．本授業は、対面型授業として、実施します。
２．授業は、①人的資源管理の各領域に関する基本的な考え方や、議論の動向についての講義と、②参加者による課題についての報告・ディスカッション、とを組み合わせて進める予定です。毎回、講義形式の部分に加えて、参加者に深く考え、発言してもらう機会を設けます。報告・議論の準備が課題となります。
３．およそのスケジュールは授業計画のとおりです。ただし、各テーマの授業時間の配分等については、参加者の関心に応じて柔軟に変更する可能性があります。また、順序を適宜、入れ替えることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的、取り上げるテーマ、進め方についての説明
第2回	オリエンテーション	参加者の問題関心の共有と、人的資源管理の基本枠組みについての説明
第3回	採用のマネジメント	採用の目的、採用管理の基本、新卒採用・中途採用の意義、採用と定着
第4回	配置と異動	配置・異動の目的、初任配置、企業を超えた配転
第5回	昇進と昇格	昇進管理の目的、昇進における「選抜」「育成」「動機づけ」の関係、社員の格付け、昇格と昇進
第6回	多様な雇用・就業形態の活用	正社員以外の雇用・就業形態で働く人々の配置と処遇、「同一労働・同一賃金」に向けた取り組み
第7回	働く時間のマネジメント	労働時間管理の基本的枠組み、長時間労働・「サービス残業」の背景、ワーク・ライフ・バランス
第8回	仕事ぶりの評価	人事評価の目的・方法、様々な評価要素（コンピテンシーなど）、人事評価に伴う課題
第9回	賃金管理(１) – 賃金決定と福利厚生の枠組み –	賃金の基本的な枠組み、賃金がもつ機能、賃金の総額管理と個別賃金管理、福利厚生
第10回	賃金管理(２) – 様々な給与形態 –	「年功主義的」賃金の成立過程と課題、近年における評価・賃金制度の模索と課題
第11回	能力開発とキャリア形成のマネジメント(１)	仕事上の能力開発の目的、能力開発の方法、リスキリング、能力開発とキャリア形成・管理
第12回	能力開発とキャリア形成のマネジメント(２)	配置・異動とキャリア形成、「新しい」異動の仕組みと課題、「キャリア自律」に向けた取組み
第13回	女性の仕事とキャリア形成	女性の採用・配置・処遇の現状、性別職域分離とその解消に向けた取組み
第14回	退職のマネジメント	退職管理、早期退職優遇制度、定年制、「70歳までの雇用・就業」に向けての取組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。
各回の事前に配布する講義用のレジュメを熟読しておくこと。特に、留学生の参加者は、自国の制度・実態との差異と今後の課題について、意見・議論できるように準備しておくこと。
また、各回で発表の指名を受けた参加者は、発表課題について内容をまとめたレジュメを作成しておくこと。

【テキスト（教科書）】
講義全般を通じての基本テキストは特には指定しません。各回の授業の前に、講義で用いるレジュメを配布します。

【参考書】
各回のテーマによって、以下の文献を参考文献として使用します。
①今野浩一郎・佐藤博樹[2020]『人事管理入門（第3版）』, 日本経済新聞社.
②佐藤博樹・藤村博之・八代充史[2023]『新しい人事労務管理（第7版）』, 有斐閣.
③平野光俊・江夏幾多郎[2025]『人事管理〜人と企業，ともに活きるために(第2版)』, 有斐閣ストゥディア.
④佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太朗[2025]『人的資源管理 事例とデータで学ぶ人事制度』, ミネルヴァ書房.
⑤八代充史・梅崎修・倉重公太朗・吉川克彦編著[2025]『問いから考える人材マネジメントQ&A』, 中央経済社.
⑥上林千恵子編著[2026]『よくわかる産業社会学(第2版)』, ミネルヴァ書房.

【成績評価の方法と基準】
１．第２回以降の出席を「授業における学習姿勢」として評価(40%)
２．報告の担当回での報告内容の評価(30%)
３．授業における議論への参加の評価：内容、積極性を評価(30%)
以上の３項目を総合して、最終的な評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
１．人的資源管理とは、「①社会環境上の、または組織における様々な制約条件のもと、②人材と仕事・役割をマッチングしつつ、③個々の人材がパフォーマンスを発揮できるように取り組み、④組織としてのパフォーマンスを挙げる」ための営みと、捉えることができます。授業の中では、各回のテーマに沿う形で、この①〜④の要素についての理解が進むように、講義で話題提供と問題提起を行い、報告・ディスカッションを通じて、検討を行っていきます。
２．この授業は、海外から進学してきた大学院生が多く履修しているため、日本企業の人的資源管理についての理解を深めるとともに、海外企業と日本企業との共通点や違いがなぜ生まれるのかについて、考察できる機会にしていきたいと考えています。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
産業社会学、人的資源管理論
＜研究テーマ＞
①環境変化のもとでの日本企業における能力開発活動、キャリア管理
②中小企業セクターで働く人々の意識とキャリア形成に向けての活動
③転職・中途採用と能力開発・キャリア形成
④能力開発、労働市場に関する社会的インフラ（公共職業訓練制度、資格・検定制度など）の機能
＜主要研究業績＞
（書籍）
○労働政策研究・研修機構編[2012]『中小企業における人材育成・能力開発』(共著),労働政策研究・研修機構.
○梅崎修・池田心豪・藤本真編著[2019]『労働・職場調査ガイドブック』,中央経済社.
○森山智彦／労働政策研究・研修機構編［2022］『70歳就業時代における高年齢者雇用』,労働政策研究・研修機構.
○藤本真・佐野嘉秀編著［2024］『日本企業の能力開発システム』,労働政策研究・研修機構.
（論文）
○藤本真[2011]「60歳以降の勤続をめぐる実態―企業による継続雇用の取組みと高齢労働者の意識・行動」,日本労働研究雑誌No.616.
○藤本真[2018]「「キャリア自律」はどんな企業で進められるのか」,日本労働研究雑誌No.691.
○藤本真[2023]「日本のデジタル関連スキル養成政策の特徴と課題」,日本労働研究雑誌No.754.

【Outline (in English)】
【Outline】
Students will learn the basic concept of human resource management practiced by Japanese companies and discuss their characteristics through international comparison with overseas companies and systems.
The topics covered in this class are recruitment, placement/transfer, evaluation, wage system, human resource development, working time management, industrial relations, diversification of human resources, retirement, and so on. Participants are required to understand the main issues on these topics, and to report and discuss examples and papers corresponding to each topic.
Through these learning activities, the goal is for participants to acquire the ability to think about the current status and issues of human resource management.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
(1) To understand the breadth of the subject area of human resource management theory and its basic concepts.
(2) To understand the basic theories and discussions on individual areas of human resource management.
(3) To understand and evaluate the particularities of human resource management in Japanese companies.
(4) To gain a perspective from which to examine familiar human resource management case studies.
(5) To gain a viewpoint from which to critically examine papers related to human resource management.
(6) To obtain hints for research themes for master's thesis.
【Learning activities outside of classroom)】
Before each class meeting, students are expected to do the followings. Your required study time is at least two hours for each　class meeting.
(1) Students are expected to read carefully the lecture resume distributed in advance.
(2) International students should be prepared to discuss the differences between the system and the actual situation in their home countries and the future issues.
(3) Participants who are appointed to give a presentation in each session should prepare a resume summarizing the contents of the presentation topic.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 30% and in-class contribution：70%.

MAN500F1 – 0155（経営学 / Management 500）

国際経営特論 I

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本国で競争力のある企業が、必ずしも海外で成功するとは限りません。本国と外国とのさまざまな違いが、本国における成功要因の有効性を下げてしまうことが理由として考えられます。それでは企業は外国でどのように競争したらよいのでしょうか。これが国際経営の主要な研究課題です。本講義では、国際経営において伝統的に重要な研究領域、および近年注目されている研究領域を概観します。学生は、国際経営における重要なトピックを、経営学で頻繁に適用される理論と関連させながら学びます。

【到達目標】
１．国際経営における主要な研究分野で、どのようなトピックが近年研究されているのかを理解し、各トピックに関する知識を深めます。
２．国際経営の研究に活用される主要な理論を理解し、自らの研究に活用できるようになります。
３．国際経営の研究方法を理解し、理論を活用して仮説構築や事例分析ができるようになります。
４．国際経営に関する論文を読むスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義の授業形態は、対面形式とします。
授業計画に示したトピックについて、ます基本的な事項（理論や研究動向など）を講義します。その後、トピックに関連した課題やディスカッションを行います。また、トピックに関連した調査を行い、報告を行います。
学期の中盤にプロジェクトの課題を提示します。課題について各自研究を行い、研究成果のプレゼンテーションを行います。
課題の提出等は学習支援システムを通した提出とEメールによる提出を併用します。課題や質問、意見等に対するフィードバックは、適宜講義内で行います

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	講義概要とオリエンテーション
2	Methodology	社会科学の研究方法の検討
3	The environment of international business (1)	制度的環境に関する検討
4	The environment of international business (2)	文化的環境に関する検討
5	Institutional theory	制度理論の検討
6	Emerging economies	新興経済における制度の検討
7	FDI	FDIの現状と類型に関する検討
8	MNE	多国籍企業とは
9	Theory on internationalization (1)	企業のFDIを説明する理論に関する検討
10	Theory on internationalization (2)	OLIパラダイム、Uppsala Model
11	Strategies of MNEs(1)	Global strategyに関する検討
12	Strategies of MNEs(2)	Multidomestic strategyに関する検討
13	Presentation(1)	プロジェクトの成果発表（１）
14	Presentation(2)	プロジェクトの成果発表（２）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に、資料を読んだり、課題に取り組んだり、プレゼンテーションの準備をしたりすることが求められます。
講義のための準備・復習時間は、各回４時間を標準とします。
下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。
1回　学部で学習したことを復習する
2回　社会科学の方法論に関して調査する
3-4回　多国籍企業が海外で直面する制度的、文化的環境を調査する
5回　Institutional theoryに関して調査する
6回　多国籍企業が新興国で直面する制度的環境に関して調査する
7-8回　FDIの現状について調査する
9-10回　企業の国際化を説明する理論に関して調査する
11-12回　多国籍企業の戦略の類型に関して調査する
13-14回　プロジェクトの成果発表の準備をする

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない予定です。詳細は、最初の講義で指示します。

【参考書】
下記に参考書を示しますが、より新しい版が出版されているものもあります。
Cavusgil, S.T., Knight, G. &Riesenberger, J.R.2008. International Business: The New Realities (2nd ed.). Prentice Hall: NJ.
Cullen, J.B. &Parboteeah, K.P. 2008. Multinational Management: A Strategic Approach. South-Western: OH.
Collinson, S., Narula, R., &Rugman, A.M. 2020. International Business. Pearson Education: Harlow, UK.
Peng M. &Meyer, K. 2019. International Business (3rd ed.). Cengage: UK.
Shenkar, O. &Luo, Y. 2008. International Business (2nd ed.). Sage Publications: CA.

【成績評価の方法と基準】
下記の比率で評価します。
プロジェクト：６０％
クラスへの貢献：４０％
プロジェクトの評価には、ペーパー自体と、ペーパーに関するプレゼンテーションの評価を含みます。
クラスへの貢献には、課題の準備、課題に関する報告、ディスカッションへの貢献等を含みます。クラスへの貢献に含まれる課題は、プロジェクトとは別の、講義内で提示される課題です。

【学生の意見等からの気づき】
理論と関連したケースをより多く紹介します。
ケース分析及びディスカッションに配分する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】
WebClassを使用するための情報機器が必要です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Multinationals' intraregional geographic expansion and foreign subsidiary performance. 2024. International Business Review, 33(1): 102208.
② Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. 2023. International Business Review, 32(4): 102072. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
③ Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.

【Outline (in English)】
(Course outline)

Firms that are competitive in their home country often struggle to succeed overseas. One fundamental reason is that differences in business environments between home and host countries can reduce the value of firm-specific advantages developed in the home country. How should firms compete overseas? This is a primary research agenda in international business studies.
This course introduces students to traditional and emerging research topics in international business studies. Students will learn core concepts, analytical frameworks, and theoretical foundations of international business studies.
(Learning objectives)
The goal for students in this course is to understand the basics of international business studies. Students will gain a deeper understanding of primary research topics in international business studies. They will also become familiar with key theories and analytical frameworks used in international business research and develop the ability to read and comprehend academic papers. By the end of this course, students are expected to improve their ability to analyze firms' success and failure in foreign markets by applying theories of international business.
(Learning activities outside of the classroom)
Students are expected to read assigned materials, complete assignments, and prepare for presentations and discussions. Time for preparatory study and review will be at least 4 hours for each class.
(Grading Criteria/Policies)
Students will be evaluated based on a term project (60%) and in-class contribution (40%).

MAN500F1 – 0156（経営学 / Management 500）

国際経営特論 II

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本国で競争力のある企業が、必ずしも海外で成功するとは限りません。本国と外国とのさまざまな違いが、本国における成功要因の有効性を下げてしまうことが理由として考えられます。それでは企業は外国でどのように競争したらよいのでしょうか。これが国際経営の主要な研究課題です。本講義では、国際経営において伝統的に重要な研究領域、および近年注目されている研究領域を概観します。学生は、国際経営における重要なトピックを、経営学で頻繁に適用される理論と関連させながら学びます。

【到達目標】
１．国際経営における主要な研究分野で、どのようなトピックが近年研究されているのかを理解し、各トピックに関する知識を深めます。
２．国際経営の研究に活用される主要な理論を理解し、自らの研究に活用できるようになります。
３．国際経営の研究方法を理解し、理論を活用して仮説構築や事例分析ができるようになります。
４．国際経営に関する論文を読むスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義の授業形態は、対面形式とします。内容により、一部、オンラインでも行います。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム（Hoppii）内でお知らせします。
授業計画に示したトピックについて、ます基本的な事項（理論や研究動向など）を講義します。その後、トピックに関連した課題やディスカッションを行います。また、トピックに関連した調査を行い、報告を行います。
学期の中盤にプロジェクトの課題を提示します。課題について各自研究を行い、研究成果のプレゼンテーションを行います。
課題の提出等は学習支援システムを通した提出とEメールによる提出を併用します。課題や質問、意見等に対するフィードバックは、適宜講義内で行います

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Entry mode(1)	参入方式の類型の検討
2	Entry mode(2)	参入方式の選択の検討
3	Transaction cost theory	取引費用理論の検討
4	Intraregional diversification(1)	多国籍企業の地域内拡大に関する検討
5	Intraregional diversification(2)	多国籍企業の地域内拡大とパフォーマンスの関係に関する検討
6	International HRM	海外子会社の人材戦略の検討
7	Agency theory	Agency theoryと海外子会社の人材配置に関する検討
8	Localization	海外子会社の人材現地化の効果に関する検討
9	Language barriers (1)	多国籍企業が直面する言葉の壁の検討
10	Language barriers (2)	言語の壁の克服方法
11	Case analysis (1)	日本企業の海外進出事例の分析
12	Case analysis (2)	外国企業の日本進出事例の分析
13	Presentation(1)	プロジェクトの成果発表（１）
14	Presentation(2)	プロジェクトの成果発表（２）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に、資料を読んだり、課題に取り組んだり、プレゼンテーションの準備をしたりすることが求められます。
講義のための準備・復習時間は、各回４時間を標準とします。
下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。
1-2回　エントリー・モードに関して調査する
3回　取引費用理論に関して調査する
4-5回　多国籍企業の地域内拡大に関して調査する
6回　国際人材戦略に関して調査する
7回　Agency theoryに関して調査する
8回　人材の現地化に関して調査する
9-10回　多国籍企業における言語の役割に関して調査する
11-12回　事例分析で取り上げる企業について調査する
13-14回　プロジェクトの成果発表の準備をする

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない予定です。詳細は、最初の講義で指示します。

【参考書】
下記に参考書を示しますが、より新しい版が出版されているものもあります。
Cavusgil, S.T., Knight, G. &Riesenberger, J.R.2008. International Business: The New Realities (2nd ed.). Prentice Hall: NJ.
Cullen, J.B. &Parboteeah, K.P. 2008. Multinational Management: A Strategic Approach. South-Western: OH.
Collinson, S., Narula, R., &Rugman, A.M. 2020. International Business. Pearson Education: Harlow, UK.
Peng M. &Meyer, K. 2019. International Business (3rd ed.). Cengage: UK.
Shenkar, O. &Luo, Y. 2008. International Business (2nd ed.). Sage Publications: CA.

【成績評価の方法と基準】
下記の比率で評価します。
プロジェクト：６０％
クラスへの貢献：４０％
プロジェクトの評価には、ペーパー自体と、ペーパーに関するプレゼンテーションの評価を含みます。
クラスへの貢献には、課題の準備、課題に関する報告、ディスカッションへの貢献等を含みます。クラスへの貢献に含まれる課題は、プロジェクトとは別の、講義内で提示される課題です。

【学生の意見等からの気づき】
理論と関連したケースをより多く紹介します。
ケース分析及びディスカッションに配分する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】
WebClassを使用するための情報機器が必要です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Multinationals' intraregional geographic expansion and foreign subsidiary performance. 2024. International Business Review, 33(1): 102208.
② Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. 2023. International Business Review, 32(4): 102072. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
③ Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.

【Outline (in English)】
(Course outline)

Firms that are competitive in their home country often struggle to succeed overseas. One fundamental reason is that differences in business environments between home and host countries can reduce the value of firm-specific advantages developed in the home country. How should firms compete overseas? This is a primary research agenda in international business studies.
This course introduces students to traditional and emerging research topics in international business studies. Students will learn core concepts, analytical frameworks, and theoretical foundations of international business studies.
(Learning objectives)
The goal for students in this course is to understand the basics of international business studies. Students will gain a deeper understanding of primary research topics in international business studies. They will also become familiar with key theories and analytical frameworks used in international business research and develop the ability to read and comprehend academic papers. By the end of this course, students are expected to improve their ability to analyze firms' success and failure in foreign markets by applying theories of international business.
(Learning activities outside of the classroom)
Students are expected to read assigned materials, complete assignments, and prepare for presentations and discussions. Time for preparatory study and review will be at least 4 hours for each class.
(Grading Criteria/Policies)
Students will be evaluated based on a term project (60%) and in-class contribution (40%).

MAN500F1 – 0159（経営学 / Management 500）

財務会計特論 I

齋藤　真哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日、会計基準はピースミール方式により開発されている。そのため、会計基準間での整合性を担保するために、文書による概念フレームワークが不可欠となっている。すなわち概念フレームワークを理解することは、現在の企業会計制度を理解する上で不可欠であると言える。本授業では、日本の討議資料「財務会計の概念フレームワーク」を中心に取り上げ、その上で、IASBの概念フレームワークを対比的に取り上げることとする。本授業では、概念フレームワークの内容を正しく理解することが目標となる。

【到達目標】
概念フレームワークの必要性を説明できること。
日本の概念フレームワークの背景を理解すること。
日本の概念フレームワークの内容を正しく理解し、説明できること。
日本の概念フレームワークとIASBの概念フレームワークの相違を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
指定されたテキストを輪読し、各回でのテーマについて質疑応答・討論を行うことで、授業を進める。各回ごとに受講者のなかから定められた者がレジュメを用意して、報告を行った後に、討論等を行うこととする。報告者以外の者は、その回の内容の箇所を読んでおき、疑問点等を抽出しておくこと。
なお、4月10日の第１回授業は、リモートにてリアルタイムで実施するので、次のURLに、15：00までにアクセスし、入室するようにしてください。
https://nihon-u-ac-jp.zoom.us/j/96773379838?pwd=rM3RsbYi6PdTjMjuiYadbQI4O4kG0n.1
なお授業は、第一回目以外は原則として対面で実施しますが、受講者と相談の上、リモートにて実施する回もありうることを了解しておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション https://nihon-u-ac-jp.zoom.us/j/96773379838?pwd=rM3RsbYi6PdTjMjuiYadbQI4O4kG0n.1	リアルタイムでのリモート授業（ZoomURL左記参照。） 授業の進め方、評価方法、授業の内容等に係る説明。
第2回	概念フレームワークの意義と特質	テキスト　第1部第１章「討議資料の意義と特質」
第3回	概念フレームワークの基本的な考え方	テキスト　第1部第２章「討議資料の基本的な考え方」
第4回	財務報告の目的	テキスト　第２部第１章「財務報告の目的」
第5回	会計情報の質的特性	テキスト　第２部第２章「会計情報の質的特性」
第6回	財務諸表の構成要素	テキスト　第２部第３章「財務諸表の構成要素」
第7回	財務諸表における認識と測定	テキスト　第２部第４章「財務諸表における認識と測定」
第8回	概念フレームワークと実証研究	テキスト　第２部第５章「概念フレームワークと実証研究」
第9回	財務諸表の構成要素と認識・測定をめぐる諸問題	テキスト　第２部第６章「財務諸表の構成要素と認識・測定をめぐる諸問題」
第10回	重要論点の補足と検討	テキスト　第２部第７章「重要論点の補足と検討」
第11回	会計基準と概念フレームワーク	テキスト　第３部第１章「会計基準と概念フレームワーク」
第12回	概念フレームワークの特徴と論点－国内外へのメッセージ－	テキスト　第３部第３章「「討議資料」の特徴と論点－国内外へのメッセージ－」
第13回	IASBの概念フレームワーク（１）	IASBの改訂された概念フレームワークの内容 参考： テキスト　第４部第１章
第14回	IASBの概念フレームワーク（２）	日本とIASBの概念フレームワークの比較検討 参考： テキスト　第４部第２・３章

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
準備学習と復習を通して、自らが理解できていないところを把握し、授業を通して、問題解決して、概念フレームワークに係る理解を深めるようにしてください。
準備学習では、テキスト等の該当箇所をしっかりと読んで、自らの理解が困難な内容を把握し、授業にて質問ができるようにしておくこと。復習では、授業での質疑応答や参考文献等を通して自らの理解を深めることに尽力することが求められます。

【テキスト（教科書）】
・斎藤静樹編著『詳解　「討議資料　財務会計の概念フレームワーク」　第２版』中央経済社、2007年。
・IASB, Conceptual Framework for Financial Reporting, IFRS Foundation, 2018.

【参考書】
・齋藤真哉「財務会計の基礎概念（２）－概念フレームワーク」齋藤信彦・齋藤真哉ほか編著『スタンダードテキスト　財務会計論　Ｉ　基本論点編　第19編』中央経済社、2026年。
その他、参考文献については、適時、授業にて提示、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業における平常点約70％、期末レポート（Term Paper）約30％により評価する。
平常点は、報告内容、質疑応答への参加状況等に基づく。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
会計学
＜研究テーマ＞
計算構造論、税効果会計、非営利会計
＜主要研究業績＞
・単著『税効果会計論』森山書店、1999年。
・編著『減損会計の税務論点』中央経済社、2007年

【Outline (in English)】
This course will focus primarily on Japan's conceptual framework, while also examining the IASB's conceptual framework in a comparative manner. Accounting standards are developed through a piecemeal approach. Therefore, a documented conceptual framework is essential to ensure consistency among accounting standards. The goal of this course is to correctly understand the content of the conceptual framework.

Combining preparation and review, approximately 4 hours is standard, but please place emphasis on review.
Grading will be based on approximately 70% of the total grade from regular class participation and approximately 30% from assignments (reports).

MAN500F1 – 0160（経営学 / Management 500）

財務会計特論 II

齋藤　真哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
資本維持概念に基づく損益計算論を体系的に整理した学説を取り上げる。この学説は、森田哲彌先生によるものであり、森田学説と表現することもできる。この学説において、様々な資本維持概念を説明することができるようにすると、それぞれの概念における計算体系を理解することが、本授業の目的である。

【到達目標】
３つの資本維持概念を説明することができること。
それぞれの資本維持概念に基づく計算体系を理解すること。
各資本維持概念における計算について、その課題等について検討することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
指定されたテキストを輪読し、各回でのテーマについて質疑応答・討論を行うことで、授業を進める。各回ごとに受講者のなかから定められた者がレジュメを用意して、報告を行った後に、討論等を行うこととする。報告者以外の者は、その回の内容の箇所を読んでおき、疑問点等を抽出しておくこと。
なお授業は、原則として対面で実施しますが、受講者と相談の上、リモートにて実施する回もありうることを了解しておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、授業内容の説明。 範囲：テキスト 序章　問題提起
第2回	資本概念の種々相	範囲：テキスト 第１章 資本概念の種々相
第3回	資本維持論の性格	範囲：テキスト 第２章 資本維持論の性格
第4回	名目資本概念を前提とする利益計算	範囲：テキスト 第３章 名目資本概念を前提とする利益計算
第5回	実体資本維持会計の基本形態	範囲：テキスト 第４章 物的資本概念を前提とする利益計算（その１）
第6回	貨幣資本・他人資本と物的資本概念	範囲：テキスト 第５章 物的資本概念を前提とする利益計算（その２）
第7回	物財の変化と物的資本概念	範囲：テキスト 第６章 実体資本概念を前提とする利益計算（その３）
第8回	修正原価会計の基本的性格	範囲：テキスト 第７章 実質資本概念を前提とする利益計算（その１）
第9回	修正原価会計における購買力損益とその認識	範囲：テキスト 第８章 実質資本概念を前提とする利益計算（その２）
第10回	貨幣資本の実質と物価指数	範囲：テキスト 第９章 実質資本概念を前提とする利益計算（その３）
第11回	マールベルクの中和化理論	範囲：テキスト 第１０章 マールベルクの中和化理論
第12回	ハックスの資本・実体結合計算論	範囲：テキスト 第１１章 ハックスの資本・実体結合計算論
第13回	価格変動会計論の構想	範囲：テキスト 第１２章 価格変動会計論の構想
第14回	まとめ	これまでの授業において、残されてきた検討課題を取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
準備学習と復習を通して、自らが理解できていないところを把握し、授業を通して、問題解決して、資本維持概念に基づく計算体系に係る理解を深めるようにしてください。
準備学習では、テキストの該当箇所をしっかりと読んで、自らの理解が困難な内容を把握し、授業にて質問ができるようにしておくこと。復習では、テキストの読み返しとともに授業での質疑応答や参考文献等を通して自らの理解を深めることに尽力することが求められます。

【テキスト（教科書）】
森田哲彌『価格変動会計論』国元書房、1979年。
（現在、通常の書店では販売されていないため、入手できなかった受講者には、必要な箇所のコピーを配布することを予定している。）

【参考書】
必要に応じて、授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業における平常点約70％、期末レポート（Term Paper）約30％により評価する。
平常点は、報告内容、質疑応答への参加状況等に基づく。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
会計学
＜研究テーマ＞
計算構造論、税効果会計、非営利会計
＜主要研究業績＞
・単著『税効果会計論』森山書店、1999年。
・編著『減損会計の税務論点』中央経済社、2007年

【Outline (in English)】
This course systematically examines academic theories that organize profit and loss accounting based on capital maintenance concepts. The objective is to understand the calculation systems inherent in each concept, enabling the explanation of various capital maintenance theories.
Combining preparation and review, approximately 4 hours is standard, but please place emphasis on review.And students are required to thoroughly review the material, striving to understand the relevant sections of the textbook beforehand and deepening their comprehension through class discussions and Q&A sessions.
Grading will be based on approximately 70% of the total grade from regular class participation and approximately 30% from assignments (reports).

MAN500F1 – 0130（経営学 / Management 500）

経営分析論 I

福多　裕志

備考（履修条件等）：学部主催「経営分析論 I 」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今から40年以上も前の1982年、ピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下すことになる。
本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。まず春学期では、原則として製造業の財務諸表データに基づき各種の財務比率を計算し、企業や業界が内包する「問題点の所在の推定」を目指す。

【到達目標】
本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析にほぼ焦点を絞り講義する。経営分析 I では、実在する上場製造企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。この結果、参加者は、（1）財務諸表分析の基本的な枠組み（2）データベースを利用した財務指標の算出、（3）安全性、効率性、収益性、成長性に関する具体的指標の算出と解釈の仕方について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。課題等に対する回答や解法は、できうる限り出席者間で共有し、そのうちの幾つかを授業支援システム（LMS）上に掲載する。LMS を利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第2回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第3回	財務諸表の枠組み：BSとIS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第4回	財務諸表の枠組み：CFSおよび基礎統計学の適用	キャッシュ・フロー計算書および百分率財務諸表の構造。基本統計量のまとめ
第5回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標－流動比率、当座比率等の説明
第6回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標－自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第7回	効率性：その1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標－総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第8回	効率性：その2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第9回	収益性：その1	収益性の意味および主として売上高や資産と関連する指標－ROS、ROE、ROA等について説明
第10回	収益性：その2	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第11回	損益分岐点分析の基本	固変分解、最小二乗法
第12回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その1	損益分岐点比率、安全余裕率
第13回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その2	エクセルのゴールシークを用いた損益分岐点の算出
第14回	成長性および総括	代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明および春学期全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】
1) 青木茂男編著『要説　経営分析　六訂版』森山書店, 2022年.
2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995年.
3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書　その作成と分析・評価』中央経済社, 1999年.
4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002年.
5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994年.
6) 國貞克則『財務3表実践活用法』(朝日新書) 朝日新聞出版, 2012年.
7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996年.
8) 西山茂『企業分析シナリオ　第2版』東洋経済新報社, 2006年.
9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析　全訂版』税務経理協会, 2003年.
10) 宮川公男『新版　意思決定論　基礎とアプローチ』中央経済社, 2010年.

【成績評価の方法と基準】
【大学院生の評価方法】
期末筆記試験60%、平常点（学習事項に関し、自ら調査・研究した報告書）40%

【学生の意見等からの気づき】
実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】
授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、授業へPCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】
本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く姿勢を維持していただきたい。
関連科目：管理会計論 I /II、経営管理論 I /II、基礎統計学 I /II

【Outline (in English)】
[Course outline and objectives]

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis Ⅰ' we will focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. Responses and solution methods to assignments will, as far as possible, be shared among the participants, and selected examples will be posted on the Learning Management System (LMS).
[Learning activities outside of classroom]
Participants are expected to ensure that they prepare and review for the class by solving assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading criteria]
Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN500F1 – 0131（経営学 / Management 500）

経営分析論 II

福多　裕志

備考（履修条件等）：学部主催「経営分析論 II」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今から40年以上も前の1982年、ピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下すことになる。
本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。秋学期では、幾つかの株価関連財務比率を計算し、その後、不確実性の下での意思決定原理や創出した会計情報の価値を算出する。

【到達目標】
本講義では、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、秋学期は株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定モデルを考察する。最終段階では、創出した財務情報の価値、価格付け等について学習する。この結果、参加者は、（1）株価関連指標、（2）総合評価の方法、（3）確実性、リスクおよび不確実性の下での意思決定モデル、（4）創出した情報の価値算出等について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
当授業では、インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。課題等に対する回答や解法は、できうる限り出席者間で共有し、そのうちの幾つかを授業支援システム（LMS）上に掲載する。LMSを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期講義計画および株価関連指標：その1	統計手法の確認、一株当たり利益、株価収益率等の検討
第2回	株価関連指標：その2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明と評価
第3回	外国企業の財務諸表分析：その1	オンライン・データベースよりグローバル企業の財務データ抽出と国際比較
第4回	外国企業の財務諸表分析：その2	EDGARより米国企業の財務情報を入手し、日米企業の財務体質比較
第5回	総合評価：その1	学習した各指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第6回	総合評価：その2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計的手法に基づき評価する方法を考察
第7回	経営分析の応用：その1	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理 – 要求水準原理、最尤未来原理等 – について考察
第8回	経営分析の応用：その2	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理 – ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察
第9回	経営分析の応用：その3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第10回	経営分析の応用：その4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第11回	会計情報の価値 I	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第12回	会計情報の価値 II	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理の考え方
第13回	会計情報の価値III	創出されたさまざまな情報の価値計算
第14回	会計情報の価値IV	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】
1) 青木茂男編著『要説　経営分析　六訂版』森山書店, 2022年.
2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995年.
3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書　その作成と分析・評価』中央経済社, 1999年.
4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002年.
5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994年.
6) 國貞克則『財務3表実践活用法』(朝日新書) 朝日新聞出版, 2012年.
7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996年.
8) 西山茂『企業分析シナリオ　第2版』東洋経済新報社, 2006年.
9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析　全訂版』税務経理協会, 2003年.
10) 宮川公男『新版　意思決定論　基礎とアプローチ』中央経済社, 2010年.

【成績評価の方法と基準】
【大学院生の評価方法】
期末筆記試験60%、平常点（学習事項に関し、自ら調査・研究した報告書）40%

【学生の意見等からの気づき】
実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、授業へPCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】
本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く姿勢を維持していただきたい。
関連科目：管理会計論 I /II、経営管理論 I /II、基礎統計学 I /II

【Outline (in English)】
[Course outline and objectives]

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis Ⅰ' we focused our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis Ⅱ' comprehensive evaluation and decision-making process will be discussed based on ratios discussed in the spring semester. Responses and solution methods to assignments will, as far as possible, be shared among the participants, and selected examples will be posted on the Learning Management System (LMS).
[Learning activities outside of classroom]
Participants are expected to ensure that they prepare for and review each class by solving assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading criteria]
Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN500F1 – 0161（経営学 / Management 500）

管理会計特論 I

福田　淳児

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，受講生が管理会計の全体像を深く理解し、自分の力で学術的な論文を読むことができる基礎を作ることを目的とする。このため、管理会計の主要なテーマについて概略を説明し、関連した文献を輪読することで理解を深める。

【到達目標】
管理会計の主要テーマについて理解する。管理会計に関する学術論文を独力で読むことができ，その内容を理解し批判的に検討することができる。特に，マネジメント・コントロール・システムの利用方法に着目したいくつかの研究をレビューすることで，マネジメント・コントロールの諸概念およびその利用方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義は対面で行います。講義では、事前に指定したテキストまた論文を輪読する形で行ないます。毎回，報告者が指定された論文のについて報告を行い，その内容について教員が補足説明を行なうとともに，受講者全員で議論を行なう事で理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	管理会計と財務会計の特徴について説明する。さらに、この授業で扱うテーマについて概略的な説明を行なう。
2	情報化時代の管理会計	情報技術が発展する今日の企業環境における管理会計の役割について考察する。
3	情報化時代における管理会計担当者の役割	情報技術が発展する今日の企業で管理会計担当者に求められる役割について考察する。
4	個別原価計算	受注生産形態に的する原価計算の方法である個別原価計算について紹介する。
5	CVP分析	CVP分析の基本的な前提またその計算メカニズムを明らかにする。
6	CVP分析の計算例と具体的な適用例	CVP分析に関する問題演習を行いその適用可能性を明らかにする。
7	ABCについて	製造間接費の配賦方法であるABCのメカニズムについて説明する。
8	ABCの事例検討	ABCを採用している企業の事例を取り上げ、その問題点などを議論する。
9	意思決定会計について	意思決定に役立つ原価情報の特徴を明らかにする。
10	顧客収益性分析	顧客収益性分析に役立つ原価情報の特性を明らかにする。
11	顧客収益性分析の事例検討	顧客収益性分析の事例を取り上げ、その効果などを検討する。
12	資本予算と投資意思決定	投資意思決定の具体的な方法について紹介する。
13	投資意思決定の事例分析	実務における投資意思決定方法のいくつかについて紹介する。
14	春学期の学習内容のまとめ	管理会計の役割およびその具体的なテーマについてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の事前及び事後の学習のための時間は、各2時間を標準とします。受講者は，報告者に限らず指定されたテキストの該当箇所また論文を必ず事前に読んで授業に出席してください。その際に，論文については、その貢献とその限界また方法論上の問題点などを整理しておくこと。

【テキスト（教科書）】
ワシントン大学フォスタービジネススクール管理会計研究会. 2022.『原著7版　管理会計のエッセンス』同文舘出版（またはJ. Jiambalvo. 2020. Managerial Accounting 7th ed. John Wiley &Sons, Inc.）

【参考書】
管理会計に関わる基本的な日本語の教科書としてはたとえば櫻井通晴2015年『管理会計第６版』中央経済社がある。

【成績評価の方法と基準】
講義での報告担当箇所の内容に基づく評価30点、講義中の議論への参加の状況20点、最終レポートの内容50点で評価を行います。講義中の議論への参加については積極性を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業で取り上げているテーマについてできるだけ実例を紹介したいと思います。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞管理会計論
＜研究テーマ＞マネジメント・コントロール・システムと組織学習
＜主要研究業績＞
①「社会的企業におけるマネジメント・コントロール・システムの役割」『経営志林』第62巻第１号，pp.1-26, 2025。
②「スタートアップ企業におけるMCSの採用とその精緻化」『メルコ管理会計研究』第11号，pp.3-23, 2019。
③「純粋持株会社における全体最適と部分最適」『管理会計学』第27巻第２号, pp.27-44，2019。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course aims to provide students with a deep understanding of the overall framework of management accounting and to establish a foundation enabling them to read academic papers independently. To achieve this, each theme will be introduced with an overview, and understanding will be deepened through group reading of related literature.
(Learning objectives)
This course aims to provide students with a deep understanding of the overall framework of management accounting and to establish a foundation enabling them to read academic papers independently. To achieve this, each theme will be introduced with an overview, and understanding will be deepened through group reading of related literature.
(Learning activities outside of classroom)
The standard amount of time for pre- and post-activity for this class is 2 hours each. Students are required to read the assigned papers in advance and attend the class. At that time, they should organize the contributions of the paper, its limitations, and methodological issues.
(Grading criteria)
The evaluation will be based on the content of the part to be reported in the lecture (30 points), your participation in the discussion during the lecture (20 points), and the content of the final report (50 points). Active participation in the discussion during the lecture will be evaluated.

MAN500F1 – 0162（経営学 / Management 500）

管理会計特論 II

福田　淳児

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，受講生が管理会計の全体像を深く理解し、自分の力で学術的な論文を読むことができる基礎を作ることを目的とする。このため、管理会計領域における主要なテーマについて概略を説明し、関連した文献を輪読することで理解を深める。

【到達目標】
管理会計に関する学術論文を独力で読むことができ，その内容を理解し批判的に検討することができる。特に，予算や原価管理また業績評価に関するたいくつかの研究をレビューすることで，管理会計研究における最新のテーマにも触れることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は対面で実施します。事前に指定した論文を輪読する形で授業を行ないます。毎回，報告者が指定された論文のについて報告を行い，その内容について教員が補足説明を行なうとともに，受講者全員で議論を行なう事で理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の進め方、また評価方法、さらに本授業のテーマについて概略的な説明を行なう。
2	予算管理①	予算の編成方法およびその統制について議論する
3	予算管理②	前回に続いて、予算の編成方法およびその統制について議論する
4	予算不要論①	予算不要論について、いくつかの論文を取り上げ検討する。
5	予算不要論②	予算不要論について議論を継続するとともに、実務の状況を明らかにする。
6	標準原価による原価管理①	標準原価による原価管理について説明する
7	標準原価による原価管理②	標準原価による原価管理、特に製造間接費の問題を取り上げる。
8	原価企画	原価企画のメカニズムについてその概略を説明する。
9	原価企画の事例研究	原価企画の事例を取り上げ、その内容を検討する。
10	組織の分権化と業績評価	組織の分権化の理由およびそこでの業績評価の問題点を明らかにする。
11	組織の分権化の事例研究	組織の分権化が事例とそこでの業績評価の問題について検討する
12	バランス・スコアカードについて	バランス・スコアカードの基本的な説明を行う
13	バランス・スコアカードの事例	バランス・スコアカードの事例を取り上げ、その内容を検討する。
14	秋学期の学習のまとめ	秋学期のテーマについて振り返りを行い。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の事前及び事後の学習のための時間は、各2時間を標準とします。受講者は，報告者に限らず指定された書籍また論文を必ず事前に読んで授業に出席してください。その際に，当該論文の貢献とその限界また方法論上の問題点などを整理しておくこと。

【テキスト（教科書）】
ワシントン大学フォスタービジネススクール管理会計研究会. 2022.『原著７版　管理会計のエッセンス』同文館出版（またはJ. Jiambalvo. 2020. Managerial Accounting 7th ed. John Wiley &Sons, Inc.）

【参考書】
管理会計に関わる日本語の基本的な文献としてはたとえば櫻井通晴2015年『管理会計第６版』中央経済社がある。

【成績評価の方法と基準】
講義での報告担当箇所の内容に基づく評価30点、講義中の議論への参加の状況20点、最終レポートの内容50点で評価を行います。講義中の議論への参加については積極性を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ受講者とのインターアクティブな講義を心がけます。

【その他の重要事項】
学部レベルの管理会計を履修していることが前提です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞管理会計論
＜研究テーマ＞マネジメント・コントロール・システムと組織学習
＜主要研究業績＞
①「社会的企業におけるマネジメント・コントロール・システムの役割」『経営志林』第62巻第１号，pp.1-26, 2025。
②「スタートアップ企業におけるMCSの採用とその精緻化」『メルコ管理会計研究』第11号，pp.3-23, 2019。
③「純粋持株会社における全体最適と部分最適」『管理会計学』第27巻第２号, pp.27-44，2019。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course aims to provide students with a deep understanding of the overall framework of management accounting and to establish a foundation enabling them to independently read academic papers.
(Learning objectives)
Students will be able to independently read academic papers on management accounting, comprehend their content, and critically evaluate them. Specifically, by reviewing several studies on budgeting, cost management, and performance evaluation, the course also aims to introduce students to current themes in management accounting research.
(Learning activities outside of classroom)
The standard amount of time for pre- and post-activity for this class is 2 hours each. Students are required to read the assigned papers in advance and attend the class. At that time, they should organize the contributions of the paper, its limitations, and methodological issues.
(Grading criteria)
The evaluation will be based on the content of the part to be reported in the lecture (30 points), your participation in the discussion during the lecture (20 points), and the content of the final report (50 points). Active participation in the discussion during the lecture will be evaluated.

ECN500F1 – 0163（経済学 / Economics 500）

ミクロ経済論Ⅰ

宮澤　信二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個人や企業などの意思決定プロセスやそれらの相互作用に関する学問体系であるミクロ経済学についての講義を受け，問題演習を行う。春学期のミクロ経済論Ⅰでは，市場の働きとその背後にある消費者と生産者の意思決定の基礎について学習する。
以上を通じて，経営学の諸分野を学ぶ上で基礎となるミクロ経済学の考え方・分析手法を身につける。

【到達目標】
以下のような事項について理解し，応用できるようになる。
（1）消費者は何をどれだけ購入しようとするか。また，その決定にモノの値段やその他の要因がどのような影響を及ぼすか。
（2）企業は何をどれだけ使って，何をどれだけ販売しようとするのか。また，その決定にモノの値段やその他の要因がどのような影響を及ぼすのか。
（3）モノの値段がどのように決まるのか。また，その決定にどのような要因がどのような影響を及ぼすのか。
（4）短期的な意思決定と長期的な意思決定の違いは何か。
（5）人々の行動が相互に影響を及ぼしあうような状況ではどのように意思決定したらよいのか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基礎となる理論について講義した後に問題演習を行う。
講義の際には，聴くだけにならないようにするため，考えるきっかけ与えたり，理解を確認したりするような質問を投げかける。問題演習の際には，各自が自ら考える時間を確保するとともに，必要に応じて，正解に導くような助言を与える。
演習問題の一部は宿題とし，次の授業の際に解答・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：ミクロ経済学とは？	ミクロ経済学の特徴と全体像を解説した後にこれを学ぶ意義について議論する。
第2回	需要・供給と市場均衡(1)	需要と供給の振る舞いおよび取引内容（数量・価格）の決まり方について学びます。
第3回	需要・供給と市場均衡(2)	規制と税の影響について学びます。
第4回	振り返り・問題演習1	第3回までの内容を振り返り，問題演習を行います。
第5回	消費者の理論(1)	消費財の需要の決まり方について学びます。
第6回	消費者の理論(2)	消費者の理論の応用を学びます。
第7回	振り返り・問題演習2	第7回までの内容を振り返り，問題演習を行います。
第8回	生産者の理論（1）	生産の費用について学びます。
第9回	生産者の理論（2）	生産物の供給の決まり方について学びます。
第10回	振り返り・問題演習3	第9回までの内容を振り返り，問題演習を行います。
第11回	生産要素の市場（1）	生産要素の需要と供給の決まり方について学びます。
第12回	生産要素の市場（2）	生産要素の市場における取引内容（数量・価格）の決まり方について学びます。
第13回	振り返り・問題演習4	第12回までの内容を振り返り，問題演習を行います。
第14回	期末テスト	春学期に学習した内容に関するテストを実施し，その後，解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は事前に以下のテキストを読んでくることが求められます。また，毎週あるいは隔週程度で課される宿題を解くことが求められます。本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
以下のテキストを使用する予定である。ただし，受講者が求める場合には，もう少しレベルの高いものを使用する可能性がある。
N・グレゴリー・マンキュー（片桐満ほか訳）『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第5版）』センゲージラーニング，2025年，4,500円+税

【参考書】
［1］安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣，2013年
［2］神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社，2014年
＊［1］は上記の教科書よりも易しいテキスト，［2］は上記の教科書よりも難しいテキストです。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加・貢献）60％，期末テスト40％

【学生の意見等からの気づき】
これまでにこの科目を担当した経験を踏まえて，ミクロ経済学を初めて勉強する学生向けの内容で実施することを想定しています。ただし，受講者の要望によっては，より発展的・応用的な内容も取り扱いたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用しますので，これを使うために必要な情報端末（PC，タブレットなど）と通信環境が必要になります。

【その他の重要事項】
学習支援システムを利用して授業に関する情報をこまめに確認するようにしてください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞応用ミクロ経済学（特に，企業金融論，産業組織論）
＜研究テーマ＞
企業金融と市場競争の相互作用に関する研究
＜主要研究業績＞
[1] “Financial Contract and Capital Allocation: A Comparison between Market-based Finance and Bank Finance” 経営志林 第55巻第2号，49-58頁，2018年.
[2]「企業間信用に関する一考察―銀行と供給者との間の利害衝突を考慮して―」 経営志林　第53巻第4号，25-52頁，2017年.
[3]「EU国家補助規制の考え方の我が国への応用について」(大久保直樹氏ほかと共著）競争政策研究センター共同研究報告書 CR03-13 2013.
[4]「公的金融と市場競争―産業組織論アプローチ―」 フィナンシャル・レビュー 133, 147-168頁，2013.
[5] "Optimal borrowing structure: An explanation of multiplicity of large-share creditors and asymmetry among them," Journal of The Japanese and International Economies 26, pp434-453, 2012.
[6]「国家賠償と求償に関する経済分析」，社会科学研究　第62巻第2号，55-79頁，2011年.
[7]「偏波弁済の詐害行為取消しに関する分析―法と経済学の視点から―」(藤澤治奈氏との共著)，新世代法政策学研究　第10号，351-369頁（担当部分），2011年.（倒産・再生法制研究奨励金賞（トリプルアイ・高木賞）（奨励賞）（財団法人民事紛争処理研究基金）受賞）
[8]「情報財の価格差別と著作権保護」，知的財産法政策学研究　第24号，229-257頁，2009年.
[9] "Innovative interaction in mixed market: An effect of agency problem in state-owned firm," Economics Bulletin 12, pp1-8, 2008.

【Outline (in English)】
[Course outline] This course will provide an introduction to the basics of microeconomics theory, covering market function, consumer behavior, and producer behavior.
[Learning Objectives] By the end of the course, students should acquire the concepts and analytical methods of microeconomics that form the foundation for studying various fields of business administration.
[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy] Final grade will be decided based on the term-end examination (40%) and in-class contribution (60%).

ECN500F1 – 0164（経済学 / Economics 500）

ミクロ経済論 II

宮澤　信二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個人や企業などの意思決定プロセスやそれらの相互作用に関する学問体系であるミクロ経済学についての講義を受け，問題演習を行う。秋学期のミクロ経済論Ⅱでは，より現実的な状況における企業の意思決定について学習する。
以上を通じて，経営学の諸分野を学ぶ上で基礎となるミクロ経済学の考え方・分析手法を身につける。

【到達目標】
以下のような事項について理解し，応用できるようになる。
（1）外部性や情報の非対称性が消費者と生産者の行動にどのような影響を及ぼすのか。
（2）不完全競争の市場において，企業の生産量や価格はどのように決まるのか。またその決定にはどのような要因が影響を及ぼすのか。
（3）人材の採用と人事管理の際にどのような問題が生じ，どのような対応をするのか。
（4）資金調達の際にどのような問題が生じ，どのような対応をするのか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基礎となる理論について講義した後に問題演習を行う。
講義の際には，聴くだけにならないようにするため，考えるきっかけ与えたり，理解を確認したりするような質問を投げかける。問題演習の際には，各自が自ら考える時間を確保するとともに，必要に応じて，正解に導くような助言を与える。
演習問題の一部は宿題とし，次の授業の際に解答・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション／効率性と市場の失敗	ミクロ経済論Ⅰで学習した内容を確認したのちに，この授業で扱う内容について概観します。また，市場の失敗の原因について学びます。
第2回	外部性	外部性の影響と政府の政策について学びます。
第3回	情報の非対称性	情報の非対称性の影響について学びます。
第4回	振り返り・問題演習1	第3回までの内容の振り返りと問題演習を行います。
第5回	独占	独占が生じる原因と独占企業の行動について学びます。
第6回	独占的競争	独占的競争市場の特徴と企業の行動について学びます。
第7回	振り返りと問題演習2	第6回までの内容の振り返りと問題演習を行います。
第8回	寡占とゲーム理論（1）	寡占市場の特徴とゲーム理論の基礎を学びます。
第9回	寡占とゲーム理論（2）	寡占の理論について学びます。
第10回	振り返りと問題演習3	第9回までの内容の振り返りと問題演習を行います。
第11回	その他のトピックス（1）	時間とリスクを考慮したときの意思決定について学んだうえで，人材の採用や人事管理に関する理論について学びます。
第12回	その他のトピックス（2）	企業の財務に関する理論について学びます。
第13回	振り返りと問題演習4	第12回までの内容の振り返りと問題演習を行います。。
第14回	期末テスト	学習した内容に関するテストを実施し，その後，解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は事前に以下のテキストを読んでくることが求められます。また，毎週あるいは隔週程度で課される宿題を解くことが求められます。本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
以下のテキストを使用する予定である。ただし，受講者が求める場合には，もう少しレベルの高いものを使用する可能性がある。
N・グレゴリー・マンキュー（片桐満ほか訳）『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第5版）』センゲージラーニング，2025年，4,500円+税

【参考書】
［1］安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣，2013年
［2］神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社，2014年
＊［1］は上記の教科書よりも易しいテキスト，［2］は上記教科書よりも難しいテキストです。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加・貢献）60％，期末テスト40％

【学生の意見等からの気づき】
これまでにこの科目を担当した経験を踏まえて，ミクロ経済学を初めて勉強する学生向けの内容で実施することを想定しています。ただし，受講者の要望によっては，より発展的・応用的な内容も取り扱いたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用しますので，これを使うために必要な情報端末（PC，タブレットなど）と通信環境が必要になります。

【その他の重要事項】
・「ミクロ経済論Ⅰ」を履修済みであること，あるいは同等の内容を学習済みであることを前提として授業を進める予定です。
・学習支援システムを利用して授業に関する情報をこまめに確認するようにしてください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞応用ミクロ経済学（特に，企業金融論，産業組織論）
＜研究テーマ＞
企業金融と市場競争の相互作用に関する研究
＜主要研究業績＞
[1] “Financial Contract and Capital Allocation: A Comparison between Market-based Finance and Bank Finance” 経営志林 第55巻第2号，49-58頁，2018年.
[2]「企業間信用に関する一考察―銀行と供給者との間の利害衝突を考慮して―」 経営志林　第53巻第4号，25-52頁，2017年.
[3]「EU国家補助規制の考え方の我が国への応用について」（大久保直樹氏ほかと共著）競争政策研究センター共同研究報告書 CR03-13 2013.
[4]「公的金融と市場競争―産業組織論アプローチ―」 フィナンシャル・レビュー 133, 147-168頁，2013.
[5] "Optimal borrowing structure: An explanation of multiplicity of large-share creditors and asymmetry among them," Journal of The Japanese and International Economies 26, pp434-453, 2012.
[6]「国家賠償と求償に関する経済分析」，社会科学研究　第62巻第2号，55-79頁，2011年.
[7]「偏波弁済の詐害行為取消しに関する分析―法と経済学の視点から―」（藤澤治奈氏との共著），新世代法政策学研究　第10号，351-369頁（担当部分），2011年.（倒産・再生法制研究奨励金賞（トリプルアイ・高木賞）（奨励賞）（財団法人民事紛争処理研究基金）受賞）
[8]「情報財の価格差別と著作権保護」，知的財産法政策学研究　第24号，229-257頁，2009年.

[9] "Innovative interaction in mixed market: An effect of agency problem in state-owned firm," Economics Bulletin 12, pp1-8, 2008.

【Outline (in English)】

[Course outline] This course will introduce the fundamentals of microeconomic theory and examine how firms make decisions in a practical business environment.

[Learning Objectives] By the end of the course, students should acquire the concepts and analytical methods of microeconomics that form the foundation for studying various fields of business administration.

[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy] Final grade will be decided based on the term-end examination (40%) and in-class contribution (60%).

ECN500F1 – 0125（経済学 / Economics 500）

組織経済学

奥西　好夫

備考（履修条件等）：学部主催「組織経済学」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的な手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。
・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】
・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。
・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。
・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システムにアップするので、各自ダウンロードすること。
・原則として全て対面授業で行う。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。
・課題提出等は学習支援システムを通じて指示する。中間課題は個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要、人間の行動原理（1）	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第2回	人間の行動原理（2）	・経済合理性
第3回	人間の行動原理（3）	・経済非合理性
第4回	人間の行動原理（4）	・不完全情報下の経済合理的行動
第5回	取引・組織の評価基準（1）	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第6回	取引・組織の評価基準（2）	・さまざまな公正性概念
第7回	コースの定理（1）	・効率性概念の応用
第8回	コースの定理（2）	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第9回	組織デザイン（1）	・組織構造
第10回	組織デザイン（2）	・コーポレート・ガバナンス
第11回	組織デザイン（3）	・職務設計 ・多様性管理
第12回	インセンティブ問題（1）	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第13回	インセンティブ問題（2）	・賃金制度への応用
第14回	講義内容のまとめ	・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・学生は、授業前に学習支援システムにアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。
・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。
・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・単一のテキストは特に用いない。
・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は学習支援システムを通じて配付する。
・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】
・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。
・エドワード・P・ラジアー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。
・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。
・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。
・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。
・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。
・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】
・学期中に1回、課題提出を行い、それと期末試験の合計（ウェイトは50:50）で成績を評価する。
・課題や試験は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】
・2021年度は、全てZoomで行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。同じ用語でも、日常的な意味と経済学の専門用語としての意味が異なる場合があるので注意されたい。
・2022年度以降は、全て対面で行っているが、月曜1限（2025年度は金曜1限）ということもあり、出席状況は良くなかった。実質的には少人数授業なので、積極的に出席し不明な点は質問等をしてもらいたい。特に、上記で指摘した用語の意味などは授業中に詳しく説明している。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムへのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能なPCないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】
・本科目は以前、I、IIの通年開講授業であったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせてIのみの開講となった。このためIIの主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細にGBP用の「HRM I/II」（Iは秋学期、IIは春学期）でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理I/II」との重複履修は不可）。
・担当教員は、1980～89年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】
・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】
・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.
・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.
・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit assignments diligently.
・The final grade depends on the total points of the assignments and the final exam (the weights are 50:50).

ECN500F1 – 0133（経済学 / Economics 500）

ファイナンス入門

芝田　隆志

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，ファイナンスの基礎的概念について講義します。特に，本講義では，金融取引や証券市場の仕組み，将来価値と現在価値の概念およびその計算方法，債券および株式の初歩的な分析手法を学びます。さらに，金融資産におけるリスクとリターンのトレードオフについて理解を深めます。

【到達目標】
受講者は次に挙げた知識や技術を学びます。
①金融・証券の基礎知識を得ることで，金融に関連するニュースを正しく理解できる。
②利子率，将来価値，現在価値の概念を理解し，それらに関する基本的な計算ができる。
③債券の仕組みを理解し，利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
④株式の仕組みを理解し，配当割引モデルや株式評価の指標を使った初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式の対面講義となります。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓、タブレット、ノートPCの表計算ソフト、など）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法について説明する。
第2回	金融資本市場	金融資本市場について学習する。
第3回	確実性下の現在価値（1）	利子率，将来価値，現在価値について学習する。
第4回	確実性下の現在価値（2）	引き続き，利子率，将来価値，現在価値について学習する。
第5回	確実性下の現在価値（3）	応用として，住宅ローン，積み立て貯蓄について学習する。
第6回	不確実性下の現在価値（1）	リスク回避，リスク中立について学習する。
第7回	不確実性下の現在価値（2）	確実性等価，リスクプレミアムについて学習する。
第8回	不確実性下の現在価値（3）	伝統的な評価法とリスク中立法について学習する。
第9回	デリバティブ入門	オプションの基本的な仕組みについて学習する。
第10回	金融資産のリスクとリターン	ハイリスク・ハイリターンの原理について学習する。
第11回	債券入門	債券の基本的な仕組みについて学習する。
第12回	株式入門	株式の基本的な仕組みについて学習する。
第13回	企業の資金調達（1）	企業の収益率，負債の収益率，株式の収益率について学ぶ。
第14回	企業の資金調達（2）	MMの定理について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習と復習をしっかり行って下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岸本直樹，池田昌幸，2019，入門証券投資論，有斐閣

【参考書】
他の参考書については，講義中に適宜お伝えします。

【成績評価の方法と基準】
期末試験８０%，小テスト２０%

【学生の意見等からの気づき】
基本的な知識を丁寧に説明します。

【関連科目】
投資入門，コーポレートファイナンス入門I/II，ポートフォリオ理論入門，デリバティブ入門I/II，Excelで学ぶファイナンス理論I/II

【Outline (in English)】
The objective of this course is to help students acquire an understanding of the basics of finance. The goals of the course are to understand the essential concept of finance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the term-end examination (80%) in class contribution (20%).

ECN500F1 – 0134（経済学 / Economics 500）

ポートフォリオ理論入門

芝田　隆志

備考（履修条件等）：学部主催「ポートフォリオ理論入門」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，平均分散分析と呼ばれるポートフォリオ理論の基礎的事項について講義します。
いま，皆様の日常生活における意思決定を考えると，失敗は避けたい一方で，自分の満足度をできるだけ高めたいという状況に直面することが多いのではないでしょうか。このような状況は，リスクとリターンが互いにトレードオフの関係にある状態であり，いわゆるハイリスク・ハイリターン現象と呼ばれます。
実社会において，私たち経済主体が金融市場で資金運用を行う際にも，このハイリスク・ハイリターンの現象に直面します。そこで本講義では，このような状況下における経済主体の最適化行動について考えます。具体的には，資金運用において一定水準以上のリターンを確保するという仮定の下で，リスクを最小化する方法を数学的に理論導出します。さらに，その最適行動のもとで成立する市場均衡を考察し，資金運用において成り立つリスクとリターンの関係について学習します。

【到達目標】
本講義の到達目標は、最適ポートフォリオ理論や資本資産評価モデルを用いて、資金を運用する場合におけるリスクとリターンの相互作用、またそのメカニズムについて理解することにあります。そのためには、次の点を理解する必要があります。
１．ポートフォリオの収益率、その期待値、標準偏差、共分散を計算できる。
２．ポートフォリオの分散減少効果、そのメカニズムについて理解する。
３．ファイナンスにおける完全競争市場の条件とその意味について理解する。
４．CAPMを用いて、リスク資産のリスク量に応じた期待収益率を計算できる。
５．実際の個別株価データを用いて、その株価に対する市場評価について議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式の対面講義となります。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓、タブレット、ノートPCの表計算ソフト、など）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ポートフォリオ理論の学問的位置づけについて学習します。
第2回	収益率，対数収益率，確率変数	価格と収益率の関係，確率変数について学習します。
第3回	収益率の期待値と分散	期待値と分散，それらの性質について学習します。
第4回	収益率の共分散と相関係数	共分散と相関係数，それらの性質について学習します。
第5回	ポートフォリオ理論（1）	ポートフォリオ理論の仮定について学習します。
第6回	ポートフォリオ理論（2）	ポートフォリオの収益率，分散，標準偏差について学習します。
第7回	ポートフォリオ理論(3）	引き続き，ポートフォリオの収益率，分散，標準偏差について学習します。
第8回	ポートフォリオ理論（4）	ポートフォリオによる分散効果について学習します。
第9回	ポートフォリオ理論（5）	安全資産が存在しない場合の最適ポートフォリオについて学習します。
第10回	ポートフォリオ理論（6）	安全資産が存在しない場合の最適ポートフォリオについて学習します。
第11回	ポートフォリオ理論（7）	安全資産が存在する場合の投資機会集合について学習します。
第12回	ポートフォリオ理論（8）	安全資産が存在する場合の最適ポートフォリオについて学習します
第13回	資本資産評価モデル（1）	資本資産評価モデルについて学習します
第14回	資本資産評価モデル（2）	引き続き，資本資産評価モデルについて学習します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習と復習を行って下さい。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岸本直樹・池田昌幸、2019、入門・証券投資論、有斐閣

【参考書】
参考書について、適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】
学期末試験が80％、講義で実施する演習および講義参加が20％

【学生の意見等からの気づき】
図解にて視覚的に理解できるように工夫する

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
EXCEL演習を取り入れます

【関連科目】
ファイナンス入門，投資入門，コーポレートファイナンス入門I/II，デリバティブ入門I/II，Excelで学ぶファイナンス理論I/II

【Outline (in English)】
The objective of this course is to help students acquire an understanding of the basics of portfolio theory called the mean-variance analysis. The goal of this course is to understand the interaction between risk and return when managing funds using optimal portfolio theory and the capital asset pricing model (CAPM). Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the term-end examination (80%) in class contribution (20%).

ECN500F1 – 0135（経済学 / Economics 500）

デリバティブ入門Ⅰ

山嵜　輝

備考（履修条件等）：学部主催「デリバティブ入門Ⅰ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を扱います。最初に「デリバティブとは何か？」という基本的な問いから講義を始めますが、その後、金融や財務のさまざまな場面でデリバティブ取引がどのように活用されているかを具体的に理解していきます。本授業の主な目的は、ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提としたデリバティブの価格決定理論を学ぶことです。同時に、金融実務における活用例も詳しく解説します。
さらに、デリバティブ理論の応用として、「将来の為替レートは予想できるのか？」や「中央銀行の金融政策を占うには？」といったトピックについても取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史的な出来事や著名な事件なども適宜紹介し、理論と実務の両面から学びを深めます。本授業の内容は、「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」など、金融実務に関連する資格試験にもつながる知識を提供します。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げます。
（1）金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
（2）先渡取引のしくみや活用方法を説明できる。
（3）無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論を理解し、説明できる。
（4）金融市場やデリバティブ取引の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、資格試験との関連性
第2回	金融・証券市場の基礎知識（1）	金融・証券市場の概観、直接金融と間接金融、発行市場と流通市場、金融市場の規制と監視
第3回	金融・証券市場の基礎知識（2）	債券市場、債券の種類、利付債と割引債、国債と社債の発行市場、債券の流通市場
第4回	金融・証券市場の基礎知識（3）	株式市場、株式の種類、普通株と優先株、株式の発行市場、株式の流通市場、株式市場の再編
第5回	金融・証券市場の基礎知識（4）	外国為替市場、短期金融市場、デリバティブ市場、デリバティブに関連する事件
第6回	キャッシュフローと現在価値（1）	金融取引の基礎概念、キャッシュフロー、将来価値、現在価値、複利運用
第7回	キャッシュフローと現在価値（2）	付利期間、半年複利、キャッシュフローの価値比較、割引因子とその性質
第8回	効率的市場と無裁定価格理論	ケインズの美人投票、効率的市場仮説、裁定取引、無裁定条件、無裁定価格理論
第9回	先渡取引（1）	先渡取引の概要、為替予約のしくみ、為替予約のペイオフ、為替予約によるヘッジ取引と投機取引
第10回	先渡取引（2）	先渡価格の決定理論、為替予約と無裁定条件、金利パリティ、フォワード・プレミアム・パズル
第11回	債券と金利の関係（1）	債券の価格公式、複利最終利回り、所有期間利回り、スポットレート、イールドカーブ
第12回	債券と金利の関係（2）	フォワードレート、ブートストラップ法、短期金利と将来価値・現在価値
第13回	先渡取引（3）	金利先渡取引、FRAのしくみ、FRAのペイオフ、FRAによるヘッジ取引と投機取引
第14回	先渡取引（4）	先渡金利の決定理論、FRAと無裁定条件、先渡金利の公式、中央銀行の金融政策と先渡金利

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の復習をしっかり行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】
（1）岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
（2）フィナンシャルバンクインスティチュート編、『うかる！ 証券外務員一種 必修テキスト 2024-2025年版』、2024年、日本経済新聞出版
（3）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（4）ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、桐原書店

【成績評価の方法と基準】
試験期間中に行う定期試験（90％、対面試験）と授業期間中の小テスト（10％、Webテスト）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。なお、定期試験は平日昼間に実施するので、社会人大学院生は受験可否を検討の上、履修してください。

【学生の意見等からの気づき】
金融実務での実例を多く紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】
講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】
ファイナンス入門、ファイナンス基礎、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅱ、ポートフォリオ理論入門

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ファイナンス
＜研究テーマ＞　証券投資論、資産価格理論
＜主要研究業績＞
（1）“Subjective probability distributions of nonlinear payoffs: Recovering option payoff, agent’s utility, and pricing kernel distributions,” *North American Journal of Economics and Finance*, Vol.76, 2025, Elsevier
（2）“A general control variate method for time-changed Levy processes: An application to option pricing,” *Journal of Computational Finance*, Vol.27, No.1, 2023, Risk.net
（3）“Recovering subjective probability distributions,” *Journal of Futures Markets*, Vol.42, No.7, 2022, Wiley

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 90%, short examination: 10%.

ECN500F1 – 0136（経済学 / Economics 500）

デリバティブ入門Ⅱ

山嵜　輝

備考（履修条件等）：学部主催「デリバティブ入門Ⅱ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を扱います。特に、デリバティブの中でも最も重要とされる「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的です。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例についても詳しく解説します。
さらに、デリバティブ理論の応用として、「さまざまな相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買付（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げ、理論と実務の両面から学びを深めます。また、デリバティブに関連する歴史的な出来事や重要な事件も適宜紹介し、背景知識の理解を助けます。
本授業の内容は、「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」など、金融実務に関連する資格試験にも役立つ知識を提供します。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げます。
（1）金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
（2）先物取引やスワップ取引、オプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
（3）無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論を理解し、説明できる。
（4）オプション取引の関する簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、資格試験との関連性
第2回	デリバティブ入門Iの復習	キャッシュフローと現在価値、無裁定条件、無裁定価格理論、スポットレート、短期金利
第3回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物、債券先物、値洗いと証拠金、先物によるヘッジ取引と投機取引
第4回	先物取引（2）	先物価格の決定理論、日経平均先物と無裁定条件、レバレッジ型投資信託と先物
第5回	スワップ取引（1）	スワップ取引の概要、金利スワップとその活用方法、通貨スワップとその活用方法
第6回	スワップ取引（2）	IRSとスワップレート、スワップレートの決定理論、固定・変動利付債の同時取引、パーレート、ブートストラップ法
第7回	オプション取引（1）	オプション取引の概要、代表的なオプション取引、コールとプット、オプションのペイオフ
第8回	オプション取引（2）	オプションのペイオフ関数、複製戦略、プット・コール・パリティ、オプションによる取引戦略
第9回	確率論の基礎（1）	確率論の基礎概念、確率とその性質、確率変数、無裁定価格理論と確率
第10回	確率論の基礎（2）	期待値、分散、標準偏差、平均リターン、ボラティリティとリスクの概念
第11回	オプション価格理論（1）	オプション価格の決定問題、1期間2項モデル、複製ポートフォリオと無裁定条件
第12回	オプション価格理論（2）	リスク中立確率と期待収益率、オプション価格理論を用いたTOB（株式公開買付）の分析
第13回	オプション価格理論（3）	2期間2項モデル、複製ポートフォリオの組み替えと無裁定条件
第14回	オプション価格理論（4）	動的複製ポートフォリオ、オプションのデルタ、ブラック・ショールズ理論の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の復習をしっかり行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」から ダウンロードしてください。

【参考書】
（1）岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
（2）フィナンシャルバンクインスティチュート編、『うかる！ 証券外務員一種 必修テキスト 2024-2025年版』、2024年、日本経済新聞出版
（3）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（4）ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、桐原書店

【成績評価の方法と基準】
試験期間中に行う定期試験（90％、対面試験）と授業期間中の小テスト（10％、Webテスト）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。なお、定期試験は平日昼間に実施するので、社会人大学院生は受験可否を検討の上、履修してください。

【学生の意見等からの気づき】
金融実務での実例を多く紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】
講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】
ファイナンス入門、ファイナンス基礎、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ、ポートフォリオ理論入門

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ファイナンス
＜研究テーマ＞　証券投資論、資産価格理論
＜主要研究業績＞
（1）“Subjective probability distributions of nonlinear payoffs: Recovering option payoff, agent’s utility, and pricing kernel distributions,” *North American Journal of Economics and Finance*, Vol.76, 2025, Elsevier
（2）“A general control variate method for time-changed Levy processes: An application to option pricing,” *Journal of Computational Finance*, Vol.27, No.1, 2023, Risk.net
（3）“Recovering subjective probability distributions,” *Journal of Futures Markets*, Vol.42, No.7, 2022, Wiley

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 90%, short examination: 10%.

ECN500F1 – 0190（経済学 / Economics 500）

コーポレートファイナンス入門Ⅰ

金　瑢晋

備考（履修条件等）：学部主催「コーポレートファイナンス入門Ⅰ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CFOと呼ばれる会社の最高財務責任者は、直面する様々な財務意思決定問題についてその解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定問題は、投資案の評価、資金調達手段の選択、企業価値の評価、ペイアウト政策、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、コーポレート・ガバナンス、財務リスク管理、国際財務管理などに関連するものを含みます。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資本を提供する投資家の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値評価の際には、投資家の期待リターンが資本コストに衣替えします。この授業では、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、最高財務責任者が投資家の期待に応えながら、その問題をどう解決すべきかについて議論します。

【到達目標】
・キャッシュフローの時間価値の重要性が分かるようになるます。
・投資案・金融資産・企業の価値が評価出できるようになります。
・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
・資金調達手段の選択について理解が深まります。
・配当・自社株買いに関する理解が深まります。
・財務リスクについて理解が深まります。
・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。電卓（関数電卓を含む）を持参し、授業中に使用して構いません。クイズ、課題などに対するフィードバックは次回の授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業と資本市場	企業組織の形態、株式会社の仕組みの理解、投資家とステークホルダー、資本市場の役割
第2回	財務諸表と情報	財務諸表からの情報と財務意思決定、市価と簿価、キャッシュフローの重要性
第3回	キャッシュフローの時間価値1	キャッシュフローの割引現在価値・将来価値、資産評価と無裁定均衡の理解
第4回	キャッシュフローの時間価値2	特殊なキャッシュフローを持つ場合の割引現在価値の計算、割引現在価値計算の応用、表計算ソフトを用いた計算例
第5回	債券と株式の評価	債券の理論価格、債券の利回り、株式の理論価格、配当割引モデル、企業成長と株価
第6回	投資の意思決定1	プロジェクト評価の諸手法、正味現在価値、内部収益率、回収期間法、収益性指標
第7回	投資の意思決定2	内部収益率法の落とし穴、資金制約がある場合のプロジェクト評価、日米企業における投資案評価の実際
第8回	投資の意思決定2	リアルオプション価値の考慮、標準的NPV法との比較
第9回	証券のリターンとリスク1	株式の投資収益率、ポートフォリオ理論の基礎、分散可能なリスクと体系的リスクの理解、体系的リスクの尺度
第10回	証券のリターンとリスク2	市場均衡、均衡におけるリターンとリスクとの関係、ベータ値の推定、資本資産評価モデルの理解、マルチファクターモデルの紹介
第11回	資本コストの推定	株主資本コスト、株式のベータ、負債の資本コスト、加重平均資本コストの推定、負債利用の節税効果の含意
第12回	企業価値評価1	DCF法（WACC法）
第13回	企業価値評価2	APV法、FTE法、RI法
第14回	企業価値評価3	EVA、MVA、諸企業価値評価手法の関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容について理解を深めるためにも日頃経済関連記事、経済ニュースなどに目を配りましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配布資料

【参考書】
朝岡大輔・砂川 伸幸・岡田紀子著 (著)『ゼミナール コーポレートファイナンス』、日本経済新聞出版、2022
新井富雄・高橋文朗・芹田敏夫（著）『コーポレート・ファイナンス』、中央経済社、2016
久保田敬一・芹田敏夫・竹原均・徳永俊史（訳）『コーポレートファイナンス、入門編、第2版』、丸善出版、2014

【成績評価の方法と基準】
期末試験80％、クイズ20％

【学生の意見等からの気づき】
更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
電卓や表計算ソフトウェアの使い方に慣れて置きましょう。

【その他の重要事項】
授業では、初歩的な計算を行いますが、特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】
民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、ファイナンスの基礎理論と実際についてわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
This course introduces the basics of corporate finance. Topics include investment projects analysis, capital structure, valuation of the firm, payout policy, M&A decision, financial risk management, international financial management, and corporate governance.
By the end of the course, students should be able to:
A. understand how the concept of time value of money is applied in financial decisions such as project evaluation.
B. understand the relation between management and investors.
C. understand the difference between financing choices.

D. understand how to estimate the cost of capital.
E. understand how to value the firm.
F understnad how to pay out profits to shareholders.
G. understand how to cope with financial risks.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 80%, Quizzes : 20%.

ECN500F1 – 0191（経済学 / Economics 500）

コーポレートファイナンス入門Ⅱ

金　瑢晋

備考（履修条件等）：学部主催「コーポレートファイナンス入門Ⅱ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CFOと呼ばれる会社の最高財務責任者は、直面する様々な財務意思決定問題についてその解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定問題は、投資案の評価、資金調達手段の選択、企業価値の評価、ペイアウト政策、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、コーポレート・ガバナンス、財務リスク管理、国際財務管理などに関連するものを含みます。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資本を提供する投資家の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値評価の際には、投資家の期待リターンが資本コストに衣替えします。この授業では、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、最高財務責任者が投資家の期待に応えながら、その問題をどう解決すべきかについて議論します。

【到達目標】
・キャッシュフローの時間価値の重要性が分かるようになるます。
・投資案・金融資産・企業の価値が評価出できるようになります。
・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
・資金調達手段の選択について理解が深まります。
・配当・自社株買いに関する理解が深まります。
・財務リスクについて理解が深まります。
・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。電卓（関数電卓を含む）を持参し、授業中に使用して構いません。クイズ、課題などに対するフィードバックは次回の授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	資本構成理論1	完全資本市場、資本構成理論の基礎、無裁定均衡の理解、MMの命題Ⅰと命題Ⅱ、レバレッジと株主資本コストの関係
第2回	資本構成理論2	節税効果、修正MMの命題ⅠとⅡ、倒産コストの考慮、トレードオフ理論
第3回	資本構成理論3	資金調達意思決定とエージェンシ費用、ペッキングオーダー仮説、実務における資本構成、資本構成理論のまとめ
第4回	ペイアウト政策1	内部留保vs.ペイアウト 配当vs.自社株買い
第5回	ペイアウト政策2	ペイアウト政策に関するMMの無関連命題
第6回	ペイアウト政策3	現金保有のメリット・デメリット 最適ペイアウト政策
第7回	エクイティファイナンス1	ベンチャーファイナンス、新規株式公開
第8回	エクイティファイナンス2	公募増資、 エクイティファイナンスの直接費用と間接費用
第9回	デットファイナンス	社債発行vs.借入 デットファイナンスの費用
第10回	合併・買収	M&Aの経済的メリット、M&Aの意思決定
第11回	コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンスの仕組み、株主と利害関係者
第12回	財務リスク管理	財務リスクの管理、ヘッジ
第13回	国際財務管理	海外投資プロジェクトの評価、為替リスクのヘッジ、国際資金調達
第14回	総括	補足と纏め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容について理解を深めるためにも日頃経済関連記事、経済ニュースなどに目を配りましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配布資料

【参考書】
朝岡大輔・砂川 伸幸・岡田紀子著 (著)『ゼミナール コーポレートファイナンス』、日本経済新聞出版、2022
新井富雄・高橋文朗・芹田敏夫（著）『コーポレート・ファイナンス』、中央経済社、2016
久保田敬一・芹田敏夫・竹原均・徳永俊史（訳）『コーポレートファイナンス、入門編、第2版』、丸善出版、2014

【成績評価の方法と基準】
期末試験80％、クイズ20％

【学生の意見等からの気づき】
更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
電卓や表計算ソフトウェアの使い方に慣れて置きましょう。

【その他の重要事項】
授業では、初歩的な計算を行いますが、特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】
民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、ファイナンスの基礎理論と実際についてわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
This course introduces the basics of corporate finance. Topics include investment projects analysis, capital structure, valuation of the firm, payout policy, M&A decision, financial risk management, international financial management, and corporate governance.
By the end of the course, students should be able to:
A. understand how the concept of time value of money is applied in financial decisions such as project evaluation.
B. understand the relation between management and investors.
C. understand the difference between financing choices.
D. understand how to estimate the cost of capital.
E. understand how to value the firm.
F understnad how to pay out profits to shareholders.
G. understand how to cope with financial risks.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 80%, Quizzes : 20%.

ECN500F1 – 0137（経済学 / Economics 500）

国際経済学Ⅰ

髙橋　理香

備考（履修条件等）：学部主催「国際経済論Ⅰ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、グローバル化の在り方が大きく変化し、国際取引の構造やその取引を支えるルール・枠組みも大きく変わろうとしています。本授業では、理論的な分析ツールや諸資料を活用しながら、日本と諸外国の間でどのような国際取引がどのようなルール・枠組みの下で行われてきたのかを考察することで、グローバル化とは何か、グローバル化は私たちの暮らしや社会をどう変えるのか、理解を深めます。国際経済論Ⅰでは主に貿易の基本構造や労働・資本の国際間移動について、国際経済論Ⅱでは主に貿易政策や国際通商システムについて、理論・実証・歴史的な観点から分析し、現代の国際社会において重要とされるトピックスをとりあげて問題点を解明します。

【到達目標】
この授業を通して、以下のスキルを身につけます
1. 現代の複雑な国際経済のメカニズムをシンプルなモデルを用いて理論的に考察できる。
2. データを用いて日本と世界の経済取引や経済政策の在り方を考察できる。
3. 日本と世界の経済取引や経済政策の歴史的経緯と現代の国際経済の諸問題を関連付けて考察できる。
4. これらの学習を通じて、現実におきている国際経済にまつわる出来事に関心を持ち、課題を見つけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
オンデマンド形式の講義を行います。各回の講義ノートを配布した上で、パワーポイントのスライドを使って講義を展開します。理解を深めるために、統計データなどの諸資料も参照しながら解説します。国際経済に関する時事的なトピックスとして、新聞記事（日本語・英語）を紹介しながら解説します。また、宿題の解説などを行うこともあります。また、学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを通じて、受講者とインタラクションを持つ機会を設けます。授業に関する告知や講義ノート・宿題の問題等は、学習支援システムを使って配信しますので、各自が適宜確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の概要とルール
2	日本の貿易の特徴	データで学ぶ日本の貿易
3	貿易と市場1	市場メカニズム（需要・供給分析）
4	貿易と市場2	市場の資源配分（余剰分析）
5	貿易と市場3	貿易による利益と市場競争
6	技術の違いと貿易パターン1	データで学ぶ国際分業と日本の比較優位
7	技術の違いと貿易パターン2	比較優位理論
8	技術の違いと貿易パターン3	比較優位と貿易
9	新しい貿易理論と日本の貿易1	消費の多様性と貿易
10	新しい貿易理論と日本の貿易2	生産工程の細分化と貿易
11	新しい貿易理論と日本の貿易3	企業の技術力の違いと貿易
12	生産要素の国際間移動1	日本の外国人労働
13	生産要素の国際間移動2	生産要素の国際移動の理論
14	まとめ	春学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。宿題を出しますので、指定された日時までに必ず解いて提出してください。また、学習支援システムを通じて配信された講義ノートを各自ダウンロード・印刷して授業時に持ってきてください。
また、本授業は、経営学部とのコードシェア科目です。修士課程の学生の皆さんには、別途、問題演習の機会（Zoom）を設ける場合があります。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。毎回配布する授業ノートを基に進めていきます。ただし、下記の参考書のうち、少なくともどれか1冊を入手して読むことを勧めます。参考書の特徴や難易度については、春学期・秋学期それぞれ第1回の授業で説明しますので、その説明を聞いてからどれを読むかを決めるのが良いと思います。

【参考書】
【テキスト】
阿部顕三・寶多康弘『グラフィック国際経済学』新世社、2023年。
石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ 第2版』有斐閣、2013年。
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学15講』新世社、2022年。
伊藤萬里・田中鮎夢『現実からまなぶ国際経済学』有斐閣、2023年。
多和田眞・近藤健児『国際経済学の基礎「100項目」　第5版』創成社、2022年。
古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022年。
若杉隆平編『基礎から学ぶ国際経済と地域経済』文眞堂、2020年。
クルーグマン, P.R., M. オブストフェルド, M. J. メリッツ『クルーグマン国際経済学- 理論と政策- 〔原書第10版〕上・貿易編』山形浩生・守岡桜訳、丸善出版、2017年。
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2022) *International Economics: Theory and Policy,* 12th edition, Pearson.
【読み物】
清田耕造『日本の比較優位- 国際貿易の変遷と源泉- 』慶應義塾大学出版会、2016年。
田中鮎夢『新々貿易理論とは何か- 企業の異質性と21世紀の国際経済』ミネルヴァ書房、2015年。
冨浦英一『アウトソーシングの国際経済学』日本評論社、2014年。
椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020年。

【成績評価の方法と基準】
宿題・レポート：40％
期末テスト：60％
宿題・レポート・期末テストの詳細については、学習支援システム上で適宜お知らせします。各自、注意して確認下さい。

【学生の意見等からの気づき】
現実のトピックに関心を持つ学生が多いことから、国際経済学にまつわる新聞記事の紹介と簡単な解説を行います。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業を動画配信しますので、音声・動画を視聴できるデバイスを準備してください。また、授業ノートや資料の配信・課題の提出・連絡事項は学習支援システムを使います。宿題・課題はMicrosoft Word, Excel, Powerpoint やそれらに準ずるソフトを用いて作成することが求められます。また、オフィスアワーはZoomで行う予定ですので、オフィスアワーの利用希望者はその準備をして下さい。

【その他の重要事項】
① ⅠとⅡを通年で履修することを強く勧めます。
② ミクロ経済学の知識があったほうが良いでしょう。
③ 経済学入門・日本経済論・国際金融論・産業組織論と関連していますので、併せて履修することを勧めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際経済学
＜研究テーマ＞日本の農業貿易政策に関する理論と実証研究
＜主要研究業績＞"Welfare Losses from Non-Tariff Barriers: The Beef Quota Case," Japanese Economic Review, Vol. 56 No. 4, pp.457-468, December 2005 (with Makoto Yano and Hideo Mizuno).

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this class is to understand international transactions conducted in Japan and other countries and to focus how such transactions have changed these economies by using theoretical analysis tools and various materials. In International Economics I, we will learn the basic and fundamental structures of trade and international movement of labor and capital, and in International Economics II, we will learn trade policies and the international economic system theoretically and historically.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be expected to:
(1)Understand key trade models.
(2)Understand key concepts with respect to trade.
(3)Analyze and evaluate daily life topics and current and past news topics from the viewpoint of trade theory and policy.
(4)Solve problem sets.
(5)Read newspaper articles written in English.
【Learning activities outside of classroon】
Students are expected to download, print out, and read assigned handouts before class and do homework after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Office hours may occasionally be held during the first period of Thursday. Although these are for master's students, undergraduate students are also welcome to participate.
【Grading Criteria】
Homework and Exercises: 40％
Final Examination: 60%

ECN500F1 – 0138（経済学 / Economics 500）

国際経済学Ⅱ

髙橋　理香

備考（履修条件等）：学部主催「国際経済論Ⅱ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、グローバル化の在り方が大きく変化し、国際取引の構造やその取引を支えるルール・枠組みも大きく変わろうとしています。本授業では、理論的な分析ツールや諸資料を活用しながら、日本と諸外国の間でどのような国際取引がどのようなルール・枠組みの下で行われてきたのかを考察することで、グローバル化とは何か、グローバル化は私たちの暮らしや社会をどう変えるのか、理解を深めます。国際経済論Ⅰでは主に貿易の基本構造や労働・資本の国際間移動について、国際経済論Ⅱでは主に貿易政策や国際通商システムについて、理論・実証・歴史的な観点から分析し、現代の国際社会において重要とされるトピックスをとりあげて問題点を解明します。

【到達目標】
この授業を通して、以下のスキルを身につけます
1. 現代の複雑な国際経済のメカニズムをシンプルなモデルを用いて理論的に考察できる。
2. データを用いて日本と世界の経済取引や経済政策の在り方を考察できる。
3. 日本と世界の経済取引や経済政策の歴史的経緯と現代の国際経済の諸問題を関連付けて考察できる。
4. これらの学習を通じて、現実におきている国際経済にまつわる出来事に関心を持つ、課題を見つけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
オンデマンド形式の講義を行います。各回の講義ノートを配布した上で、パワーポイントのスライドを使って講義を展開します。理解を深めるために、統計データなどの諸資料も参照しながら解説します。国際経済に関する時事的なトピックスとして、新聞記事（日本語・英語）を紹介しながら解説します。また、宿題の解説などを行うこともあります。また、学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを通じて、受講者とインタラクションを持つ機会を設けます。授業に関する告知や講義ノート・宿題の問題等は、学習支援システムを使って配信しますので、各自が適宜確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	データで学ぶ日本の貿易政策
2	日米貿易摩擦と日本の貿易政策の変遷	歴史的観点から学ぶ日本の貿易政策
3	関税政策１	関税政策の理論
4	関税政策２	日本と外国の関税政策の実態
5	非関税障壁１	輸入数量制限と日本の農業
6	非関税障壁２	輸出自主規制と日本の自動車産業
7	国内不完全競争政策１	国内不完全競争政策と日本の流通市場
8	国内不完全競争政策２	国内不完全競争政策と関税政策の比較
9	戦略的貿易政策	戦略的相互依存関係と世界の航空産業
10	ダンピング１	ダンピングの不当性
11	ダンピング２	日米関係におけるアンチダンピング政策
12	国際経済システム１	多角間交渉（GATT/WTO）
13	国際経済システム２	地域経済統合（RTA, TPP, RCEP）
14	まとめ	秋学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。宿題を出しますので、指定された日時までに必ず解いて提出してください。また、学習支援システムを通じて配信された講義ノートを各自ダウンロード・印刷して授業時に持ってきてください。
また、本授業は、経営学部とのコードシェア科目です。修士課程の学生の皆さんとは、別途、問題演習の機会を設ける場合があります。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。毎回配布する授業ノートを基に進めていきます。ただし、下記の参考書のうち、少なくともどれか１冊を入手して読むことを勧めます。参考書の特徴や難易度については、春学期・秋学期それぞれ第１回の授業で説明しますので、その説明を聞いてからどれを読むかを決めるのが良いと思います。

【参考書】
【テキスト】
阿部顕三・寶多康弘『グラフィック国際経済学』新世社、2023年。
石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ 第２版』有斐閣、2013年。
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学15講』新世社、2022年。
伊藤萬里・田中鮎夢『現実からまなぶ国際経済学』有斐閣、2023年。
多和田眞・近藤健児『国際経済学の基礎「100項目」　第5版』創成社、2022年。
古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022年。
若杉隆平編『基礎から学ぶ国際経済と地域経済』文眞堂、2020年。
クルーグマン, P.R., M. オブストフェルド, M. J. メリッツ『クルーグマン国際経済学- 理論と政策- 〔原書第10版〕上・貿易編』山形浩生・守岡桜訳、丸善出版、2017年。
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2022) *International Economics: Theory and Policy,* 12th edition, Pearson.
【読み物】
清田耕造『日本の比較優位- 国際貿易の変遷と源泉- 』慶應義塾大学出版会、2016年。
田中鮎夢『新々貿易理論とは何か- 企業の異質性と21世紀の国際経済』ミネルヴァ書房、2015年。
冨浦英一『アウトソーシングの国際経済学』日本評論社、2014年。
椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020年。

【成績評価の方法と基準】
宿題・レポート：40％
期末テスト：60％
宿題・レポート・テストの詳細については、学習支援システム上で適宜お知らせします。各自、注意して確認下さい。

【学生の意見等からの気づき】
現実のトピックに関心を持つ学生が多いことから、国際経済学にまつわる新聞記事の紹介と簡単な解説を行います。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業を動画配信しますので、音声・動画を視聴できるデバイスを準備してください。また、授業ノートや資料の配信・課題の提出・連絡事項は学習支援システムを使います。宿題・課題はMicrosoft Word, Excel, Powerpointやそれらに準ずるソフトを用いて作成することが求められます。また、オフィスアワーはZoomで行う予定ですので、オフィスアワーの利用希望者はその準備をして下さい。

【その他の重要事項】
① ⅠとⅡを通年で履修することを強く勧めます。
② ミクロ経済学の知識があったほうが良いでしょう。
③ 経済学入門・日本経済論・国際金融論・産業組織論と関連していますので、卒業までに併せて履修することを勧めます。

【担当】
＜専門領域＞国際経済学
＜研究テーマ＞日本の農業貿易政策に関する理論と実証研究
＜主要研究業績＞"Welfare Losses from Non-Tariff Barriers: The Beef Quota Case," Japanese Economic Review, Vol. 56 No. 4, pp.457-468, December 2005 (with Makoto Yano and Hideo Mizuno).

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this class is to understand international transactions conducted in Japan and other countries and to focus how such transactions have changed these economies by using theoretical analysis tools and various materials. In International Economics I, we will learn the basic and fundamental structures of trade and international movement of labor and capital, and in International Economics II, we will learn trade policies and the international economic system theoretically and historically.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be expected to:
(1)Understand key trade models.
(2)Understand key concepts with respect to trade.
(3)Analyze and evaluate daily life topics and current and past news topics from the viewpoint of trade theory and policy.
(4)Solve problem sets.
(5)Read newspaper articles written in English.
【Learning activities outside of classroon】
Students are expected to download, print out, and read assigned handouts before class and do homework after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Office hours may occasionally be held during the first period of Thursday. Although these are for master's students, undergraduate students are also welcome to participate.
【Grading Criteria】
Homework and Exercises: 40％
Final Examination: 60%

ECN500F1 – 0169（経済学 / Economics 500）

国際金融論特論 I

羅　鵬飛

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、国際金融の理論と実証分析を体系的に学ぶ。国際金融市場の構造、国際資本移動、為替レートの決定要因、金融政策と資本フローの関係、国際金融システムの安定性など、主要なトピックを扱う。特に、開放経済マクロ経済学、最新の国際金融理論、グローバルリスクが金融市場に及ぼす影響について理解を深める。
理論的枠組みの習得と実証分析を通じて、政策的な含意を考察し、国際金融市場の動向を分析する能力を養う。対象は大学院生で、経済学・金融論の基礎知識を前提とする。

【到達目標】
本講義の到達目標は、大学院レベルの国際金融の理論的枠組みを理解し、実証分析の手法を習得するとともに、政策的な視点を養うことである。具体的には、開放経済マクロ経済学や為替レート理論、国際資本移動のメカニズムを学び、国際金融市場に関するデータを用いた実証分析を行う能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義は対面形式を基本とし、パワーポイントを用いて進める。資料や講義ノートは事前に学習支援システムにアップロードされる。
受講者の人数や理解度に応じて、内容や進行方法を適宜調整することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の紹介、講義の進め方、国際金融の基本概念
第2回	国際収支	国際収支表の構成要素と対外資産・負債
第3回	外国為替相場	名目・実質為替レート、外国為替市場の構造
第4回	購買力平価	一物一価、絶対・相対購買力平価
第5回	実証分析１	購買力平価の実証分析による理論の検証
第6回	金利平価	カバー付き・カバーなし金利平価
第7回	実証分析２	金利平価の実証分析による理論の検証
第8回	前半の総括	前半の総括
第9回	伸縮価格マネタリー・アプローチ	モデルの概要と理論的特性
第10回	硬直価格マネタリー・アプローチ	モデルの概要と理論的特性
第11回	ポートフォリオアプローチ	モデルの概要と理論的特性
第12回	実証分析３	マネタリー・アプローチとポートフォリオ・アプローチの実証分析
第13回	為替相場制度	金本位制、ブレトンウッズ体制、現行の様々な為替相場制度
第14回	期末総括	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料は担当教員が作成したもの（レジュメ、資料等）を授業システムに配付する。使用テキストは初回授業に詳細を説明する。
テキスト：小川英治・川崎健太郎、『MBAのための国際金融論』、有斐閣、2007。図書館蔵書。

【参考書】
M.Melvin and S.C.Norrbin, International Money and Finance, 9th Edition, Elsevier, 2017.
佐々木百合、『国際金融論入門』、新世社、2017年
清水順子・大野早苗・松原・川崎健太郎、『徹底解説　国際金融（第2版）』日本評論社、2024年

【成績評価の方法と基準】
レポートに加え、授業中の積極的な参加と貢献度を評価し、総合的に判断する。評価配分はレポート50％、授業中の参加・貢献度50％とする。
受講者が多い場合、評価方法を期末試験またはグループ研究報告に変更する可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】
特にない。

【学生が準備すべき機器他】
PC

【その他の重要事項】
特にない。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際金融
＜研究テーマ＞
新興市場国の為替レート決定、国際資本移動、グローバルリスク
＜主要研究業績＞
Macroeconomic effects of global policy and financial risks, International Journal of Finance &Economics, 29(1),177-205.（共著）
『ポストコロナの世界経済: グローバルリスクの構造変化 』、東京大学出版会、2023.　（共著）
『グローバルリスクと世界経済 : 政策不確実性による危機とリスク管理 』、東京大学出版会、2021.（共著）
Diversifying reference currency basket and decreasing degree of flexibility in exchange policy of China,Japanese Journal of Monetary and Financial Economics, 6(1),1-18,2018　（単著）

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course systematically examines the theories and empirical analysis of international finance. Key topics include the structure of international financial markets, international capital flows, exchange rate determinants, the relationship between monetary policy and capital flows, and the stability of the international financial system. Special emphasis is placed on open economy macroeconomics, recent international finance theories, and the impact of global risks on financial markets.
The course integrates theoretical frameworks with empirical analysis using real-world data to derive policy implications. Through this approach, students will develop the ability to analyze international financial market trends and evaluate economic policies. Designed for graduate students, this course requires prior knowledge of economics and finance.
(Learning Objectives)
This course aims to deepen students' understanding of international finance at the graduate level, equip them with empirical analysis techniques, and develop a policy-oriented perspective. Students will study open economy macroeconomics, exchange rate theories, and the mechanisms of international capital flows while gaining the ability to conduct empirical analyses using international financial market data.

(Learning Activities Outside the Classroom)
Students are expected to review lecture materials before each class and revisit the previous session's content. The estimated time for preparation and review is approximately two hours each.
(Grading Criteria / Policy)
Evaluation consists of a report (50%) and class participation (50%). If enrollment is high, assessment may be adjusted to a final exam or group research presentation.

ECN500F1 – 0170（経済学 / Economics 500）

国際金融論特論 II

羅　鵬飛

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、国際金融の理論と実証分析を体系的に学ぶ。国際金融市場の構造、国際資本移動、為替レートの決定要因、金融政策と資本フローの関係、国際金融システムの安定性など、主要なトピックを扱う。特に、開放経済マクロ経済学、最新の国際金融理論、グローバルリスクが金融市場に及ぼす影響について理解を深める。
理論的枠組みの習得と実証分析を通じて、政策的な含意を考察し、国際金融市場の動向を分析する能力を養う。対象は大学院生で、経済学・金融論の基礎知識を前提とする。

【到達目標】
本講義の到達目標は、大学院レベルの国際金融の理論的枠組みを理解し、実証分析の手法を習得するとともに、政策的な視点を養うことである。具体的には、開放経済マクロ経済学や為替レート理論、国際資本移動のメカニズムを学び、国際金融市場に関するデータを用いた実証分析を行う能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義は対面形式を基本とし、パワーポイントを用いて進める。資料や講義ノートは事前に学習支援システムにアップロードされる。
受講者の人数や理解度に応じて、内容や進行方法を適宜調整することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の紹介、講義の進め方、国際金融の基本概念
第2回	開放マクロ経済学（1）：基本モデル	IS-LMモデル、マンデル・フレミング・モデル
第3回	国際マクロ経済学（2）：変動相場制における経済政策効果	開放マクロ経済モデルを用いて変動相場制における財政政策・金融政策効果の説明
第4回	国際マクロ経済学（3）：固定相場制における経済政策効果	開放マクロ経済モデルを用いて固定相場制における財政政策・金融政策効果の説明
第5回	為替介入とその有効性	為替介入の目的、方法、効果
第6回	人民元	通貨バスケット相場制、人民元為替相場制度、Frankel-Weiモデルによる実証分析
第7回	前半の総括	前半の総括
第8回	通貨危機	通貨危機のメカニズム、経済危機の対応、IMF体制、国際協調の仕組み
第9回	通貨統合と共通通貨圏	通貨統合の便益と費用、共通通貨圏理論、ユーロ圏
第10回	決済通貨と為替パススルー	貿易決済の通貨選択、為替パススルーを解説
第11回	国際金融の最新動向	暗号通貨と国際金融、ビットコイン、ステーブルコイン、中央銀行デジタル通貨 (CBDC) の台頭
第12回	研究報告1	学生研究報告、教員からの評価、討論
第13回	研究報告2	学生研究報告、教員からの評価、討論
第14回	研究報告3	学生研究報告、教員からの評価、討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料は担当教員が作成したもの（レジュメ、資料等）を授業システムに配付する。使用テキストは初回授業に詳細を説明する。
テキスト：小川英治・川崎健太郎、『MBAのための国際金融論』、有斐閣、2007。図書館蔵書。

【参考書】
M.Melvin and S.C.Norrbin, International Money and Finance, 9th Edition, Elsevier, 2017.
佐々木百合、『国際金融論入門』、新世社、2017年
清水順子・大野早苗・松原・川崎健太郎、『徹底解説　国際金融（第2版）』日本評論社、2024年

【成績評価の方法と基準】
レポートに加え、授業中の積極的な参加と貢献度を評価し、総合的に判断する。評価配分はレポート50％、授業中の参加・貢献度50％とする。
受講者が多い場合、評価方法を期末試験またはグループ研究報告に変更する可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】
特にない。

【学生が準備すべき機器他】
PC

【その他の重要事項】
特にない。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際金融
＜研究テーマ＞
新興市場国の為替レート決定、国際資本移動、グローバルリスク
＜主要研究業績＞
Macroeconomic effects of global policy and financial risks, International Journal of Finance &Economics, 29(1),177-205.（共著）
『ポストコロナの世界経済: グローバルリスクの構造変化 』、東京大学出版会、2023.　（共著）
『グローバルリスクと世界経済 : 政策不確実性による危機とリスク管理 』、東京大学出版会、2021.（共著）
Diversifying reference currency basket and decreasing degree of flexibility in exchange policy of China,Japanese Journal of Monetary and Financial Economics, 6(1),1-18,2018　（単著）

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course systematically examines the theories and empirical analysis of international finance. Key topics include the structure of international financial markets, international capital flows, exchange rate determinants, the relationship between monetary policy and capital flows, and the stability of the international financial system. Special emphasis is placed on open economy macroeconomics, recent international finance theories, and the impact of global risks on financial markets.
The course integrates theoretical frameworks with empirical analysis using real-world data to derive policy implications. Through this approach, students will develop the ability to analyze international financial market trends and evaluate economic policies. Designed for graduate students, this course requires prior knowledge of economics and finance.
(Learning Objectives)

This course aims to deepen students' understanding of international finance at the graduate level, equip them with empirical analysis techniques, and develop a policy-oriented perspective. Students will study open economy macroeconomics, exchange rate theories, and the mechanisms of international capital flows while gaining the ability to conduct empirical analyses using international financial market data.
(Learning Activities Outside the Classroom)
Students are expected to review lecture materials before each class and revisit the previous session's content. The estimated time for preparation and review is approximately two hours each.
(Grading Criteria / Policy)
Evaluation consists of a report (50%) and class participation (50%). If enrollment is high, assessment may be adjusted to a final exam or group research presentation.

ECN500F1 – 0171（経済学 / Economics 500）

産業組織論Ⅰ

大木　良子

備考（履修条件等）：学部主催「産業組織論Ⅰ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学のモノの見方を通して、企業の意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の分析手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかにする力をつけることを目指す。
具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、それに対応する現実の事例について、理論分析の結果と現実との一致や相違点について考察する。
春学期の産業組織論Ⅰでは、まず、より現実的な市場競争の構造である寡占市場を理論的に分析する方法を学ぶ。カルテルや価格差別など市場で実際に見られる競争政策上の問題についても理論的に分析する。

【到達目標】
産業組織論の基本的な考え方・ものの見方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場を分析し、自分の考えを論述することができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
オンデマンド型オンライン授業として、全14回、YouTubeによる動画配信で授業を実施する。
全て講義形式で行い、講義にはスライドを用いる。授業内課題として、授業で学んだ理論を企業の事例に応用する問題や、理論的な理解を問う問題を出題し、それを宿題として提出することにより、各回の講義内容の理解を深める。
学習内容の確認のために、オンラインでの中間試験、また対面での期末試験を行うことを予定している。
学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、随時、受講者とインタラクションを持つ機会を確保する。掲示板の書き込み内容について、授業内で取り上げて解説することもある。
宿題また中間・期末試験については、提出後の授業内で解答例を取り上げ解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ミクロ経済学で「企業」「市場（産業）」「政府」はどのように扱われているか？ 企業の数と競争の度合いとの関係（市場集中度） 独占市場、完全競争市場、寡占市場とは？
第2回	ミクロ経済学の復習と産業組織論のトピックの概観	企業は何を決めることができるのか？ 企業の利潤はどのように決まるのか？ 完全競争市場、独占市場それぞれのメカニズムを確認する。
第3回	独占	独占企業の行動と完全競争市場における企業の行動との違いとは？ なぜ独占になるのか？（規模の経済・自然独占）
第4回	価格差別（1）	価格差別の定義と経済モデルの紹介
第5回	価格差別（2）	価格差別が市場競争に与える影響と競争政策
第6回	価格差別（3）	価格差別の現実の事例を理論的に分析する（携帯電話や飛行機チケットなど）
第7回	中間試験	オンラインで中間試験を実施。これまでの学習内容について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う。
第8回	寡占（1）	数量を決定して競争する場合（クールノー競争）企業の数が変化していくと競争はどのように変わっていくか？
第9回	寡占（2）	価格を決定して競争する場合（ベルトラン競争） クールノー競争との違い
第10回	ゲーム理論（1）	ゲーム理論とはなにか？ ゲーム理論を使うとどのような分析が可能になるのか？
第11回	ゲーム理論（2）	いろいろなゲームの均衡を求める。
第12回	ゲーム理論（3）	ゲーム理論を用いて寡占市場における数量競争・価格競争を再考する。
第13回	競争政策と産業組織論・事例分析	競争政策の基礎を学ぶ。 現実に競争政策上問題とされた事件を産業組織論を用いて分析する。
第14回	問題演習	春学期に学んだ内容について練習問題を解き解説する。対面で実施予定の期末試験の概要を説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。大学院生は、学部生が提出する宿題に加え、大学院生だけを対象とした宿題を提出する必要があります。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。
『産業組織とビジネスの経済学』花薗誠著　有斐閣　2018年
『ミクロ経済学』伊藤元重著、 日本評論社、2018年
『入門　ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004年
『プラクティカル　産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013年
『産業組織の経済学　第2版』長岡・平尾著、日本評論社、2013年
『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016年
『競争政策論　第2版』小田切宏之著、日本評論社、2017年
『経営の経済学　第3版』丸山雅祥著、有斐閣、2017年

【成績評価の方法と基準】
宿題20％
中間試験15％
期末試験65％
大学院生は、学部生が提出する宿題に加え、大学院生だけを対象とした宿題を提出する必要があります。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業動画のURL、関連するスライド等の資料や、宿題、中間試験、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。
宿題も、学習支援システムを通じて提出して頂きます。
学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。
産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期のⅠの内容を前提として秋学期のⅡが進められます。Ⅰを履修せずⅡを履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください）
この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【関連科目】
ミクロ経済論Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies.
Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four
hours to understand the course content.
Final grade will be calculated based on term-end examination (65%) and
homework (20%) and mid-term exam (15%).

ECN500F1 – 0172（経済学 / Economics 500）

産業組織論 II

大木　良子

備考（履修条件等）：学部主催「産業組織論 II」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学のモノの見方を通して、企業の意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の分析手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかする力をつけることを目指す。
具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、それに対応する現実の事例について、理論分析の結果と現実との一致や相違点について考察する。
秋学期の産業組織論IIでは、春学期の産業組織論 I で学んだ内容を前提とし、製品差別化や垂直的取引制限など現実的によく観察される企業の行動を経済学的に考察するツールを学ぶ。その中で競争政策上問題とされる行動について事例を通じて理解する。

【到達目標】
産業組織論の基本的な考え方・モノの見方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
オンデマンド型オンライン授業として、全14回、YouTubeによる動画配信で授業を実施する。
全て講義形式で行い、講義にはスライドを用いる。授業内課題として、授業で学んだ理論を企業の事例に応用する問題や、理論的な理解を問う問題を出題し、それを宿題として提出することにより、各回の講義内容の理解を深める。
学習内容の確認のために、オンラインでの中間試験、また対面で実施予定の期末試験を行う。
学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、随時、受講者とインタラクションを持つ機会を確保する。掲示板の書き込み内容について、授業内で取り上げて解説することもある。
宿題また中間・期末試験については、提出後の授業内で解答例を取り上げ解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	近年競争政策上問題となった事例の紹介
第2回	競争政策の復習	競争政策と産業組織論の関係について、春学期に学習した内容を概観し、秋学期の内容の位置づけを確認する。
第3回	製品差別化と競争（1）	差別化の源泉は何か？（立地、ブランド）
第4回	製品差別化と競争（2）	垂直的な製品差別化の経済モデルの紹介
第5回	製品差別化と競争（3）	水平的な製品差別化の経済モデルの紹介
第6回	参入と退出・参入阻止	市場における企業の数はどのように決まるのか？ 参入阻止と市場競争との関係 参入阻止を可能にする企業の戦略
第7回	合併	合併の経済モデルの紹介、合併が市場競争に与える影響を検討する。
第8回	中間試験	オンラインで中間試験を実施する。これまで学習した経済理論について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う。
第9回	垂直的取引制限（1）	垂直的取引制限とはなにか？ 競争政策上問題とされる具体的な事例の紹介
第10回	垂直的取引制限（2）	様々な垂直的取引制限と市場競争との関係を理論分析する。
第11回	研究開発と特許	技術開発・特許制度と市場競争との関係を考察する。
第12回	ネットワーク外部性（1）	ネットワーク外部性の定義とそれらが見られる具体的な市場の紹介（検索エンジンやSNSのビジネスモデル）
第13回	ネットワーク外部性（2）	プラットフォーム間競争と競争政策、最近の事例の紹介
第14回	事例研究	これまでの学習内容を最近の競争政策上問題とされた企業の事例を用いて考察する。対面で実施予定の期末試験の概要を説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。大学院生は、学部生が提出する宿題に加え、大学院生だけを対象とした宿題を提出する必要があります。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。
『産業組織とビジネスの経済学』花薗誠著　有斐閣　2018年
『ミクロ経済学』伊藤元重著、 日本評論社、2018年
『入門　ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004年
『プラクティカル　産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013年
『産業組織の経済学　第2版』長岡・平尾著、日本評論社、2013年
『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016年
『競争政策論　第2版』小田切宏之著、日本評論社、2017年
『経営の経済学　第3版』丸山雅祥著、有斐閣、2017年

【成績評価の方法と基準】
宿題20％
中間試験15％
期末試験65％
大学院生は、学部生が提出する宿題に加え、大学院生だけを対象とした宿題を提出する必要があります。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業動画のURL、関連するスライド等の資料や、宿題、中間試験、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。
宿題も、学習支援システムを通じて提出して頂きます。
学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。

産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期のⅠの内容を前提として秋学期のⅡが進められます。Ⅰを履修せずⅡを履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください）
この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【関連科目】
ミクロ経済論Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies.
Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four
hours to understand the course content.
Final grade will be calculated based on term-end examination (65%) and
homework (20%) and mid-term exam (15%).

ECN500F1 – 0139（経済学 / Economics 500）

日本経済特論Ⅰ

平田　英明

備考（履修条件等）：学部主催「日本経済論Ⅰ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま10歳の日本人ならば……この国を去ることを選ぶ」「いま10歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言しています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界10大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「(良い意味で）ヤバイ」のでしょうか、それとも「(悪い意味で）ヤバイ」のでしょうか。

海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。Covid-19の経済への影響は？ ウクライナ戦争を受けた分断の下の諸政策の影響は？ そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。

皆さんは経営学部に所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには"the answer(s)"があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中枢の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかると思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目先の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

今年度はオンデマンドと対面の組み合わせで授業を行います。正式な日程や告知はHoppii上に掲載するオンラインシラバスを参照してください。オンデマンドは、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。対面はアクティブラーニングを中心に行います。

授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

例年、授業内で数回講演してもらっています（過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、実務家、学者など)。皆さんの意見も踏まえ、ご講演頂く予定です。

なお、対面とオンラインの日程については、学期の最初に最終確定したものをお示しします。また、授業の教材や資料、各種情報はHoppiiの科目のページに掲載するウェブシラバスに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業説明	授業計画の紹介
	マクロ的視点からの経済の捉え方1	1－3章について講義します。
第2回	マクロ的視点からの経済の捉え方2	1－3章の続きを講義します。
第3回	マクロ的視点からの経済の捉え方GS	マクロ的視点からの経済の捉え方に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第4回	日本の企業とその特徴1	4章について講義します。
第5回	日本の企業とその特徴2	4章の続きを講義します。
第6回	日本の企業とその特徴GS	日本の企業とその特徴に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第7回	日本の労働とその特徴1	5章について講義します。
第8回	日本の労働とその特徴2	5章の続きを講義します。
第9回	日本の労働とその特徴GS	労働に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第10回	わが国の財政の特徴1	7章について講義します。
第11回	わが国の財政の特徴2	7章の続きを講義します。
第12回	わが国の財政の特徴GS	財政に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第13回	講演	ゲストスピーカーをお呼びする予定です。
第14回	春学期の復習	春学期の学習内容を振り返ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書)】

浅子・飯塚・篠塚『新　入門・日本経済』(有斐閣、2024)を必ず購入してください。内容や筆者がかなり異なりますので、必ず最新版を購入してください。

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載)。

【成績評価の方法と基準】

Ａ３所定用紙１枚のみ持ち込み可の期末試験（とＧＳ）によって評価を行います。なお、＋αとして授業内での発言や等について加点をする場合があります。ただし、あくまで追加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。詳細は以下の１の通りです。

１．成績の評価はａまたはｂの方法で行います（期末試験時に学生が選択)。詳細は授業にて説明します。

ａ．Ｓ～Ｄの評価

期末試験１００％＋αで成績評価を行います。

ｂ．Ｃ～Ｄの評価

問題数を絞った期末試験

２．例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしません。

３．単位取得率は例年95％程度であり、落第者の大半は殆ど授業に出席しておらず、とてつもなく低い点数をとる（ほぼ間違いなく勉強していない）学生です。なお、持ち込み可であるからといって、スライドの記述をすればそのまま点数を取れるような問題ではないので、授業から学び、復習等をすることがきちんと成績を取るために必要です。

【学生の意見等からの気づき】
　成績評価の方式を複数用意し、多くの学生のニーズに応えられるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】
　オンラインでのスタンダードな授業環境を用意してくれれば大丈夫です。

【その他の重要事項】
　担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金や世界銀行におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【関連科目】
　Ⅰ、Ⅱを連続履修することを薦めます。経済の理論科目の事前履修が望ましいですが、必須ではありません。

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.
At the time of the final exam, you can choose one of the following options.
(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).
(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN500F1 – 0140（経済学 / Economics 500）

日本経済特論 II

平田　英明

備考（履修条件等）：学部主催「日本経済論 II」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま10歳の日本人ならば……この国を去ることを選ぶ」「いま10歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言しています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界10大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「(良い意味で) ヤバイ」のでしょうか、それとも「(悪い意味で) ヤバイ」のでしょうか。

海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。Covid-19の経済への影響は？ ウクライナ戦争を受けた分断の下の諸政策の影響は？ そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。

皆さんは経営学部に所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには"the answer(s)"があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中枢の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかると思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目先の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

今年度はオンデマンドと対面の組み合わせで授業を行います。正式な日程や告知はHoppii上に掲載するオンラインシラバスを参照してください。オンデマンドは、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。対面はアクティブラーニングを中心に行います。

授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

例年、授業内で数回講演してもらっています（過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、実務家、学者など）。皆さんの意見も踏まえ、今年度は財務省の役人と医療スタートアップを手がける医師にご講演頂く予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業説明 日本の社会保障とその特徴1	授業計画の紹介 6章について講義します。
第2回	日本の社会保障とその特徴2	6章の続きを講義します。
第3回	日本の社会保障とその特徴GS	日本の社会保障に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第4回	データ経済1	経済を理解する上でのデータの重要性について解説します。
第5回	データ経済2	データの経済分析における使われ方を紹介します。
第6回	日本の金融とその特徴1	8章について講義します。
第7回	データ経済GS	データ経済に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第8回	日本の金融とその特徴2	8章の続きを講義します。
第9回	日本の金融とその特徴GS	日本の金融に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第10回	国際貿易と国際金融の特徴1	9章とそれに関する国際金融の基本について講義します。
第11回	国際貿易と国際金融の特徴2	9章の続きとそれに関する国際金融の基本を講義します。
第12回	国際貿易と国際金融の特徴GS	国際貿易と国際金融に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。または、ゲストスピーカーをお呼びします。
第13回	景気の国際的連動	景気変動が世界的に波及するメカニズムとその背景にあるグローバル化の動向を考えます。
第14回	秋学期の復習	秋学期の学習内容を振り返ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅子・飯塚・篠塚『新　入門・日本経済』(有斐閣、2024)を必ず購入して
ください。内容や筆者がかなり異なりますので、必ず最新版を購入してくだ
さい。

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

Ａ３所定用紙1枚のみ持ち込み可の期末試験（とＧＳ）によって評価を行います。なお、＋αとして授業内での発言や等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。詳細は以下の１の通りです。

１．成績の評価はａまたはｂの方法で行います（期末試験時に学生が選択）。詳細は授業にて説明します。

ａ．Ｓ～Ｄの評価
　　期末試験１００％＋αで成績評価を行います。

ｂ．Ｃ～Ｄの評価
　　問題数を絞った期末試験

２．例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしません。

３．単位取得率は例年95％程度であり、落第者の大半は殆ど授業に出席しておらず、とてつもなく低い点数をとる（ほぼ間違いなく勉強していない）学生です。なお、持ち込み可であるからといって、スライドの記述をすればそのまま点数を取れるような問題ではないので、授業から学び、復習等をすることがきちんと成績を取るために必要です。

【学生の意見等からの気づき】
　成績評価の方式を複数用意し、多くの学生のニーズに応えられるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】
　オンラインでのスタンダードな授業環境を用意してくれれば大丈夫です。

【その他の重要事項】
　担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金や世界銀行におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【関連科目】
　Ⅰ、Ⅱを連続履修することを薦めます。経済の理論科目の事前履修が望ましいですが、必須ではありません。

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan’s macroeconomic problems.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.
At the time of the final exam, you can choose one of the following options.
(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).
(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN500F1 – 0173（経済学 / Economics 500）

統計学 I

牧草　夏実

備考（履修条件等）：学部主催「経営のための統計学 I 」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、経営・経済学のデータ分析に必要な統計学の発展的内容について学ぶ。基礎統計学の復習から始め、統計解析ソフトRを用いたデータ処理・可視化・推測統計・回帰分析・多変量解析までを扱い、実データ（経営・経済分野）を使用し、実務や研究に応用可能な分析スキルを習得する。

【到達目標】
・ 回帰分析や分散分析を経営事例に適用でき、統計的に正しく解釈・提案できる。
・ 統計モデルについて、数学的問題による解法を認識し、Rのパッケージを用いずに計算できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
統計学の理論や経営学・経済学分野での応用事例を講義形式で解説し、Rを用いた実習を行う。実習では、適宜時間をとりながら各自のノートPCで操作を行ってもらう。机間巡視を行い、困っている学生には個別にサポートを行うことで、全員が使いこなせるように支援する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・Rの基本操作	授業の進め方と評価方法を説明する。RとRStudioの導入方法および基本的な操作方法を習得する。
第2回	データの読み込みと整形	CSV・ExcelデータをRに読み込み、データフレーム操作や変数の型、欠損値処理方法を学ぶ。
第3回	データの可視化（基礎）	棒グラフ、ヒストグラム、箱ひげ図、散布図を作成し、経営データの傾向を読み取る方法を習得する。
第4回	記述統計	平均、中央値、分散、標準偏差、相関係数などの指標を計算し、データを要約する方法を学ぶ。
第5回	確率の基礎	確率の定義、加法法則・乗法法則、条件付き確率を理解し、経営上のリスク分析に応用する。
第6回	確率分布	二項分布、正規分布、t分布などを理解し、Rで分布の描画や確率計算を行う。
第7回	標本分布と推定	標本平均の分布、点推定・区間推定の考え方を学ぶ。実データでサンプル抽出と推定値の計算演習を行う。
第8回	仮説検定1	母平均・母比率の仮説検定を学ぶ。Rでt検定・比率検定を実行し、結果の解釈を行う。
第9回	仮説検定2	2つの母集団の母平均・母比率の差の検定（等分散・不等分散）を学ぶ。Rでの実践演習と結果解釈を学ぶ。
第10回	単回帰分析	単回帰モデルの概念、最小二乗法による係数推定。Rで売上・広告費データを分析し、係数の解釈・決定係数について学ぶ。
第11回	重回帰分析	複数説明変数による売上予測モデルを構築し、多重共線性や変数選択の方法を学ぶ。Rで演習し、モデル改善方法を学ぶ。
第12回	一般化線形モデル（GLM）	ロジスティック回帰（購入/非購入などの二値データ）およびポアソン回帰（来店客数など件数データ）の概念、モデル構築、係数の解釈、Rでの実装を学ぶ。
第13回	モデル診断・応用演習	回帰診断（残差分析、外れ値検出）とモデル改善方法について学ぶ。公開経営データを用いた探索的分析からモデル作成までの演習を行う。
第14回	まとめ・発表	第13回の演習についての分析結果発表やディスカッションを行う。本授業全体の復習とまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料や指定のRスクリプトを確認し、基礎知識の予習・復習を行う。実習課題や演習問題を通して、Rでの操作を定着させること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
本授業では特定の教科書は指定せず、授業資料を配布して使用する。

【参考書】
本橋永至著『Rで学ぶ統計データ分析』オーム社
林 賢一著, 下平 英寿編『Rで学ぶ統計的データ解析』講談社

【成績評価の方法と基準】
課題： 50%
期末レポート： 50%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
Rを利用できるノートパソコン（OSは問わない）

【その他の重要事項】
授業の初回でRのインストールを行うため、ノートパソコンが学内のインターネットを利用できるように設定しておくこと。

【関連科目】
統計学入門
基礎統計学I/II
経営のための統計学II

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
数理統計学
＜研究テーマ＞
非線形かつ多変量なデータの解析
＜主要研究業績＞
N. Makigusa, Two-sample test based on maximum variance discrepancy. Communications in Statistics - Theory and Methods. pp.5421-5438. 2023.
N. Makigusa and K. Naito, Asymptotics and practical aspects of testing normality with kernel methods. Journal of Multivariate Analysis, 180, 104665. 2020.
N. Makigusa and K. Naito, Asymptotic normality of a consistent estimator of maximum mean discrepancy in Hilbert space. Statistics &Probability Letters, 156, 108596. 2020.

【Outline (in English)】
This class will cover advanced statistical content necessary for data analysis in business and economics. Starting with a review of basic statistics, students will then use the statistical analysis software R to process data, create visualizations, and perform inferential statistics, regression analysis, and multivariate analysis. Using real data (from business and economics), students will acquire analytical skills applicable to practice and research.
Learning Objectives:
・Be able to apply regression analysis and analysis of variance (ANOVA) to business cases, and interpret and make recommendations correctly from a statistical perspective.
・Understand the solutions to statistical models from a mathematical standpoint and be able to perform calculations without relying on R packages.
Learning activities outside of classroom:
Prepare for and review basic knowledge by reviewing the distributed materials and designated R scripts. Students will master the operation of R through practical assignments and exercises. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
Grading:
- Assignments 50%
- Final Report 50%

ECN500F1 – 0174（経済学 / Economics 500）

統計学 II

牧草　夏実

備考（履修条件等）：学部主催「経営のための統計学 II」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経営・経済データ分析の応用力を養うため、回帰分析の発展的手法（リッジ回帰・ラッソ回帰・エラスティックネット回帰）やモデル評価、過学習の考え方、非線形手法までを学ぶ。Rを用いた実データ分析を通じて、複雑な経営データへの統計的アプローチを理解し、実務・研究で応用可能な分析力を習得することを目的とする。

【到達目標】
・ 線形回帰の発展的手法（リッジ・ラッソ・エラスティックネット回帰）を理解し、Rで適用できる。
・ モデル評価や過学習の概念を理解し、適切な分析手法を選択できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
統計学の理論や経営学・経済学分野での応用事例を講義形式で解説し、Rを用いた実習を行う。実習では、適宜時間をとりながら各自のノートパソコンで操作を行ってもらう。机間巡視を行い、困っている学生には個別にサポートを行うことで、全員が使いこなせるように支援する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と評価方法を説明する。RとRStudioの導入方法および基本的な操作方法を復習する。
第2回	Rの使い方	データフレーム操作、関数の使い方、データ可視化の復習。実務データを使った簡単な分析演習。
第3回	回帰の復習	単回帰・重回帰の復習。最小二乗法、回帰係数の解釈、決定係数、残差分析をRでの演習を通して復習する。
第4回	リッジ回帰1	リッジ回帰の理論（正則化の考え方）、正則化パラメータの意味について学ぶ。
第5回	リッジ回帰2	正則化パラメータの選択（クロスバリデーション）、モデルの解釈、予測精度の確認。
第6回	ラッソ回帰1	ラッソ回帰の理論（変数選択機能）、正則化パラメータの影響について学ぶ。
第7回	ラッソ回帰2	クロスバリデーションによる正則化パラメータの選択、重要変数の抽出と解釈について学ぶ。
第8回	エラスティックネット回帰1	リッジ回帰とラッソ回帰を組み合わせたエラスティックネット回帰の理論、2種のパラメータの意味について学ぶ。
第9回	エラスティックネット回帰2	実務データでモデル構築演習、パラメータ調整による変数選択と精度向上について学ぶ。
第10回	モデル評価の基本	予測精度評価（MSE、RMSE、R^2 ）、交差検証、学習・テストデータ分割について学ぶ。
第11回	過学習の考え方	過学習とバイアス・分散トレードオフ、正則化手法の必要性を理解する。
第12回	非線形手法	多項式回帰、スプライン、決定木など非線形モデルの紹介。
第13回	実データ分析	公開経営データを用いて、回帰・正則化・モデル評価を一通り実施し、結果の解釈を行う。
第14回	まとめ・発表	第13回の分析結果を簡単に発表・ディスカッションを行い、授業全体の復習とまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料や指定のRスクリプトを確認し、基礎知識の予習・復習を行う。実習課題や演習問題を通して、Rでの操作を定着させること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
本授業では特定の教科書は指定せず、授業資料を配布して使用する。

【参考書】
本橋永至著『Rで学ぶ統計データ分析』オーム社
林 賢一著, 下平 英寿編『Rで学ぶ統計的データ解析』講談社

【成績評価の方法と基準】
課題： 50%
期末レポート： 50%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
Rを利用できるノートパソコン（OSは問わない）

【その他の重要事項】
授業の初回でRのインストールを行うため、ノートパソコンが学内のインターネットを利用できるように設定しておくこと。基礎統計学I/IIおよび経営のための統計学Iの知識を前提とする。

【関連科目】
統計学入門
基礎統計学I/II
経営のための統計学I

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
数理統計学
＜研究テーマ＞
非線形かつ多変量なデータの解析
＜主要研究業績＞
N. Makigusa, Two-sample test based on maximum variance discrepancy. Communications in Statistics - Theory and Methods. pp.5421-5438. 2023.
N. Makigusa and K. Naito, Asymptotics and practical aspects of testing normality with kernel methods. Journal of Multivariate Analysis, 180, 104665. 2020.
N. Makigusa and K. Naito, Asymptotic normality of a consistent estimator of maximum mean discrepancy in Hilbert space. Statistics &Probability Letters, 156, 108596. 2020.

【Outline (in English)】
In this course, students will develop practical skills for business and economic data analysis by learning advanced regression techniques, including Ridge Regression, Lasso Regression, and Elastic Net Regression, as well as model evaluation, the concept of overfitting, and nonlinear methods. Through hands-on data analysis using R, students will gain an understanding of statistical approaches to complex business data and acquire analytical skills applicable to both professional practice and research.
Learning Objectives:

・Understand advanced linear regression techniques (Ridge, Lasso, and Elastic Net regression) and be able to apply them using R.
・Understand the concepts of model evaluation and overfitting, and be able to select appropriate analytical methods.
Learning activities outside of the classroom:
Review the distributed materials and designated R scripts in preparation for class. Students are expected to spend approximately 2 hours each on preparation and review. They will also master the operation of R through practical assignments and exercises.
Grading:
- Assignments: 50%
- Final Report: 50%

MAN500F1 – 0141（経営学 / Management 500）

リサーチ・メソッド

田路　則子

備考（履修条件等）：隔年開講。夜間「定性的方法論」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学術論文を定性調査によって書くための方法論を体系的に学ぶ。ケーススタディ（事例分析）、エスノグラフィ（参与観察等）、歴史アプローチにおける、フィールドワーク、データ分析、理論構築、記述までのプロセスを学習する。さらに、秀でた研究を読むことにより、理解を深める。

【到達目標】
修士または博士論文作成を見据えた、定性的方法論を修得する。方法論はマーケティング領域以外にも共通であり、戦略論や組織論の論文作成を予定している学生の履修も歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
理論書を読んで理解した上で、サンプル論文を読み、理論構築の実際を確認していく。教員が用意したサンプル論文にこだわらず、読みたい論文を学生が持ち込み、皆で読んで評価するという参加型の講義にしたい。
第一週の講義はオンラインZOOMで実施をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	イントロダクション	問題ある修士論文の例/理論書「実証研究の方法」藤本隆宏
2回	実証研究における理論構築	理論書「実証研究の方法」藤本隆宏/「クチコミ」田路の修士論文
3回	ケース・スタディ	理論書「ケーススタディの方法」R・Kイン 序- 4章/
4回	ケース・スタディ	理論書「ケーススタディの方法」R・Kイン 5-6章
5回	ケース・スタディ	「イノベーションの資源動員と技術進化」松本陽一
6回	ケース・スタディ	理論書「ケース・スタディのアプローチ」横澤
7回	ケース・スタディ	「小売国際化プロセス」矢作敏行 3,5章
8回	歴史的アプローチ	「組織は戦略に従う」A・D・チャンドラーJr. 序-2章
9回	歴史的アプローチ	「組織は戦略に従う」A・D・チャンドラーJr. 3,6,7章
10回	質的データ分析ーコーディングの手法	理論書「質的データ分析法」佐藤郁哉 1-8章/「看護師の倫理的ジレンマ」のコーディングのサンプル
11回	質的データ分析ーインタビューの方法	インタビューのロール・プレィ
12回	エスノグラフィ	「暴走族のエスノグラフィー」佐藤郁哉　1,終章
13回	エスノグラフィ	「洗脳するマネジメント」ギデオンクンダ 3、解説章
14回	エスノグラフィ	「京都花街の経営学」西尾久美子 書籍&ビデオ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、リーディングに対して、簡単なメモを作成してくる。およそ4時間程度の準備が必要となる。

【テキスト（教科書）】
「ケーススタディの方法」　R・Kイン　千倉書房
「質的データ分析法」　佐藤郁哉　新曜社

【参考書】
「組織と経営について知るための実践フィールドワーク入門」佐藤郁哉　有斐閣
「組織行動の調査方法」　E・Fストーン　白桃書房
「創造的論文の書き方　」伊丹敬之　有斐閣
「リサーチマインド経営学研究法」　藤本隆宏他、有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】
課題に対するメモ提出と授業への貢献
課題提出６０%、議論４０%

【学生の意見等からの気づき】
自身の研究計画の経過を紹介し、受講生間で意見交換することは有意義であった。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営戦略、技術経営、アントレプレヌールシップ
＜研究テーマ＞
「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」
「ハイテク・スタートアップの成長」
「ハイテク産業集積のエコシステム」

【主要業績】
①「スピンオフ・ネットワーク形成と発展のメカニズム －事業停止が生んだスピンオフにおける刷り込みの分析―」田路則子・福嶋路・五十嵐伸吾『イノベーションマネジメント』法政大学,22巻,pp.175-205,2025年.②「スウェーデンの起業家大学から生まれるハイテク・スタートアップ」田路則子・五十嵐伸吾『マーケティングジャーナル』43号4巻, pp.31-42,2024年.③「大学生の起業意思形成モデルの検証」田路則子・藤村まこと・玉井由樹『組織科学』56巻3号, 2023年.④「新興国スタートアップの資金調達と新興企業向けの株式市場の役割-バルト三国のケース・スタディから」簗田優・田路則子 『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第37巻, pp.73-77,2021.⑤『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年.⑥「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号,pp172-184,2017年. ⑦Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies," Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14,pp.263-287,2014. ⑧『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子,東洋経済新報社,2010年. ⑨「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学,第8巻,5号,pp211-231,2009年. ⑩『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子,白桃書房,2005年

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】: Students learn several methodologies of qualitative research; case study, historical approach and ethnography.They can realize the process of field work, data analysis, theory construction and writing. In order to deepen understanding methodologies, they must read outstanding papers and books.
【Learning activities outside of classroom】: Students have to submit small reports every week.
【Grading Criteria /Policy】: small reports(60%) and class contribution(40%)

MAN500F1 – 0178（経営学 / Management 500）

物流管理とサプライチェーンマネジメント特論I

李　瑞雪

備考（履修条件等）：隔年開講、夜間「物流管理とサプライチェーンマネジメント論I」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、物流管理とサプライチェーンマネジメント（SCM）に関する概論的レクチャーです。物流とサプライチェーンの概念や理論、およびオペレーションズに関する基礎知識と分析能力を養うことを目的とします。具体的には、両者の基本概念を習得したうえで、国際物流を含む企業のロジスティクスとサプライチェーンが、実務でどのように運用されているかを検討します。

【到達目標】
企業経営におけるロジスティクス・マネジメント、ロジスティクス・オペレーションズ、サプライチェーン・マネジメント、国際物流に関する全般的な知見の習得を目標とします。また、ケースメソッドや現場観察などを通して、ロジスティクス実務に関わる分析能力と立案能力につながる知的基盤の形成を狙います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に講義方式で行いますが、受講者によるプレゼンとディスカッションの際にはケースメソッドを採用します。事前にレジュメやケースなど講義資料を配布し受講生の予習を求めます。また、毎回、教材・参考書のリーディング部分を指定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	（1）ビジネス・ロジスティクスの定義、概念の起源と変遷 （2）企業におけるロジスティクスの役割　（3）主なロジスティクス活動　（4）ロジスティクス活動のトレードオフと統合、トータルコストの概念 （5）ロジスティクスと企業収益の関係　（6）経済におけるロジスティクスの重要性
2	サプライチェーンマネジメント（1）	サプライチェーンマネジメントの定義およびロジスティクスとの相違, 延期戦略と投機戦略 , サプライチェーンマネジメントとスピードの経済，サプライチェーンの応答性，ERP(効率的な顧客対応)とQR(迅速な顧客反応)の概念，ブルウィップ効果, サプライチェーン・ネットワーク構造,
3	サプライチェーンマネジメント（2）	サプライチェーン・ビジネス・プロセス, サプライチェーンマネジメントの経営要素, サプライチェーンと競争的パフォーマンス
4	ロジスティクス/サプライチェーンマネジメントの戦略とプランニング（1）	全社戦略とロジスティクス/サプライチェーンマネジメント戦略, プロセス・ベースの戦略指向, マーケット・ベースの戦略指向, チャネル・ベースの戦略指向のロジスティクス戦略, 機能的ロジスティクス戦略と外部指向のロジスティクス戦略
5	ロジスティクス/サプライチェーンマネジメントの戦略とプランニング（2）	プランニングの次元, 主要なプランニング領域, ロジスティクス/サプライチェーンの計画問題の概念化, 戦略策定のためのガイドライン
6	顧客サービス（1）	顧客サービスの定義, 顧客サービスの諸要素など
7	顧客サービス（2）	顧客サービス戦略の策定方法: トレードオフ分析とＡＢＣ分析、顧客サービス監査, グローバル顧客サービスの問題
8	フィールドワーク	物流現場に対するフィールドワークの実施
9	ケーススタディ	フィールドワークの発見と関連文献の知見を踏まえてディスカッションを行います。
10	ロジスティクス・オペレーションⅠ：在庫管理（1）	在庫の機能範囲, 在庫の定義と種類, 在庫保持コスト, 在庫計画, 注文管理など
11	ロジスティクス・オペレーションⅠ：在庫管理（2）	ABC分析と在庫管理, ベンダー主導の在庫管理（VMI），連続自動在庫補充（CRP），共同計画・予測・在庫補充（CPFR）など
12	ロジスティクス・オペレーションⅡ：輸送インフラと輸送業務 （1）	リンク・ノード・モード・キャリア, 各種輸送モード, モーダルシフト, 輸送産業に関する法規制など
13	ロジスティクス・オペレーションⅡ：輸送インフラと輸送業務 （2）	輸送サービス, 混載, 複合輸送, 運賃構造, 船荷証券, ロジスティクス業務統合, 宅配便と急送サービス, サードパーティロジスティクス, 輸送管理システム, 国際輸送など
14	総括ディスカッション、質疑、中間テスト	総括ディスカッション、質疑、中間テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布したプリントの予習、復習を行います。ケーススタディの発表とディスカッション問題のために、事前に報告資料を準備します。指定リーディング内容を読んでおきます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『業界別　物流管理とSCMの実践』ミネルヴァ書房（2022年）

【参考書】
Global Logistics and Supply Chain Management, 4th Edition, John Mangan, Chandra Lalwani, Agustina Calatayud, Wiley, 2021
The Handbook of Logistics and Distribution Management: Understanding the Supply Chain, 7th Edition, Alan Rushton, Phil Croucher, Peter Baker, Kogan Page, 2022
Logistics Management and Strategy: Competing through the Supply Chain, 6th Edition, Alan Harrison, Pearson, 2019
E-Logistics: Managing Digital Supply Chains for Competitive Advantage, 2nd Edition, Yingli Wang, Stephen Pettit, Kogan Page, 2021.
Supply Chain Logistics Management,5th Edition, Donald Bowersox, David Closs, M. Bixby Cooper, McGraw Hill, 2019.

【成績評価の方法と基準】
基本的に講義方式で行うが、受講生によるプレゼンとディスカッションの際にはケースメソッドを採用します。毎回、教材・参考書のリーディング部分を指定し、予習・復習を求めます。プレゼンテーション(20%)、ディスカッション(20%)、期末テスト(60%)を総合して成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
スライドの切り替えが速いとか、リーディング資料が多すぎるとかいった意見がありました。受講生の理解度を確認しながら、適宜スピードを調整していきます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ロジスティクスマネジメント論、経営戦略論、国際経営論
＜研究テーマ＞自動車ノックダウン（KD）部品の荷姿最適化、スマート物流機器企業の国際化、ロジスティクス・クラスターの形成メカニズムなど
＜主要研究業績＞
①『業界別物流管理とSCMの実践』ミネルヴァ書房、2022年.
②『中国物流産業論―高度化の軌跡とメカニズム―』白桃書房、2014年.
③『中国製造業の基盤形成：金型産業の発展メカニズム』白桃書房、2015年.

【Outline (in English)】
(1)Course outline: This course deals with logistics management and supply chain management. (2)Learning Objectives: The main aim is to help students acquire basic knowledge and analytical ability regarding the theories and frameworks of logistics/supply chain management and operations. At the end of the course, students are expected to have basic abilities to plan and analyze logistics/supply chain strategies, organizations, and operating systems based on knowledge acquired from this course. (3)Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and handout uploaded on the HOPPII system. During each class meeting, students will be welcomed to contribute to the discussion and Q&A. (4)Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 60%, Presentation: 20%, Contribution in class: 20%.

MAN500F1 – 0179（経営学 / Management 500）

物流管理とサプライチェーンマネジメント特論II

李　瑞雪

備考（履修条件等）：隔年開講、夜間「物流管理とサプライチェーンマネジメント論II」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、物流管理とサプライチェーンマネジメント（SCM）に関する概論的レクチャーです。物流とサプライチェーンの概念や理論、およびオペレーションズに関する基礎知識と分析能力を養うことを目的とします。具体的には、両者の基本概念を習得したうえで、国際物流を含む企業のロジスティクスとサプライチェーンが、実務でどのように運用されているかを検討します。

【到達目標】
企業経営におけるロジスティクス・マネジメント、ロジスティクス・オペレーションズ、サプライチェーン・マネジメント、国際物流に関する全般的な知見の習得を目標とします。また、ケースメソッドや現場観察などを通して、ロジスティクス実務に関わる分析能力と立案能力につながる知的基盤の形成を狙います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に講義方式で行いますが、受講生によるプレゼンとディスカッションの際にはケースメソッドを採用します。事前にレジュメやケースなど講義資料を配布し受講生の予習を求めます。また、毎回、教材・参考書のリーディング部分を指定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロジスティクス・オペレーションIII：保管（1）	保管施設の種類, 保管機能と保管業務, 自社倉庫と営業倉庫, ダブル・トランザクション・システムなど
2	ロジスティクス・オペレーションIII：保管（2）	倉庫管理システム, クロスドッキングとミルクラン, 倉庫の統廃合, バイヤーズ・コンソリデーショ, 保管サービスと物流金融(ABL)）など
3	ロジスティクス・オペレーションIV：包装と荷役（1）	包装の機能,包装材料の選択, ユニットロードシステム（パレッチゼーション、コンテナリゼーションなど），フィジカルインターネットなど
4	ロジスティクス・オペレーションIV：包装と荷役（2）	荷役活動,荷役機器,スマート物流機器，デザイン・フォ・ロジスティクスなど
5	フィールドワーク	物流現場に対するフィールドワークを実施
6	ケーススタディ	フィールドワークの発見および関連文献の知見を踏まえて、受講者のプレゼンとディスカッションを行います。
7	製造戦略（1）	生産戦略の類型, マスカスタマイゼーション, 生産工程の基本タイプ, 製品・工程マトリックス, 生産性ジレンマなど
8	調達戦略（2）	4つの調達方式，TCOの最小化, 調達戦略のマトリックスなど
9	ロジスティクス組織（1）	効果的なロジスティクス組織の重要性, ロジスティクス組織構造の多様性など
10	ロジスティクス組織（2）	ロジスティクス組織の有効性に影響する要素, ロジスティクス人材の育成問題など
11	グローバル・ロジスティクスとグローバル・サプライチェーン（1）	海外市場進出の戦略形態, グローバル市場における制御不可能な要素, 輸出活動に関わる事業者, 貿易条件およびインコタームズ（INCOTERMS）など
12	グローバル・ロジスティクスとグローバル・サプライチェーン（2）	主要国の国際物流パフォーマンス指標(LPI), グローバル企業のロジスティクス・マネジメント, 世界主要地域のロジスティクス特）, 主要新興国の物流環境など
13	グローバル・ロジスティクスとグローバル・サプライチェーン（3）	国際輸送モード選択の戦略, 新興国市場におけるロジスティクス要素技術の導入戦略, 基礎的キャパシティの確保と独自の高度な能力構築のジレンマ, 機能的なロジスティクス戦略と外部指向型のロジスティクス戦略の組み合わせ
14	総括ディスカッション、質疑、期末テスト	総括ディスカッション、質疑、期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布したプリントの予習、復習を行います。ケーススタディの発表とディスカッション問題のために、事前に報告資料を準備します。指定リーディング内容を読んでおきます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『業界別　物流管理とSCMの実践』ミネルヴァ書房（2022年）

【参考書】
Global Logistics and Supply Chain Management, 4th Edition, John Mangan, Chandra Lalwani, Agustina Calatayud, Wiley, 2021
The Handbook of Logistics and Distribution Management: Understanding the Supply Chain, 7th Edition, Alan Rushton, Phil Croucher, Peter Baker, Kogan Page, 2022
Logistics Management and Strategy: Competing through the Supply Chain, 6th Edition, Alan Harrison, Pearson, 2019
E-Logistics: Managing Digital Supply Chains for Competitive Advantage, 2nd Edition, Yingli Wang, Stephen Pettit, Kogan Page, 2021.
Supply Chain Logistics Management,5th Edition, Donald Bowersox, David Closs, M. Bixby Cooper, McGraw Hill, 2019.

【成績評価の方法と基準】
基本的に講義方式で行うが、受講生によるプレゼンとディスカッションの際にはケースメソッドを採用します。毎回、教材・参考書のリーディング部分を指定し、予習・復習を求めます。プレゼンテーション(20%)、ディスカッション(20%)、期末テスト(60%)を総合して成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
スライドの切り替えが速いとか、リーディング資料が多すぎるとかいった意見がありました。受講生の理解度を確認しながら、適宜スピードを調整していきます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ロジスティクスマネジメント論、経営戦略論、国際経営論
＜研究テーマ＞自動車ノックダウン（KD）部品の荷姿最適化、スマート物流機器企業の国際化、ロジスティクス・クラスターの形成メカニズムなど

＜主要研究業績＞
①『業界別物流管理とSCMの実践』ミネルヴァ書房、2022年.
②『中国物流産業論―高度化の軌跡とメカニズム―』白桃書房、2014年.
③『中国製造業の基盤形成：金型産業の発展メカニズム』白桃書房、2015年.

【Outline (in English)】
(1)Course outline: This course deals with logistics management and supply chain management. (2)Learning Objectives: The main aim is to help students acquire basic knowledge and analytical ability regarding the theories and frameworks of logistics/supply chain management and operations. At the end of the course, students are expected to have basic abilities to plan and analyze logistics/supply chain strategies, organizations, and operating systems based on knowledge acquired from this course. (3)Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and handout uploaded on the HOPPII system. During each class meeting, students will be welcomed to contribute to the discussion and Q&A. (4)Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 60%, Presentation: 20%, Contribution in class: 20%.

MAN500F1 – 0044 （経営学 / Management 500）

企業家活動

稲垣　京輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国内外で発展してきた起業家やベンチャーに関する経営学、社会学研究の理論的枠組みや事例を参照しながら、事業創造の担い手である起業家の活動の実態について明らかにします。そしてそこから、近年の日本にみられる組織現象に対して、より深い理解力、観察力を養うことを目的とします。

【到達目標】
1)講義の後半部分から新たなテーマについて講義をおこなうことで、起業家活動の分析に関する方法論を学びあい、議論を深めます。
2)すぐれた文献を読むことによって、問題の捉え方と分析視角の設定を中心に、修士論文を執筆する上で必要な知識を習得します。
1) By giving lectures on new themes from the latter half of the lecture, we will learn the methodology of analysis of entrepreneurial activity and deepen the discussion.
2) By reading excellent prior works, we will acquire the knowledge necessary for writing a master's thesis, focusing on how to grasp the problem and set the analytical viewing angle.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義部分においては、次の３つの分析視角に基づいて、企業家活動を分析する視点を養います。最初の3回は、「合理的意思決定プロセスとしての企業家活動」、次の3回は「環境適応プロセスとしての企業家活動」そしてその次の3回は「利害関係の超越としての企業家活動」をテーマとします。
これら３つの主要テーマにおいて、事業創造にかかわるさまざまな経営現象を考察します。
それぞれの回で、課題となる事例を探索し、スライドにまとめて報告していただき、ディスカッションを行います。最後の５回は関連文献を輪読します。各回の課題に対する準備には約２時間を要します。
We consider various management phenomena related to business creation from three main analytical perspectives. In each session, we will explore cases that will be issues, summarize them on slides, and have a discussion.　In the final five sessions, we will read some papers related literature on entrepreneurship and innovation.It takes about two hours to prepare for each task.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス授業	自己紹介 問題関心の設定と導入講義
第2回	合理的意思決定プロセスとしての企業家活動１	事業創造における市場獲得のプロセス
第3回	合理的意思決定プロセスとしての企業家活動２	事業創造における組織内部のマネジメント
第4回	合理的意思決定プロセスとしての企業家活動３	社内ベンチャーと企業家支援プログラム
第5回	環境適応プロセスとしての企業家活動１	企業家活動の正当性と資源動員
第6回	環境適応プロセスとしての企業家活動２	制度的企業家とは何か
第7回	環境適応プロセスとしての企業家活動３	社会的関係の調整と企業家のエフェクチュエーション
第8回	利害関係の超越としての企業家活動１	社会的ネットワークとソーシャルキャピタルの構築
第9回	利害関係の超越としての企業家活動２	企業家の協働と学習
第10回	利害関係の超越としての企業家活動３	場づくりとしての企業家活動＝点から面へ
第11回	テキストの輪読１	方法論と事例分析のスキルを学ぶ
第12回	テキストの輪読２	方法論と事例分析のスキルを学ぶ
第13回	テキストの輪読３	方法論と事例分析のスキルを学ぶ
第14回	まとめ	企業家活動の分析視角を再度レビューする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、グループ毎に課題を提出し、報告してもらいます。
Every week, each group submits and reports on their assignments.

【テキスト（教科書）】
テキストは初回に指示します。

【参考書】
金井壽宏『起業者ネットワーキングの世界』白桃書房。
佐藤郁哉『質的データ分析法』新曜社。
長谷川博和『ベンチャーマネジメント入門』日本経済新聞社。
山岡徹『変革とパラドックスの組織論』中央経済社
W.ベーカー『ソーシャル・キャピタル』ダイヤモンド社。
S.サラスパシー『エフェクチュエーション』中央経済社。
J.R.カッツェンベルグ『インフォーマル組織力』税務経理協会　他

【成績評価の方法と基準】
配分
評価基準
出席点(20点)
報告点(60点)
積極的なコミットメント（プラスα）
出席点は、ただ出席するだけでは評価の対象にならず、議論への積極的な参加によって加点します。報告点は、課題に応じたケースを検索し、分析の深さによって判定します。また、質問点は、論点を定め、議論をどれだけ盛り上げることができるかによって判定します。
Evaluation criteria
Attendance points (20 points)
Report points (60 points)
Positive commitment (plus α)

【学生の意見等からの気づき】
後半の輪読では、受講者の間でもディスカッションができるように、いくつかの論点を提示します。

【学生が準備すべき機器他】
各自、報告の際には、データを入れたメモリーか、あるいはパソコン本体を持参してください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞組織社会学、経営組織論
＜研究テーマ＞企業間協力における能力構築と産業クラスター形成に関する研究
＜主要研究業績＞
稲垣京輔・高橋勅徳（2010）「産業クラスター形成における地理的近接に基づく関係構築プロセス:大阪扇町界隈におけるインキュベーション・マネジャーとクリエイター間の関係性の変化」『組織科学』第44巻,第3号, 21－36 頁。
高橋勅徳・稲垣京輔（2015）「我が国における産業クラスター政策の推進による組織 フィールドの形成:大阪市扇町界隈における扇町クリエイティブ・クラスターの形成」『経営と制度』第13号,25－46頁 .

【Outline (in English)】
This lecture aims to try understanding the entrepreneurial activities which are not only the business creation but also the innovation and institutional change process, referring to the theoretical frameworks and case studies of entrepreneurs and ventures that have developed on the field of business studies and sociology research.

MAN500F1 – 0045（経営学 / Management 500）

企業家史

二階堂　行宣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・この授業は、市場経済の均衡を破壊・創造する力を持つ「革新」の遂行者である企業家に注目することで、経済発展の長期的なダイナミズムを考察することを目的とする。
・J. シュンペーターは『経済発展の理論』(1912年)において、企業家を「創造的破壊」による「新結合」の実現者と定義し、企業家の「革新」行動によって均衡状態が攪乱されることで経済発展のダイナミズムが生じるとした。さらにA. H. コールらは、企業家の非連続的・飛躍的側面だけでなく、連続的・漸進的な側面にも注目し、均衡から不均衡を創り出すこと(創造的破壊)だけでなく、不均衡から均衡に向かう過程(競争)によって経済発展が生み出されると論じた。
・こうした企業家をめぐる理論・仮説は、実際の歴史の中でどのように観察されるのだろうか。この授業では、企業家の革新行動とその定着過程としての企業発展を、具体的な事例に基づきながら、長期の歴史的な文脈の中で考えていきたい。

【到達目標】
・近現代日本の経済・経営発展の歴史について知識を習得し、企業家活動の前提となるそれぞれの時代の経済環境を、明確に把握する。
・その上で、企業家がある時代背景と外部環境の中で、どこにビジネス・チャンスを見出し、それをいかにして掴もうとしたのか、ケース・スタディを用いながら考える。
・以上を通して、長期的な視野にもとづく戦略的行動とは何かを学び、歴史的な思考様式を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・現時点では、以下のような授業運営方法を想定している。
　①学習支援システムから教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
　②学習の到達度を確認するため、定期的に対面またはWeb上でディスカッションを実施する。その際、参加者は自身の論点や疑問点を明確にしたレジュメを用意する。
　③最終評価にあたっては、特定の起業家に関するレポートを提出していただくことを想定している。
・初回授業の際に、参加者の確定と、授業のスケジュールを決定する。履修希望の学生は必ず出席すること。
・どうしても初回授業に出席できない場合は、事前に必ず担当教員に知らせること。
・授業で扱う内容・トピックについては、このシラバスから変更する予定はない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・企業家分析への歴史的視点 ※対面で実施予定
第2回	幕末維新期の経営	・概説：幕末維新期の日本経済
第3回	幕末維新期の経営	・新興商人の登場 ・遠隔地交易の活性化
第4回	明治前期の経営	・概説：明治前期の日本経済
第5回	明治前期の経営	・政商の登場 ・「大店」の明治維新 ・企業家活動の組織化
第6回	産業革命期の経営	・概説：日本の産業革命
第7回	産業革命期の経営	・専門経営者の台頭 ・地方からの産業革命
第8回	第一次世界大戦期の経営	・概説：第一次大戦ブーム
第9回	第一次世界大戦期の経営	・大戦ブームと商社 ・好況時のリスク管理
第10回	両大戦間期の経営	・概説：1920～30年代の日本経済
第11回	両大戦間期の経営	・都市型産業の登場 ・新興コンツェルンの成長
第12回	戦後復興期～高度経済成長期の経営	・概説：戦時統制経済から戦後改革へ ・概説：高度経済成長と大衆消費社会
第13回	戦後復興期～高度経済成長期の経営	・流通革命 ・東海道新幹線
第14回	授業内容の復習	・ケース・スタディをふまえ、近現代日本の企業家活動の特徴について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
・授業内容をふまえたディスカッションでは、積極的に発言することが求められる。

【テキスト（教科書）】
・使用しない。

【参考書】
①経営史学会編（2004）『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）
②三和良一・原朗編（2010）『近現代日本経済史要覧　補訂版』（東京大学出版会）
③宇田川勝・生島淳編（2011）『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣）
④三和良一（2012）『概説日本経済史　近現代（第3版）』（東京大学出版会）
⑤粕谷誠（2012）『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会）
⑥宮本又郎（2013）『企業家たちの挑戦』（中央公論新社）
⑦沢井実・谷本雅之（2016）『日本経済史』（有斐閣）
⑧武田晴人（2019）『日本経済史』（有斐閣）
⑨宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎（2023）『日本経営史［第3版］』（有斐閣）
⑩谷本雅之（2024）『日本経済の比較史』（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】
・現時点では、①定期的に実施されるディスカッションでの発言・資料内容(40％)、②最終レポートの内容（60％）、の2点で評価することを想定している。
・成績評価の際は、企業家に関する知識の習得よりも、企業家活動を長期的・俯瞰的視野から体系化し、歴史的に位置づける能力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】
・単なる「企業家列伝」のような授業は行わないことを心がけたい。
・むしろ、近現代の政治史・経済史の流れをふまえ、各時代の企業家をその流れの中に位置づけることで、経済・経営発展のダイナミズムを理解することに重点を置く。

【学生が準備すべき機器他】
・なし

【その他の重要事項】
・定期的なディスカッションは、教室での対面形式で実施する予定である。ただし、感染状況や受講者の希望によっては、Web上でのディスカッションに切り替える可能性がある。
・初回授業では、授業の概要説明、参加者の確定、授業スケジュールの決定を予定している。履修希望の学生は必ず出席すること。
・どうしても初回授業に出席できない場合は、事前に必ず担当教員に知らせること。
・ゼミ形式という授業の性格上、参加者数は最大でも8名程度を想定している。そのため、履修登録に際しては、企業家養成コースの学生を優先する場合がある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
・日本経営史

・日本経済史
＜研究テーマ＞
・鉄道事業経営と運輸政策に関する歴史研究
・オーラル・ヒストリー
＜主要研究業績＞
・二階堂行宣・中村英夫編著（2025）『交通市場の変容と国鉄の経営危機―鉄道百五十年史　第四巻―』公益財団法人交通協力会。
・二階堂行宣（2020）「三陸鉄道をめぐる危機と希望―地域公共交通経営の普遍性・特殊性―」『地域の危機・釜石の対応』東京大学出版会。
・二階堂行宣（2020）「日本国有鉄道と東海道新幹線―計画期における組織内業務運営とマネジメント―」『経営志林』第56巻第4号。
・二階堂行宣（2017）「陸運業の展開」『日本経済の歴史4（近代2）』岩波書店。
・二階堂行宣（2015）「戦間期鉄道貨物輸送システムの形成」『経営史学』49巻4号。
・二階堂行宣（2014）「鉄道貨物輸送における設備・営業業務の形成」『鉄道史学』32号。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
・The purpose of this course is to look at the long-term dynamism of economic development by paying attention to entrepreneurs who are the performers of "innovation" with the power to destroy and create the equilibrium of market economy.
・In this lesson, I would like to consider the innovative behavior of entrepreneurs and the development of enterprises as a process of consolidation based on concrete examples in a long-term historical context.
【Learning Objectives】
・Acquire knowledge about the history of modern Japanese economy and business development, and clearly grasp the economic environment of each era, which is the premise of entrepreneurial activities.
・On top of that, use case studies to think about where entrepreneurs have found business opportunities and how they tried to seize them in the background of the times and the external environment.
・Through the above, learn what strategic behavior is based on a long-term perspective and acquire a historical way of thinking.
【Learning activities outside of classroom】
・The standard preparatory study / review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Evaluation will be made based on two points:
(1)Remarks and material content in regular discussions
(2)Final report content.
・When evaluating grades, prioritize the ability to systematize entrepreneurial activities from a long-term, bird’s-eye view and position them historically, rather than acquiring knowledge about entrepreneurs.

MAN500F1 – 0008（経営学 / Management 500）

経営史

韓　載香

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、経営史学に関する基礎的且つ体系的知識を身につけることを目的とします。多様性を重視する経営史学ですが、企業、組織、企業家、技術、産業、システムなど様々な内容を対象としながら、地域や分野を超えて共通してみられる組織内の編成やその方向性、市場・産業内で影響しあいながら環境自体を変えていく企業活動のダイナミズムを注視します。
具体的には、19世紀から20世紀までにおける欧米及び日本の企業や、それらを取り巻く環境、制度・システムに注目し、組織の在り方の多様性を通じてみえる原理を理解します。加えて、市場の秩序を変えてきた特筆すべき変化を捉え、それが何故起き、どのように展開し、どのような影響を残したかを考えていきます。

【到達目標】
1.多様性(特徴)及び共通性を区別しながら、地域(国)の組織原理を解説することができる。
2.大企業への成長に伴われる組織編成の変化について、要因とともに説明することができる。
3.企業活動について、制度の束としてのシステムとの関連で理解できる具体例を提示することができる。
4.国を超えて影響が広がった企業の在り方やシステムについて、事例を挙げて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
指定テキストに内容に即して進めていきます。教員による簡単なポイントの解説、受講者による論点提示の後、ディスカッションを行って理解を深めていきます。受講者には【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】に説明するような要領で発表をしていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	第一に、「経営史を学ぶとは？ －今における『新しい』を発見する」というトピックで授業の意義について解説します。 第二に、テキスト及び学習方法や、受講者の参加の仕方などその他の概要を説明します。
第2回	第2回～第6回 市場経済の発達とビジネス	資本主義の発祥地であるヨーロッパを対象として、19世紀における市場経済の発展やビジネスを動かした動因について学びます。 工業化と多元的発展(鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004年。以下同様)：近代工業、在来産業、金融―サービスの台頭について学びます。
第3回	市場経済の発達とビジネス	市場経済とビジネスの発展方向：専門化・産業地域・競争について考えます。
第4回	市場経済の発達とビジネス	19世紀の金融・サービス：株式会社の登場と金融の在り方に注目します。
第5回	市場経済の発達とビジネス	19世紀の労働と雇用：近代工業と在来産業の管理にみる働く姿はどのようなものだったでしょうか。
第6回	市場経済の発達とビジネス	大量生産体制のへの途：19世紀アメリカにおける試みから、20世紀を展望します。
第7回	第7回～第13回 大企業の形成(20世紀初頭)	19世紀末から20世紀初頭においてアメリカで台頭した大企業に光を当て、各地の勃興についてみます。製造業における大量生産がいかに組織の在り方を変え、どのような新しい手法のマネジメントが定着したか、その影響はどのようなものであったかについて学びます。 垂直統合とアメリカの現代企業：大量生産と大量販売の時代を切り開いたアメリカの大企業の経営を取り上げます。
第8回	大企業の形成	アメリカ企業と経営階層組織：専門経営者に登場してもらい、マネジメントが要求した変化を吟味します。
第9回	大企業の形成	アメリカにおける経営者企業の成立：多角化戦略における部門間調整とは何でしょうか。
第10回	大企業の形成	ヨーロッパにおける現代企業の登場：大企業の展開において政府はどのように関わったのでしょうか。
第11回	大企業の形成	ヨーロッパ大企業の組織と管理：持株会社とは？ その管理に注目します。
第12回	大企業の形成	日本における大企業の登場：産業革命期における日本のビジネス
第13回	大企業の形成	日本の企業と財閥：両大戦間期、産業構造の変化に対する日本の企業の対応
第14回	受講者の発表①	研究書の批評発表
第15回	第15回～23回　大企業体制のビジネス	各地に出現した大企業体制とは何かを理解しつつ、そのもとで展開したビジネスの在り方を比較しながら、地域別の特徴について考えていきます。 アメリカの大企業体制：大企業・大労組・大きな政府
第16回	大企業体制のビジネス	新産業の誕生と先端技術開発：先端技術産業と政府の役割
第17回	大企業体制のビジネス	戦後ヨーロッパの大企業：揺れる大企業体制
第18回	大企業体制のビジネス	金融センターの興亡：大企業体制下の金融・サービス
第19回	大企業体制のビジネス	中小企業、産業地域、クラフト：大企業体制下において消える存在？
第20回	大企業体制のビジネス	日本の大企業(1)：戦略と発展類型における日本の特殊性
第21回	大企業体制のビジネス	日本の大企業(2)：組織と雇用にみる特徴
第22回	大企業体制のビジネス	日本のビジネス・システム：市場と組織の在り方（いわゆる日本的経営の再検討）

第23回	大企業体制のビジネス	日本の企業間競争と市場：競争的市場と中小企業、産業集積、在来産業
第24回	第24回～第27回 大企業体制後のビジネス	大企業の地位における揺らぎなど、ビジネス界に見られた変容は、今を理解するうえでも興味深いものです。1960年から80年までのアメリカ、欧州、日本での動きは多様ですが、時期を異にしながらも大きな流れとして共通点を導き出すことができます。大企業淘汰の背景と実態とともにその意味についていくつかの見解を理解しましょう。経営者企業の動揺：国際競争力の低下とM&A
第25回	大企業体制後のビジネス	アメリカ企業の復活：半導体とパーソナル・コンピュータ
第26回	大企業体制後のビジネス	金融・サービスの復活：金融・サービスセンターの競争
第27回	受講者の発表②	研究書の批評発表
第28回	アジア経営史	「第12章アジア」（佐々木聡編『グラフィック経営史』新世社、2022年）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストの該当内容を読み、疑問点及び論点をまとめて提出していただきます。
課題：受講者には教員が提示した【参考文献】リストから1冊を選び、内容紹介および批判の発表(1回)をしていただきます。＊この報告のため、受講者の参加人数により、講義計画は調整されます。
本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004年

【参考書】
鈴木良隆『経営史――イギリス産業革命と企業者活動』同文館出版、1982年
S.ポラード（鈴木良隆・春見濤訳）『ヨーロッパの選択』有斐閣、1990年
小野塚知二『クラフト的規制の起源』有斐閣、2001年
D.A.ハウンシェル（和田一夫ほか訳）『アメリカン・システムから大量生産へ』名古屋大学出版会、1998年
A.D.チャンドラー, Jr.（鳥羽欽一郎・小林袈裟治訳）『経営者の時代――アメリカにおける近代企業の時代』上・下、東洋経済新報社、1979年
A.D.チャンドラー, Jr.（三菱経済研究所訳）『経営戦略と組織――米国企業の事業部制成立史』実業之日本社、1967年（『組織は戦略に従う』ダイヤモンド社、2004年）
L.ハンナ（湯沢威・後藤伸訳）『大企業経済の興隆』東洋経済新報社、1987年
大河内暁男・武田晴人編『企業者活動と企業システム』東京大学出版会、1993年
A.D.チャンドラー, Jr.（安部悦生・川辺信雄・工藤章ほか訳）『スケール・アンド・スコープ』有斐閣、1993年
石井寛治『情報・通信の社会史』有斐閣、1994年
武田晴人『財閥の時代』新曜社、1995年
S.ハイマー（宮崎義一編訳）『多国籍企業論』岩波書店、1979年
兵藤釗『日本における労使関係の展開』東京大学出版会、1971年
M.ピオリ＝C.セーブル（山之内靖・永易浩一・石田あつみ訳）『第二の産業分水嶺』筑摩書房、1993年
橋本寿朗『日本企業システムの戦後史』東京大学出版会、1996年
小池和男『仕事の経済学』東洋経済新報社、1991年
米国商務省（室田泰弘訳）『ディジタル・エコノミー2002/2003』東洋経済新報社、2002年
J.C.アベグレン（井尻昭夫訳）『日本の企業社会』晃洋書房、1989年
R.P.ドーア（山之内靖・永易浩一訳）『イギリスの工場・日本の工場』筑摩書房、1987年
J.P.ウォマック＝D.ルース＝D.T.ジョーンズ（沢田博訳）『リーン生産方式が世界の自動車産業をこう変える』経済界、1990年
L.H.リン（遠田雄志訳）『イノベーションの本質：鉄鋼技術導入プロセスの日米比較』東洋経済新報社、1985年

【成績評価の方法と基準】
論点提示、議論への参加度(60％)及び研究書の批評発表(40％)

【学生の意見等からの気づき】
進行方法については、学期中に一度参加者の意見を収集し、改善します。
議論に求められることは何かわからない、という学生の意見を聞きます。議論の目的について丁寧に説明し、新しい発見につながり、力を向上する方法について提案いたします。

【担当教員の専門分野等】
＜日本現代経済史＞
＜在日韓国・朝鮮人企業の産業経済史、産業史＞
＜主要研究業績＞『在日企業の産業経済史』（名古屋大学出版会、2010年）、『パチンコ産業史』（名古屋大学出版会、2018年）

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this course is to acquire basic and systematic knowledge about business history. On one hand the business history emphasizes diversity, but on the other hand it should be understood from the perspective of dynamism by farm's activities that changes sometimes its environment interacting constantly with the market, the structure within the organization and its direction that can be seen in common across regions and fields. I will cover various contents in this course such as companies, organizations, entrepreneurs, technologies, industries, and systems. Specifically, I will focus on Western and Japanese companies from the 19th century to the 20th century, the environment surrounding them, the systems. You will understand the principles that can be seen through the diversity of organizational structures. In addition, I will capture notable transforms that have changed the order of the market and consider why they happened, how they developed, and what impacts they had.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do following:
To explain the organizational principles of a region (country) by distinguishing between diversity (characteristics) and commonality
To explain the changes in organizational structure along with the growth of a company, and factors.
To be able to give an example that can be understood in relation to the system as a bundle of systems regarding corporate activities.
To present an example the ideal way and system of a company whose influence has spread across countries.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook. Students are expected to suggest points at issue to discuss regarding the textbook in class. Students should prepare to do an academic review and give a presentation once in class.
【Grading Criteria /Policy】
The final grade will be calculated according to the following process.
・In-class contribution (discussion etc.) 50 percent
・Presentation regarding bibliography 50 percent

MAN500F1 – 0046（経営学 / Management 500）

経営戦略論

木川　大輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、企業が持続的な競争力を構築・維持していくうえで必要となる、経営戦略に関する地力を習得することを目標とします。学習にあたっては、大きく分けて①経営戦略の作成プロセス（内外の環境分析）、②事業戦略、③全社戦略の3つの視点から学びます。

【到達目標】
経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は対面を基本とします。進行は、授業の前半で教員による講義、または受講生による該当箇所の要約発表を行います。そして、授業後半にて、該当箇所における受講生の自らの経験などに当てはめた事例の発表やディスカッションを行うことで、理論と現象の往還によって理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	全体像の説明	経営戦略の全体像と講義の進め方
第2回	経営戦略の策定プロセス	経営理念、ミッション、事業ドメイン、外部環境・内部環境分析
第3回	外部環境の分析	SCPパラダイム、ファイブフォース、先行者優位性
第4回	内部環境分析	模倣困難な資源、VRIO、コアコンピタンス
第5回	コスト・リーダーシップ戦略	規模の経済、範囲の経済、範囲の経済、コスト優位の模倣困難性
第6回	差別化戦略	差別化の要素、差別化と持続的競争優位正
第7回	共謀	経営環境下における暗黙的共謀
第8回	製品ライフサイクル	製品ライフサイクルとライフサイクル別の戦略セオリー
第9回	プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント	製品ポートフォリオ戦略
第10回	多角化	多角化の動機と多角化の効果、多角化に向けた組織体制
第11回	垂直統合	内製か外注かの意思決定、垂直統合のメリット、デメリット
第12回	戦略的提携	戦略的提携とは、戦略的提携と競争優位性
第13回	合併・買収	合併・買収
第14回	複眼的視点での競争	間接経営戦略、後発者優位の参入戦略

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは用いず、毎回の授業で必要な資料を配布します。

【参考書】
網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社, 2011年
ジェイ・バーニー、ウィリアム・ヘスタリー『[新版]企業戦略論』（上中下）ダイヤモンド社, 2021年
沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社, 2009年
その他、受講生の関心事項などを踏まえて有益な文献等を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
配分：毎回の授業への貢献（40%）、毎回の授業後の簡単なレポート（60%）、出席率が2/3を下回った場合単位は認められません。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は担当していないので、特に無し。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC、タブレットのいずれかの持参を推奨します。

【その他の重要事項】
受講生の関心事項や進行速度などを踏まえてシラバスの内容を若干変更することがあります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
経営戦略論、イノベーション・マネジメント
＜研究テーマ＞
企業のパフォーマンスと社外の組織との関係性に関する研究
＜主要研究業績＞
1.『医薬品研究開発のエコシステム』,中央経済社, 2021年
2.『成熟プラットフォームの持続的成長戦略』, 白桃書房,2025年
3.「コーポレート・ベンチャーキャピタルは企業の目利き力を高めるか？ -医薬品産業におけるパネルデータ分析-」『VENTURE REVIEW』No.38, 25-38, 2016年
4.「プラットフォーム境界資源と補完者エンゲージメント：ニコニコ動画・ニコニコチャンネルの事例分析」『組織科学』58巻2号, 60-72, 2024年

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course aims to equip students with the foundational knowledge and skills required to understand and practice strategic management, focusing on how firms build and sustain competitive advantage. The learning process will cover three major perspectives: (1) the strategy formulation process, including internal and external environmental analysis; (2) business-level strategy; and (3) corporate-level strategy.
（Learning Objectives）
The goal is for students to acquire a foundation in strategic management and be able to explain what strategic management is, as well as how firms formulate and implement their strategies.
（Learning activities outside of classroom）
Classes will be conducted face-to-face. In the first half of each session, lectures by the instructor or student-led summaries of the assigned readings will be presented. In the second half, students will share cases drawn from their own experiences and engage in discussions, thereby reinforcing their understanding through the interaction of theory and practice. As learning activities outside of the classroom, students are expected to carefully read the relevant sections of the distributed materials in advance and come to class prepared.
（Grading Criteria /Policy）
Evaluation will be based on class participation (40%) and short reports submitted after each session (60%). Credit will not be granted if attendance falls below two-thirds of the total class meetings.

MAN500F1 – 0048（経営学 / Management 500）

イノベーション・マネジメント概論

近能　善範

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなどを実現し、新規需要や新市場を創出すること」を意味します。例えば、携帯電話やパソコン、インターネットや宅配サービスの登場などは、身近なイノベーションの事例です。イノベーションは、われわれの生活を一変するインパクトを有するばかりでなく、企業や経済が持続的に成長していくために必要不可欠な役割を果たします。
こうしたイノベーションを実現していく上では、一般に、研究・技術開発の成果を製品化し、市場に投入し、それが幅広い顧客に受け入れられるまで育て上げ、なおかつ、続々と参入してくる競合他社との激烈な競争に勝ち残っていくためのマネジメントが必要不可欠となります。ここでは、単なる技術マネジメントを超えた、組織や戦略に対する深い理解と実践が問われることになります。
そこで本講義では、こうしたイノベーション・マネジメントを実践していく上で重要となる組織論・戦略論の考え方や概念などを、基礎から最新の理論まで含めて幅広く身につけて、実践できるようになっていただきたいと考えています。

【到達目標】
イノベーション・マネジメントを実践していく上で重要となる考え方や概念などを身につけて、実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回の授業では、前半に講義を行い、後半は受講生の発表と全員参加の議論を行う、という構成にする予定です。
なお、課題等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて個別に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イノベーション・マネジメントとは何か、なぜ重要なのかについて学ぶ
2	企業とは何か／組織とは何か、グループとチームのマネジメント	企業とは何か／組織とは何か、グループとチームのマネジメントについて学ぶ
3	モティベーションとインセンティブのマネジメント	モティベーションとインセンティブのマネジメントについて学ぶ
4	人的ネットワークのマネジメント	人的ネットワークのマネジメントについて学ぶ
5	リーダーシップ（ミドルクラス）のマネジメント	リーダーシップ（ミドルクラス）のマネジメントについて学ぶ
6	組織構造と組織デザインのマネジメント	組織構造と組織デザインのマネジメントについて学ぶ
7	組織学習と知識創造のマネジメント	組織学習と知識創造のマネジメントについて学ぶ
8	組織文化と組織変革のマネジメント	組織文化と組織変革のマネジメントについて学ぶ
9	競争戦略のマネジメント	ポジショニング戦略と資源・能力ベースの戦略について学ぶ
10	新製品開発のマネジメント	新製品開発のマネジメントについて学ぶ
11	企業間関係のマネジメント	企業間関係のマネジメントについて学ぶ
12	イノベーションのプロセス／パターン	イノベーションが、どのようなプロセスを経て、どのようなパターンを描きながら発展していくのかを学ぶ
13	イノベーションと企業の競争力	さまざまなタイプのイノベーションと企業の競争力について学ぶ
14	ビジネスモデルのマネジメント	ビジネスモデルのイノベーションについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント 新訂版』, 新世社, 2024年。
その他に、パワーポイントのレジュメ（毎回）、補助テキスト（適宜）、ケース（適宜）を配布します。

【参考書】
参考書は特にありません。必要があれば、講義の中で適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】
(1)下記の合計で、成績を評価する予定です。
①毎回のレポート提出（A4で1～2枚程度の簡潔なもの）が70％
②授業内でのディスカッション参加（毎回）が30％
(2)3分の2以上の出席を最低ラインとします。

【学生の意見等からの気づき】
タイムコントロールに注意します。

【学生が準備すべき機器他】
事前配布資料は、原則として法政大学学習支援システムを通じて行う予定です。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】
上記「授業計画」に記載したスケジュールは2025年度のものであり、本年度は変更される場合があります。授業の詳細なシラバスは第1回目の講義の際に配布します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
　イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論
＜研究テーマ＞
　イノベーションと企業間関係

【担当教員の主要研究業績】
1.『コア・テキスト イノベーション・マネジメント 新訂版』（高井文子との共著）, 新世社, 2024年。
2.『破壊的イノベーションのプロセス：PC-98帝国の興隆と衰亡』, 白桃書房, 2026年。
3.「サプライヤーの顧客範囲と製品範囲の拡大が取引継続に及ぼす影響」,『日本経営学会誌』, 41号, 2018年。
4.「日本自動車産業における関係的技能の高度化と先端技術開発の深化」,『一橋ビジネスレビュー』, 54巻4号, 2007年。
5.「自動車部品取引のネットワーク構造とサプライヤーのパフォーマンス」,『組織科学』, Vol.35(3), 2002年。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
The main objective of this class is to learn basic knowledge, concepts and ideas on “Innovation management” through reading of introductory textbooks, business cases and discussions, etc.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria / Policy】

Grades will be based on a total of (1) submission of reports (70%), and (2) contribution to class discussions (30%).

MAN500F1 – 0051（経営学 / Management 500）

企業間関係論

金　容度

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の企業間関係の歴史と現状、日本、アメリカ、ドイツの企業間関係の比較についての論文を読むと共に、関連論点の講義とディスカッションを行う。それによって、企業間関係についての理解を深めると共に、各国の企業間関係の現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】
①多様な産業、世界各国の企業間関係の現状と歴史事例を比較検討することによって、企業間関係の多様性と普遍性を統一的に理解できるようにする。
②現実の企業経営において企業間関係がどのような意味をもつかを立体的に理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎週授業は、論文の要約報告、質疑応答、講義、論点のディスカッションを織り交ぜて進められる。毎週授業の冒頭で、取上げられる論文の理論的・実証的背景について解説する。なお、毎週の報告者は、論文の要約と(ディスカッションのための)論点の提示を行う。また、毎週、参加者全員も論点を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、企業間関係の概要	授業の進め方を案内する。また、企業間関係を取り上げる趣旨と分析視点について講義する。
2	企業間取引の理論検討	テキスト第2章(企業間取引の経済理論)
3	日本の鉄鋼の企業間取引史	テキスト第4章2(戦後日本の鉄鋼の企業間取引)
4	自動車メーカーと鉄鋼メーカーの企業間取引の現状	テキスト第10章(素材の企業間取引の現状：鉄鋼の事例)
5	自動車部品の企業間取引	テキスト第8章1(戦後日本自動車産業の企業間取引の特徴)
6	半導体ICの企業間取引	テキスト第5章(部品の企業間取引の歴史：半導体ICの事例)
7	工作機械の企業間取引	テキスト第6章2(資本財の企業間取引の歴史：工作機械の事例、戦後)
8	アメリカにおけるタイヤの企業間取引史	金容度「米自動車「ビッグ2」とタイヤメーカーの企業間取引史」『イノベーションマネジメント』No.15、2018年
9	自動車部品の企業間取引の日米比較	テキスト第8章2～4
10	ドイツの自動車部品の企業間取引	岡室博之「ドイツ自動車産業における部品取引関係の展開」『経営史学』38巻2号、2003年
11	鉄鋼の企業間取引の日米比較	テキスト第7章2(鉄鋼企業と自動車企業の間の企業間関係)
12	デジタル素材の企業間取引	テキスト第11章(部材の企業間取引の現状：液晶部材の事例)
13	企業と銀行との関係1(日本のメインバンクシステム)	金容度『日本経営論』博英社、2023年第13章
14	企業と銀行との関係2(メインバンクシステムの日独比較	金容度『日本経営論』博英社、2023年第14章

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業支援システムにアップロードされる毎週の事例論文を必ず事前に読むと共に、その論文の重要論点について考えてみてから授業に参加すること。

【テキスト（教科書）】
金容度『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造-』有斐閣、2021年

【参考書】
金容度『日本経営論』博英社、2023年
金容度「米自動車「ビッグ2」とタイヤメーカーの企業間取引史 」『イノベーションマネジメント』No.15、2018年
岡室博之「ドイツ自動車産業における部品取引関係の展開」『経営史学』38巻2号、2003年

【成績評価の方法と基準】
成績評価基準は、授業及び議論への参加（40%）、授業での報告（40%）、論点提出(20％である。試験やレポート提出は行わず、授業での報告及び議論への参加を重視する。特に、報告に関しては、授業で取り扱う文献を要約するだけでなく、自分の視点から企業間関係についての問題提起を行う報告が高い評価を得られる。単位取得のための最低授業出席数は授業回数の3分の2である。

【学生の意見等からの気づき】
今年度の授業では、ディスカッションの時間をより増やす。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞企業間関係論、日本経営論、日本経営史
＜研究テーマ＞企業間関係の国際比較、企業システムの日米比較など
＜主要研究業績＞
①『日本経営論』博英社、2023年
②『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造-』有斐閣、2021年
③The Dynamics of Interfirm Relationships:Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd..2015
④"Inter-firm Cooperation in Japan's Integrated Circuit Industry,1960s-1970s."Business History Review (Harvard Business School), Vol.86 Issue 4.2012
⑤『日本IC産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会、2006年

【Outline (in English)】
【Course outline】Every week class consists of lecture, presentation,Q&A and discussion on the history and status quo of interfirm relationships.
【Learning Objectives】The learning objectives of this course are to enhance the ability to think logically interfirm relationships on the perspective of international comparisons and to increase basic knowledge on interfirm relationships.
【Learning activities outside of classroom】Attend every week class after reading the article in a textbook.It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.
【Grading Criteria /Policy】Presentation(60 percent),participation in class(40 percent).

MAN500F1 – 0067（経営学 / Management 500）

人的資源管理論

佐野　嘉秀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人的資源管理の基本的な考え方を学ぶとともに、個別の人的資源管理の分野、すなわち雇用区分、社員格付け、採用、教育訓練、配置転換、昇進、人事評価、賃金管理、福利厚生等について、主要な議論を把握する。また、そうした知見にてらして、参加者は、各人の身近にある企業や職場の事例をとりあげ、対応する実態や課題について報告・議論する。これらを通じ、人的資源管理にかかわる理論や議論をふまえて、人事管理の現状や課題について考える力を身につけることを目標としたい。

【到達目標】
①人事管理論の対象領域の広がりと基本的な考え方を知る。②人事管理の個別分野に関する基礎的な理論や議論を理解する。③以上を踏まえ、身近な事例について考察する視点を得る。④人事管理に関連する論文について批判的に検討する視点を得る。⑤修士論文等で研究するテーマについてのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業時間（月曜6限・7限）に対面形式での授業を行います。授業は、①人的資源管理論の基本的な理論・考え方・議論に関する講義と、②参加者による課題文献・事例の報告とディスカッションによる演習を組み合わせて進めます。できるだけ毎回、講義形式の部分に加えて、演習の部分があるようにし、参加者に深く考え、発言してもらう機会を設けます。報告・ディスカッションの準備が課題となります。授業内容に関するおよそのスケジュールは下記（授業計画）のとおりです。ただし、各テーマの授業時間の配分等については、参加者の関心に応じて柔軟に変更する可能性があります。また、順序を適宜、入れ替えることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：人的資源管理の考え方と「理論」	人的資源管理の機能と担い手、「伝統的」人事管理と人的資源管理（HRM）のちがいや「理論」について学ぶ
第2回	雇用区分の多様化と人材ポートフォリオ	雇用区分の多様化の現状、人材ポートフォリオの理論について理解する
第3回	雇用区分の設計とキャリア管理	異なる雇用区分のあいだの仕事・キャリアの設計、雇用区分間の転換の仕組みについて考える
第4回	社員格付け制度の機能と多様性	社員格付け（等級）制度にもとめられる用件、格付け基準の多様性について理解する
第5回	社員格付け制度の変化と「成果主義」	「能力主義」および「成果主義」のもとでの社員格付け制度の特徴と合理性について考える
第6回	労働市場の変化と採用	採用の前提となる労働市場の変化について理解する、育成（make）か採用（buy）かの選択およびRJPの理考え方について検討する
第7回	人的資源管理のなかの人材育成（HRD）	人的資源管理のなかの人材育成の位置づけ、教育訓練の機能、配置転換の人材育成機能について理解する
第8回	人的資源管理の変化と人材育成	「投資」としての教育訓練の性格、変化する人的資源管理のもとでの配置転換・教育訓練について考える
第9回	昇進管理の機能と多様性	昇進の機能、国際的にみた日本の昇進管理の特徴、早期のエリート選抜について考える
第10回	昇進管理の変化と専門職制度	「フラット化」・高齢化のもとでの昇進の課題、専門職制度について検討する
第11回	変化のなかの賃金管理	賃金管理の基礎、「成果主義」化のなかでの賃金管理の特徴、雇用区分間の均衡処遇について考える
第12回	評価制度の課題と福利厚生	人事評価制度の課題のほか、福利厚生に関する近年の変化について考える
第13回	まとめ：人的資源管理の変化とライン・マネジャーの役割	この授業で学んだことを踏まえて、変化する人的資源管理のなかでのラインマネジャーの役割(人事部門との連携関係)について総括的に検討する
第14回	まとめ：人的資源管理の変化と人事部門の役割	この授業で学んだことを踏まえて、変化する人的資源管理のなかでの人事部門の役割(ライン・マネジャーとの連携関係)について総括的に検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各回のテーマに関連する課題の論文を授業内に提示します。受講者は、事前に課題論文を読んで、論点を把握し、疑問点やコメントを考えて授業にのぞんでください。これをもとに授業内で議論し、テーマに関する理解を深める予定です。また各回について、1〜2名程度の代表者に課題論文についてのレジュメ作成を行ってもらいます。このほか、最終レポート課題として、身近な組織の事例をもとにした人的資源管理に関わるレポートの準備も必要となります。
基礎の確実な理解に向けては、各自、各回のテーマに合わせて、佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太朗（2025）『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房、にて対応する章を読んで学ぶことを推奨します。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムに掲載するパワーポイント資料（PDF形式にて配布）をもとに授業を進めます。
ただし人的資源管理の基礎をしっかり理解するうえで、授業での進捗にあわせて下記のテキストの各章を読んで学ぶことを推奨します。
佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太朗（2025）『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房

【参考書】
①佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太朗（2025）『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房
②日本労働研究雑誌（　http://www.jil.go.jp/institute/zassi/　）
③藤本真・佐野嘉秀（編著）（2024）『日本企業の能力開発システム―変化のなかの能力開発と人事・職場・社員』労働政策研究・研修機構
④佐野嘉秀（2021）『英国の人事管理・日本の人事管理―日英百貨店の仕事と雇用システム』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（20点）、文献・事例の報告（30点）、議論への貢献（30点）、最終レポート（20点）
授業への参加度、報告の担当回での報告内容のほか、授業内での議論への貢献度を評価します。最終的には、各自の問題関心に即した人的資源管理に関するレポートを提出してもらいます。以上を総合して最終的な評価を判定します。

【学生の意見等からの気づき】
人事管理の基礎に関する体系的な講義編成、学習支援システムによる配布資料の共有、参加者の実務を踏まえたディスカッションなど、高く評価していただいている本授業の良さを大事にしたいと思います。基礎知識の習得に向けてテキストを紹介してほしいという意見を受講者から受けることがあるので、今年度の授業から講師の執筆によるテキストを読むことを推奨することにしました。

【その他の重要事項】
授業で利用するパワーポイント資料は、学習支援システムにて事前に入手できるようにします。適宜、プリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしてください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞人的資源管理・産業社会学
＜研究テーマ＞雇用システムの日英比較、就業形態の多様化と人事管理、人事部門とライン管理者の人事管理上の連携 等
＜近年の主な業績（市販書籍のみ）＞
①佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太朗（2025）『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房
②藤本真・佐野嘉秀（編著）（2024）『日本企業の能力開発システム―変化のなかの能力開発と人事・職場・社員』労働政策研究・研修機構
③佐野嘉秀（2023）「異動や昇進はしなくてはいけないのか」「ずっとパート・アルバイトではいけないのか」西村淳子・池田心豪（編著）『社会学で学ぶライフ＆キャリア』中央経済社
④佐野嘉秀（2021）『英国の人事管理・日本の人事管理―日英百貨店の仕事と雇用システム』東京大学出版会
⑤佐野嘉秀（2014）「生産職種の請負・派遣社員の就業意識」佐藤博樹・大木栄一（編）『人材サービス産業の新しい役割』有斐閣
⑥佐野嘉秀（2012）「企業内キャリアと人事管理」上林千恵子（編）『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房
⑦佐藤博樹・佐野嘉秀・堀田聰子（編）（2010）『実証　日本の人材ビジネス―新しい働き方と人事マネジメント』日本経済新聞社

【Outline (in English)】
【Course outline】
Our objective is to learn and understand basic human resource management theories and practices. We focus on HRM practices in Japan from comparative perspectives. HRM practices can be understood as a system. We are to focus on each area of HRM system respectively. Wage system, appraisal, recruiting and selection, training and development, internal promotion and welfare are main areas of HRM. Both lecture and discussion is expected. Students are supposed to participate in the discussion actively. Making presentation is also required.
【Learning Objectives】
(1) To understand the breadth of the subject area and basic concepts of human resource management theory. (2) To understand the basic theories and discussions on individual areas of human resource management. (3)To learn how to consider familiar cases based on the above. (4) To learn how to critically review articles related to human resource management. (5) To obtain hints for the theme of research for the master's thesis, etc.
【Learning activities outside of classroom】
A paper on an issue related to the theme of each session will be presented in class. Students are expected to read the papers in advance, understand the issues, and come to class with questions and comments. These will be discussed in class to deepen understanding of the topic. For each session, one or two representatives will be asked to prepare resumes for the assigned papers. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Participation in class (20 points), reports on literature and case studies (30 points), contribution to discussions (30 points), final report (20 points)
Students will be assessed on their participation in the class, the quality of their reports in the sessions for which they are responsible, and their contribution to the discussions in the class. At the end of the course, students will be asked to submit a report on human resource management that is in line with their own problematic interests. The final evaluation will be based on the above factors.

MAN500F1 – 0069 （経営学 / Management 500）

キャリアマネジメント論

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　キャリアに関する基本的な考え方・理論を学ぶことを目的とします。理論と受講者自身あるいは他の受講生のキャリア事例とを照らし合わせることで、自身のキャリアの展望を考える機会を提供します。

【到達目標】
授業を終えた段階で受講生に期待するのは以下三点です。
①キャリアに関する主要理論を知っており、それら理論間の関係、発展のあり方を理解している
②個別具体の事例を理論と照らし合わせて、理論の意義や限界を考えることができる
③理論を参照しながら受講生自身のキャリア展望・開発を自律的に考えることができる
Students who complete the course will be expected to:
(1) understand major career theories and explain relationships among them or the developmental process of those theories,
(2) describe theoretical and practical contributions and limitations of each theory by applying the theories to your own and others' concrete career history,
(3) reflect your own career history and think about your future career development proactively.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　クラスの前半では、キャリアに関する諸理論の講義を行います。その中で適宜、課題や課題を踏まえた受講者同士の意見交換・共有の場を設ける予定です。
　クラスの後半は、受講者自身のキャリアに関する事例報告とこれに基づく意見交換を行う予定です。
　ただし、受講人数によって発表時間や形式は調整されます。授業内容のおおよそのスケジュールは下記の通りですが、進捗状況や参加者人数等によって順序や内容の大幅な変更もありえます。例えばキャリアに関する論文の報告・発表などもあり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義方針や参加ルールの説明、発表順などを決めるので参加は必須です。
2	キャリア論の性質	経営学におけるキャリア論の位置づけについて
3-4	職業の決定①	社会学的職業決定の理論
5-6	職業の決定②	心理学的職業決定の理論
7-9	キャリア発達の理論	ライフサイクル論
10	キャリアの移行期	キャリア・トランジション論
11	キャリア初期	組織社会化、LMX、キャリア・ツリー
12-13	キャリア中期・後期	キャリア・プラトー、プロティアン・キャリア、バウンダリレスネス、エイジング
14	近年のキャリア論	偶発性、構成理論等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　ほぼ毎回、その場で記入する課題と、次回までに準備する課題を予定しています。いわゆるレポートも予定しています。事前に指示された本や論文（英文を含む）を読んできてもらうこともあります。最大の課題は、各自のキャリアについての発表準備です。受講者数によっては論文を読んだ上で担当者に報告や発表を課すこともあります。
Readings, short reports, and other assignments that include reaction papers may be given before and after each class. In addition, you should give oral presentations on your own career using the materials you prepared (50 to 100 minutes). Depending on the number of participants, the presentation of career-related articles may also be assigned.

【テキスト（教科書）】
授業は配布資料を基に進めますので、必ずしも購入する必要はありません。参考書も同様です。
Not specified.

【参考書】
鈴木竜太・西尾久美子・谷口智彦編著（2023）『1からのキャリア・マネジメント』碩学舎。
金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所。
エドガー・H・シャイン(著)・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。
Greenhaus,J.H.,Callanan,G.A.,&Goldshalk,V.M.(1999). Career Management 3rd. Orlando,FL: Harcourt.
Gunz,H.&Peiperl,M.eds.(2007). Handbook of Career Studies. Thousand Oaks, California:Sage.

【成績評価の方法と基準】
以下の配分で総合的に評価します。
講義への参加:50点
　出席を前提とした発言の頻度、議論への参加度、貢献度、課題の質など
レポート：50点
　・担当回における報告内容や資料、準備の度合い、発表や質疑応答の質
　・レポートを含むその他の提出物の提出率や質、内容、形式、論理性、期限など
Your overall grade in the class will be decided on (1) attendance, contribution, and attitude in class (50%) and (2) assignments, reports, and the career presentation (50%).

【学生の意見等からの気づき】
　スケジュールは過年度のものであり、受講者数等によって講義内容や方法は変わることがあります。それらを理解したうえで参加して下さい。
　また、科目履修生の方等も資料等の配布や連絡に授業支援システムを使いますので必ず登録し、適宜チェックして下さい。その方法は大学院事務で事前に確認しておいて下さい。
　システムが使えない場合や緊急連絡は以下にメールしてください。
　nogawa■hosei.ac.jp （■を@に変換）

【学生が準備すべき機器他】
発表者は配布用に発表資料など人数分印刷して臨んで下さい。
もしくは前日までにメール添付で小川まで送ってください。授業支援システム経由で学生に配布します。

【その他の重要事項】
・履修者は、初回講義での説明内容を踏まえ、これに同意したとみなします（初回講義の参加の有無は加味しませんので各自でフォローして下さい）。
・経営学研究科でのキャリア論という性質上、組織という文脈を前提とした議論が多いため、組織での仕事経験がない方にはあまり適したものではないかもしれません。したがって昼間の学生には適さない可能性があります。それを踏まえて参加して下さい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　経営管理論、組織行動論
＜研究テーマ＞
　組織社会化、組織文化、人材採用等

＜主要研究業績＞
・Norihiko Ogawa, Osato,D. &K.Takahashi (2015) “Criteria for Screening Job Applicants in Japanese Companies: Policy Capturing Approach,”Journal of Academy of Business and Economics,Vol.15 (1), pp.101-109.
・Norihiko Ogawa, Takahashi,K. &D.Osato (2014) “The Empathetic Sorting Technique: Measuring Corporate Culture by Sorting Illustrated Value Statements” Business Studies Journal, Vol.6, pp.81-103.
・小川憲彦(2013)「人材育成方針がもたらす若手従業員への影響」金井壽宏・鈴
木竜太編著『日本のキャリア研究組織人のキャリア・ダイナミクス』白桃書房，第Ⅲ部第6章, 169- 196頁.

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to learn career theories and the relationships among theories. You are expected to participate in class discussions actively as well as to reflect your own career using theoretical approaches along with your work-experiences.

MAN500F1 – 0070（経営学 / Management 500）

人事制度論

奥西　好夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に経済学的手法による日本企業の人事制度概論である。学生は、人事制度を設計、運用、評価するために必要な基礎理論（ミクロ経済学、社会心理学など）を簡単に学んだ上で、採用、訓練、昇進、賃金、人事評価、退職・定年、職務設計など人事制度の各パーツについて学ぶ。さらに、各パーツ相互の補完性を強調する戦略的、システム的なモノの見方、考え方を学ぶ。

【到達目標】
現実の人事制度が運用面も含めて、「どうなっているのか」、「なぜそうなっているのか」、そして（いっそう難しいことだが）「どうしたらもっとよくなるのか」を、自ら考え、理解し、提案する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
大きく「基礎理論」（①～④回）、「各論」（⑤～⑫回）、「応用」（⑬～⑭回）の3部からなる。「基礎理論」の授業は講義中心に行う。「各論」、「応用」の授業は、原則として、講義と受講者による報告・討論を合わせて行う。報告のノルマ、分担等については、受講者数や受講者の希望を勘案して決める。報告者は要点を記した簡単なハンドアウトを用意すること。
また、これらとは別に、学期末に各人の研究報告をレポートとして提出してもらう。この最終レポートは、受講者が本講義で学んだことの成果を総括するものとして、重要な位置を占める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	人事制度論の概要	・人事制度論の概要 ・関連領域、方法論の紹介
②	個人の行動原理	・経済合理性 ・経済非合理性 ・不完全情報
③	取引の効率性	・効率性 ・取引費用 ・コースの定理
④	組織の公正性、人々の福祉	・さまざまな公正観 ・組織内公正性 ・いくつかの福祉指標
⑤	雇用関係と労働市場	・雇用関係の特徴 ・雇用関係、労働市場の経済モデル
⑥	雇用形態・区分の多様化	・形態・区分多様化の背景 ・政策課題
⑦	採用・退職・定年	・採用量・質の決定 ・効率的な離職理論 ・定年制の理論と実際
⑧	人的資本と訓練	・一般訓練と特殊訓練 ・OJTとキャリア
⑨	昇進	・昇進の機能 ・トーナメント、アップ・オア・アウト ・キャリア・コンサーンズ
⑩	人事評価	・人事評価の目的 ・評価者、評価項目・方法 ・結果のフィードバック
⑪	賃金	・賃金決定要素 ・賃金水準・格差 ・賃金プロファイル ・福利厚生
⑫	職務設計	・職務設計の重要性 ・職務設計のポイント ・多様性管理
⑬	多様性管理、雇用モデルの多様性・整合性	・多様性管理 ・雇用モデルの多様性 ・雇用モデルの整合性
⑭	総括ないし補足	・全体のまとめ ・最近の話題など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
単一のテキストは用いない。各回の講義内容のレジュメ等は学習支援システムを用いて事前に配付する。

【参考書】
講義全体にわたる参考書として、次の文献がある。ただし、講義ではこれらの逐語的な解説をする予定はなく、各自が購入する必要もない。
①ミルグロム、ロバーツ『組織の経済学』（NTT出版、1997年）
②ラジアー、ギブス『人事と組織の経済学 実践編』（日本経済新聞出版社、2017年）
③ Baron, James N. and David M. Kreps. Strategic Human Resources（John Wiley and Sons, 1999）
なお、日本企業の人事管理に関する基本知識を得るには例えば次がある、
④今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（新装版）』（日本経済新聞出版、2022）
ただし、本講義では現状がどうであるかよりも、その背後にあるロジックや変化をもたらす要因に力点を置く。

【成績評価の方法と基準】
全講義のうち出席が半分に満たない場合は、自動的に「未受講扱い」とする。成績評価は、授業参加（20%）、口頭報告（20%）、最終レポート（60%）に基づく。最終レポートの評価は、【授業の到達目標】で掲げた3つの目標（「どうなっているのか」、「なぜそうなっているのか」、「どうしたらもっとよくなるのか」を、自ら考え、理解し、提案する力）がどの程度達成されているかで判断する。

【学生の意見等からの気づき】
過去の経験では、内容が難しいとの評価が比較的多い。そこで、四則演算を超える数学は一切用いず、抽象的な概念は身近な実例を交えて説明するなどの努力をしているが、不明な点は講義中に（事後を含む）ぜひ積極的に質問して欲しい。率直で気軽な質問こそ、対面授業のメリットの一つと思っている。
また、本講義で採用する人事制度、人事管理に関する経済学的アプローチは、労働法、社会学、心理学などと比べ後発分野であり、単純明快ではあるが人間心理や社会関係の複雑性を軽視する傾向がある。しかし、「木を見るより森を見る」には有用であり、個別事案に関する判断でも有益な視点を提供すると考えている。この講義を通じて、それを伝えることができれば幸いである。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを授業外でのコミュニケーション・ツールとして多用するので、事前にシステムに授業登録するとともに（事務上の履修登録とはラグがあることに注意）、各自の連絡先メールアドレスも登録すること。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞　労働経済学、人事制度論
＜研究テーマ＞　人事制度、労働市場の統計分析、国際比較。特に雇用形態、賃金格差など。
＜主要研究業績＞大学の「学術研究データベース」サイトを参照されたい。

【Outline (in English)】
First, students study basic theories such as microeconomics and social psychology which are required to design, practice and evaluate HR policies. Then, they learn various aspects of HR policies such as hiring, training, promotion, wages, performance evaluation, separation, and job design. Furthermore, they learn strategic or systematic views to synthesize the above various aspects which may well be complementary each other.
It is required that students make a presentation and submit a report on a topic which is relevant to this course.
The grade of this course depends on class participation (20%), the presentation (20%), and the report (60%).

MAN500F1 – 0071（経営学 / Management 500）

労働市場論

藤本　真

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、日本の労働市場の構造と現状について、制度的なアプローチから解明していきます。ここでいう「制度」とは、政府が法律などを通じて管理しつつ、求人者と求職者そして仲介者ら市場関係者の日々の参加によって作り上げられていく労働力需給調整システムを意味します。
現実の労働市場は、単純なマーケットメカニズムによって構造化されるものでは決してなく、その国・地域の社会・文化や政治・経済が色濃く反映され組み上げられた「制度」から数々の制約を受けつつ、長い経緯を経て形成されてきた社会システムであるからです。具体的には、職業紹介、労働者派遣、求人広告などの「制度（事業システム）」を舞台に、それらの事業マーケット担当者（公的機関の職業相談担当者や人材紹介コンサルタントなど）の目線を加えながら、その市場の構造と規模、法の規制と経緯、需給（求人者と求職者）双方の動向、情報化・国際化・高齢化の影響などについて検討していきます。

【到達目標】
現在、日本も含め、多くの先進諸国において労働市場は、政府の法制度によって管理されています。日本の政府はこれまで、日本の労働市場に対してどう関与してきたのか、そしてその関与によって現在のマーケットがどう動き、経済社会の変化とともに今後どこへ向かおうとしているのか。授業の到達目標は、こうした労働市場に関する洞察力を向上させることにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
１．本授業は、対面型授業として、実施します。
２．第１回から第４回までは、この授業の進め方などに関するイントロダクション、ガイダンスと、労働市場および日本の労働市場についての基本的な枠組みに関する講義を実施します。
３．第５回目以降は、日本の労働市場に関わる個別のテーマを取り上げ、そのテーマについての「講義」（６時限目）と「演習」（７時限目）を行ないます。
４．「講義」では、各回のテーマに関連して、これまでの傾向や近年の変化の動向、生じている課題や新たに進められている取り組みについてトピックを整理し、そのテーマに関する基本的な理解の促進を目指します。
５．「演習」では、各回のテーマに関連して、現状と課題及び個人的な問題意識をまとめた参加者作成のレポートの報告に基づき、ディスカッションを行います。
６．授業で取り上げる予定の個別テーマとしては、「授業計画」に挙げたものや、以下のようなものを考えています（「授業計画」には、2025年度の授業で取り上げたテーマとそのテーマに関わるトピックを、取り上げた順に記しています）。今年度の授業で実際に取り上げるテーマと順番については、第２回のガイダンスの際に参加者の皆さんと協議の上、決定します。
＜取り上げる個別テーマの例：「授業計画」に挙げたもの以外＞
○ホワイトカラー労働市場の流動化
○労働移動の支援策とマッチング・ビジネス、再就職支援ビジネス
○就職・キャリア形成困難者に対する支援の取り組み
○社会保障・社会福祉・所得保障と労働市場
○女性就業者をめぐる労働市場
○高齢化する労働市場
○技術の変化・進化・革新と労働市場
○雇用終了・雇用喪失をめぐる現状と課題
７．授業期間中、マッチングや採用、労働市場の諸制度に関わる実務者の経験をうかがうことで、日本の労働市場についての理解をより深める機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的、取り上げるテーマ、進め方についての説明。
第2回	ガイダンス(６時限目)・労働市場論の基礎①「労働市場とは」(７時限目)	ガイダンス－参加者の問題関心の共有、取り上げるテーマの検討 労働市場論の基礎①－「労働市場」を捉える3つの観点、労働市場の参加者、労働市場の機能
第3回	労働市場論の基礎②「日本における人口・労働力人口・就業雇用機会」	日本における雇用・就業機会、総人口と生産年齢人口、労働供給制約社会
第4回	労働市場論の基礎③「日本の賃金」、労働市場の基礎④「労働市場をめぐる制度と政策」	労働市場論の基礎③－賃金の推移、男女間・年齢層別の賃金の違い 労働市場論の基礎④－職業安定行政、雇用保険制度、雇用対策法／雇用対策基本計画、積極的雇用政策、職業紹介・労働者派遣事業の自由化
第5回	日本の労働市場の現状と課題①「高卒・大卒の新卒労働市場」	新卒一括採用、就職協定、「就活」と「就活」エリート、エントリーシート、学校紹介制度、1人1社制、「売り手」市場の影響
第6回	日本の労働市場の現状と課題②「専門職の労働市場と専門性評価のための社会的制度・慣行」	様々な専門職のキャリアと労働市場、企業内プロフェッショナル、博士人材、日本の職業資格制度の特徴、技能検定制度
第7回	日本の労働市場の現状と課題③「国際労働力移動に関わる諸制度と課題」	外国人雇用者の急増、労働許可制、入国管理制度、「技人国」、技能実習制度、特定技能制度、育成就労支援制度
第8回	日本の労働市場の現状と課題④「非正規化の進展と格差対策」	パートタイム労働者、社会保険の適用拡大、「柔軟な企業」モデル、「雇用ポートフォリオ」、非正規労働者の賃金／キャリア形成、正社員転換制度、無期転換ルール、同一労働・同一賃金
第9回	日本の労働市場の現状と課題⑤「副業、雇用類似の働き方と労働市場」	副業の実態、追加就業希望者、副業禁止規定、独立自営業者、クラウド・ワーカー、ユーバー、ギグ・ワーカー
第10回	日本の労働市場の現状と課題⑥「労働市場における都市と地方」	都市・地方の労働市場の特徴、マッチング・プロセスの相違、人材サービスの活動状況、地方－都市間の労働移動、二拠点生活、関係人口
第11回	日本の労働市場の現状と課題⑦「中小企業の人手不足とマッチング支援」	人手不足の状況とその要因、中小企業入職者の特徴、学生の中小企業に対する意識、マッチング支援の取り組み、最低賃金引き上げの影響
第12回	日本の労働市場の現状と課題⑧「社会保障・社会福祉・所得保障と労働市場」	ベーシックインカム、生活保護、年金などと雇用・就業の関連に関わる問題

第13回	日本の労働市場の現状と課題⑨「労働市場における「差別」の問題」	採用差別、賃金差別、昇進・昇格差別、直接差別／間接差別、思想・信条による差別、ダイバーシティ・マネジメント、障がい者差別、雇用率制度、「合理的配慮」
第14回	日本の労働市場の現状と課題⑩「人材サービス会社からみた労働市場・人材不足の状況」	ゲストスピーカーによる講演・意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義全般を通じての基本テキストは特には指定しません。

【参考書】
毎回、次の回のテーマの参考となる文献・資料等を、提示します。

【成績評価の方法と基準】
１．各回の出席を「授業における学習姿勢」として評価します。
（第2回以降。2点×出席回数）
２．第4回目以降の各回におけるレポートの提出を評価します。
（3点×提出回数）
３．出席、レポート提出に加えて、演習での「レポート報告」を評価します。
（15点×担当教員の指名により授業内で報告した回数）
以上の３つの評価項目において
●「授業における学習姿勢」（上限26点）
●「演習時のレポート全提出」（上限30点）
●３回の「レポート報告」(45点)
を達成すれば、100点に到達するというイメージです。

【学生の意見等からの気づき】
１.「講義」では、日本の労働市場に関わる多種多様なテーマについて、①現状を左右する制度的な枠組み、②各テーマに関わる現象の経済・社会全体における位置付け、③それぞれのテーマに関わる当事者（企業、労働者、政策当局など）の活動・意向を、データに基づきながら、わかりやすく、具体的に説明し、労働市場の問題を立体的・複眼的にとらえるきっかけを提供していきます。
２.「演習」では、「講義」の内容と、参加者のこれまでの経験や関心を踏まえて、日本の労働市場の活性化やよりよいあり方につながる今後の取組みについて、活発に議論していきたいと考えています。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
産業社会学、人的資源管理論
＜研究テーマ＞
①転職・中途採用と能力開発・キャリア形成
②能力開発、労働市場に関する社会的インフラ（公共職業訓練制度、資格・検定制度など）の機能
③中小企業セクターで働く人々の意識とキャリア形成に向けての活動
④環境変化のもとでの日本企業における能力開発活動、キャリア管理
＜主要研究業績＞
（書籍）
○労働政策研究・研修機構編[2012]『中小企業における人材育成・能力開発』(共著),労働政策研究・研修機構.
○梅崎修・池田心豪・藤本真編著[2019]『労働・職場調査ガイドブック』,中央経済社.
○藤本真・田中秀樹・清原悠[2022]『ミドルエイジ層の転職と能力開発・キャリア形成』,労働政策研究・研修機構.
○藤本真・佐野嘉秀編著[2024]『日本企業の能力開発システム』,労働政策研究・研修機構.
（論文）
○藤本真[2012]「民間教育訓練プロバイダーにおける教育訓練サービスの改善活動－サービス改善に向けた活動を規定する要因」,日本労働研究雑誌619号.
○藤本真[2018]「「キャリア自律」はどんな企業で進められるのか」,日本労働研究雑誌691号.
○藤本真[2019]「中小企業セクターで働くシニア労働者」,日本政策金融公庫論集44号.
○藤本真[2023]「日本のデジタル関連スキル養成政策の特徴と課題」,日本労働研究雑誌No.754.

【Outline (in English)】
【Outline】
The actual labor market is never structured by a simple market mechanism. It has received numerous constraints from the "institution" that was reflected in the society, culture, politics and economy of the country/region. It is a social system that has been formed over a long process.
In the lesson, we try to understand the structure and current situation of Japanese labor market from an institutional approach. Specifically, with the theme of employment introduction, worker dispatch, matching business, and so on, we will consider the structure and scale of the market, the regulation, and the impact of globalization and aging.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students are expected to understand the followings:
(1) How the Japanese government has been involved in the Japanese labor market to date.
(2) How the labor market is changing as a result of government involvement.
(3)How the Japanese labor market will change with economic and social changes.
【Learning activities outside of classroom)】
Students are required to prepare a short report on the topics to be covered in each class meeting. Your required study time is at least two or three hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports : 45% and in class contribution ： 55%

MAN500F1 – 0072（経営学 / Management 500）

労使コミュニケーション論

呉　学殊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本における労使コミュニケーションの実態と問題点を把握して望ましいあり方を探ってその実践に向けた企業、労働組合、政府のなすべき方向性を具体的に認識する。

【到達目標】
企業の労使コミュニケーションの実態を把握できる思考力を得る。
労使コミュニケーションの経営資源性の内容を把握できる。
労使コミュニケーションを中心に企業、労働組合、国のあり方を的確に認識できる。
社会の望ましいあり方を考える力を得る。
There are 4 goals of this class as follows. The first is to gain the ability to think about the actual state of labor-management communication in a company.
The second is to to understand the contents of management resources in labor-management communication.
The third is to accurately recognize the ideal state of companies, labor unions, and countries. focused on labor-management communication,
The fourth is to gain the ability to think about the desirable way of society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に学生は講師の書いた本、論文、報告書を毎回読んで報告して議論する。講師は、論文等の執筆背景等を述べて議論を深めていく。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
授業形式は、オンライン授業(リアルタイム配信型)を予定している。ただし、受講生の要望や状況によって変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（1）	授業の基本的な方針について述べて学生からコメントを頂き方向性を確定する
第2回	オリエンテーション（2）	授業で取り上げる講師の本、論文、報告書について概略的にその内容を紹介する
第3回	日本の労使コミュニケーションの実態・問題点（1）	日本の内部労働市場、国際比較等から労使コミュニケーションの問題点を明らかにする
第4回	日本の労使コミュニケーションの実態・問題点（2）	労働組合の組織率、従業員過半数代表制の問題点を明らかにする
第5回	日本の労使コミュニケーションの方向性（1）	問題点の解決に繋がる法的な措置のあり方を探る
第6回	日本の労使コミュニケーションの方向性（2）	諸外国の法制を紹介しながらより具体的に法的な組織の内容を考える
第7回	労働組合結成と労使関係及び企業経営の変化（1）	労働組合の結成の実態、結成に伴う労使関係の変化を確認する
第8回	労働組合結成と労使関係及び企業経営の変化（2）	労働組合結成効果を考える
第9回	パートタイマーの組織化と意見反映システム（1）	非正規労働者問題の実態と労働組合の組織化実態
第10回	パートタイマーの組織化と意見反映システム（2）	組織化戦略の違いがどう現れてその結果はどのようなものかを学ぶ
第11回	CSRと企業別組合の役割（1）	CSRの内容と動向
第12回	CSRと企業別組合の役割（2）	企業別組合がCSRにおけるどのような役割を果たせるかを学ぶ
第13回	企業グループ連結経営と人事労務管理（1）	個別企業の事例を取り上げて、企業グループ経営の実態を把握する
第14回	企業グループ連結経営と人事労務管理（2）	企業グループ経営に伴う人事労務管理の変化や課題、また、労使関係の変化を学ぶ
第15回	純粋持株会社企業グループの労使関係（1）	4つの純粋持株会社企業グループにおける労使関係の多様性を把握する
第16回	純粋持株会社企業グループの労使関係（2）	4つの純粋持株会社企業グループにおける労使関係の多様性について議論と理解を深める
第17回	企業グループの労使関係の望ましい姿（1）	企業グループの労使関係の望ましい姿の事例を把握する
第18回	企業グループの労使関係の望ましい姿（2）	企業グループの労使関係の望ましい姿についての討論を通じて、その姿の波及可能性を探る
第19回	中小企業の労使コミュニケーション（1）	中小企業の労使コミュニケーションの実態についてアンケート調査結果から学ぶ
第20回	中小企業の労使コミュニケーション（2）	中小企業の労使コミュニケーションの多様性について議論を通じて理解力を高める
第21回	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例（1）	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例の実態を学ぶ
第22回	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例（2）	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例から労使コミュニケーションの経営資源性を理解する
第23回	個別労働紛争の実態と解決（1）	個別労働紛争の実態をヒアリング調査とアンケート調査から理解する
第24回	個別労働紛争の実態と解決（2）	個別労働紛争の解決・予防におけるユニオン・合同労組の役割・意義について討論を通じて理解度を高める
第25回	事例発表（1）	受講生の事例を発表して、労使コミュニケーションの実態、経営資源性、課題等について認識を共有する
第26回	事例発表（2）	受講生の事例を発表して、労使コミュニケーションの実態、経営資源性、課題等について認識を共有する
第27回	労使コミュニケーションの経営資源性（1）	労使コミュニケーションの経営資源性を発揮するために必要な課題を労使関係の実態、法制等の観点から探り、解決への認識を高める
第28回	労使コミュニケーションの経営資源性（2）	労使コミュニケーションの経営資源性を発揮するために想像力を高めて、その実現可能性を目指す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
翌週に発表する論文等を読むこと
To read the recommended papers for next week's class

【テキスト（教科書）】
呉学殊（2018）『労使関係のフロンティアー労働組合の羅針盤』（増補版）労働政策研究・研修機構、本体定価3500円。
労働政策研究・研修機構（2013）『労使コミュニケーションの経営資源性と課題』労働政策研究・研修機構。

【参考書】
下記、講師の勤め先HP
http://www.jil.go.jp/profile/ohhs.html

【成績評価の方法と基準】
授業発表内容（30％）
授業への貢献度：出席、積極的な発言（30％）
レポート（自分の事例発表をベースにしたもの）（40％）
Content of class presentation (30%)
Contribution to class: Attendance, positive remarks (30%)
Report (based on own case study) (40%)

【学生の意見等からの気づき】
今後自分の職場における労使コミュニケーションの改善と日本の本質的な再生に向けた授業と考えて積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】
特にない。

【その他の重要事項】
ない。

【労使コミュニケーション論】
＜専門領域＞労使関係論、産業社会学
＜研究テーマ＞労使関係、CSR、労働組合の組織化、企業組織再編
＜主要研究業績＞次のサイトをご参照
http://www.jil.go.jp/profile/ohhs.html

【Outline (in English)】
This class aims to understand the actual conditions and problems of labor-management communication in Japan, and to explore desirable ways and specifically recognize the direction that companies, labor unions and governments should take for practicing.

MAN500F1 – 0073 （経営学 / Management 500）

経営組織論

長岡　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織にとって「変化」は避けることのできない現象である。ビジネス環境の変化、戦略の転換、組織内に発生する硬直化などに伴い、大小さまざまな規模での「組織変革」が絶えず要求されている。
この授業では、「人、集団、組織にどう変革を起こすか」という問題意識を起点として、経営組織のマネジメントに関する諸理論（組織と人間行動に関する理論、協調活動と知識共有に関する理論、組織マネジメントと変革に関する理論）の理解を深め、現実の経営組織における諸問題に対する洞察力と解決力を磨いていくことをめざす。

【到達目標】
（1）組織と人間行動の理論をもとに、経営組織の諸問題を分析し、解決策を提案できる。
（2）協調活動と知識共有の理論をもとに、経営組織の諸問題を分析し、解決策を提案できる。
（3）組織マネジメントと変革の理論をもとに、経営組織の諸問題を分析し、解決策を提案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業では、組織論・組織行動論における概念やアプローチに加え、個人のパフォーマンス向上に関する学習科学の研究成果、認知科学や知識創造論における協調活動と知識共有に関する理論、組織文化に関する組織エスノグラフィー研究の知見、等々を幅広く取り上げ、経営組織のマネジメントに関する諸理論を丹念に読み解くと同時に、現実の経営組織への適用可能性について、多面的かつ批判的な考察を進める。基本的な授業の進め方は以下の通り。

（1）各回のテーマに関する講義：１００分
（2）休憩：１０分
（3）検討課題についてのグループ討議：３０分
（4）グループ討議の結果報告＆全体討議：４５分
（5）教員による総括：２５分

第４・１２回の授業では、実務家向けに書かれた文献を取り上げ、紹介されている組織マネジメントの考え方・方法論の可能性と課題について、批判的に検討する。また、第７・１０回の授業では、ゲスト講師（研究者）を招き、組織マネジメントに関する研究報告を聞いた上で、関連するテーマに関するディスカッションを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	経営学的な組織分析の視座に関する講義・グループ討議
第2回	職場における学習	熟達化の理論と実践に関する講義・グループ討議
第3回	仕事の「やる気」	動機付けの理論と実践に関する講義・グループ討議
第4回	文献研究①	『他者と働く』（宇田川元一・著）に関するグループ討議
第5回	対話の可能性	コミュニケーションの理論と実践に関する講義・グループ討議
第6回	組織の創造的活動	知識創造論とその実践に関する講義・グループ討議
第7回	ゲスト講義①	組織マネジメントの実践的研究に関する検討
第8回	組織のフラット化	組織デザインの理論と実践に関する講義・グループ討議
第9回	組織文化と日本的経営	企業文化論とその実践に関する講義・グループ討議
第10回	ゲスト講義②	組織マネジメントの実践的研究に関する検討
第11回	組織と個人の関係	キャリアの諸理論と実践に関する講義・グループ討議
第12回	文献研究②	『冒険する組織の作り方』（安斎勇樹・著）に関するグループ討議
第13回	組織学習の可能性	学習棄却の理論と実践に関する講義・グループ討議
第14回	ラップアップ	組織研究におけるフィールド調査の方法論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）第１４回の授業終了後、授業全体を振り返った上で気づきをまとめ、最終レポート（３０００字程度）を作成する。
（2）ゲスト講義①②では、授業内での検討をもとに気づきをまとめ、振り返りレポート（１０００字程度）を作成する。
（3）文献研究①では、事前に課題図書を講読し、個人でレポート（１０００字程度）を作成する。
（4）文献研究②では、事前に数名のグループで課題図書を講読し、以下の項目についてグループ発表を行う。
・課題図書の要約
・興味深かった／現場で役立ちそうな箇所
・課題図書に関する疑問点／問題点
・グループで考察した内容

【テキスト（教科書）】
（1）宇田川元一『他者と働く：「わかりあえなさ」から始める組織論』NewsPicksパブリッシング
（2）安斎勇樹『冒険する組織の作り方：「軍事的世界観」を抜け出す５つの思考法』テオリア

【参考書】
（1）グロービス経営大学院『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社
（2）中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社
（3）中原淳・長岡健『ダイアローグ 対話する組織』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
（1）最終レポート：３０％
　【評価基準】議論内容／構成の妥当性/新規性/進歩性/明快性
（2）ゲスト講義に関する振り返りレポート：２０％
　【評価基準】議論内容／構成の妥当性/新規性/進歩性/明快性
（3）文献研究に関する個人レポート：１０％
　【評価基準】要約の正確さ／考察の深さ
（4）文献研究に関するグループ発表：１０％
　【評価基準】要約の正確さ／考察の深さ／提出資料の質
（5）授業への参画度：３０％
　【評価基準】出席頻度／議論での積極性／授業への貢献度

【学生の意見等からの気づき】
今年度はグループ討議を積極的に行っていく。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等に「学習支援システム」を利用する。

【その他の重要事項】
受講者の人数、関心、理解の進度を勘案し、受講者と相談の上で、内容や構成、授業形態、使用するテキスト等を変更する場合がある。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
　組織社会学、経営学習論、質的研究方法論
〈研究テーマ〉
　組織と学習、組織エスノグラフィー、
　創造的なコラボレーションのデザイン
〈主要研究業績〉
　『みんなのアンラーニング論』（単著）
　『ダイアローグ　対話する組織』（共著）
　『企業内人材育成入門』（共著）
　『越境する対話と学び』（共著）
〈ウェブサイト〉
　http://www.tnlab.net/
〈フェイスブック〉
　https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9
〈X：旧ツイッター〉
　https://twitter.com/TakeruNagaoka
〈学部ゼミ〉
　http://www.tnlab.net/seminar/

【Outline (in English)】
[Course Outline]
In the area of organisation management, “change” is an indispensable phenomenon. In fact, business persons are ceaselessly required to cope with “changes” of various sizes, from a small team level to a large-scale corporate group level, in their organizational lives. Therefore, it can be said that the theme of “organisational change” has practical value in the field of business studies.
In this course, I deliver lectures on a wide range of theories that bring deep insight to understanding of “organisational change”, including those of collaboration in cognitive science, those of knowledge sharing in learning sciences, those of organization cultures in sociology, as well as those of organisation management and organisational behaviour in business studies.

[Learning Objectives]
By discussing the problems of “organisational change” from the perspectives of those theories, and by examining the possibility of putting them into practice, the learners in this course are expected to deepen their understanding of various theories concerning “organisational change”, and to enhance an ability to solve the problems of “change” issues in business organisations.

[Learning Activities outside of Classroom]
The learners in this course are expected to complete the required assignments, as well as to attend the class meetings. The required assignments are the term-end academic essay, short academic essays about 2 guest lectures, a short academic essay about the text book, and the team presentation about the text book.

[Grading Criteria/Policies]
Grading is decided based on term-end academic essay (30%), short academic essays about guest lectures (20%), short academic essay about the text book (10%), team presentation about the text book (10%), and in-class contribution (30%).

MAN500F1 – 0192（経営学 / Management 500）

組織マネジメント論

戎谷　梓

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、受講者自身が現代組織の管理課題について理解した上で、学術論文の輪読を通じて組織運営における理論と実践的なスキルを学びます。授業で取り上げる論文は、組織構造や文化、リーダーシップ、意思決定、モチベーション、チームマネジメントなど様々なテーマから選ばれるため、受講者は、組織が効果的に機能するための基本的な理論を体系的・学術的に学ぶことができます。さらに、組織の変革やイノベーション、グローバルな視点を取り入れたマネジメント方法を探求し、現代の組織が直面する課題やその対処への理解を深めることができます。

【到達目標】
本授業の履修を通して、受講者には以下の達成が期待されます：
(1) 良質な学術論文を読んで理解することにより、科学的根拠のある情報に基づいてテーマを理解することができる。
(2) ケーススタディやグループディスカッションを通じて、理論を実際の組織運営に応用する力を養うことができる。
(3) 組織を効果的に運営するための戦略的思考力や問題解決能力を高め、実務に役立つスキルを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回の授業は、2コマを1セットとする形式で進められます。初回授業で、現代組織の抱える課題について受講者自身の経験に基づいてブレインストーミングし、それらの解決の糸口となる情報が載せられている論文を輪読していきます。各論文には発表者が割り当てられ、毎回の授業でまず論文の内容に基づくプレゼンテーションがなされます。その後、論文の内容やそれがどのように現代組織の課題解決へと繋がり得るかについてディスカッションを行います。受講者の人数にもよりますが、1名の受講者につき、日本語と英語それぞれにおいて、少なくとも1本ずつのプレゼンテーションを準備することが求められます。また、最終授業では、初回授業でリスト化した現代組織の課題を解決に導く方法についてレビューします。
質問やフィードバックは、毎回の授業で適宜行うと共に、必要に応じてメールその他の方法でも行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	コースの概要、目的、評価基準について知る。また、組織マネジメントの基礎的な概念を確認する。
第2回	ブレインストーミング	現代組織が直面する課題についてリスト化し、その背景や要因についてディスカッションする。
第3回	日本語論文(1)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第4回	英語論文(1)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第5回	日本語論文(2)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第6回	英語論文(2)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第7回	日本語論文(3)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第8回	英語論文(3)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第9回	日本語論文(4)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第10回	英語論文(4)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第11回	日本語論文(5)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第12回	英語論文(5)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第13回	日本語論文(6)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第14回	英語論文(6)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第15回	日本語論文(7)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第16回	英語論文(7)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第17回	日本語論文(8)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第18回	英語論文(8)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第19回	日本語論文(9)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第20回	英語論文(9)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第21回	日本語論文(10)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第22回	英語論文(10)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第23回	日本語論文(11)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第24回	英語論文(11)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第25回	日本語論文(12)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第26回	英語論文(12)	論文のプレゼンテーションとディスカッション
第27回	リフレクション(1)	学びの振り返りと実務における活用方法の検討
第28回	リフレクション(2)	学びの振り返りと実務における活用方法の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の受講者は、毎回の授業の前に学習支援システム（Hoppii）上で共有される授業資料に目を通し、内容を十分把握しておく必要があります。また、発表を割り当てられている受講者は、発表日までにプレゼンテーション資料も準備しておく必要があります。事前準備や復習、プレゼンテーション準備などのために授業外で必要な週ごとの平均時間は、2-3時間です。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。毎回の授業資料は教員と発表者が準備し、事前に学習支援システム（Hoppii）上で共有します。

【参考書】
授業中または学習支援システム（Hoppii）上で適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
ディスカッション：30%
プレゼンテーション：40%
リフレクションエッセイ：30%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等の際に学習支援システム（Hoppii）を利用するため、受講者は毎回の授業に個人のパソコンを持参する必要があります。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際人的資源管理
＜研究テーマ＞
多文化チーム管理、国際バーチャルチーム管理
＜主要研究業績＞
(1)Ebisuya, A., Sekiguchi, T., &Hettiarachchi, G. P., (2023). Narrowing the communication gap in internationally distributed teams: the case of software-development teams in Sri Lanka and Japan. Asian Business &Management. DOI: 10.1057/s41291-021-00169-9.
(2)Sekiguchi, T., Takeuchi, N., Takeuchi, T., Nakamura, S., &Ebisuya, A. (2019). How Inpatriates Internalize Corporate Values at Headquarters: The Role of Developmental Job Assignments and Psychosocial Mentoring, Management International Review, 59(5): 825-853.
(3)Liu, T., Ebisuya, A., &Sekiguchi, T. (2019). Liability or asset? Multifaceted bridging functions in HQ-subsidiary relationships: Transfer, adaption, and within-subsidiary relationships from a multilevel perspective. Proceedings of Academy of International Business 2019.

【Outline (in English)】
In this course, students will learn about the theory and practical skills of organizational management through reading academic papers, after first gaining an understanding of the management issues facing modern organizations. The papers covered in classes are chosen from a variety of themes, including organizational structure and culture, leadership, decision-making, motivation, and team management, so students can learn the basic theories for ensuring that organizations function effectively in a systematic and academic way. Furthermore, by exploring organizational change and innovation, as well as management methods that incorporate a global perspective, students can deepen their understanding of the issues facing modern organizations and how to deal with them.

Students in this course are required to read the class materials shared on the learning support system (Hoppii) before each class and understand the content. In addition, students who have been assigned to give a presentation are also required to prepare their presentation materials by the presentation date. The average weekly time required outside of class for preparation, review, presentation preparation, etc. is 2-3 hours.

In this course, grades will be based on the following indicators: discussion (30%), presentation (40%), reflection essay (30%).

MAN500F1 – 0193（経営学 / Management 500）

経営管理論

中西　善信

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織のマネジメントの仕組みには，何らかの理由や意図がある。一方で，その仕組みが，意図しない副作用（逆機能）をもたらすことがある。
このようなマネジメントの理由や意図，並びに逆機能の多くは，経営管理論の各理論によって説明することが可能である。それらを理解することは，社会を生きる上で有用であろう。
そこでこの講義では，マネジメントの仕組みや行動の背景は何かについて学ぶ。
その際，可能な限り学生の日常生活（仕事など）の実態を参照する。
また，適宜，経営学研究の考え方や方法についても学ぶ。

【到達目標】
1. 経営管理の基本的な概念について，説明することができる。
2. 経営管理の仕組みと行動，並びにそれらの意図・機能・逆機能を，理論に関連付けて説明することができる。
3. （分野が該当する場合）自身の研究テーマを，経営管理論の中に位置づけることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面講義による（ただし，内容により，一部の回をオンラインに変更することがある）。
また，毎授業終了時に小レポートの提出を課す（解答の概要を，次回講義冒頭においてフィードバックする（予定））。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要・履修要件など
第2回	経営管理論とは	経営管理論とはどのような学問領域か
第3回	会社の役割と機能	社会における会社の役割
第4回	コーポレートガバナンス	会社は誰が動かしているのか
第5回	組織とは何か	組織を成立させる要素は何か
第6回	科学的管理法と管理過程論	経営管理のルーツ
第7回	人間関係論	ホーソン実験と非公式集団
第8回	モチベーション	人は何に，どのように動かされるのか
第9回	リーダーシップ	様々なリーダー像
第10回	グループダイナミクス	「三人寄れば文殊の知恵」か
第11回	組織安全	組織事故と安全文化
第12回	キャリア	仕事からみた人の生涯
第13回	人的資源管理	人に働いてもらうためのしくみ
第14回	官僚制組織	規則の体系としての組織
第15回	組織デザイン	分業と調整
第16回	コンティンジェンシー理論	環境や技術と組織構造のマッチング
第17回	経営戦略	組織の目標と活動の指針
第18回	組織文化	メンバーの行動に影響する見えない力
第19回	新制度派組織論	組織はなぜ似るのか
第20回	組織学習①	組織が学ぶとはどのようなことか
第21回	組織学習②	組織学習の課題・人のマネではだめなのか
第22回	イノベーション	なぜイノベーションは難しいのか
第23回	知識創造	アイディア創造と「場」
第24回	事例①	スリーエム社における知識創造
第25回	事例②	トヨタのサプライヤーチェーンにおける知識創造
第26回	経営管理論の研究法①	面接調査とグラウンデッドセオリーアプローチ
第27回	経営管理論の研究法②	質的比較分析（QCA）
第28回	まとめ	講義全体の振り返りと，経営管理論の論文執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とする。
準備としては，配布資料および参考文献（教員が指示）を読み，要点をまとめておくこと。
復習としては，授業の論点を整理してまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。
適宜資料を配布する。

【参考書】
適宜参考文献を指示する。

【成績評価の方法と基準】
各回提出の小レポート（100%）。
ただし，各回のウエイトを変えることがある。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく実際の経営事例を紹介するよう努めている。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用した資料配布や課題提出のため，これに対応可能な情報機器（パソコン等）が必要。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　経営組織論，組織行動論
＜研究テーマ＞　組織学習，正統性，アカウンタビリティ
＜主要研究業績＞　ResearchMapを参照されたい。

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, we will learn the background of management systems and actions.
[Learning objectives] Students can explain basic concepts of business management.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy] Evaluated by papers submitted at each session (100%).

MAN500F1 – 0079（経営学 / Management 500）

ワークショップ（マーケティング）

朝岡　崇史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では『VUCAの時代における企業ブランディングの役割』にフォーカスし、今まさに企業のマーケティング最前線で起きているドラマチックなゲームチェンジについて企業事例をベースに学びます。変化が激しく将来の予測が困難な時代、ブランド体験の刷新やファンづくり、事業成果向上とサステナビリティへの貢献の両立が企業経営に求められています。14週の授業を通して、企業ブランドの役割の変化について学びを深めると同時に、著名な実務家のゲスト講師9名をお招きして先端的なマーケティング理論や企業の具体的な取り組みについてお話をうかがいます。
また毎回の授業の後半（7限）では講義内容に関連したマーケティング課題について複数のグループでワークショップを行い、多視点でのディスカッションにより新鮮な学びや気づきを得ることを目指します。

【到達目標】
ブランド体験やサステナビリティ推進が重要視される時代における企業ブランディングの本質的な役割の変化について、深く、実践的に「学ぶ」とともに「自分ゴト」として「問い」を立てられるようになることを目標とします。具体的には、授業・ワークショップでは以下の３つのステップで企業ブランディングの役割の変化を丁寧に見ていきます。
＜ステップ①＞「ブランド体験とファンづくり」：デジタル時代に入るとSNSの普及などにより、企業とお客さまとの関係性に変化が生まれ、ブランド体験（CX）がブランド差別化のドライバーとなった。さらにSDGsが地球規模の課題として共有されるようになると、企業には環境・社会・経済の同時実現が求められるようになり、必然的に企業ブランドの役割は大きく変わった。
＜ステップ②＞「サステナビリティと企業ブランディング」：企業もこの変化を敏感に察知し、ブランドのファンづくりや事業の持続可能性を前提に「人間の安全保障」を強く打ち出すことで企業価値を高め、顧客をはじめとするステークホルダーからの支持を取り付けるアプローチを行うようになった。
＜ステップ③＞「企業ブランディングのこれから」：ブランド体験やサステナビリティ推進を事業経営の基軸に置くアプローチは国/地域や業種/業態の垣根を超えて、数多くの有力企業に採用され始めている。先端的な企業の取り組みには顧客体験を重視する組織文化やパーパスと密接に結びついた独自のアプローチがあり、卓越した商品開発アプローチや事業ドメインの刷新（「なりわい」革新）に活かされている。
「VUCAの時代の企業ブランディング」のマーケティング理論と具体的な先端企業の取り組みをセットで体得し、多視点でのワークショップを通じて自分の考えを周囲にプレゼンテーション（共有・発信）できるようになることを授業の最終ゴールとします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
秋学期の金曜日の夕方から、朝岡もしくはゲスト講師9名による講義と質疑応答（第6限）＋ワークショップ（第7限）と2時限連続の授業となります。今年度（2026年）も14週（回）の授業すべてを対面方式@大学院棟201教室での実施とします。
業務都合で対面で授業・ワークショップに参加できない受講生のために、Zoomでのリモート配信（リアルタイム）を行なっています。また、授業の復習とレポート作成のために、講義内容のZoomクラウド録画の案内もしています。作成いただいたレポートの内容に関しては、毎回、朝岡からメールで受講生個々人にフィードバックを行います。
授業では経営学研究科以外の受講生の履修登録や、聴講による授業へのスポット参加も歓迎します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	＜イントロダクション＞『VUCAの時代における企業ブランディングの役割』、ブランド戦略策定プロセス（朝岡）	授業のテーマである『VUCAの時代における企業ブランディングの役割』や学習目標の共有
第2回	ワークショップ	VUCAの時代の企業ブランディングの役割に関するグループワーク
第3回	＜ブランド体験とファンづくり＞SNS時代における「動詞のブランディングとCX戦略」（朝岡）	ブランド体験や顧客との共創が重視されるマーケティング
第4回	ワークショップ	ブランド体験や顧客との共創に関するグループワーク
第5回	＜ブランド体験とファンづくり＞ブランド人格（ゲスト講師①：大広 取締役執行役員 鬼木美和先生）	顧客の期待を集め、成長や変革を続けられる企業が持つブランド人格
第6回	ワークショップ	企業のブランド人格の効用に関するグループワーク
第7回	＜ブランド体験とファンづくり＞企業事例：ヤッホーブルーイング（ゲスト講師②：ヤッホーブルーイング よなよなピースラボ長 佐藤潤様）	ヤッホーブルーイングにおけるCX戦略とファンづくり活動
第8回	ワークショップ	ヤッホーブルーイングにおけるファンづくりに関するグループワーク
第9回	＜ブランド体験とファンづくり＞企業事例：資生堂（ゲスト講師③：資生堂ジャパン CFO/執行役員 笹間靖彦様）	資生堂におけるデジタルを活用したCX戦略とファンづくり
第10回	ワークショップ	資生堂におけるファンづくりに関するグループワーク
第11回	＜サステナビリティと企業ブランディング＞サステナビリティ概論（朝岡）	企業ブランディングとサステナビリティ推進の関係
第12回	ワークショップ	企業ブランディングとサステナビリティ推進に関するグループワーク
第13回	＜サステナビリティと企業ブランディング＞組織文化を変革する社内向けパーパス浸透（ゲスト講師④：電通 ブランドコンサルティング部長 中町直太様）	パーパス社内浸透で組織文化を刷新するインターナルブランディング手法
第14回	ワークショップ	パーパス社内浸透で組織文化を刷新するインターナルブランディングに関するグループワーク

第15回	＜サステナビリティと企業ブランディング＞企業事例：「人と自然と響きあう」サントリーのサステナビリティ経営（ゲスト講師⑤：サントリーHD 元サステナブル推進部長 北村暢康様）	「人と自然と響きあう」サントリーのサステナビリティ経営
第16回	ワークショップ	サントリーのサステナビリティ経営に関するグループワーク
第17回	＜サステナビリティと企業ブランディング＞最先端テックの祭典・CESに見る企業ブランディングの役割の変化（朝岡）	過去10年間のCESに見る最先端テック企業のブランディングとサステナビリティの関係
第18回	ワークショップ	CESにおける企業ブランディングの役割の変化に関するグループワーク
第19回	＜サステナビリティと企業ブランディング＞企業事例：イオングループの基本理念とサステナビリティ経営（ゲスト講師⑥：イオンリテール執行役員 金澤基史様）	イオングループの基本理念とサステナビリティ経営
第20回	ワークショップ	イオングループの基本理念とサステナビリティ経営に関するグループワーク
第21回	＜サステナビリティと企業ブランディング＞企業事例：地球環境問題の世界の捉え方と東レの企業ブランディング（ゲスト講師⑦：東レ経営研究所 所長 野中利幸様）	地球環境問題の世界の捉え方と東レの企業ブランディング
第22回	ワークショップ	地球環境問題の世界の捉え方と東レの企業ブランディングに関するグループワーク
第23回	＜企業ブランドのこれから＞企業事例：サントリーの商品開発（ゲスト講師⑧：サントリー チーフスペシャリスト 村上悦郎様）	サントリーのヒット商品づくりの背景にある「ものづくりの志」や独自メソッド
第24回	ワークショップ	サントリーの商品開発の背景にある「ものづくりの志」や独自メソッドに関するグループワーク
第25回	＜企業ブランディングのこれから＞インダストリアルイノベーションと企業ブランディング（ゲスト講師⑨：京都先端科学大学 大学院教授 森一彦様）＊オンライン登壇	価値共創のエコシステムとしての企業ブランディングとオートポイエーシス（自己創成するブランド）
第26回	ワークショップ	価値共創のエコシステムとしての企業ブランディングとオートポイエーシス（自己創成するブランド）に関するグループワーク
第27回	最終まとめ（朝岡）	授業の振り返り（受講生が13週の授業を分担して、学びや気づきをプレゼンテーション）
第28回	最終まとめ（朝岡）	CES2027速報レポート・授業アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備や復習に各々2時間ずつ程度の自主学習をお願いします。
・毎回の授業終了後に全体の振り返り・学び・気づきを個人レポートとして提出（PPT 形式のフォーマットを使用。A4用紙で1 枚程度、授業終了後1週間以内）していただきます。
・毎回の講義まとめの担当を受講生に割り振り、コースの最終日に最終まとめの報告会（プレゼンテーション）を行っていただきます（プレゼンテーション資料は後日提出いただきます）。

【テキスト（教科書）】
特にありません。『なりわい革新 事業×組織文化の変革で経営の旗印をつくる』（朝岡崇史ほか著、宣伝会議、2022年）は初回の授業で受講生に無償配布予定です。

【参考書】
・『ブランド人格』鬼木美和著、時事通信社、2024年
・『ヤッホーとファンたちとの全仕事』佐藤潤著、日経BP、2021年
・『ジョブ理論』クレイトン・クリステンセンほか著、ハーパー・コリンズ・ジャパン、2017年
・『両利きの経営』チャールズ・オライリーほか著、東洋経済新報社、2019年
・『ダイナミック・ケイパビリティ戦略』デビット・ティース著、ダイヤモンド社、2013年
・『ワイズカンパニー』野中郁次郎・竹内弘著、東洋経済新報社、2020年
・『ビジョナリーカンパニー』ジム・コリンズほか著、日経BP 出版センター、1995年
・『ドーナツ経済学が世界を救う』ケイト・ラワース著、河出書房新社、2018年
・『SXの時代』坂野俊哉、磯貝友紀著、日経BP、2021年
・『パーパス＋利益のマネジメント』ジョージ・セラフェイム著、ダイヤモンド社、2023年

【成績評価の方法と基準】
授業後のレポート提出8回以上およびグループワーク/グループプレゼンの参加を前提にして授業レポート50 %、ワークショップでのグループ別報告会・最終まとめのプレゼンテーションの成果30 %、ディスカッションや質疑応答など授業へ貢献度20 %の比率で評価します。
業務都合でリアル対面で出席できない場合、受講生からの事前の申し出があれば、Zoomによるオンライン参加で準出席扱いとします。リアルタイムでの参加ができない場合でも後日のZoom録画視聴により授業レポート提出があれば、成績評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
学びや気づきを深めるため、朝岡やゲスト講師との質疑応答やディスカッションの時間を毎回30分程度設けます。ワークショップのグループ分けは3回変更し、多様なメンバーとディスカッションできるように配慮します。

【学生が準備すべき機器他】
授業へは受講生各自、オンライン会議システム（Zoom）への接続が可能なノートPCの持参をお願いします。7限目のワークショップではリエゾン担当者にパワーポイント形式のテンプレートにグループワークの成果をまとめていただき、プレゼンターにプレゼンテーションしていただきます。

【その他の重要事項】
事業経営のスピードがますます速まる中、経験則に裏打ちされた絶対的な正解はありません。突破力のあるアイデア創出のために、的確な「問い」を立てることが重要になります。
受講生の皆さんには、VUCAの時代における企業のブランディングのあり方について、最適解の可能性を探るための積極的な提言や前向きな議論への関与を期待します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
客員教授　朝岡崇史（あさおかたかし）ブランド戦略とカスタマーエクスペリエンス（CX）戦略を専門とするコンサルタント、ファシリテーター。
＜経歴＞

（株）電通のコンサルティング室長を経て、2017年に（株）ディライトデザインを起業。北京伝媒大学 広告学院 客員教授（2013年）、日本マーケティング協会 マーケティングマスターコース・マイスター（2011年～現在）、新宿ビジネスプランコンテスト・アクティベーター（2019年～現在）などを歴任。
＜主な著書＞
・『エクスペリンス・ドリブン・マーケティング』（ファーストプレス、2014年）
・『IoT時代のエクスペリエンスデザイン』（ファーストプレス、2016年）
・『デジタルマーケティング成功に導く10の法則』（徳間書店　共著、2017年）
・『なりわい革新事業×組織文化の変革で経営の旗印をつくる』（宣伝会議　共著、2022年）

【Outline (in English)】
< Course outline >
The class will focus on “The Role of Corporate Branding in the Era of VUCA” and learn about the dramatic game change that is happening right now on the frontlines of corporate marketing, based on corporate case studies.
< Learning Objectives >
In an era of rapid change and unpredictability, corporate management is required to renew the brand experience, create fans, improve business results, and contribute to sustainability. 14 weeks of classes will deepen learning about the changing role of corporate branding, and 9 guest lecturers will be invited who are prominent practitioners in the field of corporate branding. In the second half of each class, students
will learn about the content of the lectures.
In the latter half of each class, multiple group workshops will be held to discuss marketing issues related to the lecture content, with the aim of gaining fresh learning and insights through discussion from multiple perspectives.
< Learning activities outside of classroom >
Please allow about two hours each for preparation and review. After each class, you will be required to submit an individual report (using PPT format, about 1 sheet of A4 paper, within 1 week after the end of class) on your overall reflections, learning, and findings.
< Grading Criteria /Policy >
On the assumption that students submit at least 8 reports after class and participate in group work/presentations, they will be evaluated based on the following ratios: 50% on class reports, 30% on the results of group debriefings and final presentations at workshops, and 20% on their contribution to the class through discussions, Q&A sessions, and other activities.
If a student is unable to attend the class in person due to work-related reasons, attendance will be counted as online participation via Zoom if requested in advance by the student. Even if you are unable to participate in class in real time, you will be eligible for a grade if you submit a class report by watching a Zoom recording at a later date.

MAN500F1 – 0080（経営学 / Management 500）

マーケティング論

岡田　庄生

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、マーケティングの基礎的な考え方やフレームを幅広く学ぶとともに、最新のマーケティング理論について学びます。さらに、実際の企業ケースを用いた実践的な分析や、マーケティングに関する最新の論文にも触れることで、理論と実践の学習を深めていきます。また、受講生による発表や議論などを通じて、複眼的、多面的に思考する能力を高めます。

【到達目標】
①マーケティングの基本的な用語やフレームについて、実際の事例とともに、自分の言葉で語れるようになる
②マーケティングの理論をもとに実務を分析し、マーケティング戦略上の課題や打ち手などが検討できるようになる
③教科書や論文の精読や発表を通じて、マーケティング分野の研究動向や研究方法について知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業はすべて対面です。2時限続きで14回開講します。
①授業当日：（1コマ目）講師より、教科書に基づいたレクチャーを行います。事例などの補足やグループでのディスカッションを行います。
（2コマ目）担当の受講生による発表およびディスカッションを行います。
②授業後：期限までの授業の感想や質問を記入した「リアクションペーパー」提出を提出します。
③個人発表：受講生は全員、2回の個人発表を行います。1回目のテーマは企業分析です。授業で学んだフレームワークを用いて、特定企業の分析を行います。2回目のテーマは論文紹介です。マーケティング関連の論文を読んで、内容を紹介します。発表内容の詳細や発表日時の担当分けを初回の授業で行いますので、必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回①	授業ガイダンス	授業の進め方や評価方法の説明、担当決め
第1回②	第1章：マーケティング	マーケティングの定義、マーケティングプロセス
第2回①	第2章：企業とマーケティング戦略	マーケティング分析、マーケティングミックス
第2回②	発表・ディスカッション	企業分析の発表
第3回①	第14章：競争優位の創出	競合他社分析、競争志向と顧客志向
第3回②	発表・ディスカッション	企業分析の発表
第4回①	第5章：顧客価値主導型マーケティング戦略	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング
第4回②	発表・ディスカッション	企業分析の発表
第5回①	第3章：マーケティング情報の管理	マーケティング情報システム、マーケティングリサーチ
第5回②	発表・ディスカッション	企業分析の発表
第6回①	第4章：消費者市場の購買行動	消費者行動モデル、購買意思決定プロセス
第6回②	発表・ディスカッション	企業分析の発表
第7回①	第6章：製品、サービス、ブランド	製品分類、サービスプロフィットチェーン、ブランドエクイティ
第7回②	発表・ディスカッション	企業分析の発表
第8回①	第7章：新製品開発と製品ライフサイクのマネジメント	新製品開発プロセス、製品ライフサイクル
第8回②	発表・ディスカッション	論文の発表
第9回①	第8章：価格設定	価格設定プロセス、価格調整戦略
第9回②	発表・ディスカッション	論文の発表
第10回①	第10章：マーケティング・チャネル	垂直的/水平的マーケティングシステム、サプライ・チェーン・マネジメント
第 10 回②	発表・ディスカッション	論文の発表
第11回①	第11章：顧客エンゲージメントと顧客価値の伝達	コミュニケーション・ミックス、コミュニケーション開発プロセス
第11回②	発表・ディスカッション	論文の発表
第12回①	第12章：広告とパブリック・リレーションズ	広告プロセス、メディアミックス、PR
第12回②	発表・ディスカッション	論文の発表
第13回①	第14章：デジタル・マーケティング	デジタル・マーケティング・キャンペーン、オムニチャネル戦略
第13回②	発表・ディスカッション	論文の発表
第14回①	第16章:持続可能なマーケティング	CSV、グリーンウォッシュ、マーケティング倫理
第14回②	発表・ディスカッション	論文の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事業後にテキストの該当章を読み、理解を深めることをお勧めします。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
また、上記以外に個人発表の準備が必要です。
発表は一人2回（企業発表1回、論文発表1回）を想定しています。
発表担当者は、プレゼンテーション資料の事前に提出する必要があります。
課題の詳細は授業の中で説明します。

【テキスト（教科書）】
※昨年度と異なります
フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、スリーダー・バラスブラマニアン、恩藏直人著『コトラー、アームストロング、バラスブラマニアン、恩藏のマーケティング原理』丸善出版(2025年)

【参考書】
フィリップ・コトラー、ケビン・レーン・ケラー、アレクサンダー・チェルネフ著、恩藏直人監修・翻訳 『コトラー&ケラー&チェルネフ マーケティング・マネジメント』丸善出版(2022年)
恩藏直人、 坂下玄哲編『マーケティングの力: 最重要概念・理論枠組み集』有斐閣（2023年）

【成績評価の方法と基準】
①授業の参加と議論への貢献：50%
②担当会の発表：50%

【学生の意見等からの気づき】
学生からの要望により、論文発表へのフィードバックを丁寧に行います

【学生が準備すべき機器他】
発表資料を確認するために、スマートフォンではなくノートPCやタブレットを持参することを推奨します。

【その他の重要事項】
本講座は、広告会社およびコンサルティング会社にてマーケティング分野で20年間の実務経験を持つ教員が担当します。教科書を用いた理論的な解説に加えて、実務での実例を交えて、マーケティングの世界を幅広く紹介します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ユーザー・イノベーション、広告コミュニケーション
＜研究テーマ＞ユーザー発案者効果
＜主要研究業績＞
岡田庄生(2024)『ユーザー発案者効果 ーユーザー創造製品のマーケティング・コミュニケーション戦略ー』碩学社
岡田庄生(2024)「制御焦点の違いがユーザー創造製品の発案者効果に与える影響」『マーケティング・ジャーナル』43(3), 32-43.
岡田庄生(2020)「ユーザー創造製品の情報表示が消費者の製品選択に与える影響：新奇性と有用性の媒介効果に着目して」『広告科学』67, 1-19.

【Outline (in English)】
Course outline
This course provides a broad understanding of fundamental marketing concepts and frameworks, while also introducing the latest marketing theories. Students will deepen their knowledge by analyzing real-world business cases and exploring recent academic papers on marketing. Additionally, through student presentations and discussions, the course aims to cultivate critical and multifaceted thinking skills.
Learning Objectives
-Be able to explain fundamental marketing terms and frameworks in your own words, using real-world examples.
-Develop the ability to analyze business practices based on marketing theories and examine strategic challenges and solutions in marketing.
-Gain an understanding of research trends and methodologies in the field of marketing through in-depth reading of textbooks and academic papers, as well as through presentations.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy
-Contribution to in-class discussions: 50%
-Presentation on assigned topics: 50%

MAN500F1 – 0081（経営学 / Management 500）

消費者行動論

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
消費者行動に関する体系的な知識の獲得ができるように講義をします。マーケティング戦略の策定と実施には、消費者に関する知識が不可欠となります。講義では、消費者の認知・態度・行動とマーケティング戦略との対応づけを意識しながら、また修士論文の作成に向けて必要となる基礎的な知識を組み込み構成します。
履修生は、消費者行動に関する基礎的な知識の獲得と、実践的なマーケティング戦略を意識した消費者知識の獲得を目指してください。

【到達目標】
消費者の認知側面と感情的な態度側面を意識し、実際の行動側面との関係を考えながら、理想的なマーケティング戦略の構築と実践を描けるよう努力して下さい。そのために履修者は、①消費者行動に関する体系的な知識を獲得できるよう、②消費者行動に関する概念や理論を理解することができるよう、③消費者行動とマーケティング戦略との関係が理解できるよう、努力してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義では、マーケティングの基礎となる消費者の理解を目的とするために、消費者に関する体系的な知識とこれまでの歴史的な展開を講義します。また、ケースディスカッションにより、実践的な消費者知識を体得します。さらに、修士論文の作成に向けて、消費者研究の論文について講読し考察します。消費者行動論では、単に消費者の顕示的な行動を捉えるだけではなく、潜在的な認知や態度を理解することによって、それらの連鎖的な関係を捉えていきます。これによって、消費者行動の規定要因とマーケティング戦略との関係を考察することができます。
第1回～第2回は、授業ガイダンスと本講義の体系を概説します。第3回～第4回は、マーケティングにおける消費者行動の位置づけを確認します。第5回～第6回は、消費者行動論の歴史的な展開を説明します。第7回～第10回は、消費者行動のモデルについて説明します。第11回～第15回は、具体的な情報処理とその規定要因について説明します。第16回～第18回は、消費者とブランドとの関係について説明します。第19回～第24回は、ケースディスカッションを行いながら、消費者の情報処理とブランドマーケティングについて理解します。第25回～第26回は、修士論文作成のための準備をします。第27回は、授業の総括を行います。第28回は、授業の理解度を確認する最終試験を行い、終了後に解説とフィードバックを行います。
毎回、資料やケースを配布する予定です。
課題等に対するフィードバックについては、授業中に解説します。
授業形式は原則として対面を予定しておりますが、オンラインの回も予定しております。オンラインの場合には事前にご案内します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	講義の進め方や学習の方法に関する説明をします。
第2回	消費者行動論の概説	当科目の体系的な解説をします。
第3回	消費者行動とマーケティング1	マーケティングにおける消費者行動の位置づけを説明します。
第4回	消費者行動とマーケティング2	消費者行動のマーケティングへの応用を説明します。
第5回	消費者行動研究の歴史1	消費者行動研究の前史について説明します。
第6回	消費者行動研究の歴史2	行動科学的な消費者行動研究の展開を説明します。
第7回	消費者行動のモデル1	消費者行動モデルの概要について解説します。
第8回	消費者行動のモデル2	刺激－反応モデルと態度モデルについて説明します。
第9回	消費者情報処理モデル1	消費者情報処理モデルについて、その概要を説明します。
第10回	消費者情報処理モデル2	消費者情報処理モデルのメカニズムについて解説します。
第11回	情報の探索	内部探索と外部探索とこれらの規定要因についての説明をします。
第12回	情報の解釈	情報の解釈メカニズムについて説明します。
第13回	情報の評価	評価方略について説明します。
第14回	情報処理の規定要因1	規定要因である動機づけについて解説します。
第15回	情報処理の規定要因2	規定要因である能力について解説します。
第16回	消費者とブランド1	ブランドについての概説をします。
第17回	消費者とブランド2	ブランド構築とその事例について詳解します。
第18回	消費者とブランド3	ブランドのアイデンティティとイメージについて説明します。
第19回	ケース討議1：ディスカッション	ケースディスカッションを行います。
第20回	ケース討議1：フィードバック	ケースディスカッションのフィードバックをします。
第21回	ケース討議2：ディスカッション	ケースディスカッションを行います。
第22回	ケース討議2：フィードバック	ケースディスカッションのフィードバックをします。
第23回	ケース討議3：ディスカッション	ケースディスカッションを行います。
第24回	ケース討議3：フィードバック	ケースディスカッションのフィードバックをします。
第25回	修士論文作成に向けて	作成に向けた詳細な指導をします。
第26回	論文購読	消費者行動関連の論文を購読します。
第27回	講義全体のまとめ	これまでの授業内容の総括をします。
第28回	最終試験	解説とフィードバックをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各8時間を標準とします。
初回に配布する文献リストに基づき、第18回までは、事前に該当する書籍を熟読して授業に臨んで下さい。第19回からのケース討議と論文講読では、事前に配布する資料を熟読して、自分なりに整理をして授業でのディスカッションに備えて下さい。

【テキスト（教科書）】
適宜案内します。

【参考書】
『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』（青木幸弘他、有斐閣アルマ、2012年）
『ケースに学ぶ消費者行動』（新倉貴士・髙橋広行編、有斐閣ブックス、2026年）

【成績評価の方法と基準】
ケース討議への貢献（30％）
　ケース討議・論文講読への貢献は、発言回数とその内容で判断します。
最終試験（70％）
　最終試験では、講義とケースに関する理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】
資料の投影に気をつけながら進める予定です。
音量と画像の鮮明度に配慮する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【その他の重要事項】
マーケティング論、マーケティング・リサーチ論を履修しておくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】
https://researchmap.jp/Niikura_Takashi

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course is a series of lectures and discussions, structured to give students some of the basic, fundamental understandings on consumer behavior and brand marketing strategy. To understand consumer, students will learn consumer's cognition, attitude, and behavior.
【Learning Objectives】
Major course objectives are;
-To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.
-To learn consumer information processing model.
-To understand the relationship between consumer and brand.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

MAN500F1 – 0082（経営学 / Management 500）

マーケティング・リサーチ論

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　現在、マーケティング・リサーチの知識は、実務や研究において必須ともいえるだろう。
　本授業では、マーケティング・リサーチをはじめて学ぶ大学院生が理解しやすいように、定性調査と定量調査の方法論を理解した上で、実際にインタビューなどの定性調査をもとに仮説を設定し、アンケート作成やさまざまなデータ分析などの定量調査をもとにその仮説を検証することを通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を体系的・実践的に学ぶ。

【到達目標】
　到達目標としては、以下の３点に整理できる。
　①インタビューなどの定性調査のスキルを身につけ、自ら実際に分析し、その結果を考察することができる。
　②アンケート作成やさまざまなデータ分析などの定量調査のスキルを身につけ、自ら実際に分析し、その結果を考察することができる。
　③複数の定量調査を用いて、仮説を検証することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　受講生が理解しやすよう、以下の工夫をして、授業を進める。
　定量調査を実践的に学べるように、サンプルデータをもとに、テキストにそって無料版の「RStudio」（統計分析ソフト「R」を便利につかえるアプリ）を使ったミニ演習を多く実施する。
　定性調査も、デプスインタビューの仕方を説明した上で、受講生同士で、インタビューを相互に実施する。
　レポート作成では、複数の最終レポート例をもとに、その手続きも含めて詳しく説明する。
　大事なプロセスでは、中間報告があり、受講生の理解状況の確認が行われつつ、指導が行われる。こうした進め方をするため、はじめてリサーチを実施する方でも大丈夫である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	なぜマーケターに統計分析が必要なのか？ データは平均だけでなく「ばらつき」も大事	記述統計と標準偏差 ・RStudioの操作、ミニ演習 ・パソコンを持参のこと（次週以降も同様）
第2回	2つの変数の関係は強い、弱い？	相関と連関 ・RStudioを使ったミニ演習
第3回	その「仮説」はマーケティングに使えるか？ 関係性をマーケティングに活かす	推測統計と仮説検定、無相関検定 ・RStudioを使ったミニ演習
第4回	クロス集計表から効果をあぶり出せ！ その平均値の差に意味があるか、検証する	カイ二乗検定とt検定 ・RStudioを使ったミニ演習
第5回	ある変数から目的の変数の予測モデルをつくる 複数の変数の影響を考慮したモデルを使いこなせ	単回帰分析と重回帰分析 ・RStudioを使ったミニ演習
第6回	実験に必須の手法を学ぶ！ 潜在変数を探し出す	分散分析と因子分析 ・RStudioを使ったミニ演習
第7回	最終レポートのイメージをつかむ	最終レポートの説明 ・レポート例を提示
第8回	インタビューから仮説を立てる	仮説設定とデプスインタビュー ・デプスインタビューのミニ演習
第9回	第1回中間レポートの報告	インタビューと仮説の中間報告
第10回	適切なアンケートの作成の仕方とサンプリングを学ぶ	アンケートとサンプリング ・アンケートフォームを実際に作成 ・プレリサーチ
第11回	第2回中間レポートの報告	アンケートとサンプリングの中間報告
第12回	リサーチの実際	ゲスト講師による講演。
第13回	早期最終レポートの報告	早期最終報告 ・早期最終レポートの提出・報告
第14回	最終レポートの報告	最終報告 ・最終レポートの提出・報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業の予習・復習および、データ収集、最終レポートの作成を行うこと。毎週２時間程度は必要となる。

【テキスト（教科書）】
西川英彦・佐保圭(2026)『文系マーケターのためのゼロから使える統計分析』日経BP
＊7月出版なので、資料は学習支援システムにアップする

【参考書】
①山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎(2008)『Rによるやさしい統計学』オーム社
②山田剛史・村井潤一郎(2004)『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房
③恩藏直人・冨田健司(編)(2022)『1からのマーケティング分析 (第2版)』碩学舎
④南風原朝和(2002)『心理統計学の基礎』有斐閣
⑤マルホトラ(2006)『マーケティング・リサーチの理論と実践：理論編』同友館
⑥ベルク・フィッシャー・コジネッツ(2016)『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎
⑦豊田秀樹(編)(2012)『回帰分析入門 – Rで学ぶ最新データ解析 –』東京書籍
⑧阿部幸大(2024)『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社

【成績評価の方法と基準】
・中間レポート・報告（10点×2回=20点）、講義や演習での発言・議論参加（50点）、最終レポートおよび報告（30点）
・早期最終レポートの報告者には、全員10点の加点あり（早期レポート制度）。
・評価対象は講義回数の3分の2以上の出席が最低条件である。なお、遅刻は２回で１回の欠席扱いとなる。

【学生の意見等からの気づき】
①受講生の理解に差があるため、基礎編と実践編、より深くに分けて、説明を行う。
②実践編では、サンプルデータを用いたミニ演習を多くし、理解をしやすくする。
③レポート例をもとにイメージしやすい課題の説明をする。さらに、確実に課題を進めらるように、リサーチ・プロセスの途中段階での中間報告を実施する。
④全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

【学生が準備すべき機器他】
　各自、ノートパソコンを持参すること。なお、無料版アプリの「RStudio」を使うために、学習支援システムの資料を参考に、同ソフトと無料統計分析ソフトの「R」を、事前にパソコンにインストールしてくること。

【その他の重要事項】
　受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
　クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
　著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
　論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
Course Outline
Currently, knowledge of marketing research is essential both in practice and in academic research.
This course is designed to help graduate students who are learning marketing and research methods for the first time acquire a systematic and practical understanding of marketing research.
Students will first learn the fundamental methodologies of qualitative and quantitative research. After understanding qualitative methods such as interviews, they will develop hypotheses based on qualitative findings. They will then learn quantitative methods, including questionnaire design and data analysis, and test their hypotheses using survey data and other quantitative datasets. Through this process, students will systematically and practically acquire the skills necessary to conduct marketing research.
Learning Objectives
The learning objectives of this course are summarized as follows:
1. To acquire skills in qualitative research methods such as interviews, and to be able 2. to analyze and discuss the results.
3. To acquire skills in quantitative research methods, including questionnaire design and various types of data analysis, and to be able to analyze and discuss the results.
To be able to test hypotheses using multiple quantitative research methods.
Learning Activities Outside of Classroom
Students are required to prepare for and review each class session, collect data, and work on assignments and the final report outside of class.
Approximately two hours per week are expected for preparation and review.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the following criteria:
・Mid-term reports (10 points × 2 =20 points)
・Comments and participation in lectures and exercises (50 points)
・Final report (30 points)
Students who submit the final report early will receive additional points (early submission system).
Attendance of at least two-thirds of the lectures is required for evaluation. Two instances of tardiness will count as one absence.

MAN500F1 – 0084 （経営学 / Management 500）

マーケティング・サイエンス論

長谷川　翔平

備考（履修条件等）：偶数年に開講

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業ではマーケティング・データを定量的に分析し，ビジネスで活用する手法を学ぶ。ビジネスにおいてマーケティング・データを分析する主な目的は予測と効果検証にある。本授業では，消費者の購買ブランドや将来の売上げを予測する手法と広告などのマーケティング施策が消費者の購買行動に影響を与えているか施策の効果を検証する手法を学ぶ。また，発展的な内容として，近年，マーケティングでも活用が進む商品レビューや口コミなどのテキストデータを分析する手法も学ぶ。授業では消費者の行動データおよびその集計データを中心に扱うが，分析手法はB-to-Cだけでなく B-to-Bマーケティングでも活用できるものである。

【到達目標】
・様々なデータに対して最適な分析手法を提案できる。
・データから市場構造や消費者特性に関する知見を得ることができる。
・分析結果を分かりやすく報告することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
1回の授業で教員による講義と受講生による論文輪読を行う。
[講義]
マーケティング・データの活用および定量分析の方法を学ぶ。主に消費者の行動データの分析手法を扱うが，一部アンケートデータの分析手法も扱う予定である。毎回，講義の後半にフリーの統計解析ソフトRを用いた実習を行い，学んだ手法の理解を深める。
[論文輪読]
授業で学んだ手法が使われている論文を輪読する。受講者は各自で興味のある論文を探し，その論文の研究目的や具体的なモデル，分析結果などを報告し，参加者で議論を行う。論文の探し方などは初回授業で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業で学ぶことを概観する
第2回	回帰分析①	集計データからのマーケティング活動の効果測定
第3回	回帰分析②	線形回帰分析を応用した研究論文の輪読
第4回	ロジットモデル	ブランド選択データからの消費者選択行動分析
第5回	イベント・ヒストリー分析	新製品採択や顧客離脱などのイベントが起きるまでの期間の分析
第6回	クラスタリング	クラスタリングモデルと潜在クラスモデルによる消費者セグメンテーション
第7回	共分散構造分析	アンケートデータからの消費者態度分析
第8回	時系列因果推論	セレクションバイアスとRCT
第9回	差分の差分法	差分の差分法によるマーケティング施策の効果検証
第10回	傾向スコア分析	傾向スコアマッチングによるマーケティング施策の効果検証
第11回	テキスト分析	テキストデータからの知見獲得
第12回	時系列分析	トレンドや周期性などを考慮した市場予測・反応分析
第13回	期末レポート報告①	レポートのテーマ報告
第14回	期末レポート報告②	レポートの最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・論文輪読：各自で報告する論文を探し発表資料を作成する。
・レポート報告：各自の報告テーマに関して調査を進め，発表資料を作成する。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。

【参考書】
佐藤『マーケティングの統計モデル』朝倉書店（2015）
安井『効果検証入門』技術評論社（2020）
森田『実証分析入門』日本評論社（2014）
石田『Rによるテキストマイニング入門 第2版』森北出版（2017）
村松ほか『Rユーザーのための RStudio実践入門 改訂2版』技術評論社（2021）

【成績評価の方法と基準】
・議論参加：20％
・論文輪読の報告：40％
・レポート：40％

【学生の意見等からの気づき】
授業の時間配分に気をつけたい。

【学生が準備すべき機器他】
・ノートパソコンを持参すること。
・Google Classroomで資料配付を行う。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング・サイエンス
＜研究テーマ＞
ベイズモデリングによる消費者行動データの分析
＜主要研究業績＞
https://researchmap.jp/7000007775

【Outline (in English)】
（Course outline &Learning Objectives）
The purpose of this course is to learn methods of analyzing marketing data. At the end of the course, students are expected to acquire skills to collect and analyze marketing data.
（Learning activities outside of classroom）
Students prepare presentation materials for the literature review and the final report. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
In-class contribution (20%), literature review (40%), and final report (40%).

MAN500F1 – 0085 （経営学 / Management 500）

サービス・マネジメント論

木村　純子

備考（履修条件等）：偶数年に開講

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サービス・マーケティングを学ぶ人は、自分が経験・体験したことがあるサービスしか語ってはいけないと思っています。インターネットを始めとする情報技術の発達のおかげで、私たちはさまざまな情報を手に入れることができるようになりました。見たことがないことも、まるで見たことがあるように語ることが簡単にできてしまう世の中だからこそ、実際の体験が重要です。
本講義では、各セッションのテーマに合わせた体験をしていただきます。授業の時間以外の時間とお金を費やすことになりますが、「コスト」とは思わず「（自分への）投資」だととらえてください。
講義では、サービス・マーケティングに関わる理論と概念を身につけます。各受講生は学んだ理論を体系的に整理し組み立てながら、自身が集めたデータ（現実）を分析し現象を説明します。

【到達目標】
サービス・マネジメント論の理論を理解し、研究の方法も学びます。各章でサービス・イノベーションに成功した事例を取り上げます。現象を説明するための理論枠組みを理解し、分析概念を定義した上で、取り上げた事例の具体的なデータを用いて自身の仮説を検証していきます。
　活動を通じて、4つの力を習得することを本講義の達成目標とします。
1) 自分で問題意識(リサーチ・クエスチョン)を設定する力
2) 具体的な事例からデータを収集する力
3) データを用いて自身の仮説を検証する力
4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
（1）授業前課題をベースに、グループでディスカッションし発表します。
（2）講師が基本的概念・理論を説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	マーケティングの基本的概念
第2回	理論と現実の架橋	古典的な理論枠組みを用いて現実のデータを説明する
第3回	方法論	定性的方法論の意義と限界
第4回	サービス・プロフィット・チェーン	事例：ブックオフ・コーポレーション
第5回	ホスピタリティ・マーケティング	事例：巣鴨信用金庫
第6回	グループプロジェクト中間報告	各グループによる進捗状況のプレゼンテーションとフロアとのディスカッション
第7回	ラグジュアリ・マーケティング	事例：リッツカールトン大阪
第8回	食品産業クラスターのサービス・イノベーション	事例：オランダのフードバレー
第9回	サプライチェーンのイノベーション	事例：CRAI
第10回	グループプロジェクトの中間報告会	各グループによる進捗状況のプレゼンテーションとフロアとのディスカッション
第11回	ゲスト・スピーカー	調整中
第12回	農産物のサービス・イノベーション	事例：サントリー
第13回	サービス・エンカウンターのマネジメント	事例：リテール・ソリューション
第14回	グループ・プロジェクト報告会	各グループによる最終プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業内でのディスカッションを活発にすることを目的としています。そのために、事前課題に取り組んでいただきます。
（1）授業マテリアルを読んでください。
（2）マテリアルの内容を要約してください。
（3）授業前課題が出ている場合はレポートに取り組んでください。

【テキスト（教科書）】
ありません。

【参考書】
適宜、指定&配布します。

【成績評価の方法と基準】
（1）授業前課題（レポート）10%
（2）授業内のディスカッションと発表 50%
（3）グループ・プロジェクト(Peer evaluation) 40%
以上を総合的に判断します。
100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
「フィールドワークが中心となる課題の負荷が高い」というご指摘がありますが、サービスは製品と異なり目に見えないことから、実際に体験して自身でそのサービス財の特性を理解することが重要です。インターネットの検索に依存しない、自分の足でデータを集める手間を惜しまないサービス・イノベーターになれるよう努めてください。

【担当教員の専門分野等】
テリトーリオ、地域活性化、
農作物マーケティング

【最近の研究業績】
(1)木村純子・二階堂行宣・佐野嘉秀・藤本真(2026)「日本型テリトーリオ形成の論理: 鹿児島県大隅の事例を手がかりに」『イノベーション・マネジメント』23.
(2)木村純子・陣内秀信編著(2026)『イタリア流テリトーリオの底力: デザイン・ファッションから農業・食文化まで』白桃書房.
(3) Kimura, Junko. &Rigolot, Cyrille. (2025) The Potential of Geographical Indications (GI) to Enhance Sustainable Development Goals (SDGs) in Japan, with GI Mishima Potato as a Case Study," Vandecandelaere, Emilie., et als. (eds) Worldwide Perspectives on Geographical Indications: Crossed Views between Researchers, Policy Makers and Practitioners, Springer.
(4)木村純子・陣内秀信編著(2024)『南イタリアの食とテリトーリオ: 農業が社会を変える』白桃書房.

【委員等】
(1) 内閣府　クールジャパン・アカデミアフォーラム(2023年～現在)
(2)財務省　国税審議会委員、及び酒類分科会会長代理 (2021年～現在)
(3) 日本チーズ認証基準策定事業　実行委員会　委員(2021年～現在)
(4) JMILK国際委員会 委員(2021年～現在)
(5) 農林水産省「特定農林水産物等の名称(GI)の保護に関する法律施行規則第10条」の規定に基づく農林水産大臣が意見を聴く学識経験者　総合検討委員 (2015年～現在)
(6) 日本マーケティング学会　理事(2019年～現在)

【2025年度に獲得した競争資金】
(1)2025年度～2027年度科学研究費補助金基盤研究C「商工業と農業の理論的・歴史的接合：イタリアのテリトーリオ概念を手がかりに」

(2)2024年度～2025年度国立研究開発法人科学技術振興機構令和6年度共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)【地域共創分野・育成型】「農村と都市との豊かな結びつきを育む「いわて畜産テリトーリオ」創造拠点」代表：岩手大学・澤井健

【Outline (in English)】
1. Course outline
Students who learn service management can talk about and argue services only when they have experienced the services by themselves. Thanks to the development of information technology such as the Internet and social networking systems, we can obtain various types of information. The actual experience becomes more important in such a world where people can mention things they have never seen.
2. Learning Objectives
In this lecture, students will experience services based on the theories they learn in each session. Any time and money they spend outside the classroom would be investment (instead of "cost") on themselves. In the lecture, they interdisciplinarily learn the theory and analytical concepts related to service management. Each student systematically organizes and learns the theories they have learned, while analyzing the data (reality) they collected and experienced.
3. Learning activities outside of classroom
Students will conduct field research on service management.
4. Grading Criteria/Policy
(1) Pre-class assignments (reports): 10%
(2) In-class discussions and presentations: 50%
(3) Group projects (Peer evaluation): 40%
These will be evaluated comprehensively.
The total score is out of 100 points, and a score of 60 or above is required to pass.

MAN500F1 – 0142（経営学 / Management 500）

定性的方法論

田路　則子

備考（履修条件等）：隔年開講。昼間「リサーチ・メソッド」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学術論文を定性調査によって書くための方法論を体系的に学ぶ。ケーススタディ（事例分析）、エスノグラフィ（参与観察等）、歴史アプローチにおける、フィールドワーク、データ分析、理論構築、記述までのプロセスを学習する。さらに、秀でた研究を読むことにより、理解を深める。

【到達目標】
修士または博士論文作成を見据えた、定性的方法論を修得する。方法論はマーケティング領域以外にも共通であり、戦略論や組織論の論文作成を予定している学生の履修も歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
理論書を読んで理解した上で、サンプル論文を読み、理論構築の実際を確認していく。教員が用意したサンプル論文にこだわらず、読みたい論文を学生が持ち込み、皆で読んで評価するという参加型の講義にしたい。
第一週の講義はオンラインZOOMで実施をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	イントロダクション	問題ある修士論文の例/理論書「実証研究の方法」藤本隆宏
2回	実証研究における理論構築	理論書「実証研究の方法」藤本隆宏/「クチコミ」田路の修士論文
3回	ケース・スタディ	理論書「ケーススタディの方法」R・Kイン 序- 4章/
4回	ケース・スタディ	理論書「ケーススタディの方法」R・Kイン 5-6章
5回	ケース・スタディ	「イノベーションの資源動員と技術進化」松本陽一
6回	ケース・スタディ	理論書「ケース・スタディのアプローチ」横澤
7回	ケース・スタディ	「小売国際化プロセス」矢作敏行 3,5章
8回	歴史的アプローチ	「組織は戦略に従う」A・D・チャンドラーJr. 序-2章
9回	歴史的アプローチ	「組織は戦略に従う」A・D・チャンドラーJr. 3,6,7章
10回	質的データ分析ーコーディングの手法	理論書「質的データ分析法」佐藤郁哉 1-8章/「看護師の倫理的ジレンマ」のコーディングのサンプル
11回	質的データ分析ーインタビューの方法	インタビューのロール・プレィ
12回	エスノグラフィ	「暴走族のエスノグラフィー」佐藤郁哉　1,終章
13回	エスノグラフィ	「洗脳するマネジメント」ギデオンクンダ 3、解説章
14回	エスノグラフィ	「京都花街の経営学」西尾久美子 書籍&ビデオ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、リーディングに対して、簡単なメモを作成してくる。およそ4時間程度の準備が必要となる。

【テキスト（教科書）】
「ケーススタディの方法」　R・Kイン　千倉書房
「質的データ分析法」　佐藤郁哉　新曜社

【参考書】
「組織と経営について知るための実践フィールドワーク入門」佐藤郁哉　有斐閣
「組織行動の調査方法」　E・Fストーン　白桃書房
「創造的論文の書き方　」伊丹敬之　有斐閣
「リサーチマインド経営学研究法」　藤本隆宏他、有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】
課題に対するメモ提出と授業への貢献
課題提出６０%、議論４０%

【学生の意見等からの気づき】
自身の研究計画の経過を紹介し、受講生間で意見交換することは有意義であった。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営戦略、技術経営、アントレプレヌールシップ
＜研究テーマ＞
「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」
「ハイテク・スタートアップの成長」
「ハイテク産業集積のエコシステム」

【主要業績】
①「スピンオフ・ネットワーク形成と発展のメカニズム －事業停止が生んだスピンオフにおける刷り込みの分析―」田路則子・福嶋路・五十嵐伸吾『イノベーションマネジメント』法政大学,22巻,pp.175-205,2025年.②「スウェーデンの起業家大学から生まれるハイテク・スタートアップ」田路則子・五十嵐伸吾『マーケティングジャーナル』43号4巻, pp.31-42,2024年.③「大学生の起業意思形成モデルの検証」田路則子・藤村まこと・玉井由樹『組織科学』56巻3号, 2023年.④「新興国スタートアップの資金調達と新興企業向けの株式市場の役割-バルト三国のケース・スタディから」簗田優・田路則子 『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第37巻, pp.73-77,2021.⑤『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年.⑥「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号,pp172-184,2017年. ⑦Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies," Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14,pp.263-287,2014. ⑧『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子,東洋経済新報社,2010年. ⑨「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学,第8巻,5号,pp211-231,2009年. ⑩『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子,白桃書房,2005年

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】: Students learn several methodologies of qualitative research; case study, historical approach and ethnography.They can realize the process of field work, data analysis, theory construction and writing. In order to deepen understanding methodologies, they must read outstanding papers and books.
【Learning activities outside of classroom】: Students have to submit small reports every week.
【Grading Criteria /Policy】: small reports(60%) and class contribution(40%)

MAN500F1 – 0107（経営学 / Management 500）

経営学基礎

福島　英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学は幅広い研究領域を持ちますが、本年度は「企業戦略」および付随するマネジメントを基本的なテーマに据えます。この授業の目的は、修士論文・リサーチペーパーを翌年に書くための準備として関連する経営学研究の基礎的な知識を習得することにあります。経営層の戦略的な意思決定として、垂直統合や多角化、国際化など企業の事業範囲を決めることになる「企業戦略とそのマネジメント」について学んでいきます。

【到達目標】
企業戦略の意思決定とマネジメントに関する経営学研究について、現実と対照させて深く理解し、論文作成の基礎とすることが到達目標です。先人達の問題設定と答えを見ていくことで、この領域に関して経営学研究では何が問題とされ、どのようなアプローチが行われ、これまでどのような見解が明らかになっており、研究間にどのような関係があるのかを、修士水準の国際的に定評のある文献の輪読と討議で理解していきます。基礎的な経営学研究を現代の経営問題につなげて考えられることが、期待されます。自分の論文の構成イメージにつながるとなお良いでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業では教科書該当章の輪読を行い、教員が解説します。受講者は全員が各回文献を読んで、段落ごとの内容報告と質疑に参加できる準備をお手元にします。英語文献を扱いますが（理解していれば）準備のためのツールご使用は構いません。各回、入念な準備とご関心からの内容に応じた討議点をご用意いただきます。
また、輪読内容に関する身近なケースの受講生による報告と討議回を間に挟みます。ケース報告の担当回には、レジュメ（プレゼンテーション資料）を事前にHoppiiへ投稿共有していただきます。担当者はレジュメには内容と討議すべき問題をまとめていただき、授業では報告と討議リードを行います。
輪読およびケース報告ともに、教員のコメント・解説が行われます。概念と現実の往復を念頭に、現象面の関心事にひき付けて理解して下さい。なお受講人数に応じて報告討議回に関連する論文の輪読が割り当てられる場合があります。
輪読は全員で行いますが、受講生の人数と関心をうかがってケース報告討議回の数と担当を決定したいため、第１回目の授業に必ず参加して下さい。第１回目に参加できなかったが履修意思がある場合は、第２回目当日迄にご相談ください。企業戦略の各トピックスはそれ自体修士論文・リサーチペーパーのテーマになるような研究の広がりを持ちます。オンライン開講の際は学習支援システムや授業内でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	問題意識の共有と授業の進め方
第2回	取引コストと企業の範囲	垂直統合の利点とコスト
第3回	垂直関係のデザイン	タイプと選択
第4回	ケース・論文研究	垂直統合のケース/論文報告討議
第5回	グローバルな競争優位	国地域の影響
第6回	多国籍の戦略と組織	グローバル統合とローカル適応
第7回	ケース・論文研究	グローバル戦略のケース/論文報告討議
第8回	多角化の動機	基礎的論理
第9回	多角化と事業の競争優位	内部市場と関連性の意味
第10回	ケース・論文研究	多角化戦略のケース/論文報告討議
第11回	本社の役割	資源共有と配分
第12回	事業の管理	統制とガバナンス
第13回	ケース・論文研究	多角化組織マネジメントのケース/論文報告討議
第14回	外部資源活用の企業成長	M&A・提携の論理成果とマネジメント
	まとめ・最終課題	学習成果の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定範囲を事前に読み、レジュメにおいて、要約を書き、疑問点や問題点を明確にしておきます。準備学習に4時間・復習に1時間を要します。

【テキスト（教科書）】
Grant, R. M. 2024. Contemporary Strategy Analysis, 12th ed., Wiley.の該当章（旧版の邦訳もやや内容は古いですが参考にはなります（現代戦略分析））。教材として論文を輪読する際は授業内や授業支援システムで指示いたします。

【参考書】
適宜お知らせします。イノベーションの観点から戦略と組織に関する基本的な知識を補いたい場合は、以下をご参照いただけます。Burgelman. R. Christensen. C. Wheelwright S. 2008. Strategic Management of Technology and Innovation, 5th ed., McGraw-Hill.（邦訳・技術とイノベーションの戦略的マネジメント）

【成績評価の方法と基準】
授業中の報告・発言（35％）ケース等報告討議（35％）、レジュメその他課題（30％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生による報告回を設け、主たる担当を決めることにいたしました。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに、急なお知らせや関連資料が掲載されることがあります。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】
授業外でどうしても教員へアクセスが必要な場合、fksmhs@gmail.comへご相談ください。

【担当教員の専門分野】
日本企業の戦略と組織

【研究テーマ】
戦略と組織・イノベーション、産業発展とグローバル化、経営学説史など

【主要研究業績】
・「グローバル・ストラテジー 国際的な市場機会と競争優位の実現」『学史から学ぶ経営戦略』（文真堂）, 2022.5. ・「オープン・イノベーション・ワールド探訪-概念検討と画像半導体産業揺籃期」『経営志林』53 (1), 2016. ・“Inside Cooperative Innovation: Development and Commercialization of Sodium-Sulfur Batteries for Power Storage,” IIR Case Studies (Hitotsubashi University), 13 (1), 2013. ・「アンソフ戦略論への批判」『経営学史叢書 IX アンソフ』（文真堂）, 2012. ・「技術開発プロジェクトの国家支援と成果」『経営志林』47(3),2010. ・「事業の多様化と経営成果―時間展開と企業間相互作用」『経営志林』46(3), 2009. ・"The Network Structure of Open Innovation and the Creativity in the Semiconductor Manufacturing Equipment Industry," co-author, IIAI-AAI, 2023, IEEE.

【Outline (in English)】
(Course outline) This course deals with essential knowledge on corporate strategy. We focus on the management of vertical integration, diversification, global strategy and their organizations. (Learning Objectives) The goal of this course is to learn essential academic concepts and theories related to the management of corporate strategies. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to consider real life businesses from academic concepts and theories. The study time will be five hours for a class. (Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on literature reports and in-class contribution (35%), case lead and discussion (35%), and other assignments (30%).

MAN500F1 – 0108（経営学 / Management 500）

財務会計基礎

齋藤　真哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、企業会計における前提や基礎概念を解説し、その上で、会計制度がいかに構築されているのかを検討する。かかる検討を踏まえて、個々の事象に係る会計基準がいかなる考え方の理解を深めることとする。すなわち、企業会計の基礎となる諸概念を理解し、それらに関する整合性のある理解に基づいて、個々の会計処理の合理性を検討する能力を培うことが、本授業の目的である。

【到達目標】
企業会計の基礎となる諸概念の説明ができること。
企業会計の諸概念と会計制度の関係を理解すること。
企業会計の諸概念と各会計基準との整合性の有無について検討できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
配布するレジュメを使用して、下記授業計画に従って、講義形式にて授業を進める。
なお、課題提出やディベートを行う機会を設けることを予定している。
授業は、基本的に対面式で行うことを予定している。
ただし、教員や受講生の都合で、リモート式で授業が行われる可能性もあるので、対応可能なように準備をしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、授業内容（会計領域の説明と当該授業の範囲の説明を含む）。
第2回	企業会計の基礎概念（1）	記録対象の性格付け 会計単位と会計期間
第3回	企業会計の基礎概念（2）	会計主体 複式簿記と会計上の諸要素
第4回	企業会計の基礎概念（3）	企業会計におけるキャッシュフロー制約 収益費用アプローチと資産負債アプローチ
第5回	会計制度（1）	企業会計をめぐる法的規制 会社法会計 金融商品取引法会計 税務会計
第6回	会計制度（2）	企業会計の原則・基準 概念フレームワーク 会計基準をめぐる国際的動向
第7回	損益計算論（1）	収益・費用の計算基準 収益の認識基準
第8回	損益計算論（2）	棚卸資産の費用化 固定資産の費用化
第9回	損益計算論（3）	リース会計 引当金
第10回	損益計算論（4）	法人税等 (時間的余裕によるが、ディベートの機会を設けたい)
第11回	貸借対照表論（1）	資産の本質と評価基準 債権 有価証券
第12回	貸借対照表論（2）	デリバティブ ヘッジ会計 棚卸資産の期末評価 固定資産の期末評価
第13回	貸借対照表論（3）	負債 純資産
第14回	財務諸表の表示	貸借対照表 損益計算書 株主持分等変動計算書 キャッシュ・フロー計算書 連結財務諸表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
準備学習として、授業中に紹介する参考文献等を参考にして、次回の授業内容について予備的知識を得るようにしてください。復習として、レジュメに沿って授業での説明や検討を振り返り、理解を深めるとともに、授業での説明等のなかで生じた疑問や納得がいかない点等が生じた場合には、必ず次回の授業にて質問を行うこと。

【テキスト（教科書）】
特になし。授業では、レジュメを配布します。

【参考書】
・佐藤信彦・齋藤真哉ほか編著『スタンダード・テキスト　財務会計Ⅰ 基本論点編　第19版』中央経済社、2026年。
・佐藤信彦・齋藤真哉ほか編著『スタンダード・テキスト　財務会計Ⅱ 応用論点編　第19版』中央経済社、2026年。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点（提出された課題やディベートでの発言等）約20％、期末筆記試験約80%による。筆記試験については、受講者との相談によるが、配布されたレジュメや資料、電卓については持ち込み可能とする予定である。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメ等は学習支援システムを利用する予定です。
レジュメ等のダウンロードにタブレット等を利用する場合は授業に持参してください。
レジュメ等をプリントアウトして持参していただいても構いません。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
会計学
＜研究テーマ＞
計算構造論、税効果会計、非営利会計、等
＜主要研究業績＞
・単著『税効果会計論』森山書店、1999年。
・編著『減損会計の税務論点』中央経済社、2007年。

【Outline (in English)】
(Course outline) This course explains the assumptions and fundamental concepts underlying corporate accounting. Building upon this foundation, we will examine how accounting systems are structured. And we will deepen our understanding of the underlying principles guiding specific accounting standards for individual transactions.
(Learning Objectives) In essence, the course aims to cultivate the ability to understand the core concepts of corporate accounting and, based on a coherent grasp of these concepts, evaluate the rationality of specific accounting treatments.
(Learning activities outside of classroom) Combined preparation and review should take approximately four hours as standard.Please focus on review.
(Grading Criteria /Policy) Grading will primarily be based on written examination.

ECN500F1 – 0098（経済学 / Economics 500）

ファイナンス基礎

山嵜　輝

備考（履修条件等）：アカウンティング・ファイナンスコースと合同：基礎ファイナンス

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ファイナンス理論の広範な研究成果は実社会に多大な影響を与えており、現代の金融ビジネスはこれなしには成り立たない。本授業では、ファイナンスを初めて学ぶ学生を対象に、証券分析や現代ポートフォリオ理論を中心に、証券投資に関する理論を講義する。また、講義と並行して、Microsoft社のExcelを分析ツールとして使用し、株式投資や資産運用に関する実践的な分析を行う。さらに、個人の資産形成における投資理論の重要性についても詳しく解説し、近年話題となっている老後2,000万円問題やFIRE（Financial Independence, Retire Early）に加えて、NISA制度の具体的な活用方法についても取り上げる。
多くのビジネススクールではファイナンスは必修科目として位置づけられており、ファイナンスが専門ではない学生でも基本的な知識を学ぶことが求められる。本授業は、そのような基礎知識を提供することを目的としている。ビジネスにおいてファイナンスの知識が必要な学生はもちろん、個人投資家として株式投資や資産形成に関心のある学生の履修を歓迎する。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げる。
（1）金融市場の基礎知識・用語に基づいて、金融商品・金融取引のしくみを説明できる。
（2）債券や株式の基本的な計量分析や価格評価ができる。
（3）効率的市場仮説や効率的フロンティアなどのファイナンスの理論的概念を説明できる。
（4）証券投資の基本的な考え方を現代ポートフォリオ理論に沿って解釈できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は教室での対面授業で実施する。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をすること。授業の情報は学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内する。授業は講義とExcelを用いた演習を交互に行うことで進んでいく。毎回、Excelの使えるノートPCを用意すること。大学がノートPCを貸し出しているので、必ずしも自前のPCを持参する必要はない。Excelの使い方については、授業内で丁寧に説明する。授業中に演習課題に対する講評をすることで、個別のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、金融リテラシーの重要性
第2回	金融・証券市場の基礎知識	金融・証券市場の概観、債券市場、株式市場、外国為替市場、短期金融市場、デリバティブ市場
第3回	キャッシュフローと現在価値	キャッシュフロー、将来価値、現在価値、複利運用、割引因子とその性質、つみたてNISA
第4回	債券投資と利回り	利付債と割引債、債券の価格評価、直接利回り、複利最終利回り、所有期間利回り、スポットレート
第5回	不動産投資と内部収益率	マンション／アパート投資、J-REITのしくみ、内部収益率、正味現在価値、NAV倍率
第6回	株式投資のための確率統計入門（1）	確率統計の基礎概念、確率とその性質、確率変数、期待値、分散、標準偏差、リスクとリターン
第7回	個別株の分析（1）	期待収益率、配当割引モデル、ROE、配当性向、サスティナブル成長率、成長機会の現在価値
第8回	個別株の分析（2）	残余利益モデル、企業価値と時価総額、クリーンサープラス関係、PBR、PER、相対価値評価
第9回	古典的アプローチから現代ポートフォリオ理論へ	ケインズの美人投票、グレアムのバリュー投資、効率的市場仮説、現代ポートフォリオ理論
第10回	株式投資のための確率統計入門（2）	共分散、相関係数、期待値と分散の性質、散布図、回帰分析、統計的仮説検定
第11回	平均分散アプローチ	期待効用、リスク回避度、効率的フロンティア、接点ポートフォリオ、トービンの分離定理
第12回	資本資産価格モデル	市場ポートフォリオ、資本市場線、シャープ・レシオ、CAPM、証券市場線、ジェンセンのアルファ
第13回	外国株投資と為替変動リスク	外国株式、為替変動リスク、S&P500、ホームバイアス、情報の非対称性、取引コスト
第14回	資産形成と証券投資の現実	税制優遇制度、個別株投資と株式投資信託、インデックス運用とアクティブ運用、損失と失敗

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。講義資料の復習を十分に行うこと。知識や理論を積み上げることで授業が進んでいくので、途中で理解できなかった箇所は放置せずに質問すること。また、指定した参考書を活用して理解を深めることが好ましい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。講義資料を用意するので、各自ダウンロードすること。ダウンロードの方法は初回授業で説明する。

【参考書】
（1）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（2）小林孝雄、芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社
（3）伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
演習・課題（50％）と平常点（50％）で評価する。授業中に基礎的な問題を解いたり、Excel演習に関する発表を行ってもらうことで理解度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】
個人の資産形成に関心のある学生が多いので、個人投資家からみた株式投資や資産運用に関するトピックや、それらに関するExcel演習に多くの時間を費やす予定である。

【学生が準備すべき機器他】
毎回Excelを使うので、Excelが使えるノートPCを各自で用意すること。大学がノートPCを貸し出しているので、必ずしも自前のPCを持参する必要はない。

【前提知識】
中学程度の数学の基礎知識（2次方程式、連立方程式、関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）を使うが、極度の数学アレルギーでない限り心配は無用である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ファイナンス

＜研究テーマ＞　証券投資論、資産価格理論
＜主要研究業績＞
（1）“Subjective probability distributions of nonlinear payoffs: Recovering option payoff, agent’s utility, and pricing kernel distributions,” *North American Journal of Economics and Finance*, Vol.76, 2025, Elsevier
（2）“A general control variate method for time-changed Levy processes: An application to option pricing,” *Journal of Computational Finance*, Vol.27, No.1, 2023, Risk.net
（3）“Recovering subjective probability distributions,” *Journal of Futures Markets*, Vol.42, No.7, 2022, Wiley

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わった。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説する。

【関連科目】
ファイナンス入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、ポートフォリオ理論入門

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides fundamentals of modern finance theory and its applications to basic security analysis, investment decisions, financial asset pricing, and financial risk management. [Learning objective] The objectives of this course are to give: (1) basic knowledge of financial system, financial markets, and securities; (2) valuation methods of stocks and bonds; (3) methods for incorporating risk analysis into valuation models, including the mean-variance approach and the Capital Asset Pricing Model; and (4) applications to corporate financial decisions, including optimal capital structure, capital budgeting, and dividend policy. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Exercises: 50%, in class contribution: 50%.

MAN500F1 – 0097（経営学 / Management 500）

経営分析

福多　裕志

備考（履修条件等）：アカウンティング・ファイナンスコースと合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営分析とは、企業会計システムを通して創出される会計情報に着目し、効率的な経営管理と合理的意思決定の促進を目的とし、創出された情報の意味内容を解釈するプロセスと技術である。本科目では、主として定量的財務諸表分析に焦点を絞り、日米の文献（およそ日本文献8：米文献2の割合）を参照しながら、基礎統計学の様々な手法を援用し、講義、問題演習、受講者による発表・討論をもって授業を進行する。特に、各種比率に関する業界の中心的傾向を探るために、財務諸表分析に推定・検定の統計手法を応用する可能性を探りたい。有価証券報告書の中身を精査する授業とは異なり、広い分野に援用可能となる授業の展開を心がけたい。

【到達目標】
1. 予備技術として、オンラインデータベースより必要とされる財務データを精確に検索し、効果的に表現すること。
2. 当該財務データを統計的に処理し（記述統計）、計算結果を評価すること。
3. 財務比率・指標を、個別企業間、業界間で比較・検討するための平均値、分散を推定し(推測統計)、計算結果を評価し、合理的意思決定に資する情報を創出すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
オンライン上の財務データを積極的に利用し、データ分析（統計解析）の実行結果を経営分析の観点から参加者間で議論・評価する。課題等に対する回答や解法は、可能な限り出席者間で共有し、そのうちの幾つかを授業支援システム（LMS）上に掲載する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義計画と経営分析の目的	コース概要、経営分析の目的、機能等についての説明
第2回	財務諸表分析の枠組み：その1	財務諸表分析の基本事項および基本統計量の確認と計算
第3回	財務諸表分析の枠組み：その2	財務安全性、効率性、収益性、成長性の4領域の確認と問題演習
第4回	短期利益計画1	損益分岐点分析の構造
第5回	短期利益計画2	損益分岐点分析の現実データへの応用
第6回	中間発表	さまざまな業界の事例研究
第7回	経営分析への基礎統計学の応用1	財務諸表分析において使用される主な分布－正規分布。問題演習
第8回	経営分析への基礎統計学の応用2	財務諸表分析において使用される主な分布－t分布等。問題演習
第9回	経営分析への基礎統計学の応用3	経営領域のいくつかの推定に関連する問題
第10回	経営分析への基礎統計学の応用4	財務諸表分析において使用される主な分布－χ^2分布、F分布等。問題演習
第11回	統計解析を応用した経営分析関連のケース発表	財務諸表分析における業界平均値の推定およびその有用性の検討
第12回	経営分析への基礎統計学の応用5	複数業界の分散の推定・仮説検定
第13回	経営分析への基礎統計学の応用6	推定・仮説検定の事例研究、問題演習
第14回	最終試験	統計手法の応用に関して授業内で学習した事項の最終筆記試験および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データベースにアクセスし、関心ある個別企業、業界の財務諸表分析を様々な角度から実施することを推奨する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
参考文献を基に独自に作成したスライドを学習支援システム上に掲載する。

【参考書】
1) Colin Drury (2008), *Management and Cost Accounting 7th ed.,* South-Western.
2) Ray H. Garrison (2008), *Managerial Accounting,* McGraw Hill International.
3) 青木茂男編著『要説　経営分析　六訂版』森山書店, 2022年.
4) 大津広一『企業価値を創造する会計指標入門』ダイヤモンド社, 2005年.
5) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995年.
英語、日本語の参考文献は、随時、学習支援システム上に掲載する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（議論への貢献度、事例発表）40%、最終試験60%とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が有する予備知識に応じて柔軟に対応したい。

【学生が準備すべき機器他】
最終試験の際、一般的電卓のみ使用可とする。授業では、ネット接続および各種統計パッケージの利用を推奨する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞意思決定会計
＜研究テーマ＞財務体質の日米比較
＜主要研究業績＞
・「品川区中小企業グループと上場企業の収益性比較」東京都城南地域中小企業振興センター, 2000年.
・「売上高経常利益率の1次元位相」（ワーキング・ペーパー）法政大学イノベーション・マネジメント研究センター, 2007年.

【Outline (in English)】
[Course outline]
Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future decisions. In particular, in order to ensure that comparisons with industrial means are practiced, estimation and testing of population means from samples of accounting data will be conducted and discussed. Please note that this course is not intended to provide detailed interpretation of the contents of financial statements.
[Learning objectives]
1.Participants will perform statistical processing (descriptive statistics) on the financial data and evaluate the resulting calculations.
2.Participants will estimate measures such as means and variances (inferential statistics) to compare and examine financial ratios and indicators across firms and industries, evaluate the results, and generate information that supports rational decision-making.
[Learning activities outside of classroom]
Participants are expected to ensure that they prepare for and review each class by solving assignments. The time required for preparation and review for one class is four hours.

[Grading criteria]
Contributions to class activities (40%), final exam (60%)

ECN500F1 – 0110 （経済学 / Economics 500）

経済学基礎

宮澤　信二郎

備考（履修条件等）：隔年開講

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個人や企業などの意思決定プロセスやそれらの相互作用に関する学問体系であるミクロ経済学についての講義を受け，問題演習を行う。経営学の諸分野を学ぶ上で基礎となるミクロ経済学の考え方・分析手法を身につける。

【到達目標】
以下のような事項について理解し，応用できるようになる。
（1）企業は何をどれだけ使って，何をどれだけ販売しようとするのか。また，その決定にモノの値段やその他の要因がどのような影響を及ぼすのか。
（2）モノの値段がどのように決まるのか。また，その決定にどのような要因がどのような影響を及ぼすのか。
（3）短期的な意思決定と長期的な意思決定の違いは何か。
（4）人々の行動が相互に影響を及ぼしあうような状況ではどのように意思決定したらよいのか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基礎となる理論について講義した後に問題演習を行う。講義の際には，聴くだけにならないようにするため，考えるきっかけを与えたり，理解を確認したりするような質問を投げかける。問題演習の際には，各自が自ら考える時間を確保するとともに，必要に応じて，正解に導くような助言を与える。
この授業は対面で実施予定だが，社会状況や受講者の事情によっては，オンラインで実施する可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション／需要供給と市場均衡（1）	ミクロ経済学の特徴と全体像を解説した後にこれを学ぶ意義について議論します。続いて，教科書4章に基づいて，需要と供給の振る舞いおよび需要と供給による取引内容（数量・価格）決定メカニズムについて学びます。
第2回	需要・供給と市場均衡(2)	教科書5章に基づいて，価格の変化が需要と供給に及ぼす変化の程度（弾力性）が取引内容の変化に及ぼす影響について学びます。最後に，第1回と第2回の内容に関する問題演習を行います。
第3回	生産の費用	教科書13章に基づいて，企業による生産に関わる費用について学びます。
第4回	競争市場における企業	教科書14章に基づいて，競争市場における企業の生産量決定について学びます。続いて，第3回と第4回の内容に関する問題演習を行います。
第5回	効率性と市場の失敗／独占	教科書7章に基づき，取引内容の望ましさの指標として，余剰という概念を学びます。更に，市場取引により効率的な結果（余剰の合計が最大になるような結果）が実現する場合とそうならない場合について学びます。続いて，教科書15章に基づき，独占企業の生産量決定について学びます。
第6回	寡占	教科書17章に基づき，市場の企業数が2社以上だが少数である場合の企業行動について学びます。続いて，第5回と第6回の内容に関する問題演習を行います。
第7回	まとめ／試験	全体のまとめを行います。続いて，期末試験を実施し，解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は事前に以下のテキストを読んでくることが求められます。また，授業後に学習内容を復習することが求められます。
本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第5版）』, N・グレゴリー・マンキュー（片桐満ほか訳），センゲージラーニング，2025年，4,500円＋税

【参考書】
［1］伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣，2012年
［2］安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣，2013年
［3］芦谷政浩『ミクロ経済学』有斐閣，2009年
［4］神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社，2014年
＊［1］と［2］は上記の教科書よりも易しいテキスト，［3］と［4］は上記教科書よりも難しいテキストで，易しい順になっています。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加・貢献，問題演習への取り組み）40%，期末試験60%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は開講していません。一昨年度以前の受講者の意見などを踏まえ，問題演習に十分な時間を取りたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
資料は学習支援システムで配付します。また，教科書準拠のオンライン教材を使用します。学習支援システムやオンライン教材を利用できるような端末（PC，タブレット端末，スマートフォン等）が必要となります。

【その他の重要事項】
特に前提となる知識・能力はありません。この授業ではマクロ経済学は（ほとんど）扱いません。マクロ経済のトピックスに興味のある方は『日本経済特論Ⅰ／Ⅱ』などの履修を検討してください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞応用ミクロ経済学（特に，企業金融論，産業組織論）
＜研究テーマ＞
企業金融と市場競争の相互作用に関する研究
＜主要研究業績＞
[1] "Financial Contract and Capital Allocation: A Comparison between Market-based Finance and Bank Finance" 経営志林 第55巻第2号，2018年
[2]「企業間信用に関する一考察―銀行と供給者との間の利害衝突を考慮して―」 経営志林　第53巻第4号，25 – 52頁，2017年
[2]「EU国家補助規制の考え方の我が国への応用について」（大久保直樹氏ほかと共著）競争政策研究センター共同研究報告書 CR03-13 2013.
[3]「公的金融と市場競争―産業組織論アプローチ―」 フィナンシャル・レビュー 133, 147-168 2013.
[4] "Optimal borrowing structure: An explanation of multiplicity of large-share creditors and asymmetry among them," Journal of The Japanese and International Economies 26, 434-453 2012.
[5]「国家賠償と求償に関する経済分析」，社会科学研究　第62巻第2号，55- 79頁，2011年.

[6]「偏波弁済の詐害行為取消しに関する分析―法と経済学の視点から―」（藤澤治奈氏との共著），新世代法政策学研究　第10号，351-369頁（担当部分），2011年.（倒産・再生法制研究奨励金賞（トリプルアイ・高木賞）（奨励賞）（財団法人民事紛争処理研究基金）受賞）
[7]「情報財の価格差別と著作権保護」，知的財産法政策学研究　第24号，229-257頁，2009年.
[8] "Innovative interaction in mixed market: An effect of agency problem in state-owned firm," Economics Bulletin 12, 1-8, 2008.

【Outline (in English)】
[Course outline]
Students take a lecture on the basics of microeconomics, which studies individuals' decision-making and its interaction.
[Learning Objectives]
Students should learn microeconomic methods of thinking and analytical techniques.
[Learning activities outside of classroom]
Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours understanding the course content.
[Grading Criteria /Policy]
The final grade will be decided based on the term-end examination (60%) and in-class contribution (40%).

ECN500F1 – 0113 （経済学 / Economics 500）

日本経済基礎

平田　英明

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま10歳の日本人ならば……この国を去ることを選ぶ」「いま10歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言しています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界10大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「(良い意味で）ヤバイ」のでしょうか、それとも「(悪い意味で）ヤバイ」のでしょうか。
海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。Covid-19の経済への影響は？ ウクライナ戦争を受けた分断の下の諸政策の影響は？ そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。
皆さんは経営学部に所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには"the answer(s)"があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。
この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】
究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中枢の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかると思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。
ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目先の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
今年度はオンデマンドと対面の組み合わせで授業を行います。正式な日程や告知はHoppii上に掲載するオンラインシラバスを参照してください。オンデマンドは、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。対面はアクティブラーニングを中心に行います。
授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。
例年、授業内で数回講演してもらっています（過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、実務家、学者など)。皆さんの意見も踏まえ、ご講演頂く予定です。
なお、対面とオンラインの日程については、学期の最初に最終確定したものをお示しします。また、授業の教材や資料、各種情報はHoppiiの科目のページに掲載するウェブシラバスに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業説明	授業計画の紹介
	マクロ的視点からの経済の捉え方1	1－3章について講義します。
第2回	マクロ的視点からの経済の捉え方2	1－3章の続きを講義します。
第3回	日本の企業とその特徴1	4章について講義します。
第4回	日本の企業とその特徴2	4章の続きを講義します。
第5回	マクロ的視点からの経済の捉え方GS	マクロ的視点からの経済の捉え方に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第6回	日本の企業とその特徴GS	日本の企業とその特徴に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第7回	日本の労働とその特徴1	5章について講義します。
第8回	日本の労働とその特徴2	5章の続きを講義します。
第9回	わが国の財政の特徴1	7章について講義します。
第10回	わが国の財政の特徴2	7章の続きを講義します。
第11回	日本の労働とその特徴GS	労働に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第12回	わが国の財政の特徴GS	財政に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第13回	復習	学習内容を振り返ります
第14回	データ分析の最前線	経済をデータで捉えることの意味を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
浅子・飯塚・篠塚『新　入門・日本経済』(有斐閣、2024)を必ず購入してください。内容や筆者がかなり異なりますので、必ず最新版を購入してください。

【参考書】
新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載)。

【成績評価の方法と基準】
Ａ３所定用紙1枚のみ持ち込み可の期末試験（とＧＳ）によって評価を行います。なお、＋αとして授業内での発言や等について加点をする場合があります。ただし、あくまで追加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価をします。詳細は以下の１の通りです。
１．成績の評価は期末の筆記試験によって行う(100%)。
２．例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしません。単位取得率は例年95％程度であり、落第者の大半は殆ど授業に出席しておらず、とてつもなく低い点数をとる（ほぼ間違いなく勉強していない）学生です。なお、持ち込み可であるからといって、点数を取れるような問題ではないので、授業から学び、復習等をすることがきちんと成績を取るために必要です。

【学生の意見等からの気づき】
成績評価の方式を複数用意し、多くの学生のニーズに応えられるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインでのスタンダードな授業環境を用意してくれれば大丈夫です。

【その他の重要事項】
　担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金や世界銀行におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【関連科目】
経済学基礎が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
日本経済論、マクロ経済学、金融
＜研究テーマ＞
景気の国際連動
＜主要研究業績＞
以下を参照のこと
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/hosei/detail.html?systemId=dee0f62b2f56a2b3&lang=ja

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples.
(Learning Objectives)
I try to help you understand why they can be so very powerful. By the end of this course, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.
(Learning activities outside of classroom)
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy)
Evaluation will be based on the open-book style final exam (100%). In addition, extra points may be given for comments made in in-person classes.

FRI500F1 – 0116 （情報学フロンティア / Frontiers of informatics 500）

e-ビジネス論

入戸野　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　インターネットを活用したビジネスモデルの仕組みと関連するシステムの構築方法について技術的な側面を踏まえその基礎から理解する。

【到達目標】
　主要なインターネットサービスのビジネスモデルの構成やそれらの実現に必要なWeb技術について説明できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　具体的にはBtoCサービスを中心に取り上げ、検索サイト、インターネット通販、SNSなどを運営する企業のビジネスモデルを考察しながら、それらの構成要素となるインターネット広告、ユーザのネットワークデータの分析法、知識に関する技法などの考え方について理解を深めて行く。文献研究および事例研究（演習）では担当者を決めて発表をしてもらう。受講者の希望に応じて特定の項目を重点的に取り上げることもあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	eビジネスと電子商取引	eビジネスについて概観し従来の電子商取引(eコマース)からの変遷について解説する。
第2回	インターネットビジネスモデル	インターネットを活用したサービスや企業のビジネスモデルについて考察する。
第3回	ネットワーク技術の基礎	インターネットの仕組みやネットワークサービスに関する技術的な基礎知識について説明する。
第4回	Webサイトの構築と最適化	eビジネスを展開するためのサイト構築法とその最適化(SEO)について解説する。
第5回	知識に関する技法	機械学習、Deep Learning、AIなどといった知識に関する技法とその応用について考察する。
第6回	文献研究	最近のトピックから文献を選定し輪読を行う。
第7回	事例研究(演習)	具体的な企業やネットワークサービスを取り上げて事例研究を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
　予習よりも復習として各回で得た知識を授業後に各自整理しておくことが重要。但し、輪読や事例研究(演習)の担当者は発表資料等の準備を事前に十分に行う必要がある。

【テキスト（教科書）】
　全体を通じたテキストは使用しない。講義資料を毎回配布する。

【参考書】
　授業の進捗に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　平常点 (40%) : 授業への参加意欲や学習態度を評価する。
　発表と議論への参加 (60%) : 分担の発表とそのディスカッションへの参加状況を評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
　具体的な事例をより多く取り上げるようにしたい。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> 計算機科学、ネットワーク技術、計算機統計学
< 研究テーマ> Webデータ解析、確率的シミュレーションモデル
< 主要研究業績>
① "Evaluation of Similarity for Contexts on Association Rule Based Extraction", The 22nd International Conference on Computational Statistics (2016).
② “Association Rule Generation and Mining Approach to Concept Space for Collective Documents”, Proceedings of the 59th World Statistics Congress of the International Statistical Institute (2013).
③“Evaluation of Sequential Approaches to Image Restoration Using Monte Carlo Methods”, Bulletin of the International Statistical Institute, 55th Session Contributed Papers (2005).

【Outline (in English)】
(Course outline) This course aims for giving fundamental understanding on mechanisms of business models utilizing the Internet and technological methods of constructing its relative systems.
(Learning Objectives) The goal is to be able to explain the structure of the business models of major Internet services and the Web technologies required to construct and realize them.
(Learning activities outside of classroom) It will be important for each student to organize the knowledge obtained in each class after the class as a review. Those in charge of literature reading and case studies need to prepare presentation materials well in advance.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and assigned presentation and participation in those discussion (60%).

ECN500F1 – 0117 （経済学 / Economics 500）

統計データ解析

高橋　慎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、ビジネスにおけるデータ分析のゴールである「意思決定への貢献」を目的とし、統計学の基礎から因果推論の実践までを学びます。従来の記述統計や相関分析にとどまらず、「ある施策（広告、クーポン等）が本当に効果があったのか」を客観的に評価するための「効果検証（因果推論）」の考え方と手法を習得します。講義では統計ソフトRを用い、実際のビジネスデータを想定した演習を通じて、実務に直結する分析スキルの獲得を目指します。

【到達目標】
1. 統計学の基礎概念（推定・検定）を理解し、適切に使い分けることができる。
2. 相関関係と因果関係の違いを理解し、セレクションバイアスのリスクを説明できる。
3. A/Bテスト（RCT）の設計思想と、その統計的な評価方法を習得する。
4. 重回帰分析、傾向スコア、DIDなどの手法を用いて、観察データからの効果検証を実行できる。
5. 分析結果をビジネスの文脈で解釈し、報告書としてまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義は、理論の理解（講義）と、Rを用いた実データ分析（演習）を組み合わせたハンズオン形式で進めます。提出された課題に対しては、次回の講義冒頭で代表的な回答例や共通して見られた誤解について全体フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとRのセットアップ	講義の進め方、R/RStudioの環境構築、基本操作。
第2回	記述統計と可視化	データの可視化、代表値とばらつきの解釈。
第3回	確率分布の基礎	ベルヌーイ分布、二項分布、正規分布の理解とシミュレーション。
第4回	統計的推定	標本誤差、点推定と区間推定（信頼区間）。
第5回	統計的仮説検定	t検定等。
第6回	因果推論の基礎	相関と因果、セレクションバイアス、反実仮想の概念。
第7回	RCT（A/Bテスト）の理論	無作為化比較試験の仕組み、有意差検定とビジネスインパクト。
第8回	回帰分析の基礎	単回帰分析の復習と、モデルの適合度（決定係数）の評価。
第9回	重回帰分析による共変量の制御	多重共線性、交絡因子のコントロール、因果解釈における注意点。
第10回	傾向スコア（Matching）	観察データにおけるセレクションバイアスの補正、マッチング法。
第11回	傾向スコア（IPW）	逆確率重み付け法による効果推定の応用。
第12回	差の差分析（DID）	時系列の変化と対象グループを組み合わせた効果検証。
第13回	回帰不連続デザイン（RDD）	境界線を利用した自然実験的な分析手法。
第14回	まとめ：実務での運用と倫理	各手法の選択基準、分析結果の報告、データ分析の倫理。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・予習：指定されたテキストの該当箇所を事前に読み、不明点を明確にする。
・復習：授業で扱ったRのコードを自身のPCで再現し、課題データを分析する。

【テキスト（教科書）】
安井翔大『効果検証入門 正しい比較のための因果推論/計量経済学の基礎』（技術評論社）

【参考書】
本橋永至『Rで学ぶ統計データ分析』（オーム社）

【成績評価の方法と基準】
・演習レポート（50%）：学期中に実施するRを用いたデータ分析課題。
・期末レポート（50%）：配布されたビジネスデータを用い、適切な手法を選択して効果検証を行う総合課題。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
・機器: 個人所有または貸与PC を持参すること。

【その他の重要事項】
・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。
・生成AIの取り扱い: Rコードの生成、エラー解消、要約等において生成AIの利用を推奨します。ただし、AIの出力を鵜呑みにせず、自ら検証し説明できることが単位修得の条件です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
計量ファイナンス、ベイズ統計学
＜研究テーマ＞
金融時系列データを用いた統計分析
＜主要研究業績＞
1. Forecasting Daily Volatility of Stock Price Index Using Daily Returns and Realized Volatility, Econometrics and Statistics, Volume 32, 2024, Pages 34-56.
2. Stochastic Volatility and Realized Stochastic Volatility Models, Springer Singapore, 2023.
3. On the evaluation of intraday market quality in the limit-order book markets: a collaborative filtering approach, Japanese Journal of Statistics and Data Science, Volume 4, 2021, Pages 697-730.

【Outline (in English)】
[Course outline] This course focuses on "Causal Inference" and "Effect Verification" to support data-driven decision-making in business. Beyond basic descriptive statistics and correlation, students will learn how to rigorously evaluate the impact of business interventions (e.g., marketing campaigns, price changes). Using the R programming language, students will gain hands-on experience in analyzing datasets to distinguish between correlation and causation.
[Learning Objectives] By the end of this course, students will be able to:
1. Understand the difference between correlation and causation and identify selection bias.
2. Perform and evaluate Randomized Controlled Trials (A/B testing).
3. Utilize regression analysis, propensity score matching, and Difference-in-Differences (DID) for causal inference.
4. Interpret statistical results to provide actionable business insights.
[Learning activities outside of classroom] Students are expected to spend at least four hours per week on pre-reading assigned chapters and completing R-based programming assignments after each session.
[Grading Criteria / Policy]
- Mid-term Assignments (R-based reports): 50%
- Final Project (Case study analysis): 50%

MAN500F1 – 0054 （経営学 / Management 500）

国際経営論

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本国で競争力のある企業が、必ずしも海外で成功するとは限りません。本国と外国とのさまざまな違いが、本国における成功要因の有効性を下げてしまうことが理由として考えられます。それでは企業は外国でどのように競争したらよいのでしょうか。本講義では、この問題を考えるために必要な事項を学びます。国際経営学における伝統的な研究領域や、近年注目されている研究領域を、国際経営の理論と関連させながら学んでいきます。

【到達目標】
１．国境を越えた企業の経営活動（国際経営）を理解するために必要な理論を習得します。
２．国際経営の伝統的なトピックおよび近年のトピックを概観し、理解します。
３．理論に基づき企業の海外での事業活動を分析する能力の習得を目指します。
４．国際経営に関する論文を読むスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義の授業形態は、対面形式とします。
授業計画に示したトピックについて、ます基本的な事項（理論や研究動向など）を講義します。その後、トピックに関連したディスカッションを行います。トピックに関連した論文を読んでもらい、それについてのディスカッションも行います。また、トピックに関連した課題やケースについて調査してもらい、報告やディスカッションを行います。
学期の中盤で、プロジェクトの課題を提示します。課題について各自研究を行い、研究成果のプレゼンテーションを学期の終盤に行います。
課題の提出等は学習支援システムを通した提出とEメールによる提出を併用します。課題や質問、意見等に対するフィードバックは、適宜講義内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	イントロダクション	講義の概要とオリエンテーション 海外進出する日本企業が直面する課題 国際経営の研究方法
第2週	グローバル・ビジネス環境	海外で直面する外部環境と企業への影響
第3週	制度と多国籍企業	新興経済の制度、制度が多国籍企業に与える影響、制度理論
第4週	文化的距離	多国籍企業が海外で直面する文化の壁
第5週	多国籍企業と海外直接投資	先進国と新興国からの多国籍企業 海外直接投資の現状と類型
第6週	企業の国際化理論	企業の国際化を説明する理論
第7週	多国籍企業の地域内多角化	多国籍企業の地域内地理的多角化、セミグローバライゼーション
第8週	エントリー戦略	エントリー・モードの類型、エントリー・モードの選択
第9週	多国籍企業の戦略	グローバル戦略、マルチドメスティック戦略、国際企業戦略と組織
第10週	言語の障壁 (1)	多国籍企業が直面する言葉の壁
第11週	言語の障壁 (2)	言語の壁の克服方法
第12週	海外子会社の人的資源管理	海外子会社の人材戦略、PCN,HCN,TCN の役割
第13週	海外子会社の現地化	海外子会社の現地化の動機、日本企業の海外子会社の現地化の状況と課題
第14週	プレゼンテーション	プロジェクトの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に課題に取り組んだり、ディスカッションの準備をしたり、資料を読んだりすることが求められます。
講義のための準備・復習時間は、各回４時間を標準とします。
下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。
1週　企業が海外でどのような課題に直面するかを考える
2-3週　国ごとの政治的、法的、経済的差異に関して調べる
4週　文化の違いが企業経営に及ぼす影響について考える
5-6週　企業の国際化を説明する理論に関して調べる
7週　企業がなぜ地理的地域内で事業を拡大するのか考える
8週　完全子会社とジョイント・ベンチャーの違いについて考える
9週　多国籍企業の競争戦略の類型に関して調べる
10-11週　多国籍企業における言語の役割に関して調べる
12-13週　日本企業の海外子会社の人材現地化を阻害する要因に関して考える
14週　プロジェクトのプレゼンテーションを準備する

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない予定です。詳細は、最初の講義で指示します。

【参考書】
下記に参考書を示しますが、より新しい版が出版されているものもあります。
Collinson, S., Narula, R., &Rugman, A.M. 2020. International Business. Pearson Education: Harlow, UK.
Peng M. &Meyer, K. 2019. International Business (3rd ed.). Cengage: UK.

【成績評価の方法と基準】
下記の比率で評価します。
プロジェクト：50％
クラスへの貢献：50％
プロジェクトの評価には、ペーパー自体と、ペーパーに関するプレゼンテーションの評価を含みます。
クラスへの貢献には、課題の準備、課題に関する報告、ディスカッションへの貢献等を含みます。クラスへの貢献に含まれる課題は、プロジェクトとは別の、講義内で提示される課題です。

【学生の意見等からの気づき】
より高度な理論にも言及します。
理論と実務のつながりに言及します。
活発なディスカッションになるよう、モデレートします。

【学生が準備すべき機器他】
WebClassを使用するための情報機器が必要です。

【その他の重要事項】
各回とも、１００分×２時限の連続授業です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Multinationals' intraregional geographic expansion and foreign subsidiary performance. 2024. International Business Review, 33(1): 102208.

② Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. 2023. International Business Review, 32(4): 102072. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
③ Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Firms that are competitive in their home countries often struggle to succeed overseas. One fundamental reason is that differences in business environments between home and host countries can diminish the value of home-grown firm-specific advantages. How should firms compete overseas? This is a primary research agenda in international business studies.
This course introduces students to core concepts and analytical frameworks in international business studies. It also provides an overview of traditional and emerging research topics in international business studies
(Learning objectives)
The goal for students in this course is to understand the basics of international business studies, including traditional and emerging research topics. Students are also expected to become familiar with the theoretical foundations of international business and develop the skills to read and comprehend academic papers. By the end of this course, students are expected to improve their ability to analyze firms' success and failure in foreign markets.
(Learning activities outside of the classroom)
Students are expected to read assigned materials, complete assignments, and prepare for presentations and discussions. Time for preparatory study and review will be at least 4
(Grading Criteria/Policies)
Students will be evaluated based on a term

MAN500F1 – 0202（経営学 / Management 500）

物流管理とサプライチェーンマネジメント論I

李　瑞雪

備考（履修条件等）：昼間「物流管理とサプライチェーンマネジメント特論I」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、物流管理とサプライチェーンマネジメント（SCM）に関する概論的レクチャーです。物流とサプライチェーンの概念や理論、およびオペレーションズに関する基礎知識と分析能力を養うことを目的とします。具体的には、両者の基本概念を習得したうえで、国際物流を含む企業のロジスティクスとサプライチェーンが、実務でどのように運用されているかを検討します。

【到達目標】
企業経営におけるロジスティクス・マネジメント、ロジスティクス・オペレーションズ、サプライチェーン・マネジメント、国際物流に関する全般的な知見の習得を目標とします。また、ケースメソッドや現場観察などを通して、ロジスティクス実務に関わる分析能力と立案能力につながる知的基盤の形成を狙います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に講義方式で行いますが、受講者によるプレゼンとディスカッションの際にはケースメソッドを採用します。事前にレジュメやケースなど講義資料を配布し受講生の予習を求めます。また、毎回、教材・参考書のリーディング部分を指定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	（1）ビジネス・ロジスティクスの定義、概念の起源と変遷　（2）企業におけるロジスティクスの役割　（3）主なロジスティクス活動　（4）ロジスティクス活動のトレードオフと統合、トータルコストの概念　（5）ロジスティクスと企業収益の関係　（6）経済におけるロジスティクスの重要性
2	サプライチェーンマネジメント（1）	サプライチェーンマネジメントの定義およびロジスティクスとの相違, 延期戦略と投機戦略, サプライチェーンマネジメントとスピードの経済，サプライチェーンの応答性，ERP(効率的な顧客対応)とQR(迅速な顧客反応)の概念，ブルウィップ効果，サプライチェーン・ネットワーク構造,
3	サプライチェーンマネジメント（2）	サプライチェーン・ビジネス・プロセス, サプライチェーンマネジメントの経営要素, サプライチェーンと競争的パフォーマンス
4	ロジスティクス/サプライチェーンマネジメントの戦略とプランニング（1）	全社戦略とロジスティクス/サプライチェーンマネジメント戦略, プロセス・ベースの戦略指向, マーケット・ベースの戦略指向, チャネル・ベースの戦略指向のロジスティクス戦略, 機能的ロジスティクス戦略と外部指向のロジスティクス戦略
5	ロジスティクス/サプライチェーンマネジメントの戦略とプランニング（2）	プランニングの次元, 主要なプランニング領域, ロジスティクス/サプライチェーンの計画問題の概念化, 戦略策定のためのガイドライン
6	顧客サービス（1）	顧客サービスの定義, 顧客サービスの諸要素など
7	顧客サービス（2）	顧客サービス戦略の策定方法: トレードオフ分析とＡＢＣ分析、顧客サービス監査, グローバル顧客サービスの問題
8	フィールドワーク	物流現場に対するフィールドワークの実施
9	ケーススタディ	フィールドワークの発見と関連文献の知見を踏まえてディスカッションを行います。
10	ロジスティクス・オペレーションⅠ：在庫管理（1）	在庫の機能範囲, 在庫の定義と種類, 在庫保持コスト, 在庫計画, 注文管理など
11	ロジスティクス・オペレーションⅠ：在庫管理（2）	ABC分析と在庫管理, ベンダー主導の在庫管理（VMI），連続自動在庫補充（CRP），共同計画・予測・在庫補充（CPFR）など
12	ロジスティクス・オペレーションⅡ：輸送インフラと輸送業務（1）	リンク・ノード・モード・キャリア, 各種輸送モード, モーダルシフト, 輸送産業に関する法規制など
13	ロジスティクス・オペレーションⅡ：輸送インフラと輸送業務（2）	輸送サービス, 混載, 複合輸送, 運賃構造, 船荷証券, ロジスティクス業務統合, 宅配便と急送サービス, サードパーティロジスティクス, 輸送管理システム, 国際輸送など
14	総括ディスカッション、質疑、中間テスト	総括ディスカッション、質疑、中間テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布したプリントの予習、復習を行います。ケーススタディの発表とディスカッション問題のために、事前に報告資料を準備します。指定リーディング内容を読んでおきます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『業界別　物流管理とSCMの実践』ミネルヴァ書房（2022年）

【参考書】
Global Logistics and Supply Chain Management, 4th Edition, John Mangan, Chandra Lalwani, Agustina Calatayud, Wiley, 2021
The Handbook of Logistics and Distribution Management: Understanding the Supply Chain, 7th Edition, Alan Rushton, Phil Croucher, Peter Baker, Kogan Page, 2022
Logistics Management and Strategy: Competing through the Supply Chain, 6th Edition, Alan Harrison, Pearson, 2019
E-Logistics: Managing Digital Supply Chains for Competitive Advantage, 2nd Edition, Yingli Wang, Stephen Pettit, Kogan Page, 2021.
Supply Chain Logistics Management,5th Edition, Donald Bowersox, David Closs, M. Bixby Cooper, McGraw Hill, 2019.

【成績評価の方法と基準】
基本的に講義方式で行うが、受講生によるプレゼンとディスカッションの際にはケースメソッドを採用します。毎回、教材・参考書のリーディング部分を指定し、予習・復習を求めます。プレゼンテーション(20%)、ディスカッション(20%)、期末テスト(60%)を総合して成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
スライドの切り替えが速いとか、リーディング資料が多すぎるとかいった意見がありました。受講生の理解度を確認しながら、適宜スピードを調整していきます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ロジスティクスマネジメント論、経営戦略論、国際経営論
＜研究テーマ＞自動車ノックダウン（KD）部品の荷姿最適化、スマート物流機器企業の国際化、ロジスティクス・クラスターの形成メカニズムなど
＜主要研究業績＞
①『業界別物流管理とSCMの実践』ミネルヴァ書房、2022年.
②『中国物流産業論―高度化の軌跡とメカニズム―』白桃書房、2014年.
③『中国製造業の基盤形成：金型産業の発展メカニズム』白桃書房、2015年.

【Outline (in English)】
(1)Course outline: This course deals with logistics management and supply chain management. (2)Learning Objectives: The main aim is to help students acquire basic knowledge and analytical ability regarding the theories and frameworks of logistics/supply chain management and operations. At the end of the course, students are expected to have basic abilities to plan and analyze logistics/supply chain strategies, organizations, and operating systems based on knowledge acquired from this course. (3)Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and handout uploaded on the HOPPII system. During each class meeting, students will be welcomed to contribute to the discussion and Q&A. (4)Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 60%, Presentation: 20%, Contribution in class: 20%.

MAN500F1 – 0203（経営学 / Management 500）

物流管理とサプライチェーンマネジメント論II

李　瑞雪

備考（履修条件等）：昼間「物流管理とサプライチェーンマネジメント特論II」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、物流管理とサプライチェーンマネジメント（SCM）に関する概論的レクチャーです。物流とサプライチェーンの概念や理論、およびオペレーションズに関する基礎知識と分析能力を養うことを目的とします。具体的には、両者の基本概念を習得したうえで、国際物流を含む企業のロジスティクスとサプライチェーンが、実務でどのように運用されているかを検討します。

【到達目標】
企業経営におけるロジスティクス・マネジメント、ロジスティクス・オペレーションズ、サプライチェーン・マネジメント、国際物流に関する全般的な知見の習得を目標とします。また、ケースメソッドや現場観察などを通して、ロジスティクス実務に関わる分析能力と立案能力につながる知的基盤の形成を狙います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に講義方式で行いますが、受講生によるプレゼンとディスカッションの際にはケースメソッドを採用します。事前にレジュメやケースなど講義資料を配布し受講生の予習を求めます。また、毎回、教材・参考書のリーディング部分を指定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロジスティクス・オペレーションIII：保管（1）	保管施設の種類, 保管機能と保管業務, 自社倉庫と営業倉庫, ダブル・トランザクション・システムなど
2	ロジスティクス・オペレーションIII：保管（2）	倉庫管理システム, クロスドッキングとミルクラン, 倉庫の統廃合, バイヤーズ・コンソリデーショ, 保管サービスと物流金融(ABL)）など
3	ロジスティクス・オペレーションIV：包装と荷役（1）	包装の機能,包装材料の選択, ユニットロードシステム（パレッチゼーション、コンテナリゼーションなど）, フィジカルインターネットなど
4	ロジスティクス・オペレーションIV：包装と荷役（2）	荷役活動,荷役機器,スマート物流機器, デザイン・フォ・ロジスティクスなど
5	フィールドワーク	物流現場に対するフィールドワークを実施
6	ケーススタディ	フィールドワークの発見および関連文献の知見を踏まえて、受講者のプレゼンとディスカッションを行います。
7	製造戦略（1）	生産戦略の類型, マスカスタマイゼーション, 生産工程の基本タイプ, 製品・工程マトリックス, 生産性ジレンマなど
8	調達戦略（2）	4つの調達方式, TCOの最小化, 調達戦略のマトリックスなど
9	ロジスティクス組織（1）	効果的なロジスティクス組織の重要性, ロジスティクス組織構造の多様性など
10	ロジスティクス組織（2）	ロジスティクス組織の有効性に影響する要素, ロジスティクス人材の育成問題など
11	グローバル・ロジスティクスとグローバル・サプライチェーン（1）	海外市場進出の戦略形態, グローバル市場における制御不可能な要素, 輸出活動に関わる事業者, 貿易条件およびインコタームズ（INCOTERMS）など
12	グローバル・ロジスティクスとグローバル・サプライチェーン（2）	主要国の国際物流パフォーマンス指標(LPI), グローバル企業のロジスティクス・マネジメント, 世界主要地域のロジスティクス特）, 主要新興国の物流環境など
13	グローバル・ロジスティクスとグローバル・サプライチェーン（3）	国際輸送モード選択の戦略, 新興国市場におけるロジスティクス要素技術の導入戦略, 基礎的キャパシティの確保と独自の高度な能力構築のジレンマ, 機能的なロジスティクス戦略と外部指向型のロジスティクス戦略の組み合わせ
14	総括ディスカッション、質疑、期末テスト	総括ディスカッション、質疑、期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布したプリントの予習、復習を行います。ケーススタディの発表とディスカッション問題のために、事前に報告資料を準備します。指定リーディング内容を読んでおきます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『業界別　物流管理とSCMの実践』ミネルヴァ書房（2022年）

【参考書】
Global Logistics and Supply Chain Management, 4th Edition, John Mangan, Chandra Lalwani, Agustina Calatayud, Wiley, 2021
The Handbook of Logistics and Distribution Management: Understanding the Supply Chain, 7th Edition, Alan Rushton, Phil Croucher, Peter Baker, Kogan Page, 2022
Logistics Management and Strategy: Competing through the Supply Chain, 6th Edition, Alan Harrison, Pearson, 2019
E-Logistics: Managing Digital Supply Chains for Competitive Advantage, 2nd Edition, Yingli Wang, Stephen Pettit, Kogan Page, 2021.
Supply Chain Logistics Management,5th Edition, Donald Bowersox, David Closs, M. Bixby Cooper, McGraw Hill, 2019.

【成績評価の方法と基準】
基本的に講義方式で行うが、受講生によるプレゼンとディスカッションの際にはケースメソッドを採用します。毎回、教材・参考書のリーディング部分を指定し、予習・復習を求めます。プレゼンテーション(20%)、ディスカッション(20%)、期末テスト(60%)を総合して成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
スライドの切り替えが速いとか、リーディング資料が多すぎるとかいった意見がありました。受講生の理解度を確認しながら、適宜スピードを調整していきます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ロジスティクスマネジメント論、経営戦略論、国際経営論
＜研究テーマ＞自動車ノックダウン（KD）部品の荷姿最適化、スマート物流機器企業の国際化、ロジスティクス・クラスターの形成メカニズムなど

＜主要研究業績＞
①『業界別物流管理とSCMの実践』ミネルヴァ書房、2022年.
②『中国物流産業論―高度化の軌跡とメカニズム―』白桃書房、2014年.
③『中国製造業の基盤形成：金型産業の発展メカニズム』白桃書房、2015年.

【Outline (in English)】
(1)Course outline: This course deals with logistics management and supply chain management. (2)Learning Objectives: The main aim is to help students acquire basic knowledge and analytical ability regarding the theories and frameworks of logistics/supply chain management and operations. At the end of the course, students are expected to have basic abilities to plan and analyze logistics/supply chain strategies, organizations, and operating systems based on knowledge acquired from this course. (3)Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and handout uploaded on the HOPPII system. During each class meeting, students will be welcomed to contribute to the discussion and Q&A. (4)Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 60%, Presentation: 20%, Contribution in class: 20%.

ECN500F1 – 0098（経済学 / Economics 500）

基礎ファイナンス

山嵜　輝

備考（履修条件等）：夜共通と合同：ファイナンス基礎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ファイナンス理論の広範な研究成果は実社会に多大な影響を与えており、現代の金融ビジネスはこれなしには成り立たない。本授業では、ファイナンスを初めて学ぶ学生を対象に、証券分析や現代ポートフォリオ理論を中心に、証券投資に関する理論を講義する。また、講義と並行して、Microsoft社のExcelを分析ツールとして使用し、株式投資や資産運用に関する実践的な分析を行う。さらに、個人の資産形成における投資理論の重要性についても詳しく解説し、近年話題となっている老後2,000万円問題やFIRE（Financial Independence, Retire Early）に加えて、NISA制度の具体的な活用方法についても取り上げる。
多くのビジネススクールではファイナンスは必修科目として位置づけられており、ファイナンスが専門ではない学生でも基本的な知識を学ぶことが求められる。本授業は、そのような基礎知識を提供することを目的としている。ビジネスにおいてファイナンスの知識が必要な学生はもちろん、個人投資家として株式投資や資産形成に関心のある学生の履修を歓迎する。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げる。
（1）金融市場の基礎知識・用語に基づいて、金融商品・金融取引のしくみを説明できる。
（2）債券や株式の基本的な計量分析や価格評価ができる。
（3）効率的市場仮説や効率的フロンティアなどのファイナンスの理論的概念を説明できる。
（4）証券投資の基本的な考え方を現代ポートフォリオ理論に沿って解釈できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は教室での対面授業で実施する。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をすること。授業の情報は学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内する。授業は講義とExcelを用いた演習を交互に行うことで進んでいく。毎回、Excelの使えるノートPCを用意すること。大学がノートPCを貸し出しているので、必ずしも自前のPCを持参する必要はない。Excelの使い方については、授業内で丁寧に説明する。授業中に演習課題に対する講評をすることで、個別のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、金融リテラシーの重要性
第2回	金融・証券市場の基礎知識	金融・証券市場の概観、債券市場、株式市場、外国為替市場、短期金融市場、デリバティブ市場
第3回	キャッシュフローと現在価値	キャッシュフロー、将来価値、現在価値、複利運用、割引因子とその性質、つみたてNISA
第4回	債券投資と利回り	利付債と割引債、債券の価格評価、直接利回り、複利最終利回り、所有期間利回り、スポットレート
第5回	不動産投資と内部収益率	マンション／アパート投資、J-REITのしくみ、内部収益率、正味現在価値、NAV倍率
第6回	株式投資のための確率統計入門（1）	確率統計の基礎概念、確率とその性質、確率変数、期待値、分散、標準偏差、リスクとリターン
第7回	個別株の分析（1）	期待収益率、配当割引モデル、ROE、配当性向、サスティナブル成長率、成長機会の現在価値
第8回	個別株の分析（2）	残余利益モデル、企業価値と時価総額、クリーンサープラス関係、PBR、PER、相対価値評価
第9回	古典的アプローチから現代ポートフォリオ理論へ	ケインズの美人投票、グレアムのバリュー投資、効率的市場仮説、現代ポートフォリオ理論
第10回	株式投資のための確率統計入門（2）	共分散、相関係数、期待値と分散の性質、散布図、回帰分析、統計的仮説検定
第11回	平均分散アプローチ	期待効用、リスク回避度、効率的フロンティア、接点ポートフォリオ、トービンの分離定理
第12回	資本資産価格モデル	市場ポートフォリオ、資本市場線、シャープ・レシオ、CAPM、証券市場線、ジェンセンのアルファ
第13回	外国株投資と為替変動リスク	外国株式、為替変動リスク、S&P500、ホームバイアス、情報の非対称性、取引コスト
第14回	資産形成と証券投資の現実	税制優遇制度、個別株投資と株式投資信託、インデックス運用とアクティブ運用、損失と失敗

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。講義資料の復習を十分に行うこと。知識や理論を積み上げることで授業が進んでいくので、途中で理解できなかった箇所は放置せずに質問すること。また、指定した参考書を活用して理解を深めることが好ましい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。講義資料を用意するので、各自ダウンロードすること。ダウンロードの方法は初回授業で説明する。

【参考書】
（1）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（2）小林孝雄、芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社
（3）伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
演習・課題（50％）と平常点（50％）で評価する。授業中に基礎的な問題を解いたり、Excel演習に関する発表を行ってもらうことで理解度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】
個人の資産形成に関心のある学生が多いので、個人投資家からみた株式投資や資産運用に関するトピックや、それらに関するExcel演習に多くの時間を費やす予定である。

【学生が準備すべき機器他】
毎回Excelを使うので、Excelが使えるノートPCを各自で用意すること。大学がノートPCを貸し出しているので、必ずしも自前のPCを持参する必要はない。

【前提知識】
中学程度の数学の基礎知識（2次方程式、連立方程式、関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）を使うが、極度の数学アレルギーでない限り心配は無用である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ファイナンス

＜研究テーマ＞　証券投資論、資産価格理論
＜主要研究業績＞
（1）“Subjective probability distributions of nonlinear payoffs: Recovering option payoff, agent’s utility, and pricing kernel distributions,” *North American Journal of Economics and Finance*, Vol.76, 2025, Elsevier
（2）“A general control variate method for time-changed Levy processes: An application to option pricing,” *Journal of Computational Finance*, Vol.27, No.1, 2023, Risk.net
（3）“Recovering subjective probability distributions,” *Journal of Futures Markets*, Vol.42, No.7, 2022, Wiley

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わった。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説する。

【関連科目】
ファイナンス入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、ポートフォリオ理論入門

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides fundamentals of modern finance theory and its applications to basic security analysis, investment decisions, financial asset pricing, and financial risk management. [Learning objective] The objectives of this course are to give: (1) basic knowledge of financial system, financial markets, and securities; (2) valuation methods of stocks and bonds; (3) methods for incorporating risk analysis into valuation models, including the mean-variance approach and the Capital Asset Pricing Model; and (4) applications to corporate financial decisions, including optimal capital structure, capital budgeting, and dividend policy. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Exercises: 50%, in class contribution: 50%.

MAN500F1 – 0097（経営学 / Management 500）

経営分析

福多　裕志

備考（履修条件等）：夜共通と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営分析とは、企業会計システムを通して創出される会計情報に着目し、効率的な経営管理と合理的意思決定の促進を目的とし、創出された情報の意味内容を解釈するプロセスと技術である。本科目では、主として定量的財務諸表分析に焦点を絞り、日米の文献（およそ日本文献8：米文献2の割合）を参照しながら、基礎統計学の様々な手法を援用し、講義、問題演習、受講者による発表・討論をもって授業を進行する。特に、各種比率に関する業界の中心的傾向を探るために、財務諸表分析に推定・検定の統計手法を応用する可能性を探りたい。有価証券報告書の中身を精査する授業とは異なり、広い分野に援用可能となる授業の展開を心がけたい。

【到達目標】
1. 予備技術として、オンラインデータベースより必要とされる財務データを精確に検索し、効果的に表現すること。
2. 当該財務データを統計的に処理し（記述統計）、計算結果を評価すること。
3. 財務比率・指標を、個別企業間、業界間で比較・検討するための平均値、分散を推定し(推測統計)、計算結果を評価し、合理的意思決定に資する情報を創出すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
オンライン上の財務データを積極的に利用し、データ分析（統計解析）の実行結果を経営分析の観点から参加者間で議論・評価する。課題等に対する回答や解法は、可能な限り出席者間で共有し、そのうちの幾つかを授業支援システム（LMS）上に掲載する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義計画と経営分析の目的	コース概要、経営分析の目的、機能等についての説明
第2回	財務諸表分析の枠組み：その1	財務諸表分析の基本事項および基本統計量の確認と計算
第3回	財務諸表分析の枠組み：その2	財務安全性、効率性、収益性、成長性の4領域の確認と問題演習
第4回	短期利益計画1	損益分岐点分析の構造
第5回	短期利益計画2	損益分岐点分析の現実データへの応用
第6回	中間発表	さまざまな業界の事例研究
第7回	経営分析への基礎統計学の応用1	財務諸表分析において使用される主な分布－正規分布。問題演習
第8回	経営分析への基礎統計学の応用2	財務諸表分析において使用される主な分布－t分布等。問題演習
第9回	経営分析への基礎統計学の応用3	経営領域のいくつかの推定に関連する問題
第10回	経営分析への基礎統計学の応用4	財務諸表分析において使用される主な分布－χ^2分布、F分布等。問題演習
第11回	統計解析を応用した経営分析関連のケース発表	財務諸表分析における業界平均値の推定およびその有用性の検討
第12回	経営分析への基礎統計学の応用5	複数業界の分散の推定・仮説検定
第13回	経営分析への基礎統計学の応用6	推定・仮説検定の事例研究、問題演習
第14回	最終試験	統計手法の応用に関して授業内で学習した事項の最終筆記試験および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データベースにアクセスし、関心ある個別企業、業界の財務諸表分析を様々な角度から実施することを推奨する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
参考文献を基に独自に作成したスライドを学習支援システム上に掲載する。

【参考書】
1) Colin Drury (2008), *Management and Cost Accounting 7th ed.,* South-Western.
2) Ray H. Garrison (2008), *Managerial Accounting,* McGraw Hill International.
3) 青木茂男編著『要説　経営分析　六訂版』森山書店, 2022年.
4) 大津広一『企業価値を創造する会計指標入門』ダイヤモンド社, 2005年.
5) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995年.
英語、日本語の参考文献は、随時、学習支援システム上に掲載する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（議論への貢献度、事例発表）40%、最終試験60%とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が有する予備知識に応じて柔軟に対応したい。

【学生が準備すべき機器他】
最終試験の際、一般的電卓のみ使用可とする。授業では、ネット接続および各種統計パッケージの利用を推奨する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞意思決定会計
＜研究テーマ＞財務体質の日米比較
＜主要研究業績＞
・「品川区中小企業グループと上場企業の収益性比較」東京都城南地域中小企業振興センター, 2000年.
・「売上高経常利益率の1次元位相」（ワーキング・ペーパー）法政大学イノベーション・マネジメント研究センター, 2007年.

【Outline (in English)】
[Course outline]
Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future decisions. In particular, in order to ensure that comparisons with industrial means are practiced, estimation and testing of population means from samples of accounting data will be conducted and discussed. Please note that this course is not intended to provide detailed interpretation of the contents of financial statements.
[Learning objectives]
1.Participants will perform statistical processing (descriptive statistics) on the financial data and evaluate the resulting calculations.
2.Participants will estimate measures such as means and variances (inferential statistics) to compare and examine financial ratios and indicators across firms and industries, evaluate the results, and generate information that supports rational decision-making.
[Learning activities outside of classroom]
Participants are expected to ensure that they prepare for and review each class by solving assignments. The time required for preparation and review for one class is four hours.

[Grading criteria]
Contributions to class activities (40%), final exam (60%)

MAN500F1 – 0198（経営学 / Management 500）

租税法Ⅰ

藤井　誠

備考（履修条件等）：学部主催「租税法Ⅰ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、学生が税法の幅広い学習と知識の習得することを目的とし、税法の基礎を理解することに重点を置き、租税原論の他、主として個人を対象とする税（所得税法および相続税法）について学習する。
　前半は、租税法の概要、租税原則、納税義務等の各税法に共通し、かつそれらの土台となる事項について学習し、後半は所得税法および相続税法を中心に学習する。
　なお、公認会計士試験における租税法および税理士試験における所得税法および相続税法の出題論点についても扱う。

【到達目標】
　法律論としての租税法の基本理論を習得することができる。
　経済学・財政学との関わりにおける基礎理論を習得することができる。
　租税実体法としての所得税法および相続税法の理論と技法を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。
　学習支援システムにおいて、講義レジュメと小テストをアップロードするので、講義を受けた後に、小テストを受ける形で学習を進める。
　課題等に対するフィードバックとして、次回の講義冒頭またはLMS（Hoppii）において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・租税法の基礎	租税の基礎、公共財とその類似財について学習する。
第2回	租税の意義等	租税の意義、機能、分類について学習する。
第3回	租税原則等	租税徴収、行政機構、租税原則について学習する。
第4回	憲法と租税法との関係	憲法と租税法との関係、租税原則、死重損失について学習する。
第5回	所得税の概要	所得税の構造、税率について学習する。
第6回	所得分類①	利子所得、配当所得、不動産所得、事業所得について学習する。
第7回	所得分類②	給与所得、退職所得、山林所得、譲渡所得について学習する。
第8回	所得分類③	一時所得、雑所得、収入金額、必要経費について学習する。
第9回	相続税の概要	相続税の概要、民法との関係について学習する。
第10回	相続税の計算構造	相続除外、廃除、遺留分、相続税の計算構造について学習する。
第11回	相続税の納付	相続税の納付について学習する。
第12回	贈与税	相続税と贈与税の関係、贈与税の内容について学習する。
第13回	財産評価の基礎	相続税の財産評価について学習する。
第14回	財産評価の特例等	相続税の小規模宅地の特例等について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　講義中の解説や自分で考えたことを講義レジュメやノートにメモし、それらについて「なぜそのような規定が設けられるに至ったのか」を考えながら復習することが期待される。その際、講義で学習した内容を理解できているかを確認し、理解できていないあるいは理解が十分ではない用語や規定については、参考図書や図書館等を利用として確認することが望ましい。
　本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧めたい。

【テキスト（教科書）】
　講義レジュメをPDFファイルにて配信し、これを用いながら、必要に応じてPowerPointのスライドを用いて講義を行う。
　なお、講義レジュメには十分な余白を設けているので、講義中のメモ等を書き込む（タブレット端末の利用も可）ことを推奨する（別途ノートを用意しても構わない）。

【参考書】
　水野忠恒編（2022）『テキストブック租税法 第３版』中央経済社。
　＊最新版が望ましい。

【成績評価の方法と基準】
　授業内に行われる小テスト（70%）と期末レポート（30%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
　講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】
　学習支援システム、オンライン授業動画を視聴するためのPCまたはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4サイズのPDFをスクロールなしで表示可能な端末が望ましい。）。

【その他の重要事項】
　本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第1回授業の際に説明する。
　本講義の履修に際しては、相乗効果が期待されるため、「税務会計論Ⅰ/Ⅱ」を履修することを勧める。

【関連科目】
税務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】
The aim of this class is for students to acquire a wide range of learning and knowledge about tax law, with an emphasis on understanding the fundamentals of tax law. In addition to the principles of taxation, students will learn about taxes that primarily apply to individuals (the Income Tax Act and the Inheritance Tax Act).
In the first half, students will learn about matters that are common to all tax laws and form the basis of them, such as an overview of tax law, tax principles, and tax liability, while in the second half, students will focus on the Income Tax Act and the Inheritance Tax Act.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation.
Grades will be determined based on the combined results of in-class quizzes (70%) and a final report (30%).

MAN500F1 – 0199（経営学 / Management 500）

租税法 II

藤井　誠

備考（履修条件等）：学部主催「租税法 II」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、学生が税法の幅広い学習と知識を習得することを目的とし、租税原論の理解を前提として、主として企業を対象とする税（法人税・消費税）について学習する。
　なお、公認会計士試験における租税法および税理士試験における所得税法および相続税法の出題論点についても扱う。

【到達目標】
　法律論としての租税法の基本理論を習得することができる。
　経済学・財政学との関わりにおける基礎理論を習得することができる。
　租税実体法としての法人税法および消費税法の理論と技法を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。
　学習支援システムにおいて、講義レジュメと小テストをアップロードするので、講義を受けた後に、小テストを受ける形で学習を進める。
　課題等に対するフィードバックとして、次回の講義冒頭またはLMS（Hoppii）において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・法人税法の概要	法人税の概要について学習する。
第2回	通則規定	所得計算の通則規定について学習する。
第3回	法人概念	法人概念と関連規定について学習する。
第4回	配当課税	受取配当等の益金不算入制度，所得税額控除について学習する。
第5回	納税義務	納税義務と課税所得等の範囲，外国税額控除について学習する。
第6回	同族会社	同族会社に関連する諸規定について学習する。
第7回	事業年度単位課税	事業年度，欠損金について学習する。
第8回	国際課税	移転価格税制・タックス・ヘイブン税制について学習する。
第9回	組織再編成	株式交換，株式移転・組織再編税制について学習する。
第10回	企業集団課税	グループ法人課税制度について学習する。
第11回	消費税の概要	消費税法の基本構造について学習する。
第12回	多段階課税	仕入税額控除について学習する。
第13回	消費税の特殊論点	消費税法の特殊論点（転用，変動）手続関係について学習する。
第14回	簡易課税制度	消費税簡易課税制度について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　講義中の解説や自分で考えたことを講義レジュメやノートにメモし、それらについて「なぜそのような規定が設けられるに至ったのか」を考えながら復習することが期待される。その際、講義で学習した内容を理解できているかを確認し、理解できていないあるいは理解が十分ではない用語や規定については、参考図書や図書館等を利用として確認することが望ましい。
　本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧めたい。

【テキスト（教科書）】
　講義レジュメをPDFファイルにて配信し、これを用いながら、必要に応じてPowerPointのスライドを用いて講義を行う。
　なお、講義レジュメには十分な余白を設けているので、講義中のメモ等を書き込む（タブレット端末の利用も可）ことを推奨する（別途ノートを用意しても構わない）。

【参考書】
　水野忠恒編（2022）『テキストブック租税法 第３版』中央経済社。
　＊最新版が望ましい。

【成績評価の方法と基準】
　授業内に行われる小テスト（70%）と期末レポート（30%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
　講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】
　学習支援システム、オンライン授業動画を視聴するためのPCまたはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4サイズのPDFをスクロールなしで表示可能な端末が望ましい。）。

【その他の重要事項】
　本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第1回授業の際に説明する。
　本講義の履修に際しては、相乗効果が期待されるため、「税務会計論Ⅰ/Ⅱ」を履修することを勧める。

【関連科目】
税務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】
The purpose of this class is for students to acquire a broad range of knowledge and study of tax law. Students will learn about taxes that are primarily applicable to businesses (corporate tax and consumption tax), based on an understanding of the fundamentals of taxation.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation.
Grades will be determined based on the combined results of in-class quizzes (70%) and a final report (30%).

MAN500F1 – 0200（経営学 / Management 500）

税務会計論Ⅰ

藤井　誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、学生が、税務会計論の中心である「法人税」について、企業会計との関連に触れながら、体系的な理解と知識の習得することを目的とする。各論点の学習に際しては、必要に応じて、対応する企業の論点との相違に触れながら、損益計算構造理論および所得計算構造理論の理解を深める。
　国家試験との関連においては、主に、税理士試験の法人税法および公認会計士試験の租税法おける出題論点を扱う。このうち、税務会計論Ⅰでは、基本論点を中心に学習する。

【到達目標】
　税務会計論の前提となる簿記論および財務会計論の内容について、税務会計の観点から再確認し、知識の定着を図ることができる。
　ビジネスの現場において必須といえる税務申告書の作成に関する理論と技法を習得することができる。
　税理士試験（法人税法）、公認会計士試験（租税法）、司法試験（租税法）、国税専門官試験等の職業会計人として求められる高度な知識を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。
　講義は、通常の講義形式のほか、受講人数によっては、輪読発表形式を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび条文の読み方	講義の概要説明を行い、法人税法の読み方の基礎を学習する。
第2回	法人税の概要	法人税の種類および性質、法体系構造を学習する。
第3回	法人税の税率構造	法人税の税率構造と実効税率について学習する。
第4回	所得計算の通則①	課税所得計算における「益金」「損金」の意味と所得計算の基本構造を学習する。
第5回	所得計算の通則②	公正処理基準、資本等取引について学習する。
第6回	税務会計の一巡	所得計算および税額計算の一巡の流れを学習する。
第7回	法人概念と受取配当等の益金不算入制度	法人税法における「法人観」とそれに基づく所得概念を学習する。
第8回	所得税額控除制度、外国税額控除制度	所得税や外国法人税に関係する二重課税調整について学習する。
第9回	棚卸資産、有価証券	棚卸資産および有価証券の課税関係について学習する。
第10回	減価償却資産	減価償却の対象となる資産の課税関係について学習する。
第11回	圧縮記帳制度	法人税法および租税特別措置法に規定されている圧縮記帳制度について学習する。
第12回	同族会社関連規定	同族会社の定義および関連規定について学習する。
第13回	寄附金および交際費	寄附金および交際費の損金不算入制度について学習する。
第14回	試験・まとめ解説	定期試験およびまとめ解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　講義中の解説や自分で考えたことを講義レジュメやノートにメモし、それらについて「なぜそのような規定が設けられるに至ったのか」を考えながら復習することが期待される。その際、講義で学習した内容を理解できているかを確認し、理解できていないあるいは理解が十分ではない用語や規定については、参考図書や図書館等を利用として確認することが望ましい。
　本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧めたい。

【テキスト（教科書）】
　講義レジュメをPDFファイルにて配信し、これを用いながら、必要に応じてPowerPointのスライドを用いて講義を行う。なお、講義レジュメには十分な余白を設けているので、講義中のメモ等を書き込む（タブレット端末の利用も可）ことを推奨する（別途ノートを用意しても構わない）。

【参考書】
　大下勇二著（2019）『税務会計Ⅰ・Ⅱ』法政大学通信教育テキスト（図書館所蔵・生協販売）。
　坂本雅士編著（2025）『現代税務会計論』（最新版が望ましい）中央経済社。

【成績評価の方法と基準】
　講義内における発表（50%）および期末試験（50%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
　講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】
　学習支援システム、オンライン授業動画を視聴するためのPCまたはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4サイズのPDFをスクロールなしで表示可能な端末が望ましい。）。

【その他の重要事項】
　本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第1回授業の際に説明する。
　税務会計論は、簿記論および財務会計論の知識の上に成り立つ科目であることから、これらの科目を履修していることを前提に授業を進める。未履修であっても、本講義を履修することができるが、その場合、各自でこれらの科目に相当する学習を並行して進めることを勧める。
　本講義の履修に際しては、相乗効果が期待されるため、「財務会計基礎」「財務会計特論Ⅰ/Ⅱ」を履修することを勧める。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is for students to acquire a systematic understanding and knowledge of "corporate tax," which is the core of tax accounting theory, while touching on its relationship with corporate accounting. When studying each topic, students will deepen their understanding of the profit and loss accounting structure theory and the income accounting structure theory, while touching on the differences with the corresponding corporate issues as necessary.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation.
Grades will be determined based on the combined total of in-class quizzes (50%) and regular exams (50%).

MAN500F1 – 0201（経営学 / Management 500）

税務会計論 II

藤井　誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、学生が、税務会計論の中心である「法人税」について、企業会計との関連に触れながら、体系的な理解と知識を習得することを目的とする。各論点の学習に際しては、必要に応じて、対応する企業会計の論点との相違に触れながら、損益計算構造理論および所得計算構造理論の理解を深める。
　国家試験との関連においては、主に、税理士試験の法人税法および公認会計士試験の租税法おける出題論点を扱う。このうち，税務会計論 II では、応用論点を中心に学習する。

【到達目標】
　税務会計論の前提となる簿記論および財務会計論の内容について、税務会計の観点から再確認し、知識の定着を図ることができる。
　ビジネスの現場において必須といえる税務申告書の作成に関する理論と技法を習得することができる。
　税理士試験（法人税法）、公認会計士試験（租税法）、司法試験（租税法）、国税専門官試験等の職業会計人として求められる高度な知識を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。
　講義は、通常の講義形式のほか、受講人数によっては、輪読発表形式を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと税務貸借対照表	講義の概要説明を行い、税務貸借対照表の存在意義とその構造について学習する。
第2回	給与，租税公課	給与および租税公課に関する課税関係について学習する。
第3回	貸倒損失，引当金	貸倒損失と法人税法上の引当金について学習する。
第4回	移転価格税制	移転価格を利用した国際的租税回避防止規定について学習する。
第5回	過少資本税制	過少資本を利用した国際的租税回避防止規定について学習する。
第6回	タックス・ヘイブン税制	タックス・ヘイブンを利用した国際的租税回避防止規定について学習する。
第7回	株式交換・株式移転	株式交換や株式移転が行われた場合の課税関係を学習する。
第8回	企業組織再編税制	合併や分割等の企業組織再編税制を学習する。
第9回	グループ法人通算税制	親子会社等の企業集団課税について学習する。
第10回	グループ法人税制	親子会社間の内部取引に関わる課税関係について学習する。
第11回	収益認識と益金の関係	企業会計における収益認識基準と税務会計における益金との関係について学習する。
第12回	繰延資産、リース取引、外貨建取引	法人税法上の繰延資産、リース取引、外貨建取引の課税関係について学習する。
第13回	ヘッジ取引	ヘッジ取引の課税関係について学習する。
第14回	試験・まとめ解説	定期試験およびまとめ解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　講義中の解説や自分で考えたことを講義レジュメやノートにメモし、それらについて「なぜそのような規定が設けられるに至ったのか」を考えながら復習することが期待される。その際、講義で学習した内容を理解できているかを確認し、理解できていないあるいは理解が十分ではない用語や規定については、参考図書や図書館等を利用として確認することが望ましい。
　本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧めたい。

【テキスト（教科書）】
　講義レジュメをPDFファイルにて配信し、これを用いながら、必要に応じてPowerPointのスライドを用いて講義を行う。なお、講義レジュメには十分な余白を設けているので、講義中のメモ等を書き込む（タブレット端末の利用も可）ことを推奨する（別途ノートを用意しても構わない）。

【参考書】
　大下勇二著（2019）『税務会計 I ・ II』法政大学通信教育テキスト（図書館所蔵・生協販売）。
　坂本雅士編著（2025）『現代税務会計論』（最新版が望ましい）中央経済社。

【成績評価の方法と基準】
　講義内における発表（50%）および期末試験（50%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
　講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業動画を視聴するためのPCまたはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4サイズのPDFをスクロールなしで表示可能な端末が望ましい。）。

【その他の重要事項】
　本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第1回授業の際に説明する。
　税務会計論は、簿記論および財務会計論の知識の上に成り立つ科目であることから、これらの科目を履修していることを前提に授業を進める。未履修であっても、本講義を履修することができるが、その場合、各自でこれらの科目に相当する学習を並行して進めることを勧める。
　本講義の履修に際しては、相乗効果が期待されるため、「財務会計基礎」「財務会計特論 I / II」を履修することを勧める。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is for students to acquire a systematic understanding and knowledge of "corporate tax," which is the core of tax accounting theory, while touching on its relationship with corporate accounting.　When studying each topic, students will deepen their understanding of the profit and loss accounting structure theory and the income accounting structure theory, while touching on the differences with the corresponding corporate accounting topic as necessary.
In relation to national examinations, the course will mainly deal with topics that appear in the Corporate Tax Law of the Tax Accountant Examination and the Tax Law of the Certified Public Accountant Examination.　Of these, Tax Accounting Theory II will focus on applied topics.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation.
Grades will be determined based on the combined total of in-class quizzes (50%) and regular exams (50%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

近能　善範

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に質の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業は、原則として基本文献の講読と修士論文の指導の二本立てで運営されるが、秋学期はもっぱら後者が主になる。
毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則として企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第11回	先行研究のレビュー(6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第12回	中間発表会の準備(1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第13回	中間発表会の準備(2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第14回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2〜3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、平常点(50％)、発表・報告(50％(修士論文の中間発表を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読み込み、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論
＜研究テーマ＞
イノベーションと企業間関係

【担当教員の主要研究業績】
1.『コア・テキスト イノベーション・マネジメント 新訂版』（高井文子との共著）, 新世社, 2024年。
2.『破壊的イノベーションのプロセス：PC-98帝国の興隆と衰亡』, 白桃書房, 2026年。
3.「サプライヤーの顧客範囲と製品範囲の拡大が取引継続に及ぼす影響」,『日本経営学会誌』, 41号, 2018年。
4.「日本自動車産業における関係的技能の高度化と先端技術開発の深化」,『一橋ビジネスレビュー』, 54巻4号, 2007年。
5.「自動車部品取引のネットワーク構造とサプライヤーのパフォーマンス」,『組織科学』, Vol.35(3), 2002年。

【Outline (in English)】
【Outline】
・This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business administration and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
・Aim to complete a high-quality master's thesis both practically and academically.
【Learning Activities outside of Classroom】
・The standard preparatory study and review time for this class is 2〜3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

近能　善範

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に質の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業は、原則として基本文献の講読と修士論文の指導の二本立てで運営されるが、秋学期はもっぱら後者が主になる。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画を策定する。
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第5回	調査ノートの作成(4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆と添削を行う。
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆と添削を行う。
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆と添削を行う。
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆と添削を行う。
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆と添削を行う。
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆と添削を行う。
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性を確認する。
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性を確認する。
第14回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、平常点(50％)、発表・報告(50％(修士論文の草稿等を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読み込み、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論
＜研究テーマ＞
イノベーションと企業間関係

【担当教員の主要研究業績】
1.『コア・テキスト イノベーション・マネジメント 新訂版』（高井文子との共著）, 新世社, 2024年。
2.『破壊的イノベーションのプロセス：PC-98帝国の興隆と衰亡』, 白桃書房, 2026年。
3.「サプライヤーの顧客範囲と製品範囲の拡大が取引継続に及ぼす影響」,『日本経営学会誌』, 41号, 2018年。
4.「日本自動車産業における関係的技能の高度化と先端技術開発の深化」,『一橋ビジネスレビュー』, 54巻4号, 2007年。
5.「自動車部品取引のネットワーク構造とサプライヤーのパフォーマンス」,『組織科学』, Vol.35(3), 2002年。

【Outline (in English)】
【Outline】
・This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business administration and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
・Aim to complete a high-quality master's thesis both practically and academically.
【Learning Activities outside of Classroom】
・The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

奥西　好夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡等は主に電子メールで行いますが、簡単な連絡などでスマホアプリ LINEを用いることがあります。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

奥西　好夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡は主に電子メールを用いますがラインを用いて簡略な連絡も行います。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

長谷川　翔平

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング・サイエンス
＜研究テーマ＞
ベイズモデリングによる消費者行動データの分析
＜主要研究業績＞
https://researchmap.jp/7000007775

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

長谷川　翔平

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング・サイエンス
＜研究テーマ＞
ベイズモデリングによる消費者行動データの分析
＜主要研究業績＞
https://researchmap.jp/7000007775

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0091（経営学 / Management 600）

アカウンティング・ファイナンス演習

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主にサステナビリティ関連の研究についての，リサーチペーパーのテーマ設定します。設定したテーマについて理論的な考察を加えるとともに、経験的な検証等を行うことで設定した問題の解決を図ります。

【到達目標】
修士論文で何を明らかにするかを明確にすると共に、学術的な論文に仕上がるよう基本的な理論および研究方法論を身につける。関連した領域の文献レビューを行うとともに、質問票調査または事例研究に基づいて設定した問題を探究する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマのそれぞれの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要と授業の進め方について説明を行う。
第2回	修士論文作成のためのガイダンス	学術論文の構成、関連資料の検索の方法、またそれぞれの領域で検索の対象となりうる学術雑誌の紹介を行う。受講者の興味に基づき、それぞれの領域での最新の研究テーマについて紹介する。
第3回	研究テーマの検討	研究テーマとして。どのような点について留意すべきか、会計研究の動向を踏まえて検討する。
第4回	研究テーマ候補の提示	候補となりうる研究テーマを複数提示してもらい、それぞれの優劣について議論する。
第5回	研究テーマの決定	複数候補の中から一つのテーマに絞り込み、研究テーマを決定する。
第6回	先行研究のレビューの仕方	先行研究をレビューするにあたっての注意点とクリティークの書き方を説明する。
第7回	先行研究のレビュー（1）	研究テーマで重要な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第8回	先行研究のレビュー（2）	前回のレビューを踏まえ、さらに発展的な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第9回	先行研究のレビュー（3）	前回、前々回のレビューを踏まえ、さらに発展的な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第10回	リサーチクエスチョンの設定	各自が行った文献レビューに基づいて、リサーチ・クエスチョンの設定を行う。
第11回	研究方法についての検討	自分が設定したリサーチクエスチョンを明らかにするために相応しい研究方法について検討する。
第12回	研究方法の決定	とりうるであろう研究方法の中から、最終的に自分が採用する研究方法を決定する。
第13回	仮説の導出	リサーチクエスチョンを解明するために、どのような仮説を設定すればよいかを検討する。
第14回	データ等の入手方法について	自分の設定した研究テーマ、研究方法、リサーチクエスチョン、仮説にもとづいて、どのようなデータ等を入手すればよいかを検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この段階での研究では、ひたすら文献を読むことが重要である。講義では3回分しか先行研究のレビューにあてていないが、論文を書き終わるまで常にレビュー作業は続くことになる。
また論文作成において、最低限のパソコンのスキルを習得しておくことが重要である。論文全体のレイアウト設定、図表・数式の作成、脚注の設定、参考文献リストの管理、等はどのような研究テーマ・方法論でも必要となるし、実証研究をするのであれば統計ソフトの扱いにも慣れていなければならない。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。適宜必要となる論文（その多くは英語論文であろう）を各自入手して読むことになる。

【参考書】
どのような研究方法を選択するかにもよるが、以下の本は会計領域の論文作成に非常に役立つので持っていて損はない。
Malcom Smith. 2017. Research Methods in Accounting (4th ed.), Sage Publications Ltd.

【成績評価の方法と基準】
各自の報告内容、授業へのコミットメントの程度などを総合的に勘案し、成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特に必要はないが、パソコンを持参できるのであれば、持参した方が良い。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
管理会計，社会環境会計，サステナブルマネジメント
＜研究テーマ＞
サステナビリティマネジメント

【Outline (in English)】
The master thesis seminar will guide students through key issues in research design, from choosing a topic, through selecting approaches to research it, to conducting research, drawing conclusions and summarizing the results in written form.

MAN600F1 – 0091（経営学 / Management 600）

アカウンティング・ファイナンス演習

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主にサステナビリティ関連の研究についての，リサーチペーパーのテーマ設定します。設定したテーマについて理論的な考察を加えるとともに、経験的な検証等を行うことで設定した問題の解決を図ります。

【到達目標】
修士論文で何を明らかにするかを明確にすると共に、学術的な論文に仕上がるよう基本的な理論および研究方法論を身につける。関連した領域の文献レビューを行うとともに、質問票調査または事例研究に基づいて設定した問題を探究する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマのそれぞれの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要と授業の進め方について説明を行う。
第2回	修士論文作成のためのガイダンス	学術論文の構成、関連資料の検索の方法、またそれぞれの領域で検索の対象となりうる学術雑誌の紹介を行う。受講者の興味に基づき、それぞれの領域での最新の研究テーマについて紹介する。
第3回	研究テーマの検討	研究テーマとして。どのような点について留意すべきか、会計研究の動向を踏まえて検討する。
第4回	研究テーマ候補の提示	候補となりうる研究テーマを複数提示してもらい、それぞれの優劣について議論する。
第5回	研究テーマの決定	複数候補の中から一つのテーマに絞り込み、研究テーマを決定する。
第6回	先行研究のレビューの仕方	先行研究をレビューするにあたっての注意点とクリティークの書き方を説明する。
第7回	先行研究のレビュー（1）	研究テーマで重要な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第8回	先行研究のレビュー（2）	前回のレビューを踏まえ、さらに発展的な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第9回	先行研究のレビュー（3）	前回、前々回のレビューを踏まえ、さらに発展的な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第10回	リサーチクエスチョンの設定	各自が行った文献レビューに基づいて、リサーチ・クエスチョンの設定を行う。
第11回	研究方法についての検討	自分が設定したリサーチクエスチョンを明らかにするために相応しい研究方法について検討する。
第12回	研究方法の決定	とりうるであろう研究方法の中から、最終的に自分が採用する研究方法を決定する。
第13回	仮説の導出	リサーチクエスチョンを解明するために、どのような仮説を設定すればよいかを検討する。
第14回	データ等の入手方法について	自分の設定した研究テーマ、研究方法、リサーチクエスチョン、仮説にもとづいて、どのようなデータ等を入手すればよいかを検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この段階での研究では、ひたすら文献を読むことが重要である。講義では3回分しか先行研究のレビューにあてていないが、論文を書き終わるまで常にレビュー作業は続くことになる。
また論文作成において、最低限のパソコンのスキルを習得しておくことが重要である。論文全体のレイアウト設定、図表・数式の作成、脚注の設定、参考文献リストの管理、等はどのような研究テーマ・方法論でも必要となるし、実証研究をするのであれば統計ソフトの扱いにも慣れていなければならない。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。適宜必要となる論文（その多くは英語論文であろう）を各自入手して読むことになる。

【参考書】
どのような研究方法を選択するかにもよるが、以下の本は会計領域の論文作成に非常に役立つので持っていて損はない。
Malcom Smith. 2017. Research Methods in Accounting (4th ed.), Sage Publications Ltd.

【成績評価の方法と基準】
各自の報告内容、授業へのコミットメントの程度などを総合的に勘案し、成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特に必要はないが、パソコンを持参できるのであれば、持参した方が良い。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
管理会計，社会環境会計，サステナブルマネジメント
＜研究テーマ＞
サステナビリティマネジメント

【Outline (in English)】
The master thesis seminar will guide students through key issues in research design, from choosing a topic, through selecting approaches to research it, to conducting research, drawing conclusions and summarizing the results in written form.

MAN600F1 – 0091（経営学 / Management 600）

アカウンティング・ファイナンス演習

福田　淳児

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカウンティング・ファイナンスコースの演習では、これまで当コースの様々な授業で学習してきた内容および関連する他コースの授業での学習内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。その上で、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行うことでリサーチクエスチョンを明確にするとともに、必要なデータの収集とその分析および解釈を行うことで修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目的とします。

【到達目標】
関連した学術文献をレビューすることで，修士論文の作成者の問題意識を明確にする。その際に，テーマに関連した基本的な学術成果を理解し、批判的に検討することを目標とする。さらに，自分の研究テーマに適した研究方法論を身につける。それによって，学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
文献のレビューおよび演習での議論を通じて，修士論文で取り扱う問題の論点の明確化を行う。論文作成の方法、選択した研究テーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、論文の作成を行うとともに，それについての議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	修士論文作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの領域で検索を行う対象となりうる学術雑誌の紹介を行う。
2回目	修士論文作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した最新の研究成果を検索して見つける。
3回目	研究テーマの選択①	修士論文としての研究テーマの妥当性、また何を明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討する。
4回目	研究テーマの選択②	研究テーマの検討を続ける。具体的には、比較的短期間で書き上げなければいけない修士論文の性質上、テーマを具体的に絞ることが必要となる。さらに、データの入手可能性を検討する。
5回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行う。
6回目	先行研究のレビュー②	前回の議論に基づいて，先行研究のさらなるレビューを行う。また、その結果として、選択した領域において何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7回目	問題意識の具体化①	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかという点について議論する。
8回目	問題意識の具体化②	解明すべき問題と、解明するための方法を引き続き検討する。
9回目	仮説の設定①	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき仮説の設定を行う。
10回目	仮説の設定②	前回の議論に基づいて、検証すべき仮説についての検討を続ける。
11回目	研究方法論について①	各種の研究方法について全般的な説明を行う。
12回目	研究方法論について②	各自の問題意識に適切な研究方法論について議論・検討する。
13回目	データの入手方法、整理、また質問票などの作成①	研究テーマに応じて、データの入手方法を検討する。質問票調査を行う場合、仮説に応じた質問項目の設定を行う。またケース研究を行う場合、リサーチ・クエスチョンの設定を行うとともに、リサーチサイトの決定を行なう。
14回目	データの入手方法、整理、また質問票などの作成②	データの入手方法、質問票の作成、ケース研究の方法等の検討を続ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に望むにあたって各回以下の準備を充分に行ってください。
1～2回目　各自の問題意識に基づいて、その問題意識と関連した学術論文を読み，整理しておくこと。
3～4回目　実務経験およびこれまでの学習に基づいて具体的な研究テーマを考えておく。その際、何をどこまで明らかにしたいかを明確に説明できるようにしておくこと。
5～6回目　各人の研究テーマに応じて、紹介した学術論文などを参考に先行研究のレビューを行っておくこと。
7～8回目　先行研究のレビューに基づいて，これまで何が明らかにされたか。何が残された問題であるかを明確にしておくこと。
9～10回目　先行研究のレビューに基づき、これまでの研究で何がどこまで明らかにされているのか、また各自の修士論文では何をどこまで明らかにするのかを明確にしてくること。
11～12回目　これまでの文献で使用されていた研究方法について検討すること。
13～14回目　必要なデータを収集するためのソース、あるいは、質問票調査を行う場合は質問項目などを考えておく。
15回目　先行研究のレビューに基づいて仮説の設定を行い、簡単なレジュメを作成すること。その際、仮説はこれまでの研究をふまえた上で論理的に構築できるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自の問題意識に基づいて関連した文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。管理会計の領域で修士論文を書く場合は、例えば以下のジャーナルなどを検索してみてください。
The Accounting Review
Journal of Management Accounting Research
Accounting, Organizations and Society
Management Accounting Research

【成績評価の方法と基準】
毎回の議論のための準備および授業での議論への貢献で30％，中間レポートの提出で70％

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習課目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞管理会計論
＜研究テーマ＞マネジメント・コントロール・システムと組織学習
＜主要研究業績＞
①「社会的企業におけるマネジメント・コントロール・システムの役割」『経営志林』第62巻第１号，pp.1-26, 2025。
②「スタートアップ企業におけるMCSの採用とその精緻化」『メルコ管理会計研究』第11号，pp.3-23, 2019。
③「純粋持株会社における全体最適と部分最適」『管理会計学』第27巻第２号, pp.27-44，2019。

【Outline (in English)】
In the seminar of the Accounting and Finance Course, students are asked to set a theme for their master's thesis based on the content they have studied in this course and in other related courses, as well as on their awareness of problems based on their own practical experience. Students will then review academic papers related to the theme they have chosen in order to further clarify the issues and create a paper with content suitable for a master's thesis by setting and testing hypotheses. Clarify the author's awareness of the problem in writing the master's thesis. Understand the basic academic results related to the theme by reading and understanding related academic papers. In addition, students will acquire research methodologies appropriate to their own research topics. The goal is to complete a thesis that is academically appropriate for a master's thesis.
The master's thesis is to be written based on each student's awareness of the problem. The following preparations are required for each exercise. The standard preparation and review time for this seminar is 2 hours each.
Sessions 1 and 2: Based on your own awareness of the issues, read as much as you can of the academic papers related to your awareness of the issues.
Third and fourth sessions: Think of a specific research theme based on your own practical experience and previous studies. You should be able to clearly explain what you want to clarify and to what extent.
Students are expected to review previous research, referring to the academic papers introduced, according to their own research themes.
Based on the review of previous studies, what has been clarified so far? Clarify what has been clarified so far based on the review of previous studies and what remains to be clarified.
Based on the review of the previous studies, what has been clarified so far and to what extent, and what is to be clarified in each student's master's thesis.
In the 11th and 12th sessions, we will discuss the research methods used in the previous literature.
13th-14th To consider the sources for collecting the necessary data, or the questions to be asked if a questionnaire survey is to be conducted.
Students should formulate a hypothesis based on a review of previous research and prepare a brief resume. In doing so, the hypothesis should be able to be logically constructed based on the previous research.
Grading will be based on preparation for each discussion and contribution to the class discussion (30%), and submission of the mid-term report (70%).

MAN600F1 – 0091（経営学 / Management 600）

アカウンティング・ファイナンス演習

福田　淳児

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカウンティング・ファイナンスコースの演習では、これまで当コースの様々な授業で学習してきた内容および関連する他コースの授業での学習内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。その上で、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行うことで問題点をさらに明確にするとともに、仮説設定さらに仮説の検証を行うことで修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目的とします。

【到達目標】
修士論文の作成者の問題意識を明確にする。関連した学術論文を読みこみ，理解することで、テーマに関連した基本的な学術成果および研究方法論を身につける。それによって、学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	中間報告論文の follow-up	春学期に提出した中間報告の論文に基づいて，その後の進展も踏まえ，議論を行う。
2回目	データの分析方法①	仮説の検証方法について議論を行う
3回目	データの分析方法②	論文の内容に適切な仮説の検証方法について説明する。
4回目	データの分析①	各自が収集したデータを使い、その分析結果の検討を行なう。
5回目	データの分析②	前回に引き続き、データの分析結果を議論する。
6回目	データ分析の結果の解釈①	分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈を行なう。
7回目	データ分析の結果の解釈②	前回に続き、分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈について議論する。
8回目	修士論文のドラフトの作成①	提出されたドラフトに基づいて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
9回目	修士論文のドラフトの作成②	引き続き、ドラフトについて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
10回目	修士論文のドラフトの修正①	前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
11回目	修士論文のドラフトの修正②	引き続き、前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
12回目	修士論文の報告および議論①	修士論文の内容を報告してもらい、全体の構成を踏まえて議論を行う。
13回目	修士論文の報告および議論②	引き続き、修士論文の内容について議論を行う。
14回目	論文の修正および完成原稿の作成①	提出予定の論文について最終的な議論を行い、それに基づいて論文を最終的に修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に望むにあたって各回以下の準備を充分に行っておくこと。なお、本演習の準備及び復習時間は、各２時間を必要とします。
1回目　春学期に提出した中間報告論文およびその後の追加的な研究に基づいて議論を行う。
2～3回目　各自の研究に適当と思われる分析方法について学習すること。
4～5回目　各自が得たデータに対して学習した分析方法を適用して分析を行なう。
6～7回目　分析結果について解釈を行なうとともに，それについての議論を行う。
8～9回目　修士論文の章立てを構成し、大雑把なドラフトを作成する。
10～11回目　教員からのコメントに基づいてより詳しいドラフトを作成する。
12～13回目　教員からのコメントに基づいて修士論文を加筆・修正する。
14～15回目　教員からのコメントに基づいて修士論文の最終版を作成する。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自の研究テーマに沿って適切な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。管理会計の領域で修士論文を書く場合は、例えば以下のジャーナルをテーマに合わせ検索してみてください。
The Accounting Review
Journal of Management Accounting Research
Accounting, Organizations and Society
Management Accounting Research

【成績評価の方法と基準】
演習における議論への貢献40％および報告の内容60％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習課目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞管理会計論
＜研究テーマ＞マネジメント・コントロール・システムと組織学習
＜主要研究業績＞
①「社会的企業におけるマネジメント・コントロール・システムの役割」『経営志林』第62巻第１号，pp.1-26, 2025。
②「スタートアップ企業におけるMCSの採用とその精緻化」『メルコ管理会計研究』第11号，pp.3-23, 2019。
③「純粋持株会社における全体最適と部分最適」『管理会計学』第27巻第２号, pp.27-44，2019。

【Outline (in English)】
In the seminar of the Accounting and Finance Course, students are asked to set a theme for their master's thesis based on the content they have studied in this course and in other related courses, as well as on their awareness of problems based on their own practical experience. Students will then review academic papers related to the theme they have chosen in order to further clarify the issues and create a paper with content suitable for a master's thesis by setting and testing hypotheses.

Clarify the author's awareness of the problem in writing the master's thesis. Understand the basic academic results related to the theme by reading and understanding related academic papers. In addition, students will acquire research methodologies appropriate to their own research topics. The goal is to complete a thesis that is academically appropriate for a master's thesis.
The master's thesis is to be written based on each student's awareness of the problem. The following preparations should be made for each exercise. The standard preparation and review time for this seminar is 2 hours each.
In the first session, you will perform the work requested in the interim report given in the spring semester.
The second and third sessions will be devoted to the study of analytical methods that are appropriate for each student's research.
Students will apply the analysis methods they have learned to the data they have obtained and conduct analysis.
Students will interpret the results of their analyses.
Students will compose chapters of their master's thesis and prepare a rough draft.
Students will prepare a more detailed draft based on comments from the instructor.
12th - 13th Additions and revisions to the master's thesis based on comments from the instructor.
Students will prepare a final version of their master's thesis based on comments from the instructor.
Evaluation will be based on 40% of the contribution to the discussion in the exercise and 60% of the content of the report.

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

二階堂　行宣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に質の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業は、原則として基本文献の講読と修士論文の指導の二本立てで運営されるが、秋学期はもっぱら後者が主になる。
毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則として企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第11回	先行研究のレビュー(6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第12回	中間発表会の準備(1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第13回	中間発表会の準備(2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第14回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、平常点(50％)、発表・報告(50％(修士論文の中間発表を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読み込み、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
・日本経営史
・日本経済史
＜研究テーマ＞
・鉄道事業経営と運輸政策に関する歴史研究
・オーラル・ヒストリー
＜主要研究業績＞
・二階堂行宣・中村英夫編著（2025）『交通市場の変容と国鉄の経営危機―鉄道百五十年史　第四巻―』公益財団法人交通協力会。
・二階堂行宣（2020）「三陸鉄道をめぐる危機と希望―地域公共交通経営の普遍性・特殊性―」『地域の危機・釜石の対応』東京大学出版会。
・二階堂行宣（2020）「日本国有鉄道と東海道新幹線―計画期における組織内業務運営とマネジメント―」『経営志林』第56巻第4号。
・二階堂行宣（2017）「陸運業の展開」『日本経済の歴史4（近代2）』岩波書店。
・二階堂行宣（2015）「戦間期鉄道貨物輸送システムの形成」『経営史学』49巻4号。
・二階堂行宣（2014）「鉄道貨物輸送における設備・営業業務の形成」『鉄道史学』32号。

【Outline (in English)】
【Outline】
・This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business administration and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
・Aim to complete a high-quality master's thesis both practically and academically.
【Learning Activities outside of Classroom】
・The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

二階堂　行宣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に質の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業は、原則として基本文献の講読と修士論文の指導の二本立てで運営されるが、秋学期はもっぱら後者が主になる。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画を策定する。
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第5回	調査ノートの作成(4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆と添削を行う。
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆と添削を行う。
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆と添削を行う。
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆と添削を行う。
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆と添削を行う。
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆と添削を行う。
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性を確認する。
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性を確認する。
第14回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、平常点(50％)、発表・報告(50％(修士論文の草稿等を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読み込み、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
・日本経営史
・日本経済史
＜研究テーマ＞
・鉄道事業経営と運輸政策に関する歴史研究
・オーラル・ヒストリー
＜主要研究業績＞
・二階堂行宣・中村英夫編著（2025）『交通市場の変容と国鉄の経営危機―鉄道百五十年史　第四巻―』公益財団法人交通協力会。
・二階堂行宣（2020）「三陸鉄道をめぐる危機と希望―地域公共交通経営の普遍性・特殊性―」『地域の危機・釜石の対応』東京大学出版会。
・二階堂行宣（2020）「日本国有鉄道と東海道新幹線―計画期における組織内業務運営とマネジメント―」『経営志林』第56巻第4号。
・二階堂行宣（2017）「陸運業の展開」『日本経済の歴史4（近代2）』岩波書店。
・二階堂行宣（2015）「戦間期鉄道貨物輸送システムの形成」『経営史学』49巻4号。
・二階堂行宣（2014）「鉄道貨物輸送における設備・営業業務の形成」『鉄道史学』32号。

【Outline (in English)】
【Outline】
・This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business administration and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
・Aim to complete a high-quality master's thesis both practically and academically.
【Learning Activities outside of Classroom】
・The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

稲垣　京輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に質の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業は、原則として基本文献の講読と修士論文の指導の二本立てで運営されるが、秋学期はもっぱら後者が主になる。
毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則として企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第11回	先行研究のレビュー(6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第12回	中間発表会の準備(1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第13回	中間発表会の準備(2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第14回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、平常点(50％)、発表・報告(50％(修士論文の中間発表を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読み込み、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞組織社会学、経営組織論
＜研究テーマ＞企業間協力における能力構築と産業クラスター形成に関する研究
＜主要研究業績＞
稲垣京輔・高橋勅徳（2010）「産業クラスター形成における地理的近接に基づく関係構築プロセス:大阪扇町界隈におけるインキュベーション・マネジャーとクリエイター間の関係性の変化」『組織科学』第44巻,第3号, 21－36 頁。
高橋勅徳・稲垣京輔（2015）「我が国における産業クラスター政策の推進による組織 フィールドの形成:大阪市扇町界隈における扇町クリエイティブ・クラスターの形成」『経営と制度』第13号,25－46頁 .

【Outline (in English)】
【Outline】
・This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business administration and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
・Aim to complete a high-quality master's thesis both practically and academically.
【Learning Activities outside of Classroom】
・The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

稲垣　京輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に質の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業は、原則として基本文献の講読と修士論文の指導の二本立てで運営されるが、秋学期はもっぱら後者が主になる。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画を策定する。
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第5回	調査ノートの作成(4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆と添削を行う。
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆と添削を行う。
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆と添削を行う。
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆と添削を行う。
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆と添削を行う。
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆と添削を行う。
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性を確認する。
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性を確認する。
第14回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、平常点(50％)、発表・報告(50％(修士論文の草稿等を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読み込み、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞組織社会学、経営組織論
＜研究テーマ＞企業間協力における能力構築と産業クラスター形成に関する研究
＜主要研究業績＞
稲垣京輔・高橋勅徳（2010）「産業クラスター形成における地理的近接に基づく関係構築プロセス:大阪扇町界隈におけるインキュベーション・マネジャーとクリエイター間の関係性の変化」『組織科学』第44巻,第3号, 21－36 頁。
高橋勅徳・稲垣京輔（2015）「我が国における産業クラスター政策の推進による組織 フィールドの形成:大阪市扇町界隈における扇町クリエイティブ・クラスターの形成」『経営と制度』第13号,25－46頁 .

【Outline (in English)】
【Outline】
・This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business administration and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
・Aim to complete a high-quality master's thesis both practically and academically.
【Learning Activities outside of Classroom】
・The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

金　容度

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に質の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業は、原則として基本文献の講読と修士論文の指導の二本立てで運営されるが、秋学期はもっぱら後者が主になる。
毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則として企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第11回	先行研究のレビュー(6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第12回	中間発表会の準備(1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第13回	中間発表会の準備(2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第14回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、平常点(50％)、発表・報告(50％(修士論文の中間発表を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読み込み、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞企業間関係論、日本経営論、日本経営史
＜研究テーマ＞企業間関係の国際比較、企業システムの日米比較など
＜主要研究業績＞
①『日本経営論』博英社、2023年
②『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造-』有斐閣、2021年
③The Dynamics of Interfirm Relationships:Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd..2015
④"Inter-firm Cooperation in Japan's Integrated Circuit Industry,1960s-1970s."Business History Review (Harvard Business School), Vol.86 Issue 4.2012
⑤『日本IC産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会、2006年

【Outline (in English)】
【Outline】
・This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business administration and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
・Aim to complete a high-quality master's thesis both practically and academically.
【Learning Activities outside of Classroom】
・The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

金　容度

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に質の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業は、原則として基本文献の講読と修士論文の指導の二本立てで運営されるが、秋学期はもっぱら後者が主になる。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画を策定する。
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第5回	調査ノートの作成(4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆と添削を行う。
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆と添削を行う。
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆と添削を行う。
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆と添削を行う。
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆と添削を行う。
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆と添削を行う。
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性を確認する。
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性を確認する。
第14回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、平常点(50％)、発表・報告(50％(修士論文の草稿等を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読み込み、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞企業間関係論、日本経営論、日本経営史
＜研究テーマ＞企業間関係の国際比較、企業システムの日米比較など
＜主要研究業績＞
①『日本経営論』博英社、2023年
②『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造-』有斐閣、2021年
③The Dynamics of Interfirm Relationships:Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd..2015
④"Inter-firm Cooperation in Japan's Integrated Circuit Industry,1960s-1970s."Business History Review (Harvard Business School), Vol.86 Issue 4.2012
⑤『日本IC産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会、2006年

【Outline (in English)】
【Outline】
・This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business administration and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
・Aim to complete a high-quality master's thesis both practically and academically.
【Learning Activities outside of Classroom】
・The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

福島　英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に質の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業は、原則として基本文献の講読と修士論文の指導の二本立てで運営されるが、秋学期はもっぱら後者が主になる。
毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則として企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第11回	先行研究のレビュー(6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第12回	中間発表会の準備(1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第13回	中間発表会の準備(2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第14回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2〜3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、平常点(50％)、発表・報告(50％(修士論文の中間発表を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読み込み、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞日本企業の戦略と組織
＜研究テーマ＞戦略と組織・イノベーション，産業発展とグローバル化，経営学説史など

【担当教員の主要研究業績】
・「グローバル・ストラテジー 国際的な市場機会と競争優位の実現」『学史から学ぶ経営戦略』（文真堂）, 2022.5. ・「オープン・イノベーション・ワールド探訪-概念検討と画像半導体産業揺籃期」『経営志林』53 (1), 2016. ・“Inside Cooperative Innovation: Development and Commercialization of Sodium-Sulfur Batteries for Power Storage,” IIR Case Studies (Hitotsubashi University), 13 (1), 2013. ・「アンソフ戦略論への批判」『経営学史叢書 IX アンソフ』（文真堂）, 2012. ・「技術開発プロジェクトの国家支援と成果」『経営志林』47(3),2010. ・「事業の多様化と経営成果―時間展開と企業間相互作用」『経営志林』46(3), 2009. ・"The Network Structure of Open Innovation and the Creativity in the Semiconductor Manufacturing Equipment Industry," co-author, IIAI-AAI, 2023, IEEE.

【Outline (in English)】
【Outline】
・This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master’s thesis.
・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business administration and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
・Aim to complete a high-quality master’s thesis both practically and academically.
【Learning Activities outside of Classroom】
・The standard preparatory study and review time for this class is 2〜3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0042（経営学 / Management 600）

企業家養成演習

福島　英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に質の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に100分間、あるいは、隔週土曜日に200分間の授業が行われる。
授業は、原則として基本文献の講読と修士論文の指導の二本立てで運営されるが、秋学期はもっぱら後者が主になる。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画を策定する。
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第5回	調査ノートの作成(4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆と添削を行う。
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆と添削を行う。
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆と添削を行う。
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆と添削を行う。
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆と添削を行う。
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆と添削を行う。
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性を確認する。
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性を確認する。
第14回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、平常点(50％)、発表・報告(50％(修士論文の草稿等を含む))である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読み込み、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞日本企業の戦略と組織
＜研究テーマ＞戦略と組織・イノベーション，産業発展とグローバル化，経営学説史など

【担当教員の主要研究業績】
・「グローバル・ストラテジー 国際的な市場機会と競争優位の実現」『学史から学ぶ経営戦略』（文真堂）, 2022.5. ・「オープン・イノベーション・ワールド探訪-概念検討と画像半導体産業揺籃期」『経営志林』53 (1), 2016. ・“Inside Cooperative Innovation: Development and Commercialization of Sodium-Sulfur Batteries for Power Storage,” IIR Case Studies (Hitotsubashi University), 13 (1), 2013. ・「アンソフ戦略論への批判」『経営学史叢書 IX アンソフ』（文真堂）, 2012. ・「技術開発プロジェクトの国家支援と成果」『経営志林』47(3),2010. ・「事業の多様化と経営成果ー時間展開と企業間相互作用」『経営志林』46(3), 2009. ・"The Network Structure of Open Innovation and the Creativity in the Semiconductor Manufacturing Equipment Industry," co-author, IIAI-AAI, 2023, IEEE.

【Outline (in English)】
【Outline】
・This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master’s thesis.
・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business administration and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
・Aim to complete a high-quality master’s thesis both practically and academically.
【Learning Activities outside of Classroom】
・The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

中西　善信

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡等は主に電子メールで行いますが、簡単な連絡などでスマホアプリ LINEを用いることがあります。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　経営組織論，組織行動論
＜研究テーマ＞　組織学習，正統性，アカウンタビリティ
＜主要研究業績＞　ResearchMapを参照されたい。

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

中西　善信

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡は主に電子メールを用いますがラインを用いて簡略な連絡も行います。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　経営組織論，組織行動論
＜研究テーマ＞　組織学習，正統性，アカウンタビリティ
＜主要研究業績＞　ResearchMapを参照されたい。

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

佐野　嘉秀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡等は主に電子メールで行いますが、簡単な連絡などでスマホアプリ LINEを用いることがあります。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞人的資源管理・産業社会学
＜研究テーマ＞雇用システムの日英比較、就業形態の多様化と人事管理、人事部門とライン管理者の人事管理上の連携 等
＜近年の主な業績（市販書籍のみ）＞
①佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太朗（2025）『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房
②藤本真・佐野嘉秀（編著）（2024）『日本企業の能力開発システム―変化のなかの能力開発と人事・職場・社員』労働政策研究・研修機構
③佐野嘉秀（2023）「異動や昇進はしなくてはいけないのか」「ずっとパート・アルバイトではいけないのか」西村淳子・池田心豪（編著）『社会学で学ぶライフ＆キャリア』中央経済社
④佐野嘉秀（2021）『英国の人事管理・日本の人事管理―日英百貨店の仕事と雇用システム』東京大学出版会
⑤佐野嘉秀（2014）「生産職種の請負・派遣社員の就業意識」佐藤博樹・大木栄一（編）『人材サービス産業の新しい役割』有斐閣
⑥佐野嘉秀（2012）「企業内キャリアと人事管理」上林千恵子（編）『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房
⑦佐藤博樹・佐野嘉秀・堀田聰子（編）（2010）『実証　日本の人材ビジネス―新しい働き方と人事マネジメント』日本経済新聞社

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

佐野　嘉秀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡は主に電子メールを用いますがラインを用いて簡略な連絡も行います。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞人的資源管理・産業社会学
＜研究テーマ＞雇用システムの日英比較、就業形態の多様化と人事管理、人事部門とライン管理者の人事管理上の連携 等
＜近年の主な業績（市販書籍のみ）＞
①佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太朗（2025）『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房
②藤本真・佐野嘉秀（編著）（2024）『日本企業の能力開発システム―変化のなかの能力開発と人事・職場・社員』労働政策研究・研修機構
③佐野嘉秀（2023）「異動や昇進はしなくてはいけないのか」「ずっとパート・アルバイトではいけないのか」西村淳子・池田心豪（編著）『社会学で学ぶライフ＆キャリア』中央経済社
④佐野嘉秀（2021）『英国の人事管理・日本の人事管理―日英百貨店の仕事と雇用システム』東京大学出版会
⑤佐野嘉秀（2014）「生産職種の請負・派遣社員の就業意識」佐藤博樹・大木栄一（編）『人材サービス産業の新しい役割』有斐閣
⑥佐野嘉秀（2012）「企業内キャリアと人事管理」上林千恵子（編）『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房
⑦佐藤博樹・佐野嘉秀・堀田聰子（編）（2010）『実証　日本の人材ビジネス―新しい働き方と人事マネジメント』日本経済新聞社

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:

The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

長岡　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡等は主に電子メールで行いますが、簡単な連絡などでスマホアプリ LINEを用いることがあります。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
組織社会学、経営学習論、質的研究方法論
〈研究テーマ〉
組織と学習、組織エスノグラフィー、
創造的なコラボレーションのデザイン
〈主要研究業績〉
『みんなのアンラーニング論』（単著）
『ダイアローグ　対話する組織』（共著）
『企業内人材育成入門』（共著）
『越境する対話と学び』（共著）
〈ウェブサイト〉
http://www.tnlab.net/
〈フェイスブック〉
https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9
〈X：旧ツイッター〉
https://twitter.com/TakeruNagaoka
〈学部ゼミ〉
http://www.tnlab.net/seminar/

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

長岡　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡は主に電子メールを用いますがラインを用いて簡略な連絡も行います。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
組織社会学、経営学習論、質的研究方法論
〈研究テーマ〉
組織と学習、組織エスノグラフィー、
創造的なコラボレーションのデザイン
〈主要研究業績〉
『みんなのアンラーニング論』（単著）
『ダイアローグ　対話する組織』（共著）
『企業内人材育成入門』（共著）
『越境する対話と学び』（共著）
〈ウェブサイト〉
http://www.tnlab.net/
〈フェイスブック〉
https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9
〈X：旧ツイッター〉
https://twitter.com/TakeruNagaoka
〈学部ゼミ〉
http://www.tnlab.net/seminar/

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:

The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡等は主に電子メールで行いますが、簡単な連絡などでスマホアプリ LINEを用いることがあります。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　経営管理論、組織行動論
＜研究テーマ＞
　組織社会化、組織文化、人材採用等
＜主要研究業績＞
・Norihiko Ogawa, Osato,D. &K.Takahashi (2015) “Criteria for Screening Job Applicants in Japanese Companies: Policy Capturing Approach,”Journal of Academy of Business and Economics,Vol.15 (1), pp.101-109.
・Norihiko Ogawa, Takahashi,K. &D.Osato (2014) “The Empathetic Sorting Technique: Measuring Corporate Culture by Sorting Illustrated Value Statements” Business Studies Journal, Vol.6, pp.81-103.
・小川憲彦(2013)「人材育成方針がもたらす若手従業員への影響」金井壽宏・鈴木竜太編著『日本のキャリア研究組織人のキャリア・ダイナミクス』白桃書房，第Ⅲ部第6章, 169 - 196頁.

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the quality of the students’ class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0065（経営学 / Management 600）

人材・組織マネジメント演習

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習は１～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。
連絡は主に電子メールを用いますがラインを用いて簡略な連絡も行います。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　経営管理論、組織行動論
＜研究テーマ＞
　組織社会化、組織文化、人材採用等
＜主要研究業績＞
・Norihiko Ogawa, Osato,D. &K.Takahashi (2015) “Criteria for Screening Job Applicants in Japanese Companies: Policy Capturing Approach,”Journal of Academy of Business and Economics,Vol.15 (1), pp.101-109.
・Norihiko Ogawa, Takahashi,K. &D.Osato (2014) “The Empathetic Sorting Technique: Measuring Corporate Culture by Sorting Illustrated Value Statements” Business Studies Journal, Vol.6, pp.81-103.
・小川憲彦(2013)「人材育成方針がもたらす若手従業員への影響」金井壽宏・鈴木竜太編著『日本のキャリア研究組織人のキャリア・ダイナミクス』白桃書房，第Ⅲ部第6章, 169 - 196頁.

【Outline (in English)】
Course Outline:
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives:
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

岡田　庄生

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ユーザー・イノベーション、広告コミュニケーション
＜研究テーマ＞ユーザー発案者効果
＜主要研究業績＞
岡田庄生(2024)『ユーザー発案者効果 ーユーザー創造製品のマーケティング・コミュニケーション戦略ー』碩学社
岡田庄生(2024)「制御焦点の違いがユーザー創造製品の発案者効果に与える影響」『マーケティング・ジャーナル』43(3), 32-43.
岡田庄生(2020)「ユーザー創造製品の情報表示が消費者の製品選択に与える影響：新奇性と有用性の媒介効果に着目して」『広告科学』67, 1-19.

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

岡田　庄生

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ユーザー・イノベーション、広告コミュニケーション
＜研究テーマ＞ユーザー発案者効果
＜主要研究業績＞
岡田庄生(2024)『ユーザー発案者効果 ーユーザー創造製品のマーケティング・コミュニケーション戦略ー』碩学社
岡田庄生(2024)「制御焦点の違いがユーザー創造製品の発案者効果に与える影響」『マーケティング・ジャーナル』43(3), 32-43.
岡田庄生(2020)「ユーザー創造製品の情報表示が消費者の製品選択に与える影響：新奇性と有用性の媒介効果に着目して」『広告科学』67, 1-19.

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
https://researchmap.jp/Niikura_Takashi

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
https://researchmap.jp/Niikura_Takashi

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

田路　則子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営戦略、技術経営、アントレプレヌールシップ
＜研究テーマ＞
「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」
「ハイテク・スタートアップの成長」
「ハイテク産業集積のエコシステム」

【担当教員の主要研究業績】
①「スピンオフ・ネットワーク形成と発展のメカニズム －事業停止が生んだスピンオフにおける刷り込みの分析―」田路則子・福嶋路・五十嵐伸吾『イノベーションマネジメント』法政大学,22巻,pp.175-205,2025年.②「スウェーデンの起業家大学から生まれるハイテク・スタートアップ」田路則子・五十嵐伸吾『マーケティングジャーナル』43号4巻, pp.31-42,2024年.③「大学生の起業意思形成モデルの検証」田路則子・藤村まこと・玉井由樹『組織科学』56巻3号, 2023年.④「新興国スタートアップの資金調達と新興企業向けの株式市場の役割-バルト三国のケース・スタディから」簗田優・田路則子 『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第37巻, pp.73-77,2021.⑤『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房2020年.⑥「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号,pp172-184,2017年. ⑦Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies," Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14,pp.263-287,2014. ⑧『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子,東洋経済新報社,2010年. ⑨「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学,第8巻,5号,pp211-231,2009年. ⑩『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子,白桃書房,2005年

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

田路　則子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営戦略、技術経営、アントレプレヌールシップ
＜研究テーマ＞
「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」
「ハイテク・スタートアップの成長」
「ハイテク産業集積のエコシステム」

【担当教員の主要研究業績】
①「スピンオフ・ネットワーク形成と発展のメカニズム －事業停止が生んだスピンオフにおける刷り込みの分析―」田路則子・福嶋路・五十嵐伸吾『イノベーションマネジメント』法政大学,22巻,pp.175-205,2025年.②「スウェーデンの起業家大学から生まれるハイテク・スタートアップ」田路則子・五十嵐伸吾『マーケティングジャーナル』43号4巻, pp.31-42,2024年.③「大学生の起業意思形成モデルの検証」田路則子・藤村まこと・玉井由樹『組織科学』56巻3号, 2023年.④「新興国スタートアップの資金調達と新興企業向けの株式市場の役割-バルト三国のケース・スタディから」簗田優・田路則子 『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第37巻, pp.73-77,2021.⑤『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房2020年.⑥「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号,pp172-184,2017年. ⑦Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies," Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14,pp.263-287,2014. ⑧『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子,東洋経済新報社,2010年. ⑨「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学,第8巻,5号,pp211-231,2009年. ⑩『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子,白桃書房,2005年

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
　クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
　著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
　論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
　クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
　著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
　論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

木村　純子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
地理的表示保護制度、地域活性化、
農作物マーケティング、SDGs

【担当教員の主要研究業績】
(1)木村純子・二階堂行宣・佐野嘉秀・藤本真(近刊)「日本型テリトーリオ形成の論理: 鹿児島県大隅の事例を手がかりに」『イノベーション・マネジメント』23.
(2)木村純子・陣内秀信編著(近刊)『イタリアの底力とテリトーリオ: デザイン・ファッションから農業・食文化まで』白桃書房.
(3) Kimura, Junko. &Rigolot, Cyrille. (2025) The Potential of Geographical Indications (GI) to Enhance Sustainable Development Goals (SDGs) in Japan, with GI Mishima Potato as a Case Study," Vandecandelaere, Emilie., et als. (eds) Worldwide Perspectives on Geographical Indications: Crossed Views between Researchers, Policy Makers and Practitioners, Springer.
(4)木村純子・陣内秀信編著(2024)『南イタリアの食とテリトーリオ: 農業が社会を変える』白桃書房.

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 – 0078（経営学 / Management 600）

マーケティング演習

木村　純子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも4-5時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が60%、演習への取り組み姿勢や努力(平常点）を40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【担当教員の専門分野等】
地理的表示保護制度、地域活性化、
農作物マーケティング、SDGs

【担当教員の主要研究業績】
(1)木村純子・二階堂行宣・佐野嘉秀・藤本真(近刊)「日本型テリトーリオ形成の論理: 鹿児島県大隅の事例を手がかりに」『イノベーション・マネジメント』23.
(2)木村純子・陣内秀信編著(近刊)『イタリアの底力とテリトーリオ: デザイン・ファッションから農業・食文化まで』白桃書房.
(3) Kimura, Junko. &Rigolot, Cyrille. (2025) The Potential of Geographical Indications (GI) to Enhance Sustainable Development Goals (SDGs) in Japan, with GI Mishima Potato as a Case Study," Vandecandelaere, Emilie., et als. (eds) Worldwide Perspectives on Geographical Indications: Crossed Views between Researchers, Policy Makers and Practitioners, Springer.
(4)木村純子・陣内秀信編著(2024)『南イタリアの食とテリトーリオ: 農業が社会を変える』白桃書房.

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

戸田　裕美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自が選択した修士論文またリサーチペーパーのテーマに関連した既存の学術論文のレビューを行う。これによって，テーマに関連した問題について、何が解決され，何が明らかにされていない点であるかを明確にする。さらに，それらの問題について，自分が選択肢したアプローチで問題解決のための道筋を明らかにすることができる。

【到達目標】
修士論文またリサーチパーパーの作成者が選択したテーマについて，その問題意識を明確にすることできる。関連した学術論文をレビューし，批判的に考察することで、テーマに関連した基本的な学術成果およびそこで使用されている研究方法論を身につける。これによって、学術的にふさわしいレベルの修士論文またリサーチペーパーを仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの各研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行いつつ，修士論文またリサーチペーパーを段階的に仕上げていく。
課題に対するフィードバックは、授業中の議論や、ポータルサイトのディスカッション機能な
どを活用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの研究領域で検索の候補となりうる学術雑誌のいくつかを紹介する。
2回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した研究成果を実際に検索することで、レビューの対象となる論文のいくつかを見つける。
3回目	研究テーマの選択①	修士論文またリサーチペーパーとしての研究テーマの妥当性、また何をどこまで明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討を行う。
4回目	研究テーマの選択②	前回のコメントに基づき、研究テーマの一層の検討を行う。具体的には、時間的な制約のある中で書き上げなければいけない修士論文、リサーチペーパーの性質上、より具体的に絞り込んだテーマの設定を行う。さらに、必要とされるデータの入手可能性を検討する。
5回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行い，それらの論文を批判的に検討し、議論を行う。
6回目	先行研究のレビュー②	先行研究のレビューを追加的に行うとともに，その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7回目	先行研究のレビューとその評価	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかとういう点について議論する。
8回目	問題意識の具体化	本修士論文またはリサーチペーパーで明らかにすべき問題と、そのための研究アプローチについて引き続き検討する。
9回目	研究テーマの具体化	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき問題をより明確にする。
10回目	仮説の設定①	前回設定した問題点に関連した文献を検討し，自分なりの仮説を設定する。
11回目	仮説の設定②	設定した仮説の妥当性、特にその導出プロセスについて検討を行う。
12回目	研究方法論について①	研究領域で採用される可能性のある研究方法論について紹介する。
13回目	研究方法論について②	各研究方法論のメリットまたそれが有する固有のデメリットを明らかにする。
14回目	研究方法の選択	学生の設定した研究テーマや実現可能性を踏まえ研究方法を選択する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
修士論文またリサーチペーパーの作成にあたって，次の点を事前に準備しておいてください。
1～2回目　各自の問題意識に基づいて、関連した学術論文をいくつか探して読んでみること。
3～4回目　各自の問題意識に基づいて，テーマの選定を行うとともに，この時点で何をどこまで明らかにしたいかをできるだけ明確にしておくこと。
5～7回目　各自の設定した研究テーマに応じて、紹介したまた自分で入手した学術論文のレビューを行なうこと。
8～9回目　先行研究のレビューを踏まえ，各自が解決すべき問題をより明確にできるようにすること。
10～11回目　先行研究のレビューに基づき、修士論文で明らかにしたい問題についての仮説の設定を行う。
12～14回目　これまでの文献で使用されてきた研究方法について検討すること。
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自が設定したテーマに基づき基本的な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習科目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞、流通論、マーケティング学説史
＜研究テーマ＞日本における流通・マーケティング研究の知的進歩に関する学説研究
＜主要研究業績＞
戸田裕美子(2025)「小売企業の国際展開に求められるノウハウの移転」『小売業の国際化ー理論と実践』柳純，佐々木保幸編著，同文舘出版，pp. 35-44.
Toda, Yumiko(2025), 'Prominent Figures in the History of Distribution and Marketing Research in Japan: Oral Histories of their Thoughts and Life' in Proceedings of the 22nd Conference on Historical Analysis and Research in Marketing, Brunel University of London, UK, June.
戸田裕美子(2024)「欧州におけるエコデザイン規制の展開ーファストファッション企業のマーケティング戦略における新たな問題ー」『マーケティング史研究』（マーケティング史学会）第3巻第1号，pp. 50-67.

【Outline (in English)】
(Course outline) The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
(Learning Objectives) The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.
(Learning activities outside of classroom)When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.
(Grading Criteria/Policy) Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習 II

戸田　裕美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経営学における学術研究の基本的な方法を学んだうえで、具体的な研究課題を選定し、しかるべき一連の研究活動を通じて修士論文またリサーチペーパーという成果物を出して特定領域についての知識体系に新たな知見を加えることを目的とします。データの収集や分析などの具体的な研究活動は授業外の時間で行いますが、授業ではステップバイステップで研究の指導・アドバイスを受けます。

【到達目標】
学術的にふさわしいレベルの経営学分野の修士論文またリサーチペーパーを完成することが本授業の目標です。そのためには、経営学分野における研究テーマの設定、研究テーマに関連する先行文献のサーベイと整理、先行研究のレビュー基づく研究課題の設定と仮説の構築、仮説検証のための方法論の選定とデータ収集、収集したデータの分析、分析結果をまとめて、学術論文の作成を行う一連のプロセスを行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究計画に沿って、毎回の演習で進捗状況を報告してもらいます。その報告に対して、教員より指導とアドバイスを受けます。基本的には教室で対面方式を採りますが、フィールド調査の実施期間中においてはオンライン方式などで柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	調査実施結果の確認	調査結果を報告し、そこで得られたデータ・情報の量と質を検討します。
第16回	仮分析と追加調査について	仮分析の結果を確認し、必要に応じて追加調査の実施方法を検討します。
第17回	追加調査について①	前回の議論で必要とされる追加調査の対象と項目について確認します。
第18回	追加調査について②	追加調査の進捗状況を確認します。
第19回	追加調査について③	追加調査の結果を検討します。
第20回	調査結果の検討	調査から得られたデータに基づいてた発見を自分なりに分析した結果を検討します。
第21回	論文執筆の進捗確認と指導①	先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第22回	論文執筆の進捗確認と指導②	前回に引き続き、先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第23回	論文執筆の進捗確認と指導③	研究方法、調査内容、発見事実の部分
第24回	論文執筆の進捗確認と指導④	分析結果、考察の部分
第25回	論文執筆の進捗確認と指導⑤	前回に引き続き、分析結果、考察の部分
第26回	論文執筆の進捗確認と指導⑥	結論、含意、限界、積み残された課題の部分
第27回	論文執筆の進捗確認と指導⑦	導入部分、要旨、参考文献リスト、文末注、付録などを確認します。
第28回	論文執筆の最終確認	論文全体の論旨の整合性、語句の統一、体裁、執筆要領の順守などを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
修士論文/リサーチペーパーの作業のために、毎週15時間以上を確保しましょう。

【テキスト（教科書）】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【参考書】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞、流通論、マーケティング学説史
＜研究テーマ＞日本における流通・マーケティング研究の知的進歩に関する学説研究
＜主要研究業績＞
戸田裕美子(2025)「小売企業の国際展開に求められるノウハウの移転」『小売業の国際化ー理論と実践』柳純，佐々木保幸編著，同文舘出版，pp. 35-44.
Toda, Yumiko(2025), 'Prominent Figures in the History of Distribution and Marketing Research in Japan: Oral Histories of their Thoughts and Life' in Proceedings of the 22nd Conference on Historical Analysis and Research in Marketing, Brunel University of London, UK, June.
戸田裕美子(2024)「欧州におけるエコデザイン規制の展開―ファストファッション企業のマーケティング戦略における新たな問題―」『マーケティング史研究』（マーケティング史学会）第3巻第1号，pp. 50-67.

【Outline (in English)】
(Course outline) The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
(Learning Objectives) The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.
(Learning activities outside of classroom)When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.
(Grading Criteria/Policy) Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

左三川　郁子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自が選択した修士論文またリサーチペーパーのテーマに関連した既存の学術論文のレビューを行う。これによって，テーマに関連した問題について、何が解決され，何が明らかにされていない点であるかを明確にする。さらに，それらの問題について，自分が選択肢したアプローチで問題解決のための道筋を明らかにすることができる。

【到達目標】
修士論文またリサーチパーパーの作成者が選択したテーマについて，その問題意識を明確にすることできる。関連した学術論文をレビューし，批判的に考察することで、テーマに関連した基本的な学術成果およびそこで使用されている研究方法論を身につける。これによって、学術的にふさわしいレベルの修士論文またリサーチペーパーを仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの各研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行いつつ，修士論文またリサーチペーパーを段階的に仕上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの研究領域で検索の候補となりうる学術雑誌のいくつかを紹介する。
2回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した研究成果を実際に検索することで、レビューの対象となる論文のいくつかを見つける。
3回目	研究テーマの選択①	修士論文またリサーチペーパーとしての研究テーマの妥当性、また何をどこまで明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討を行う。
4回目	研究テーマの選択②	前回のコメントに基づき、研究テーマの一層の検討を行う。具体的には、時間的な制約のある中で書き上げなければいけない修士論文、リサーチペーパーの性質上、より具体的に絞り込んだテーマの設定を行う。さらに、必要とされるデータの入手可能性を検討する。
5回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行い，それらの論文を批判的に検討し、議論を行う。
6回目	先行研究のレビュー②	先行研究のレビューを追加的に行うとともに，その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7回目	先行研究のレビューとその評価	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかとういう点について議論する。
8回目	問題意識の具体化	本修士論文またはリサーチペーパーで明らかにすべき問題と、そのための研究アプローチについて引き続き検討する。
9回目	研究テーマの具体化	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき問題をより明確にする。
10回目	仮説の設定①	前回設定した問題点に関連した文献を検討し，自分なりの仮説を設定する。
11回目	仮説の設定②	設定した仮説の妥当性、特にその導出プロセスについて検討を行う。
12回目	研究方法論について①	研究領域で採用される可能性のある研究方法論について紹介する。
13回目	研究方法論について②	各研究方法論のメリットまたそれが有する固有のデメリットを明らかにする。
14回目	研究方法の選択	学生の設定した研究テーマや実現可能性を踏まえ研究方法を選択する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文またリサーチペーパーの作成にあたって，次の点を事前に準備しておいてください。
1～2回目　各自の問題意識に基づいて、関連した学術論文をいくつか探して読んでみること。
3～4回目　各自の問題意識に基づいて，テーマの選定を行うとともに，この時点で何をどこまで明らかにしたいかをできるだけ明確にしておくこと。
5～7回目　各自の設定した研究テーマに応じて、紹介したまた自分で入手した学術論文のレビューを行なうこと。
8～9回目　先行研究のレビューを踏まえ，各自が解決すべき問題をより明確にできるようにすること。
10～11回目　先行研究のレビューに基づき、修士論文で明らかにしたい問題についての仮説の設定を行う。
12～14回目　これまでの文献で使用されてきた研究方法について検討すること。
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自が設定したテーマに基づき基本的な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習科目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【担当教員の専門分野等】
【専門領域】金融政策・銀行論
【研究テーマ】日本銀行の金融正常化、
【主要研究業績】
・『ポスト非伝統的金融政策』日本経済新聞出版、2025年
・「大規模緩和に関する論点整理」、『証券アナリストジャーナル』2024年4月号（第62巻第4号）「特集 グローバル金融緩和の終焉と日銀」、日本証券アナリスト協会、2024年4月
・「非伝統的金融政策としての日本銀行のＥＴＦ買い入れ」『経済研究』第74巻 (2023年)第1&2号、一橋大学経済研究所、2023年10月

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
【Learning Objectives】The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.
【Learning activities outside of classroom】When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習 II

左三川　郁子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経営学における学術研究の基本的な方法を学んだうえで、具体的な研究課題を選定し、しかるべき一連の研究活動を通じて修士論文またリサーチペーパーという成果物を出して特定領域についての知識体系に新たな知見を加えることを目的とします。データの収集や分析などの具体的な研究活動は授業外の時間で行いますが、授業ではステップバイステップで研究の指導・アドバイスを受けます。

【到達目標】
学術的にふさわしいレベルの経営学分野の修士論文またリサーチペーパーを完成することが本授業の目標です。そのためには、経営学分野における研究テーマの設定、研究テーマに関連する先行文献のサーベイと整理、先行研究のレビュー基づく研究課題の設定と仮説の構築、仮説検証のための方法論の選定とデータ収集、収集したデータの分析、分析結果をまとめて、学術論文の作成を行う一連のプロセスを行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究計画に沿って、毎回の演習で進捗状況を報告してもらいます。その報告に対して、教員より指導とアドバイスを受けます。基本的には教室で対面方式を採りますが、フィールド調査の実施期間中においてはオンライン方式などで柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	調査実施結果の確認	調査結果を報告し、そこで得られたデータ・情報の量と質を検討します。
第16回	仮分析と追加調査について	仮分析の結果を確認し、必要に応じて追加調査の実施方法を検討します。
第17回	追加調査について①	前回の議論で必要とされる追加調査の対象と項目について確認します。
第18回	追加調査について②	追加調査の進捗状況を確認します。
第19回	追加調査について③	追加調査の結果を検討します。
第20回	調査結果の検討	調査から得られたデータに基づいてた発見を自分なりに分析した結果を検討します。
第21回	論文執筆の進捗確認と指導①	先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第22回	論文執筆の進捗確認と指導②	前回に引き続き、先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第23回	論文執筆の進捗確認と指導③	研究方法、調査内容、発見事実の部分
第24回	論文執筆の進捗確認と指導④	分析結果、考察の部分
第25回	論文執筆の進捗確認と指導⑤	前回に引き続き、分析結果、考察の部分
第26回	論文執筆の進捗確認と指導⑥	結論、含意、限界、積み残された課題の部分
第27回	論文執筆の進捗確認と指導⑦	導入部分、要旨、参考文献リスト、文末注、付録などを確認します。
第28回	論文執筆の最終確認	論文全体の論旨の整合性、語句の統一、体裁、執筆要領の順守などを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
修士論文/リサーチペーパーの作業のために、毎週15時間以上を確保しましょう。

【テキスト（教科書）】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【参考書】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
【専門領域】金融政策・銀行論
【研究テーマ】日本銀行の金融正常化、
【主要研究業績】
・『ポスト非伝統的金融政策』日本経済新聞出版、2025年
・「大規模緩和に関する論点整理」、『証券アナリストジャーナル』2024年4月号（第62巻第4号）「特集 グローバル金融緩和の終焉と日銀」、日本証券アナリスト協会、2024年4月
・「非伝統的金融政策としての日本銀行のＥＴＦ買い入れ」『経済研究』第74巻 (2023年)第1&2号、一橋大学経済研究所、2023年10月

【Outline (in English)】
【Course outline】Students will learn the basic knowledge and skills of conducting academic research in the social sciences, including formulating research questions, reviewing relevant literature, and collecting and analyzing appropriate data and relevant information.
【Learning Objectives】 As a result of a series of research activities, students must complete a master's thesis. All the research activities must be done before/after each class meeting. Students will get advice and instruction in class step by step through the research process.
【Learning activities outside of classroom】When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

川島　健司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自が選択した修士論文またリサーチペーパーのテーマに関連した既存の学術論文のレビューを行う。これによって，テーマに関連した問題について、何が解決され，何が明らかにされていない点であるかを明確にする。さらに，それらの問題について，自分が選択肢したアプローチで問題解決のための道筋を明らかにすることができる。

【到達目標】
修士論文またリサーチパーパーの作成者が選択したテーマについて，その問題意識を明確にすることできる。関連した学術論文をレビューし，批判的に考察することで、テーマに関連した基本的な学術成果およびそこで使用されている研究方法論を身につける。これによって、学術的にふさわしいレベルの修士論文またリサーチペーパーを仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの各研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行いつつ，修士論文またリサーチペーパーを段階的に仕上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの研究領域で検索の候補となりうる学術雑誌のいくつかを紹介する。
2回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した研究成果を実際に検索することで、レビューの対象となる論文のいくつかを見つける。
3回目	研究テーマの選択①	修士論文またリサーチペーパーとしての研究テーマの妥当性、また何をどこまで明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討を行う。
4回目	研究テーマの選択②	前回のコメントに基づき、研究テーマの一層の検討を行う。具体的には、時間的な制約のある中で書き上げなければいけない修士論文、リサーチペーパーの性質上、より具体的に絞り込んだテーマの設定を行う。さらに、必要とされるデータの入手可能性を検討する。
5回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行い，それらの論文を批判的に検討し、議論を行う。
6回目	先行研究のレビュー②	先行研究のレビューを追加的に行うとともに，その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7回目	先行研究のレビューとその評価	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかとういう点について議論する。
8回目	問題意識の具体化	本修士論文またはリサーチペーパーで明らかにすべき問題と、そのための研究アプローチについて引き続き検討する。
9回目	研究テーマの具体化	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき問題をより明確にする。
10回目	仮説の設定①	前回設定した問題点に関連した文献を検討し，自分なりの仮説を設定する。
11回目	仮説の設定②	設定した仮説の妥当性、特にその導出プロセスについて検討を行う。
12回目	研究方法論について①	研究領域で採用される可能性のある研究方法論について紹介する。
13回目	研究方法論について②	各研究方法論のメリットまたそれが有する固有のデメリットを明らかにする。
14回目	研究方法の選択	学生の設定した研究テーマや実現可能性を踏まえ研究方法を選択する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文またリサーチペーパーの作成にあたって，次の点を事前に準備しておいてください。
1～2回目　各自の問題意識に基づいて、関連した学術論文をいくつか探して読んでみること。
3～4回目　各自の問題意識に基づいて，テーマの選定を行うとともに，この時点で何をどこまで明らかにしたいかをできるだけ明確にしておくこと。
5～7回目　各自の設定した研究テーマに応じて、紹介したまた自分で入手した学術論文のレビューを行なうこと。
8～9回目　先行研究のレビューを踏まえ，各自が解決すべき問題をより明確にできるようにすること。
10～11回目　先行研究のレビューに基づき、修士論文で明らかにしたい問題についての仮説の設定を行う。
12～14回目　これまでの文献で使用されてきた研究方法について検討すること。
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自が設定したテーマに基づき基本的な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習科目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　財務会計論
＜研究テーマ＞　会計用語の使用法に関する研究
＜主要研究業績＞
1. 川島健司.2022.「「収益」という用語の定義は、なぜ多様に存在するのか」『會計』第202巻, 第1号, pp.67-79.
2. 川島健司.2020.「「収益」という用語は、いつからどのように使われてきたか」『會計』第198巻, 第6号, pp.43-56.
3. 川島健司.2011.「なぜ, 損益計算書で「営業収入」と表記されるのか―勘定科目の使用法に関する定性的調査」『経営志林』48 (1):131-148.

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
Learning Objectives
The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.
Learning activities outside of classroom
When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.
Preparation and Review
Students are expected to spend approximately two hours each on preparation and review for this course. For each class, students should review the example problems covered in the lecture and complete the related practice exercises.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習 II

川島　健司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経営学における学術研究の基本的な方法を学んだうえで、具体的な研究課題を選定し、しかるべき一連の研究活動を通じて修士論文またリサーチペーパーという成果物を出して特定領域についての知識体系に新たな知見を加えることを目的とします。データの収集や分析などの具体的な研究活動は授業外の時間で行いますが、授業ではステップバイステップで研究の指導・アドバイスを受けます。

【到達目標】
学術的にふさわしいレベルの経営学分野の修士論文またリサーチペーパーを完成することが本授業の目標です。そのためには、経営学分野における研究テーマの設定、研究テーマに関連する先行文献のサーベイと整理、先行研究のレビュー基づく研究課題の設定と仮説の構築、仮説検証のための方法論の選定とデータ収集、収集したデータの分析、分析結果をまとめて、学術論文の作成を行う一連のプロセスを行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究計画に沿って、毎回の演習で進捗状況を報告してもらいます。その報告に対して、教員より指導とアドバイスを受けます。基本的には教室で対面方式を採りますが、フィールド調査の実施期間中においてはオンライン方式などで柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	調査実施結果の確認	調査結果を報告し、そこで得られたデータ・情報の量と質を検討します。
第16回	仮分析と追加調査について	仮分析の結果を確認し、必要に応じて追加調査の実施方法を検討します。
第17回	追加調査について①	前回の議論で必要とされる追加調査の対象と項目について確認します。
第18回	追加調査について②	追加調査の進捗状況を確認します。
第19回	追加調査について③	追加調査の結果を検討します。
第20回	調査結果の検討	調査から得られたデータに基づいてた発見を自分なりに分析した結果を検討します。
第21回	論文執筆の進捗確認と指導①	先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第22回	論文執筆の進捗確認と指導②	前回に引き続き、先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第23回	論文執筆の進捗確認と指導③	研究方法、調査内容、発見事実の部分
第24回	論文執筆の進捗確認と指導④	分析結果、考察の部分
第25回	論文執筆の進捗確認と指導⑤	前回に引き続き、分析結果、考察の部分
第26回	論文執筆の進捗確認と指導⑥	結論、含意、限界、積み残された課題の部分
第27回	論文執筆の進捗確認と指導⑦	導入部分、要旨、参考文献リスト、文末注、付録などを確認します。
第28回	論文執筆の最終確認	論文全体の論旨の整合性、語句の統一、体裁、執筆要領の順守などを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
修士論文/リサーチペーパーの作業のために、毎週15時間以上を確保しましょう。

【テキスト（教科書）】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【参考書】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
授業前後に2時間の予習・復習時間を確保されたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　財務会計論
＜研究テーマ＞　会計用語の使用法に関する研究
＜主要研究業績＞
1. 川島健司.2022.「「収益」という用語の定義は、なぜ多様に存在するのか」『會計』第202巻, 第1号, pp.67-79.
2. 川島健司.2020.「「収益」という用語は、いつからどのように使われてきたか」『會計』第198巻, 第6号, pp.43-56.
3. 川島健司.2011.「なぜ, 損益計算書で「営業収入」と表記されるのか―勘定科目の使用法に関する定性的調査」『経営志林』48 (1):131-148.

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
Learning Objectives
The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.
Learning activities outside of classroom
When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自が選択した修士論文またリサーチペーパーのテーマに関連した既存の学術論文のレビューを行う。これによって，テーマに関連した問題について、何が解決され，何が明らかにされていない点であるかを明確にする。さらに，それらの問題について，自分が選択肢したアプローチで問題解決のための道筋を明らかにすることができる。

【到達目標】
修士論文またリサーチパーパーの作成者が選択したテーマについて，その問題意識を明確にすることできる。関連した学術論文をレビューし，批判的に考察することで、テーマに関連した基本的な学術成果およびそこで使用されている研究方法論を身につける。これによって、学術的にふさわしいレベルの修士論文またリサーチペーパーを仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの各研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行いつつ，修士論文またリサーチペーパーを段階的に仕上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの研究領域で検索の候補となりうる学術雑誌のいくつかを紹介する。
2回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した研究成果を実際に検索することで、レビューの対象となる論文のいくつかを見つける。
3回目	研究テーマの選択①	修士論文またリサーチペーパーとしての研究テーマの妥当性、また何をどこまで明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討を行う。
4回目	研究テーマの選択②	前回のコメントに基づき、研究テーマの一層の検討を行う。具体的には、時間的な制約のある中で書き上げなければいけない修士論文、リサーチペーパーの性質上、より具体的に絞り込んだテーマの設定を行う。さらに、必要とされるデータの入手可能性を検討する。
5回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行い，それらの論文を批判的に検討し、議論を行う。
6回目	先行研究のレビュー②	先行研究のレビューを追加的に行うとともに，その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7回目	先行研究のレビューとその評価	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかとういう点について議論する。
8回目	問題意識の具体化	本修士論文またはリサーチペーパーで明らかにすべき問題と、そのための研究アプローチについて引き続き検討する。
9回目	研究テーマの具体化	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき問題をより明確にする。
10回目	仮説の設定①	前回設定した問題点に関連した文献を検討し，自分なりの仮説を設定する。
11回目	仮説の設定②	設定した仮説の妥当性、特にその導出プロセスについて検討を行う。
12回目	研究方法論について①	研究領域で採用される可能性のある研究方法論について紹介する。
13回目	研究方法論について②	各研究方法論のメリットまたそれが有する固有のデメリットを明らかにする。
14回目	研究方法の選択	学生の設定した研究テーマや実現可能性を踏まえ研究方法を選択する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文またリサーチペーパーの作成にあたって，次の点を事前に準備しておいてください。
1～2回目　各自の問題意識に基づいて、関連した学術論文をいくつか探して読んでみること。
3～4回目　各自の問題意識に基づいて，テーマの選定を行うとともに，この時点で何をどこまで明らかにしたいかをできるだけ明確にしておくこと。
5～7回目　各自の設定した研究テーマに応じて、紹介したまた自分で入手した学術論文のレビューを行なうこと。
8～9回目　先行研究のレビューを踏まえ，各自が解決すべき問題をより明確にできるようにすること。
10～11回目　先行研究のレビューに基づき、修士論文で明らかにしたい問題についての仮説の設定を行う。
12～14回目　これまでの文献で使用されてきた研究方法について検討すること。
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
これら，各４時間以上を目安としてください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自が設定したテーマに基づき基本的な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習科目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
管理会計，社会環境会計，サステナブルマネジメント
＜研究テーマ＞
サステナビリティマネジメント

【主要業績】
- 北田皓嗣・安藤光展『サステナビリティ戦略の実装：組織行動を促す「社内浸透」の設計学』千倉書房，2026年。
– Katsuhiko Kokubu, Hirotsugu Kitada, Kimitaka Nishitani, Aki Shinohara (2023). How material flow cost accounting contributes to the SDGs through improving management decision-making. Journal of Material Cycles and Waste Management, 25(5), 2783-2793. [査読有り]
– Hirotsugu Kitada, Tatsumasa Tennojiya, Jaehong Kim, Akira Higashida (2022). Management practice of material flow cost accounting and its discontinuance. Cleaner Environmental Systems. [査読有り]
– Kimitaka Nishitani, Katsuhiko Kokubu, Qi Wu, Hirotsugu Kitada, Edeltraud Guenther, Thomas Guenther (2022). Material flow cost accounting (MFCA) for the circular economy: An empirical study of the triadic relationship between MFCA, environmental performance, and the economic performance of Japanese companies. Journal of Environmental Management, 303, 114219. [査読有り]

【Outline (in English)】
Course Outline
The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
Learning Objectives
The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.
Learning Activities Outside of Classroom
When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.
Students are expected to spend approximately 3 – 4 hours per week outside of class for preparation, including reading assigned articles, reviewing methodological approaches, and refining their individual research questions. Additional time may be required for drafting and revising reports related to the course.
Grading Criteria / Policy
Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).
– Katsuhiko Kokubu, Hirotsugu Kitada, Kimitaka Nishitani, Aki Shinohara (2023). How material flow cost accounting contributes to the SDGs through improving management decision-making. Journal of Material Cycles and Waste Management, 25(5), 2783-2793. [査読有り]
– Hirotsugu Kitada, Tatsumasa Tennojiya, Jaehong Kim, Akira Higashida (2022). Management practice of material flow cost accounting and its discontinuance. Cleaner Environmental Systems. [査読有り]
– Kimitaka Nishitani, Katsuhiko Kokubu, Qi Wu, Hirotsugu Kitada, Edeltraud Guenther, Thomas Guenther (2022). Material flow cost accounting (MFCA) for the circular economy: An empirical study of the triadic relationship between MFCA, environmental performance, and the economic performance of Japanese companies. Journal of Environmental Management, 303, 114219. [査読有り]

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習 II

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経営学における学術研究の基本的な方法を学んだうえで、具体的な研究課題を選定し、しかるべき一連の研究活動を通じて修士論文またリサーチペーパーという成果物を出して特定領域についての知識体系に新たな知見を加えることを目的とします。データの収集や分析などの具体的な研究活動は授業外の時間で行いますが、授業ではステップバイステップで研究の指導・アドバイスを受けます。

【到達目標】
学術的にふさわしいレベルの経営学分野の修士論文またリサーチペーパーを完成することが本授業の目標です。そのためには、経営学分野における研究テーマの設定、研究テーマに関連する先行文献のサーベイと整理、先行研究のレビュー基づく研究課題の設定と仮説の構築、仮説検証のための方法論の選定とデータ収集、収集したデータの分析、分析結果をまとめて、学術論文の作成を行う一連のプロセスを行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究計画に沿って、毎回の演習で進捗状況を報告してもらいます。その報告に対して、教員より指導とアドバイスを受けます。基本的には教室で対面方式を採りますが、フィールド調査の実施期間中においてはオンライン方式などで柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	調査実施結果の確認	調査結果を報告し、そこで得られたデータ・情報の量と質を検討します。
第16回	仮分析と追加調査について	仮分析の結果を確認し、必要に応じて追加調査の実施方法を検討します。
第17回	追加調査について①	前回の議論で必要とされる追加調査の対象と項目について確認します。
第18回	追加調査について②	追加調査の進捗状況を確認します。
第19回	追加調査について③	追加調査の結果を検討します。
第20回	調査結果の検討	調査から得られたデータに基づいてた発見を自分なりに分析した結果を検討します。
第21回	論文執筆の進捗確認と指導①	先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第22回	論文執筆の進捗確認と指導②	前回に引き続き、先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第23回	論文執筆の進捗確認と指導③	研究方法、調査内容、発見事実の部分
第24回	論文執筆の進捗確認と指導④	分析結果、考察の部分
第25回	論文執筆の進捗確認と指導⑤	前回に引き続き、分析結果、考察の部分
第26回	論文執筆の進捗確認と指導⑥	結論、含意、限界、積み残された課題の部分
第27回	論文執筆の進捗確認と指導⑦	導入部分、要旨、参考文献リスト、文末注、付録などを確認します。
第28回	論文執筆の最終確認	論文全体の論旨の整合性、語句の統一、体裁、執筆要領の順守などを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
修士論文/リサーチペーパーの作業のために、毎週15時間以上を確保しましょう。

【テキスト（教科書）】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【参考書】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
管理会計，社会環境会計，サステナブルマネジメント
＜研究テーマ＞
サステナビリティマネジメント

【主要業績】
- 北田皓嗣・安藤光展『サステナビリティ戦略の実装：組織行動を促す「社内浸透」の設計学』千倉書房，2026年。
– Katsuhiko Kokubu, Hirotsugu Kitada, Kimitaka Nishitani, Aki Shinohara (2023). How material flow cost accounting contributes to the SDGs through improving management decision-making. Journal of Material Cycles and Waste Management, 25(5), 2783-2793. [査読有り]
– Hirotsugu Kitada, Tatsumasa Tennojiya, Jaehong Kim, Akira Higashida (2022). Management practice of material flow cost accounting and its discontinuance. Cleaner Environmental Systems. [査読有り]
– Kimitaka Nishitani, Katsuhiko Kokubu, Qi Wu, Hirotsugu Kitada, Edeltraud Guenther, Thomas Guenther (2022). Material flow cost accounting (MFCA) for the circular economy: An empirical study of the triadic relationship between MFCA, environmental performance, and the economic performance of Japanese companies. Journal of Environmental Management, 303, 114219. [査読有り]

【Outline (in English)】
Course Outline
The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
Learning Objectives

The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.

Learning Activities Outside of Classroom

When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.

Students are expected to spend approximately 3 – 4 hours per week outside of class for preparation, including reading assigned articles, reviewing methodological approaches, and refining their individual research questions. Additional time may be required for drafting and revising reports related to the course.

Grading Criteria / Policy

Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

– Katsuhiko Kokubu, Hirotsugu Kitada, Kimitaka Nishitani, Aki Shinohara (2023). How material flow cost accounting contributes to the SDGs through improving management decision-making. Journal of Material Cycles and Waste Management, 25(5), 2783-2793. [査読有り]

– Hirotsugu Kitada, Tatsumasa Tennojiya, Jaehong Kim, Akira Higashida (2022). Management practice of material flow cost accounting and its discontinuance. Cleaner Environmental Systems. [査読有り]

– Kimitaka Nishitani, Katsuhiko Kokubu, Qi Wu, Hirotsugu Kitada, Edeltraud Guenther, Thomas Guenther (2022). Material flow cost accounting (MFCA) for the circular economy: An empirical study of the triadic relationship between MFCA, environmental performance, and the economic performance of Japanese companies. Journal of Environmental Management, 303, 114219. [査読有り]

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

近能　善範

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自が選択した修士論文またリサーチペーパーのテーマに関連した既存の学術論文のレビューを行う。これによって、テーマに関連した問題について、何が解決され、何が明らかにされていない点であるかを明確にする。さらに、それらの問題について、自分が選択肢したアプローチで問題解決のための道筋を明らかにすることができる。

【到達目標】
修士論文またリサーチパーパーの作成者が選択したテーマについて、その問題意識を明確にすることできる。関連した学術論文をレビューし、批判的に考察することで、テーマに関連した基本的な学術成果およびそこで使用されている研究方法論を身につける。これによって、学術的にふさわしいレベルの修士論文またリサーチペーパーを仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの各研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行いつつ、修士論文またリサーチペーパーを段階的に仕上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの研究領域で検索の候補となりうる学術雑誌のいくつかを紹介する。
2回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した研究成果を実際に検索することで、レビューの対象となる論文のいくつかを見つける。
3回目	研究テーマの選択①	修士論文またリサーチペーパーとしての研究テーマの妥当性、また何をどこまで明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討を行う。
4回目	研究テーマの選択②	前回のコメントに基づき、研究テーマの一層の検討を行う。具体的には、時間的な制約のある中で書き上げなければいけない修士論文、リサーチペーパーの性質上、より具体的に絞り込んだテーマの設定を行う。さらに、必要とされるデータの入手可能性を検討する。
5回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行い、それらの論文を批判的に検討し、議論を行う。
6回目	先行研究のレビュー②	先行研究のレビューを追加的に行うとともに、その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7回目	先行研究のレビューとその評価	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかとういう点について議論する。
8回目	問題意識の具体化	本修士論文またはリサーチペーパーで明らかにすべき問題と、そのための研究アプローチについて引き続き検討する。
9回目	研究テーマの具体化	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき問題をより明確にする。
10回目	仮説の設定①	前回設定した問題点に関連した文献を検討し、自分なりの仮説を設定する。
11回目	仮説の設定②	設定した仮説の妥当性、特にその導出プロセスについて検討を行う。
12回目	研究方法論について①	研究領域で採用される可能性のある研究方法論について紹介する。
13回目	研究方法論について②	各研究方法論のメリットまたそれが有する固有のデメリットを明らかにする。
14回目	研究方法の選択	学生の設定した研究テーマや実現可能性を踏まえ研究方法を選択する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文またリサーチペーパーの作成にあたって、次の点を事前に準備しておいてください。
1～2回目　各自の問題意識に基づいて、関連した学術論文をいくつか探して読んでみること。
3～4回目　各自の問題意識に基づいて、テーマの選定を行うとともに、この時点で何をどこまで明らかにしたいかをできるだけ明確にしておくこと。
5～7回目　各自の設定した研究テーマに応じて、紹介したまた自分で入手した学術論文のレビューを行なうこと。
8～9回目　先行研究のレビューを踏まえ、各自が解決すべき問題をより明確にできるようにすること。
10～11回目　先行研究のレビューに基づき、修士論文で明らかにしたい問題についての仮説の設定を行う。
12～14回目　これまでの文献で使用されてきた研究方法について検討すること。
15～16回目　仮説との関連で、必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い、そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成、またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
なお、本授業の準備・復習時間は、各2～3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自が設定したテーマに基づき基本的な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、平常点20％、議論の積極度30％、および発表・報告の内容(修士論文の中間発表を含む)50％で評価する。

発表・報告の評価基準は、先行研究の読み込み、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習科目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
　イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論
＜研究テーマ＞
　イノベーションと企業間関係

【担当教員の主要研究業績】
1.『コア・テキスト イノベーション・マネジメント 新訂版』（高井文子との共著）, 新世社, 2024年。
2.『破壊的イノベーションのプロセス：PC-98帝国の興隆と衰亡』, 白桃書房, 2026年。
3.「サプライヤーの顧客範囲と製品範囲の拡大が取引継続に及ぼす影響」,『日本経営学会誌』, 41号, 2018年。
4.「日本自動車産業における関係的技能の高度化と先端技術開発の深化」,『一橋ビジネスレビュー』, 54巻4号, 2007年。
5.「自動車部品取引のネットワーク構造とサプライヤーのパフォーマンス」,『組織科学』, Vol.35(3), 2002年。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
【Learning Objectives】
The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.
【Learning Activities outside of Classroom】
・When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.
・The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習 II

近能　善範

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経営学における学術研究の基本的な方法を学んだうえで、具体的な研究課題を選定し、しかるべき一連の研究活動を通じて修士論文またリサーチペーパーという成果物を出して特定領域についての知識体系に新たな知見を加えることを目的とします。データの収集や分析などの具体的な研究活動は授業外の時間で行いますが、授業ではステップバイステップで研究の指導・アドバイスを受けます。

【到達目標】
学術的にふさわしいレベルの経営学分野の修士論文またリサーチペーパーを完成することが本授業の目標です。そのためには、経営学分野における研究テーマの設定、研究テーマに関連する先行文献のサーベイと整理、先行研究のレビュー基づく研究課題の設定と仮説の構築、仮説検証のための方法論の選定とデータ収集、収集したデータの分析、分析結果をまとめて、学術論文の作成を行う一連のプロセスを行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究計画に沿って、毎回の演習で進捗状況を報告してもらいます。その報告に対して、教員より指導とアドバイスを受けます。基本的には教室で対面方式を採りますが、フィールド調査の実施期間中においてはオンライン方式などで柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	調査実施結果の確認	調査結果を報告し、そこで得られたデータ・情報の量と質を検討します。
第16回	仮分析と追加調査について	仮分析の結果を確認し、必要に応じて追加調査の実施方法を検討します。
第17回	追加調査について①	前回の議論で必要とされる追加調査の対象と項目について確認します。
第18回	追加調査について②	追加調査の進捗状況を確認します。
第19回	追加調査について③	追加調査の結果を検討します。
第20回	調査結果の検討	調査から得られたデータに基づいてた発見を自分なりに分析した結果を検討します。
第21回	論文執筆の進捗確認と指導①	先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第22回	論文執筆の進捗確認と指導②	前回に引き続き、先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第23回	論文執筆の進捗確認と指導③	研究方法、調査内容、発見事実の部分
第24回	論文執筆の進捗確認と指導④	分析結果、考察の部分
第25回	論文執筆の進捗確認と指導⑤	前回に引き続き、分析結果、考察の部分
第26回	論文執筆の進捗確認と指導⑥	結論、含意、限界、積み残された課題の部分
第27回	論文執筆の進捗確認と指導⑦	導入部分、要旨、参考文献リスト、文末注、付録などを確認します。
第28回	論文執筆の最終確認	論文全体の論旨の整合性、語句の統一、体裁、執筆要領の順守などを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
15～16回目　仮説との関連で、必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに、実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い、そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成、またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
修士論文/リサーチペーパーの作業のために、毎週15時間以上を確保しましょう。

【テキスト（教科書）】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【参考書】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
　イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論
＜研究テーマ＞
　イノベーションと企業間関係

【担当教員の主要研究業績】
1.『コア・テキスト イノベーション・マネジメント 新訂版』（高井文子との共著）, 新世社, 2024年。
2.『破壊的イノベーションのプロセス：PC-98帝国の興隆と衰亡』, 白桃書房, 2026年。
3.「サプライヤーの顧客範囲と製品範囲の拡大が取引継続に及ぼす影響」,『日本経営学会誌』, 41号, 2018年。
4.「日本自動車産業における関係的技能の高度化と先端技術開発の深化」,『一橋ビジネスレビュー』, 54巻4号, 2007年。
5.「自動車部品取引のネットワーク構造とサプライヤーのパフォーマンス」,『組織科学』, Vol.35(3), 2002年。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
Students will learn the basic knowledge and skills of conducting academic research in the social sciences, including formulating research questions, reviewing relevant literature, and collecting and analyzing appropriate data and relevant information.
As a result of a series of research activities, students must complete a master's thesis.
All the research activities must be done before/after each class meeting. Students will get advice and instruction in class step by step through the research process.
【Learning Objectives】
The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme.
【Learning Activities outside of Classroom】
When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.
Spending at least 15 hours per week on your master's thesis/ research paper is recommended.
【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

戎谷　梓

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自が選択した修士論文またリサーチペーパーのテーマに関連した既存の学術論文のレビューを行う。これによって，テーマに関連した問題について、何が解決され，何が明らかにされていない点であるかを明確にする。さらに，それらの問題について，自分が選択肢したアプローチで問題解決のための道筋を明らかにすることができる。

【到達目標】
修士論文またリサーチパーパーの作成者が選択したテーマについて，その問題意識を明確にすることできる。関連した学術論文をレビューし，批判的に考察することで、テーマに関連した基本的な学術成果およびそこで使用されている研究方法論を身につける。これによって、学術的にふさわしいレベルの修士論文またリサーチペーパーを仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの各研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行いつつ，修士論文またリサーチペーパーを段階的に仕上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの研究領域で検索の候補となりうる学術雑誌のいくつかを紹介する。
2回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した研究成果を実際に検索することで、レビューの対象となる論文のいくつかを見つける。
3回目	研究テーマの選択①	修士論文またリサーチペーパーとしての研究テーマの妥当性、また何をどこまで明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討を行う。
4回目	研究テーマの選択②	前回のコメントに基づき、研究テーマの一層の検討を行う。具体的には、時間的な制約のある中で書き上げなければいけない修士論文、リサーチペーパーの性質上、より具体的に絞り込んだテーマの設定を行う。さらに、必要とされるデータの入手可能性を検討する。
5回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行い，それらの論文を批判的に検討し、議論を行う。
6回目	先行研究のレビュー②	先行研究のレビューを追加的に行うとともに，その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7回目	先行研究のレビューとその評価	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかとういう点について議論する。
8回目	問題意識の具体化	本修士論文またはリサーチペーパーで明らかにすべき問題と、そのための研究アプローチについて引き続き検討する。
9回目	研究テーマの具体化	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき問題をより明確にする。
10回目	仮説の設定①	前回設定した問題点に関連した文献を検討し，自分なりの仮説を設定する。
11回目	仮説の設定②	設定した仮説の妥当性、特にその導出プロセスについて検討を行う。
12回目	研究方法論について①	研究領域で採用される可能性のある研究方法論について紹介する。
13回目	研究方法論について②	各研究方法論のメリットまたそれが有する固有のデメリットを明らかにする。
14回目	研究方法の選択	学生の設定した研究テーマや実現可能性を踏まえ研究方法を選択する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文またリサーチペーパーの作成にあたって，次の点を事前に準備しておいてください。
1～2回目　各自の問題意識に基づいて、関連した学術論文をいくつか探して読んでみること。
3～4回目　各自の問題意識に基づいて，テーマの選定を行うとともに，この時点で何をどこまで明らかにしたいかをできるだけ明確にしておくこと。
5～7回目　各自の設定した研究テーマに応じて、紹介したまた自分で入手した学術論文のレビューを行なうこと。
8～9回目　先行研究のレビューを踏まえ，各自が解決すべき問題をより明確にできるようにすること。
10～11回目　先行研究のレビューに基づき、修士論文で明らかにしたい問題についての仮説の設定を行う。
12～14回目　これまでの文献で使用されてきた研究方法について検討すること。
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
また、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自が設定したテーマに基づき基本的な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習科目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際人的資源管理
＜研究テーマ＞
多文化チーム管理、国際バーチャルチーム管理
＜主要研究業績＞
(1)Ebisuya, A., Sekiguchi, T., &Hettiarachchi, G. P., (2023). Narrowing the communication gap in internationally distributed teams: the case of software-development teams in Sri Lanka and Japan. Asian Business &Management. DOI: 10.1057/s41291-021-00169-9.
(2)Sekiguchi, T., Takeuchi, N., Takeuchi, T., Nakamura, S., &Ebisuya, A. (2019). How Inpatriates Internalize Corporate Values at Headquarters: The Role of Developmental Job Assignments and Psychosocial Mentoring, Management International Review, 59(5): 825-853.
(3)Liu, T., Ebisuya, A., &Sekiguchi, T. (2019). Liability or asset? Multifaceted bridging functions in HQ-subsidiary relationships: Transfer, adaption, and within-subsidiary relationships from a multilevel perspective. Proceedings of Academy of International Business 2019.

【Outline (in English)】
[Course outline]
The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
[Learning Objective]
The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.
[Learning activities outside of classroom]
To ensure smooth progress on your master's thesis or research paper, plan your literature review, research, and analysis systematically according to the writing phase. Allocate two hours each for preparation and review outside of class time.
[Grading Criteria /Policy]
Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習 II

戎谷　梓

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経営学における学術研究の基本的な方法を学んだうえで、具体的な研究課題を選定し、しかるべき一連の研究活動を通じて修士論文またリサーチペーパーという成果物を出して特定領域についての知識体系に新たな知見を加えることを目的とします。データの収集や分析などの具体的な研究活動は授業外の時間で行いますが、授業ではステップバイステップで研究の指導・アドバイスを受けます。

【到達目標】
学術的にふさわしいレベルの経営学分野の修士論文またリサーチペーパーを完成することが本授業の目標です。そのためには、経営学分野における研究テーマの設定、研究テーマに関連する先行文献のサーベイと整理、先行研究のレビュー基づく研究課題の設定と仮説の構築、仮説検証のための方法論の選定とデータ収集、収集したデータの分析、分析結果をまとめて、学術論文の作成を行う一連のプロセスを行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究計画に沿って、毎回の演習で進捗状況を報告してもらいます。その報告に対して、教員より指導とアドバイスを受けます。基本的には教室で対面方式を採りますが、フィールド調査の実施期間中においてはオンライン方式などで柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	調査実施結果の確認	調査結果を報告し、そこで得られたデータ・情報の量と質を検討します。
第16回	仮分析と追加調査について	仮分析の結果を確認し、必要に応じて追加調査の実施方法を検討します。
第17回	追加調査について①	前回の議論で必要とされる追加調査の対象と項目について確認します。
第18回	追加調査について②	追加調査の進捗状況を確認します。
第19回	追加調査について③	追加調査の結果を検討します。
第20回	調査結果の検討	調査から得られたデータに基づいてた発見を自分なりに分析した結果を検討します。
第21回	論文執筆の進捗確認と指導①	先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第22回	論文執筆の進捗確認と指導②	前回に引き続き、先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第23回	論文執筆の進捗確認と指導③	研究方法、調査内容、発見事実の部分
第24回	論文執筆の進捗確認と指導④	分析結果、考察の部分
第25回	論文執筆の進捗確認と指導⑤	前回に引き続き、分析結果、考察の部分
第26回	論文執筆の進捗確認と指導⑥	結論、含意、限界、積み残された課題の部分
第27回	論文執筆の進捗確認と指導⑦	導入部分、要旨、参考文献リスト、文末注、付録などを確認します。
第28回	論文執筆の最終確認	論文全体の論旨の整合性、語句の統一、体裁、執筆要領の順守などを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
修士論文/リサーチペーパーの作業のために、毎週15時間以上を確保しましょう。

【テキスト（教科書）】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【参考書】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際人的資源管理
＜研究テーマ＞
多文化チーム管理、国際バーチャルチーム管理
＜主要研究業績＞
(1)Ebisuya, A., Sekiguchi, T., &Hettiarachchi, G. P., (2023). Narrowing the communication gap in internationally distributed teams: the case of software-development teams in Sri Lanka and Japan. Asian Business &Management. DOI: 10.1057/s41291-021-00169-9.
(2)Sekiguchi, T., Takeuchi, N., Takeuchi, T., Nakamura, S., &Ebisuya, A. (2019). How Inpatriates Internalize Corporate Values at Headquarters: The Role of Developmental Job Assignments and Psychosocial Mentoring, Management International Review, 59(5): 825-853.
(3)Liu, T., Ebisuya, A., &Sekiguchi, T. (2019). Liability or asset? Multifaceted bridging functions in HQ-subsidiary relationships: Transfer, adaption, and within-subsidiary relationships from a multilevel perspective. Proceedings of Academy of International Business 2019.

【Outline (in English)】
[Course outline]
Students will learn the basic knowledge and skills of conducting academic research in the social sciences, including formulating research questions, reviewing relevant literature, and collecting and analyzing appropriate data and relevant information.
[Learning Objectives]
As a result of a series of research activities, students must complete a master's thesis. All the research activities must be done before/after each class meeting. Students will get advice and instruction in class step by step through the research process.
[Learning activities outside of classroom]
To ensure smooth progress on your master's thesis or research paper, plan your literature review, research, and analysis systematically according to the writing phase. Allocate approx. 15 hours per week for writing thesis/research paper outside of class time.

[Grading Criteria /Policy]
Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

洞口　治夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自が選択した修士論文またリサーチペーパーのテーマに関連した既存の学術論文のレビューを行う。これによって，テーマに関連した問題について、何が解決され，何が明らかにされていない点であるかを明確にする。さらに，それらの問題について，自分が選択肢したアプローチで問題解決のための道筋を明らかにすることができる。

【到達目標】
修士論文またリサーチパーパーの作成者が選択したテーマについて，その問題意識を明確にすることできる。関連した学術論文をレビューし，批判的に考察することで、テーマに関連した基本的な学術成果およびそこで使用されている研究方法論を身につける。これによって、学術的にふさわしいレベルの修士論文またリサーチペーパーを仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの各研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行いつつ，修士論文またリサーチペーパーを段階的に仕上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの研究領域で検索の候補となりうる学術雑誌のいくつかを紹介する。
2回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した研究成果を実際に検索することで、レビューの対象となる論文のいくつかを見つける。
3回目	研究テーマの選択①	修士論文またリサーチペーパーとしての研究テーマの妥当性、また何をどこまで明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討を行う。
4回目	研究テーマの選択②	前回のコメントに基づき、研究テーマの一層の検討を行う。具体的には、時間的な制約のある中で書き上げなければいけない修士論文、リサーチペーパーの性質上、より具体的に絞り込んだテーマの設定を行う。さらに、必要とされるデータの入手可能性を検討する。
5回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行い，それらの論文を批判的に検討し、議論を行う。
6回目	先行研究のレビュー②	先行研究のレビューを追加的に行うとともに，その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7回目	先行研究のレビューとその評価	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかとういう点について議論する。
8回目	問題意識の具体化	本修士論文またはリサーチペーパーで明らかにすべき問題と、そのための研究アプローチについて引き続き検討する。
9回目	研究テーマの具体化	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき問題をより明確にする。
10回目	仮説の設定①	前回設定した問題点に関連した文献を検討し，自分なりの仮説を設定する。
11回目	仮説の設定②	設定した仮説の妥当性、特にその導出プロセスについて検討を行う。
12回目	研究方法論について①	研究領域で採用される可能性のある研究方法論について紹介する。
13回目	研究方法論について②	各研究方法論のメリットまたそれが有する固有のデメリットを明らかにする。
14回目	研究方法の選択	学生の設定した研究テーマや実現可能性を踏まえ研究方法を選択する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
修士論文またリサーチペーパーの作成にあたって，次の点を事前に準備しておいてください。
1～2回目　各自の問題意識に基づいて、関連した学術論文をいくつか探して読んでみること。
3～4回目　各自の問題意識に基づいて，テーマの選定を行うとともに，この時点で何をどこまで明らかにしたいかをできるだけ明確にしておくこと。
5～7回目　各自の設定した研究テーマに応じて、紹介したまた自分で入手した学術論文のレビューを行なうこと。
8～9回目　先行研究のレビューを踏まえ，各自が解決すべき問題をより明確にできるようにすること。
10～11回目　先行研究のレビューに基づき、修士論文で明らかにしたい問題についての仮説の設定を行う。
12～14回目　これまでの文献で使用されてきた研究方法について検討すること。
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自が設定したテーマに基づき基本的な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習科目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際経営論
＜研究テーマ＞国際経営、知識管理
＜主要研究業績＞ Haruo H. Horaguchi, 2023. Forecasting foreign exchange rates as group experiment: actuality bias and fact-convergence effect within wisdom of crowds, Review of Behavioral Finance 15 (5), 652-671
Haruo H. Horaguchi. 2022. Foreign Direct Investment of Japanese Firms: Investment and Disinvestment in Asia, c.1970-1989, Academic Research Publication.
原田順子・洞口治夫編著『改訂新版　国際経営』放送大学教育振興会、2019年.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
(Learning Objectives)
The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.
(Learning activities outside of classroom)
When preparing your master's thesis or research paper by yourself, please prepare in advance based on the content of each lecture and seminar class. On average, it takes four hours to prepare for the presentations in class.
(Grading Criteria/Policy)
Grading will be based on regular attendance (20%),
active participation in discussions (30%), and
the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習 II

洞口　治夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経営学における学術研究の基本的な方法を学んだうえで、具体的な研究課題を選定し、しかるべき一連の研究活動を通じて修士論文またリサーチペーパーという成果物を出して特定領域についての知識体系に新たな知見を加えることを目的とします。データの収集や分析などの具体的な研究活動は授業外の時間で行いますが、授業ではステップバイステップで研究の指導・アドバイスを受けます。

【到達目標】
学術的にふさわしいレベルの経営学分野の修士論文またリサーチペーパーを完成することが本授業の目標です。そのためには、経営学分野における研究テーマの設定、研究テーマに関連する先行文献のサーベイと整理、先行研究のレビュー基づく研究課題の設定と仮説の構築、仮説検証のための方法論の選定とデータ収集、収集したデータの分析、分析結果をまとめて、学術論文の作成を行う一連のプロセスを行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究計画に沿って、毎回の演習で進捗状況を報告してもらいます。その報告に対して、教員より指導とアドバイスを受けます。基本的には教室で対面方式を採りますが、フィールド調査の実施期間中においてはオンライン方式などで柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	調査実施結果の確認	調査結果を報告し、そこで得られたデータ・情報の量と質を検討します。
第16回	仮分析と追加調査について	仮分析の結果を確認し、必要に応じて追加調査の実施方法を検討します。
第17回	追加調査について①	前回の議論で必要とされる追加調査の対象と項目について確認します。
第18回	追加調査について②	追加調査の進捗状況を確認します。
第19回	追加調査について③	追加調査の結果を検討します。
第20回	調査結果の検討	調査から得られたデータに基づいてた発見を自分なりに分析した結果を検討します。
第21回	論文執筆の進捗確認と指導①	先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第22回	論文執筆の進捗確認と指導②	前回に引き続き、先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第23回	論文執筆の進捗確認と指導③	研究方法、調査内容、発見事実の部分
第24回	論文執筆の進捗確認と指導④	分析結果、考察の部分
第25回	論文執筆の進捗確認と指導⑤	前回に引き続き、分析結果、考察の部分
第26回	論文執筆の進捗確認と指導⑥	結論、含意、限界、積み残された課題の部分
第27回	論文執筆の進捗確認と指導⑦	導入部分、要旨、参考文献リスト、文末注、付録などを確認します。
第28回	論文執筆の最終確認	論文全体の論旨の整合性、語句の統一、体裁、執筆要領の順守などを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
修士論文/リサーチペーパーの作業のために、毎週15時間以上を確保しましょう。

【テキスト（教科書）】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【参考書】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際経営論
＜研究テーマ＞国際経営、知識管理
＜主要研究業績＞ Haruo H. Horaguchi, 2023. Forecasting foreign exchange rates as group experiment: actuality bias and fact-convergence effect within wisdom of crowds, Review of Behavioral Finance 15 (5), 652-671
Haruo H. Horaguchi. 2022. Foreign Direct Investment of Japanese Firms: Investment and Disinvestment in Asia, c.1970-1989, Academic Research Publication.
原田順子・洞口治夫編著『改訂新版　国際経営』放送大学教育振興会、2019年.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Students will learn the basic knowledge and skills of conducting academic research in the social sciences, including formulating research questions, reviewing relevant literature, and collecting and analyzing appropriate data and relevant information.
(Learning Objectives)
As a result of a series of research activities, students must complete a master's thesis. All the research activities must be done before/after each class meeting. Students will get advice and instruction in class step by step through the research process.
(Learning activities outside of classroom)
When preparing your master's thesis or research paper by yourself, please prepare in advance based on the content of each lecture and seminar class. On average, it takes four hours to prepare for the presentations in class.
(Grading Criteria/Policy)
Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

李　瑞雪

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自が選択した修士論文またリサーチペーパーのテーマに関連した既存の学術論文のレビューを行う。これによって，テーマに関連した問題について、何が解決され，何が明らかにされていない点であるかを明確にする。さらに，それらの問題について，自分が選択肢したアプローチで問題解決のための道筋を明らかにすることができる。

【到達目標】
修士論文またリサーチパーパーの作成者が選択したテーマについて，その問題意識を明確にすることできる。関連した学術論文をレビューし，批判的に考察することで、テーマに関連した基本的な学術成果およびそこで使用されている研究方法論を身につける。これによって、学術的にふさわしいレベルの修士論文またリサーチペーパーを仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの各研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行いつつ，修士論文またリサーチペーパーを段階的に仕上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの研究領域で検索の候補となりうる学術雑誌のいくつかを紹介する。
2回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した研究成果を実際に検索することで、レビューの対象となる論文のいくつかを見つける。
3回目	研究テーマの選択①	修士論文またリサーチペーパーとしての研究テーマの妥当性、また何をどこまで明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討を行う。
4回目	研究テーマの選択②	前回のコメントに基づき、研究テーマの一層の検討を行う。具体的には、時間的な制約のある中で書き上げなければいけない修士論文、リサーチペーパーの性質上、より具体的に絞り込んだテーマの設定を行う。さらに、必要とされるデータの入手可能性を検討する。
5回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行い，それらの論文を批判的に検討し、議論を行う。
6回目	先行研究のレビュー②	先行研究のレビューを追加的に行うとともに，その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7回目	先行研究のレビューとその評価	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかとういう点について議論する。
8回目	問題意識の具体化	本修士論文またはリサーチペーパーで明らかにすべき問題と、そのための研究アプローチについて引き続き検討する。
9回目	研究テーマの具体化	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき問題をより明確にする。
10回目	仮説の設定①	前回設定した問題点に関連した文献を検討し，自分なりの仮説を設定する。
11回目	仮説の設定②	設定した仮説の妥当性、特にその導出プロセスについて検討を行う。
12回目	研究方法論について①	研究領域で採用される可能性のある研究方法論について紹介する。
13回目	研究方法論について②	各研究方法論のメリットまたそれが有する固有のデメリットを明らかにする。
14回目	研究方法の選択	学生の設定した研究テーマや実現可能性を踏まえ研究方法を選択する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文またリサーチペーパーの作成にあたって，次の点を事前に準備しておいてください。
1～2回目　各自の問題意識に基づいて、関連した学術論文をいくつか探して読んでみること。
3～4回目　各自の問題意識に基づいて，テーマの選定を行うとともに，この時点で何をどこまで明らかにしたいかをできるだけ明確にしておくこと。
5～7回目　各自の設定した研究テーマに応じて、紹介したまた自分で入手した学術論文のレビューを行なうこと。
8～9回目　先行研究のレビューを踏まえ，各自が解決すべき問題をより明確にできるようにすること。
10～11回目　先行研究のレビューに基づき、修士論文で明らかにしたい問題についての仮説の設定を行う。
12～14回目　これまでの文献で使用されてきた研究方法について検討すること。
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
本授業の準備・復習時間は、各6時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自が設定したテーマに基づき基本的な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習科目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営戦略、物流管理、サプライチェーンマネジメント
＜研究テーマ＞スマート物流機器企業の国際化戦略、自動車KD部品の荷姿最適化の規定要因、ロジスティクス・クラスターの形成メカニズムなど
＜主要研究業績＞「ロジスティクス・クラスター形成のメカニズム：システマティック・リテラチャー・レビューに基づいて」、「自動車部品の荷姿設定におけるフロントローディングの類型とメカニズム」、「自動車部品の荷姿最適化の規定要因に関する研究：質的比較分析（fsQCA）によるアプローチ」など

【Outline (in English)】
(1)Course outline: The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
(2)Learning objectives: The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.
(3)Learning activities outside of classroom: When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.
(4)Grading criteria/Policy: Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習 II

李　瑞雪

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経営学における学術研究の基本的な方法を学んだうえで、具体的な研究課題を選定し、しかるべき一連の研究活動を通じて修士論文またリサーチペーパーという成果物を出して特定領域についての知識体系に新たな知見を加えることを目的とします。データの収集や分析などの具体的な研究活動は授業外の時間で行いますが、授業ではステップバイステップで研究の指導・アドバイスを受けます。

【到達目標】
学術的にふさわしいレベルの経営学分野の修士論文またリサーチペーパーを完成することが本授業の目標です。そのためには、経営学分野における研究テーマの設定、研究テーマに関連する先行文献のサーベイと整理、先行研究のレビュー基づく研究課題の設定と仮説の構築、仮説検証のための方法論の選定とデータ収集、収集したデータの分析、分析結果をまとめて、学術論文の作成を行う一連のプロセスを行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究計画に沿って、毎回の演習で進捗状況を報告してもらいます。その報告に対して、教員より指導とアドバイスを受けます。基本的には教室で対面方式を採りますが、フィールド調査の実施期間中においてはオンライン方式などで柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	調査実施結果の確認	調査結果を報告し、そこで得られたデータ・情報の量と質を検討します。
第16回	仮分析と追加調査について	仮分析の結果を確認し、必要に応じて追加調査の実施方法を検討します。
第17回	追加調査について①	前回の議論で必要とされる追加調査の対象と項目について確認します。
第18回	追加調査について②	追加調査の進捗状況を確認します。
第19回	追加調査について③	追加調査の結果を検討します。
第20回	調査結果の検討	調査から得られたデータに基づいてた発見を自分なりに分析した結果を検討します。
第21回	論文執筆の進捗確認と指導①	先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第22回	論文執筆の進捗確認と指導②	前回に引き続き、先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第23回	論文執筆の進捗確認と指導③	研究方法、調査内容、発見事実の部分
第24回	論文執筆の進捗確認と指導④	分析結果、考察の部分
第25回	論文執筆の進捗確認と指導⑤	前回に引き続き、分析結果、考察の部分
第26回	論文執筆の進捗確認と指導⑥	結論、含意、限界、積み残された課題の部分
第27回	論文執筆の進捗確認と指導⑦	導入部分、要旨、参考文献リスト、文末注、付録などを確認します。
第28回	論文執筆の最終確認	論文全体の論旨の整合性、語句の統一、体裁、執筆要領の順守などを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
修士論文/リサーチペーパーの作業のために、毎週15時間以上を確保しましょう。

【テキスト（教科書）】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【参考書】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営戦略、物流管理、サプライチェーンマネジメント
＜研究テーマ＞スマート物流機器企業の国際化戦略、自動車KD部品の荷姿最適化の規定要因、ロジスティクス・クラスターの形成メカニズムなど
＜主要研究業績＞「ロジスティクス・クラスター形成のメカニズム：システマティック・リテラチャー・レビューに基づいて」、「自動車部品の荷姿設定におけるフロントローディングの類型とメカニズム」、「自動車部品の荷姿最適化の規定要因に関する研究：質的比較分析（fsQCA）によるアプローチ」など

【Outline (in English)】
(1)Course outline: The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
(2)Learning objectives: The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.
(3)Learning activities outside of classroom: When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.
(4)Grading criteria/Policy: Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

岡田　庄生

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自が選択した修士論文またリサーチペーパーのテーマに関連した既存の学術論文のレビューを行う。これによって，テーマに関連した問題について、何が解決され，何が明らかにされていない点であるかを明確にする。さらに，それらの問題について，自分が選択肢したアプローチで問題解決のための道筋を明らかにすることができる。

【到達目標】
修士論文またリサーチパーパーの作成者が選択したテーマについて，その問題意識を明確にすることできる。関連した学術論文をレビューし，批判的に考察することで、テーマに関連した基本的な学術成果およびそこで使用されている研究方法論を身につける。これによって、学術的にふさわしいレベルの修士論文またリサーチペーパーを仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの各研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行いつつ，修士論文またリサーチペーパーを段階的に仕上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの研究領域で検索の候補となりうる学術雑誌のいくつかを紹介する。
2回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した研究成果を実際に検索することで、レビューの対象となる論文のいくつかを見つける。
3回目	研究テーマの選択①	修士論文またリサーチペーパーとしての研究テーマの妥当性、また何をどこまで明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討を行う。
4回目	研究テーマの選択②	前回のコメントに基づき、研究テーマの一層の検討を行う。具体的には、時間的な制約のある中で書き上げなければいけない修士論文、リサーチペーパーの性質上、より具体的に絞り込んだテーマの設定を行う。さらに、必要とされるデータの入手可能性を検討する。
5回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行い，それらの論文を批判的に検討し、議論を行う。
6回目	先行研究のレビュー②	先行研究のレビューを追加的に行うとともに，その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7回目	先行研究のレビューとその評価	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかとういう点について議論する。
8回目	問題意識の具体化	本修士論文またはリサーチペーパーで明らかにすべき問題と、そのための研究アプローチについて引き続き検討する。
9回目	研究テーマの具体化	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき問題をより明確にする。
10回目	仮説の設定①	前回設定した問題点に関連した文献を検討し，自分なりの仮説を設定する。
11回目	仮説の設定②	設定した仮説の妥当性、特にその導出プロセスについて検討を行う。
12回目	研究方法論について①	研究領域で採用される可能性のある研究方法論について紹介する。
13回目	研究方法論について②	各研究方法論のメリットまたそれが有する固有のデメリットを明らかにする。
14回目	研究方法の選択	学生の設定した研究テーマや実現可能性を踏まえ研究方法を選択する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文またリサーチペーパーの作成にあたって，次の点を事前に準備しておいてください。
1～2回目　各自の問題意識に基づいて、関連した学術論文をいくつか探して読んでみること。
3～4回目　各自の問題意識に基づいて，テーマの選定を行うとともに，この時点で何をどこまで明らかにしたいかをできるだけ明確にしておくこと。
5～7回目　各自の設定した研究テーマに応じて、紹介したまた自分で入手した学術論文のレビューを行なうこと。
8～9回目　先行研究のレビューを踏まえ，各自が解決すべき問題をより明確にできるようにすること。
10～11回目　先行研究のレビューに基づき、修士論文で明らかにしたい問題についての仮説の設定を行う。
12～14回目　これまでの文献で使用されてきた研究方法について検討すること。
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自が設定したテーマに基づき基本的な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習科目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ユーザー・イノベーション、広告コミュニケーション
＜研究テーマ＞ユーザー発案者効果
＜主要研究業績＞
岡田庄生(2024)『ユーザー発案者効果 ーユーザー創造製品のマーケティング・コミュニケーション戦略ー』碩学社
岡田庄生(2024)「制御焦点の違いがユーザー創造製品の発案者効果に与える影響」『マーケティング・ジャーナル』43(3), 32-43.
岡田庄生(2020)「ユーザー創造製品の情報表示が消費者の製品選択に与える影響：新奇性と有用性の媒介効果に着目して」『広告科学』67, 1-19.

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
Learning Objectives
The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.
Learning activities outside of classroom
When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.
(Grading Criteria/Policy
Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習 II

岡田　庄生

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経営学における学術研究の基本的な方法を学んだうえで、具体的な研究課題を選定し、しかるべき一連の研究活動を通じて修士論文またリサーチペーパーという成果物を出して特定領域についての知識体系に新たな知見を加えることを目的とします。データの収集や分析などの具体的な研究活動は授業外の時間で行いますが、授業ではステップバイステップで研究の指導・アドバイスを受けます。

【到達目標】
学術的にふさわしいレベルの経営学分野の修士論文またリサーチペーパーを完成することが本授業の目標です。そのためには、経営学分野における研究テーマの設定、研究テーマに関連する先行文献のサーベイと整理、先行研究のレビュー基づく研究課題の設定と仮説の構築、仮説検証のための方法論の選定とデータ収集、収集したデータの分析、分析結果をまとめて、学術論文の作成を行う一連のプロセスを行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究計画に沿って、毎回の演習で進捗状況を報告してもらいます。その報告に対して、教員より指導とアドバイスを受けます。基本的には教室で対面方式を採りますが、フィールド調査の実施期間中においてはオンライン方式などで柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	調査実施結果の確認	調査結果を報告し、そこで得られたデータ・情報の量と質を検討します。
第16回	仮分析と追加調査について	仮分析の結果を確認し、必要に応じて追加調査の実施方法を検討します。
第17回	追加調査について①	前回の議論で必要とされる追加調査の対象と項目について確認します。
第18回	追加調査について②	追加調査の進捗状況を確認します。
第19回	追加調査について③	追加調査の結果を検討します。
第20回	調査結果の検討	調査から得られたデータに基づいてた発見を自分なりに分析した結果を検討します。
第21回	論文執筆の進捗確認と指導①	先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第22回	論文執筆の進捗確認と指導②	前回に引き続き、先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第23回	論文執筆の進捗確認と指導③	研究方法、調査内容、発見事実の部分
第24回	論文執筆の進捗確認と指導④	分析結果、考察の部分
第25回	論文執筆の進捗確認と指導⑤	前回に引き続き、分析結果、考察の部分
第26回	論文執筆の進捗確認と指導⑥	結論、含意、限界、積み残された課題の部分
第27回	論文執筆の進捗確認と指導⑦	導入部分、要旨、参考文献リスト、文末注、付録などを確認します。
第28回	論文執筆の最終確認	論文全体の論旨の整合性、語句の統一、体裁、執筆要領の順守などを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
修士論文/リサーチペーパーの作業のために、毎週15時間以上を確保しましょう。

【テキスト（教科書）】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【参考書】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ユーザー・イノベーション、広告コミュニケーション
＜研究テーマ＞ユーザー発案者効果
＜主要研究業績＞
岡田庄生(2024)『ユーザー発案者効果 ーユーザー創造製品のマーケティング・コミュニケーション戦略ー』碩学社
岡田庄生(2024)「制御焦点の違いがユーザー創造製品の発案者効果に与える影響」『マーケティング・ジャーナル』43(3), 32-43.
岡田庄生(2020)「ユーザー創造製品の情報表示が消費者の製品選択に与える影響：新奇性と有用性の媒介効果に着目して」『広告科学』67, 1-19.

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
Learning Objectives
The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.
Learning activities outside of classroom
When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.
(Grading Criteria/Policy
Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、修士論文あるいはリサーチペーパー作成のための研究指導を行う。先行研究のレビュー、仮説の構築、データの収集、仮説の検証、検証結果の検討など、論文作成の各段階を指導する。

【到達目標】
１．先行研究のレビュー方法を習得する。
２．リサーチ・クエスチョンを導出する。
３．仮説の構築方法を習得する。
４．仮説検証の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
先行研究のレビュー、リサーチ・クエスチョンの導出、仮説の構築、仮説検証方法の決定の各段階について、学生は報告を行う。報告に基づき、どのように修正していくかを学生と議論する。
授業形態は対面とするが、受講生と授業形態について話し合いを持ち、変更することもありうる。
フィードバックは、授業の中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文あるいはリサーチペーパー作成の年間計画を作成する
第2回	修士論文あるいはリサーチペーパーテーマの決定（１）	修士論文あるいはリサーチペーパーのテーマについて議論する
第3回	修士論文あるいはリサーチペーパーテーマの決定（２）	修士論文あるいはリサーチペーパーのテーマを発表する
第4回	先行研究のレビュー（１）	先行研究のリストを作成する
第5回	先行研究のレビュー（２）	先行研究をレビューし報告する
第6回	先行研究のレビュー（３）	追加的な先行研究のレビューを報告する
第7回	リサーチ・クエスチョンの導出	先行研究のレビューに基づきリサーチ・クエスチョンを導出する
第8回	仮説構築（１）	先行研究のレビュー結果を整理する
第9回	仮説構築（２）	仮説構築に必要な理論的基盤を決定する
第10回	仮説構築（３）	仮説構築のために追加的な先行研究のレビューを行う
第11回	仮説構築（４）	仮説を導出する
第12回	調査方法の検討（１）	仮説検証に適切な調査方法を調査する
第13回	調査方法の検討（２）	仮説検証に適切な調査方法を決定する
第14回	リサーチ・プロポーザル	リサーチ・プロポーザルを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究のレビュー、リサーチ・クエスチョンの導出、仮説の構築、仮説検証方法の決定に必要な作業を行う。
授業時間外の学習時間は、毎日最低２時間とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
Bailey, K.D. 1994. Methods of Social Research (4th ed.). Free Press: NY.
Yin, R.K. 1994. Case Study Research: Design and Methods (2nd ed.). Sage Publications: CA.

【成績評価の方法と基準】
演習への貢献：５０％
リサーチ・プロポーザル：５０％
演習への貢献には、準備状況、報告内容、ディスカッション等を含む。
リサーチ・プロポーザルは、リサーチ・クエスチョン、先行研究のレビュー、仮説、研究方法の提示までを含む。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等、研究遂行に必要な機器を準備する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Multinationals' intraregional geographic expansion and foreign subsidiary performance. 2024. International Business Review, 33(1): 102208.
② Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. 2023. International Business Review, 32(4): 102072. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
③ Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.

【Outline (in English)】
(Course outline)
This seminar provides students with guidance on conducting academic research and writing a master's thesis/research paper. Instructions will be given at each stage of the research process, including literature review, hypothesis development, data collection, hypothesis testing, and result interpretation.
(Learning Objectives)
The goals of this seminar are the following.
1. To learn how to conduct a literature review
2. To develop a research question
3. To learn how to develop hypotheses
4. To learn how to design a research method
(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to conduct a literature review, formulate a research question, develop hypotheses, and design a method to test hypotheses. These are conducted outside the classroom. Students are expected to spend at least 2 hours daily on research.
(Grading Criteria /Policy)
Contribution to the seminar: 50%
Research proposal: 50%

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習 II

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、修士論文あるいはリサーチペーパー作成のための研究指導を行う。先行研究のレビュー、仮説の構築、データの収集、仮説の検証、検証結果の検討など、論文作成の各段階を指導する。経営学演習IIでは、修士論文あるいはリサーチペーパーを完成させる。

【到達目標】
１．先行研究のレビュー方法を習得する。
２．リサーチ・クエスチョンを導出する。
３．仮説の構築方法を習得する。
４．仮説検証の方法を習得する。
５．データ収集の方法を習得する。
６．データ分析の方法を習得する。
７．仮説検証の結果からインプリケーションを導出する。
８．修士論文あるいはリサーチペーパーを完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
先行研究のレビュー、リサーチ・クエスチョンの導出、仮説の構築、仮説検証方法の決定、データの収集、データの分析、分析結果の解釈、ライティングの各段階について、学生は報告を行う。報告に基づき、どのように修正していくかを学生と議論する。
授業形態は対面とするが、受講生と授業形態について話し合いを持ち、変更することもありうる。
フィードバックは、授業の中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	これまでの進捗状況を報告する
第2回	データの収集（１）	データ収集の方法を決定する
第3回	データの収集（２）	データ収集を実施する
第4回	データの収集（３）	データ収集を完了させる
第5回	データの整理（１）	分析のためのデータベースを作成する
第6回	データの整理（２）	データベースを分析可能な形にする
第7回	データの分析（１）	データ分析の方法を決定する
第8回	データの分析（２）	データ分析を実施する
第9回	データの分析（３）	追加的なデータ分析を実施する
第10回	分析結果の解釈（１）	仮説の検証を行う
第11回	分析結果の解釈（２）	仮説検証の結果を解釈する
第12回	分析結果の解釈（３）	仮説検証の結果からインプリケーションを導出する
第13回	論文完成（１）	修士論文あるいはリサーチペーパーを書き終える
第14回	論文完成（２）	修士論文あるいはリサーチペーパー作成を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究のレビュー、リサーチ・クエスチョンの導出、仮説の構築、仮説検証方法の決定、データ収集、データ分析、結果の解釈、ライティングに必要な作業を行う。
授業時間外の学習時間は、毎日最低２時間とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
Bailey, K.D. 1994. Methods of Social Research (4th ed.). Free Press: NY.
Yin, R.K. 1994. Case Study Research: Design and Methods (2nd ed.). Sage Publications: CA.

【成績評価の方法と基準】
演習への貢献：５０％
修士論文あるいはリサーチペーパー：５０％
演習への貢献には、準備状況、報告内容、ディスカッション等を含む。
修士論文あるいはリサーチペーパーは、完成した修士論文あるいはリサーチペーパーのことである。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等、研究遂行に必要な機器を準備する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Multinationals' intraregional geographic expansion and foreign subsidiary performance. 2024. International Business Review, 33(1): 102208.
② Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. 2023. International Business Review, 32(4): 102072. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
③ Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.

【Outline (in English)】
(Course outline)
This seminar provides students with guidance on conducting academic research and writing a master's thesis/research paper. Instructions will be given at each stage of the research process, including literature review, hypothesis development, data collection, hypothesis testing, and result interpretation. Students will write up a master's thesis/research paper by the end of the semester.
(Learning Objectives)
The goals of this seminar are the following.
1. To learn how to conduct a literature review
2. To develop a research question
3. To learn how to develop hypotheses
4. To learn how to design a research method
5. To learn how to collect data
6. To learn how to analyze data
7. To learn how to draw implications from the results of the analysis
8. To write up a master's thesis/research paper
(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to conduct a literature review, formulate a research question, develop hypotheses, design a method to test hypotheses, collect data, analyze data, interpret results, and write a master's thesis/research paper. These are conducted outside the classroom.
Students are expected to spend at least 2 hours daily on research.
(Grading Criteria /Policy)
Contribution to the seminar: 50%
Master's thesis/research paper: 50%

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

韓　載香

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自が選択した修士論文またリサーチペーパーのテーマに関連した既存の学術論文のレビューを行う。これによって，テーマに関連した問題について、何が解決され，何が明らかにされていない点であるかを明確にする。さらに，それらの問題について，自分が選択肢したアプローチで問題解決のための道筋を明らかにすることができる。

【到達目標】
修士論文またリサーチパーパーの作成者が選択したテーマについて，その問題意識を明確にすることできる。関連した学術論文をレビューし，批判的に考察することで、テーマに関連した基本的な学術成果およびそこで使用されている研究方法論を身につける。これによって、学術的にふさわしいレベルの修士論文またリサーチペーパーを仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの各研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行いつつ，修士論文またリサーチペーパーを段階的に仕上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの研究領域で検索の候補となりうる学術雑誌のいくつかを紹介する。
2回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した研究成果を実際に検索することで、レビューの対象となる論文のいくつかを見つける。
3回目	研究テーマの選択①	修士論文またリサーチペーパーとしての研究テーマの妥当性、また何をどこまで明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討を行う。
4回目	研究テーマの選択②	前回のコメントに基づき、研究テーマの一層の検討を行う。具体的には、時間的な制約のある中で書き上げなければいけない修士論文、リサーチペーパーの性質上、より具体的に絞り込んだテーマの設定を行う。さらに、必要とされるデータの入手可能性を検討する。
5回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行い，それらの論文を批判的に検討し、議論を行う。
6回目	先行研究のレビュー②	先行研究のレビューを追加的に行うとともに，その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7回目	先行研究のレビューとその評価	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかとういう点について議論する。
8回目	問題意識の具体化	本修士論文またはリサーチペーパーで明らかにすべき問題と、そのための研究アプローチについて引き続き検討する。
9回目	研究テーマの具体化	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき問題をより明確にする。
10回目	仮説の設定①	前回設定した問題点に関連した文献を検討し，自分なりの仮説を設定する。
11回目	仮説の設定②	設定した仮説の妥当性、特にその導出プロセスについて検討を行う。
12回目	研究方法論について①	研究領域で採用される可能性のある研究方法論について紹介する。
13回目	研究方法論について②	各研究方法論のメリットまたそれが有する固有のデメリットを明らかにする。
14回目	研究方法の選択	学生の設定した研究テーマや実現可能性を踏まえ研究方法を選択する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文またリサーチペーパーの作成にあたって，次の点を事前に準備しておいてください。
1～2回目　各自の問題意識に基づいて、関連した学術論文をいくつか探して読んでみること。
3～4回目　各自の問題意識に基づいて，テーマの選定を行うとともに，この時点で何をどこまで明らかにしたいかをできるだけ明確にしておくこと。
5～7回目　各自の設定した研究テーマに応じて、紹介したまた自分で入手した学術論文のレビューを行なうこと。
8～9回目　先行研究のレビューを踏まえ，各自が解決すべき問題をより明確にできるようにすること。
10～11回目　先行研究のレビューに基づき、修士論文で明らかにしたい問題についての仮説の設定を行う。
12～14回目　これまでの文献で使用されてきた研究方法について検討すること。
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自が設定したテーマに基づき基本的な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習科目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【担当教員の専門分野等】
＜日本現代経済史＞
＜在日韓国・朝鮮人企業の産業経済史、産業史＞
＜主要研究業績＞『在日企業の産業経済史』（名古屋大学出版会、2010年）、『パチンコ産業史』（名古屋大学出版会、2018年）、Han, Jaehyang. (2025). “Dynamics of Ethnic Korean Businesses in Japan, 1945-1997”. Journal of Evolutionary Studies in Business 10 (2):46-64. https://doi.org/10.1344/jesb.47145.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master’s thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
(Learning Objectives)
The learning objectives of this course are to enable master’s thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master’s theses and research papers at an academically appropriate level.
(Learning activities outside of classroom)
When preparing your master’s thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.
(Grading Criteria/Policy)
Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習 II

韓　載香

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経営学における学術研究の基本的な方法を学んだうえで、具体的な研究課題を選定し、しかるべき一連の研究活動を通じて修士論文またリサーチペーパーという成果物を出して特定領域についての知識体系に新たな知見を加えることを目的とします。データの収集や分析などの具体的な研究活動は授業外の時間で行いますが、授業ではステップバイステップで研究の指導・アドバイスを受けます。

【到達目標】
学術的にふさわしいレベルの経営学分野の修士論文またリサーチペーパーを完成することが本授業の目標です。そのためには、経営学分野における研究テーマの設定、研究テーマに関連する先行文献のサーベイと整理、先行研究のレビュー基づく研究課題の設定と仮説の構築、仮説検証のための方法論の選定とデータ収集、収集したデータの分析、分析結果をまとめて、学術論文の作成を行う一連のプロセスを行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究計画に沿って、毎回の演習で進捗状況を報告してもらいます。その報告に対して、教員より指導とアドバイスを受けます。基本的には教室で対面方式を採りますが、フィールド調査の実施期間中においてはオンライン方式などで柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	調査実施結果の確認	調査結果を報告し、そこで得られたデータ・情報の量と質を検討します。
第16回	仮分析と追加調査について	仮分析の結果を確認し、必要に応じて追加調査の実施方法を検討します。
第17回	追加調査について①	前回の議論で必要とされる追加調査の対象と項目について確認します。
第18回	追加調査について②	追加調査の進捗状況を確認します。
第19回	追加調査について③	追加調査の結果を検討します。
第20回	調査結果の検討	調査から得られたデータに基づいてた発見を自分なりに分析した結果を検討します。
第21回	論文執筆の進捗確認と指導①	先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第22回	論文執筆の進捗確認と指導②	前回に引き続き、先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第23回	論文執筆の進捗確認と指導③	研究方法、調査内容、発見事実の部分
第24回	論文執筆の進捗確認と指導④	分析結果、考察の部分
第25回	論文執筆の進捗確認と指導⑤	前回に引き続き、分析結果、考察の部分
第26回	論文執筆の進捗確認と指導⑥	結論、含意、限界、積み残された課題の部分
第27回	論文執筆の進捗確認と指導⑦	導入部分、要旨、参考文献リスト、文末注、付録などを確認します。
第28回	論文執筆の最終確認	論文全体の論旨の整合性、語句の統一、体裁、執筆要領の順守などを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
修士論文/リサーチペーパーの作業のために、毎週15時間以上を確保しましょう。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【参考書】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜日本現代経済史＞
＜在日韓国・朝鮮人企業の産業経済史、産業史＞
＜主要研究業績＞『在日企業の産業経済史』（名古屋大学出版会、2010年）、『パチンコ産業史』（名古屋大学出版会、2018年）、屋大学出版会、2010
年)、『パチンコ産業史』(名古屋大学出版会、2018年)、Han, Jaehyang. (2025). “Dynamics of Ethnic Korean Businesses in Japan, 1945-1997”. Journal of Evolutionary Studies in Business 10 (2):46-64. https://doi.org/10.1344/jesb.47145.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master’s thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over
time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
(Learning Objectives)
The learning objectives of this course are to enable master’s thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master’s theses and research papers at an academically appropriate level.
(Learning activities outside of classroom)
When preparing your master’s thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.
(Grading Criteria/Policy)
Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

金　容度

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自が選択した修士論文またリサーチペーパーのテーマに関連した既存の学術論文のレビューを行う。これによって，テーマに関連した問題について、何が解決され，何が明らかにされていない点であるかを明確にする。さらに，それらの問題について，自分が選択肢したアプローチで問題解決のための道筋を明らかにすることができる。

【到達目標】
修士論文またリサーチパーパーの作成者が選択したテーマについて，その問題意識を明確にすることできる。関連した学術論文をレビューし，批判的に考察することで、テーマに関連した基本的な学術成果およびそこで使用されている研究方法論を身につける。これによって、学術的にふさわしいレベルの修士論文またリサーチペーパーを仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの各研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行いつつ，修士論文またリサーチペーパーを段階的に仕上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの研究領域で検索の候補となりうる学術雑誌のいくつかを紹介する。
2回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した研究成果を実際に検索することで、レビューの対象となる論文のいくつかを見つける。
3回目	研究テーマの選択①	修士論文またリサーチペーパーとしての研究テーマの妥当性、また何をどこまで明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討を行う。
4回目	研究テーマの選択②	前回のコメントに基づき、研究テーマの一層の検討を行う。具体的には、時間的な制約のある中で書き上げなければいけない修士論文、リサーチペーパーの性質上、より具体的に絞り込んだテーマの設定を行う。さらに、必要とされるデータの入手可能性を検討する。
5回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行い，それらの論文を批判的に検討し、議論を行う。
6回目	先行研究のレビュー②	先行研究のレビューを追加的に行うとともに，その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7回目	先行研究のレビューとその評価	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかとういう点について議論する。
8回目	問題意識の具体化	本修士論文またはリサーチペーパーで明らかにすべき問題と、そのための研究アプローチについて引き続き検討する。
9回目	研究テーマの具体化	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき問題をより明確にする。
10回目	仮説の設定①	前回設定した問題点に関連した文献を検討し，自分なりの仮説を設定する。
11回目	仮説の設定②	設定した仮説の妥当性、特にその導出プロセスについて検討を行う。
12回目	研究方法論について①	研究領域で採用される可能性のある研究方法論について紹介する。
13回目	研究方法論について②	各研究方法論のメリットまたそれが有する固有のデメリットを明らかにする。
14回目	研究方法の選択	学生の設定した研究テーマや実現可能性を踏まえ研究方法を選択する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文またリサーチペーパーの作成にあたって，次の点を事前に準備しておいてください。
1～2回目　各自の問題意識に基づいて、関連した学術論文をいくつか探して読んでみること。
3～4回目　各自の問題意識に基づいて，テーマの選定を行うとともに，この時点で何をどこまで明らかにしたいかをできるだけ明確にしておくこと。
5～7回目　各自の設定した研究テーマに応じて、紹介したまた自分で入手した学術論文のレビューを行なうこと。
8～9回目　先行研究のレビューを踏まえ，各自が解決すべき問題をより明確にできるようにすること。
10～11回目　先行研究のレビューに基づき、修士論文で明らかにしたい問題についての仮説の設定を行う。
12～14回目　これまでの文献で使用されてきた研究方法について検討すること。
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自が設定したテーマに基づき基本的な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習科目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞企業間関係論、日本経営論、日本経営史
＜研究テーマ＞企業間関係の国際比較、企業システムの日米比較など
＜主要研究業績＞
①『日本経営論』博英社、2023年
②『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造-』有斐閣、2021年
③The Dynamics of Interfirm Relationships:Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd..2015
④"Inter-firm Cooperation in Japan's Integrated Circuit Industry,1960s-1970s."Business History Review (Harvard Business School), Vol.86 Issue 4.2012
⑤『日本IC産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会、2006年

【Outline (in English)】
(Course outline)
The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
(Learning Objectives)
The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.
(Learning activities outside of classroom)
When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.
(Grading Criteria/Policy)
Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習 II

金　容度

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経営学における学術研究の基本的な方法を学んだうえで、具体的な研究課題を選定し、しかるべき一連の研究活動を通じて修士論文またリサーチペーパーという成果物を出して特定領域についての知識体系に新たな知見を加えることを目的とします。データの収集や分析などの具体的な研究活動は授業外の時間で行いますが、授業ではステップバイステップで研究の指導・アドバイスを受けます。

【到達目標】
学術的にふさわしいレベルの経営学分野の修士論文またリサーチペーパーを完成することが本授業の目標です。そのためには、経営学分野における研究テーマの設定、研究テーマに関連する先行文献のサーベイと整理、先行研究のレビュー基づく研究課題の設定と仮説の構築、仮説検証のための方法論の選定とデータ収集、収集したデータの分析、分析結果をまとめて、学術論文の作成を行う一連のプロセスを行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究計画に沿って、毎回の演習で進捗状況を報告してもらいます。その報告に対して、教員より指導とアドバイスを受けます。基本的には教室で対面方式を採りますが、フィールド調査の実施期間中においてはオンライン方式などで柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	調査実施結果の確認	調査結果を報告し、そこで得られたデータ・情報の量と質を検討します。
第16回	仮分析と追加調査について	仮分析の結果を確認し、必要に応じて追加調査の実施方法を検討します。
第17回	追加調査について①	前回の議論で必要とされる追加調査の対象と項目について確認します。
第18回	追加調査について②	追加調査の進捗状況を確認します。
第19回	追加調査について③	追加調査の結果を検討します。
第20回	調査結果の検討	調査から得られたデータに基づいてた発見を自分なりに分析した結果を検討します。
第21回	論文執筆の進捗確認と指導①	先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第22回	論文執筆の進捗確認と指導②	前回に引き続き、先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第23回	論文執筆の進捗確認と指導③	研究方法、調査内容、発見事実の部分
第24回	論文執筆の進捗確認と指導④	分析結果、考察の部分
第25回	論文執筆の進捗確認と指導⑤	前回に引き続き、分析結果、考察の部分
第26回	論文執筆の進捗確認と指導⑥	結論、含意、限界、積み残された課題の部分
第27回	論文執筆の進捗確認と指導⑦	導入部分、要旨、参考文献リスト、文末注、付録などを確認します。
第28回	論文執筆の最終確認	論文全体の論旨の整合性、語句の統一、体裁、執筆要領の順守などを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
修士論文/リサーチペーパーの作業のために、毎週15時間以上を確保しましょう。

【テキスト（教科書）】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【参考書】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞企業間関係論、日本経営論、日本経営史
＜研究テーマ＞企業間関係の国際比較、企業システムの日米比較など
＜主要研究業績＞
①『日本経営論』博英社、2023年
②『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造-』有斐閣、2021年
③The Dynamics of Interfirm Relationships:Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd..2015
④"Inter-firm Cooperation in Japan's Integrated Circuit Industry,1960s-1970s."Business History Review (Harvard Business School), Vol.86 Issue 4.2012
⑤『日本IC産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会、2006年

【Outline (in English)】
[Course outline]
Students will learn the basic knowledge and skills of conducting academic research in the social sciences, including formulating research questions, reviewing relevant literature, and collecting and analyzing appropriate data and relevant information.
[Learning Objectives]
As a result of a series of research activities, students must complete a master's thesis.
[Learning activities outside of classroom]
All the research activities must be done before/after each class meeting. Students will get advice and instruction in class step by step through the research process.When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0182（経営学 / Management 500）

経営学演習 I

長谷川　翔平

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自が選択した修士論文またリサーチペーパーのテーマに関連した既存の学術論文のレビューを行う。これによって，テーマに関連した問題について、何が解決され，何が明らかにされていない点であるかを明確にする。さらに，それらの問題について，自分が選択肢したアプローチで問題解決のための道筋を明らかにすることができる。

【到達目標】
修士論文またリサーチパーパーの作成者が選択したテーマについて，その問題意識を明確にすることできる。関連した学術論文をレビューし，批判的に考察することで、テーマに関連した基本的な学術成果およびそこで使用されている研究方法論を身につける。これによって、学術的にふさわしいレベルの修士論文またリサーチペーパーを仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの各研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行いつつ，修士論文またリサーチペーパーを段階的に仕上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの研究領域で検索の候補となりうる学術雑誌のいくつかを紹介する。
2回目	修士論文、リサーチペーパー作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した研究成果を実際に検索することで、レビューの対象となる論文のいくつかを見つける。
3回目	研究テーマの選択①	修士論文またリサーチペーパーとしての研究テーマの妥当性、また何をどこまで明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討を行う。
4回目	研究テーマの選択②	前回のコメントに基づき、研究テーマの一層の検討を行う。具体的には、時間的な制約のある中で書き上げなければいけない修士論文、リサーチペーパーの性質上、より具体的に絞り込んだテーマの設定を行う。さらに、必要とされるデータの入手可能性を検討する。
5回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行い，それらの論文を批判的に検討し、議論を行う。
6回目	先行研究のレビュー②	先行研究のレビューを追加的に行うとともに，その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7回目	先行研究のレビューとその評価	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかとういう点について議論する。
8回目	問題意識の具体化	本修士論文またはリサーチペーパーで明らかにすべき問題と、そのための研究アプローチについて引き続き検討する。
9回目	研究テーマの具体化	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき問題をより明確にする。
10回目	仮説の設定①	前回設定した問題点に関連した文献を検討し，自分なりの仮説を設定する。
11回目	仮説の設定②	設定した仮説の妥当性、特にその導出プロセスについて検討を行う。
12回目	研究方法論について①	研究領域で採用される可能性のある研究方法論について紹介する。
13回目	研究方法論について②	各研究方法論のメリットまたそれが有する固有のデメリットを明らかにする。
14回目	研究方法の選択	学生の設定した研究テーマや実現可能性を踏まえ研究方法を選択する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文またリサーチペーパーの作成にあたって，次の点を事前に準備しておいてください。
1～2回目　各自の問題意識に基づいて、関連した学術論文をいくつか探して読んでみること。
3～4回目　各自の問題意識に基づいて，テーマの選定を行うとともに，この時点で何をどこまで明らかにしたいかをできるだけ明確にしておくこと。
5～7回目　各自の設定した研究テーマに応じて、紹介したまた自分で入手した学術論文のレビューを行なうこと。
8～9回目　先行研究のレビューを踏まえ，各自が解決すべき問題をより明確にできるようにすること。
10～11回目　先行研究のレビューに基づき、修士論文で明らかにしたい問題についての仮説の設定を行う。
12～14回目　これまでの文献で使用されてきた研究方法について検討すること。
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自が設定したテーマに基づき基本的な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習科目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング・サイエンス
＜研究テーマ＞
ベイズモデリングによる消費者行動データの分析
＜主要研究業績＞
https://researchmap.jp/7000007775

【Outline (in English)】
(Course outline)
The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
(Learning Objectives)
The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.
(Learning activities outside of classroom)
When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN500F1 – 0183（経営学 / Management 500）

経営学演習 II

長谷川　翔平

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経営学における学術研究の基本的な方法を学んだうえで、具体的な研究課題を選定し、しかるべき一連の研究活動を通じて修士論文またリサーチペーパーという成果物を出して特定領域についての知識体系に新たな知見を加えることを目的とします。データの収集や分析などの具体的な研究活動は授業外の時間で行いますが、授業ではステップバイステップで研究の指導・アドバイスを受けます。

【到達目標】
学術的にふさわしいレベルの経営学分野の修士論文またリサーチペーパーを完成することが本授業の目標です。そのためには、経営学分野における研究テーマの設定、研究テーマに関連する先行文献のサーベイと整理、先行研究のレビュー基づく研究課題の設定と仮説の構築、仮説検証のための方法論の選定とデータ収集、収集したデータの分析、分析結果をまとめて、学術論文の作成を行う一連のプロセスを行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究計画に沿って、毎回の演習で進捗状況を報告してもらいます。その報告に対して、教員より指導とアドバイスを受けます。基本的には教室で対面方式を採りますが、フィールド調査の実施期間中においてはオンライン方式などで柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	調査実施結果の確認	調査結果を報告し、そこで得られたデータ・情報の量と質を検討します。
第16回	仮分析と追加調査について	仮分析の結果を確認し、必要に応じて追加調査の実施方法を検討します。
第17回	追加調査について①	前回の議論で必要とされる追加調査の対象と項目について確認します。
第18回	追加調査について②	追加調査の進捗状況を確認します。
第19回	追加調査について③	追加調査の結果を検討します。
第20回	調査結果の検討	調査から得られたデータに基づいてた発見を自分なりに分析した結果を検討します。
第21回	論文執筆の進捗確認と指導①	先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第22回	論文執筆の進捗確認と指導②	前回に引き続き、先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第23回	論文執筆の進捗確認と指導③	研究方法、調査内容、発見事実の部分
第24回	論文執筆の進捗確認と指導④	分析結果、考察の部分
第25回	論文執筆の進捗確認と指導⑤	前回に引き続き、分析結果、考察の部分
第26回	論文執筆の進捗確認と指導⑥	結論、含意、限界、積み残された課題の部分
第27回	論文執筆の進捗確認と指導⑦	導入部分、要旨、参考文献リスト、文末注、付録などを確認します。
第28回	論文執筆の最終確認	論文全体の論旨の整合性、語句の統一、体裁、執筆要領の順守などを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
15～16回目　仮説との関連で，必要な論文のレビューを行うこと。
17～19回目　データの入手方法を検討するとともに，実際にデータの収集・整理を行うこと。
20～21回目　収集したデータについて自分なりの分析を行い，そこから何が言えるかを明らかにすること。
22～23回目　自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。
24～28回目　論文の作成，またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。
修士論文/リサーチペーパーの作業のために、毎週15時間以上を確保しましょう。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【参考書】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、議論の積極度30％および報告の内容50％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング・サイエンス
＜研究テーマ＞
ベイズモデリングによる消費者行動データの分析
＜主要研究業績＞
https://researchmap.jp/7000007775

【Outline (in English)】
(Course outline)
The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
(Learning Objectives)
The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.
(Learning activities outside of classroom)
When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

MAN700F1 – 0001（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＡ（履修登録用代表コード）

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、また博士コースワークショップで示された三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）の合格に求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩＡの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）の合格に求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
テキストは必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
参考書は必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況等によってここで示された授業計画は修正することがある。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IA, students are expected to develop a "research plan" that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop I. In accordance with their designated research theme, students are required to submit a report that includes a review of major prior literature, an outline of relevant research methods, and the proposed structure of their doctoral dissertation.
(Learning activities outside of the classroom)
Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals.
(Grading Criteria)
Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated in the seminar.

MAN700F1 – 0002（経営学 / Management 700）

博士演習ＩＢ（履修登録用代表コード）

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）の合格に求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合 格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩＢの「第1段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）の合格に求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗度およびその成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況によって適宜授業計画が修正されることがある。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IB, students are expected to develop a "research plan" that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop I. In accordance with their designated research theme, students are required to submit a report that includes a review of major prior literature, an outline of relevant research methods, and the proposed structure of their doctoral dissertation.
(Learning activities outside of the classroom)
Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals.
(Grading Criteria)
Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated in the seminar.

MAN700F1 – 0003（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡA

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡAでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）の合格に求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅡAでは、博士コースワークショップの「第２段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２の合格に求められる水準を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
https://researchmap.jp/Niikura_Takashi

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIA, students are expected to complete a comprehensive literature review and at least one chapter of their dissertation that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop II.
(Learning activities outside of the classroom)
Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals. The doctoral dissertation must include at least one article that has been accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, the student must be the principal author.
(Grading Criteria)
Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated during the seminar.

MAN700F1 – 0004（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡＢ

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡＢでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）の合格に求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅡＢでは、博士コースワークショップの「第２段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２の合格に求められる水準を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
https://researchmap.jp/Niikura_Takashi

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIB, students are expected to complete a comprehensive literature review and at least one chapter of their dissertation that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop II.
(Learning activities outside of the classroom)
Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals. The doctoral dissertation must include at least one article that has been accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, the student must be the principal author.
(Grading Criteria)
Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated during the seminar.

MAN700F1 – 0003（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡA

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡAでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）の合格に求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅡAでは、博士コースワークショップの「第２段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２の合格に求められる水準を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIA, students are expected to complete a comprehensive literature review and at least one chapter of their dissertation that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop II.
(Learning activities outside of the classroom)
Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals.

The doctoral dissertation must include at least one article that has been accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, the student must be the principal author.
(Grading Criteria)
Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated during the seminar.

MAN700F1 – 0004（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡB

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡBでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）の合格に求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ⅠBのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅡBでは、博士コースワークショップの「第２段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２の合格に求められる水準を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIB, students are expected to complete a comprehensive literature review and at least one chapter of their dissertation that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop II.
(Learning activities outside of the classroom)
Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals.

The doctoral dissertation must include at least one article that has been accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, the student must be the principal author.
(Grading Criteria)
Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated during the seminar.

MAN700F1 – 0003（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡA

川島　健司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡAでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）の合格に求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅡAでは、博士コースワークショップの「第２段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２の合格に求められる水準を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　財務会計論
＜研究テーマ＞　会計用語の使用法に関する研究
＜主要研究業績＞
1. 川島健司.2022.「「収益」という用語の定義は、なぜ多様に存在するのか」『會計』第202巻, 第1号, pp.67-79.
2. 川島健司.2020.「「収益」という用語は、いつからどのように使われてきたか」『會計』第198巻, 第6号, pp.43-56.
3. 川島健司.2011.「なぜ, 損益計算書で「営業収入」と表記されるのか―勘定科目の使用法に関する定性的調査」『経営志林』48 (1):131-148.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIA, students are expected to complete a comprehensive literature review and at least one chapter of their dissertation that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop II.
(Learning activities outside of the classroom)
Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals. The doctoral dissertation must include at least one article that has been accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, the student must be the principal author.
(Grading Criteria)

Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated during the seminar.

MAN700F1 – 0004（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡB

川島　健司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡBでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）の合格に求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ⅠBのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅡBでは、博士コースワークショップの「第２段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２の合格に求められる水準を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　財務会計論
＜研究テーマ＞　会計用語の使用法に関する研究
＜主要研究業績＞
1. 川島健司.2022.「「収益」という用語の定義は、なぜ多様に存在するのか」『會計』第202巻, 第1号, pp.67-79.
2. 川島健司.2020.「「収益」という用語は、いつからどのように使われてきたか」『會計』第198巻, 第6号, pp.43-56.
3. 川島健司.2011.「なぜ, 損益計算書で「営業収入」と表記されるのか―勘定科目の使用法に関する定性的調査」『経営志林』48 (1):131-148.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIB, students are expected to complete a comprehensive literature review and at least one chapter of their dissertation that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop II.
(Learning activities outside of the classroom)
Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals. The doctoral dissertation must include at least one article that has been accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, the student must be the principal author.
(Grading Criteria)

Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated during the seminar.

MAN700F1 – 0003（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡA

戎谷　梓

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡAでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）の合格に求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅡAでは、博士コースワークショップの「第２段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２の合格に求められる水準を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際人的資源管理
＜研究テーマ＞
多文化チーム管理、国際バーチャルチーム管理
＜主要研究業績＞
(1)Ebisuya, A., Sekiguchi, T., &Hettiarachchi, G. P., (2023). Narrowing the communication gap in internationally distributed teams: the case of software-development teams in Sri Lanka and Japan. Asian Business &Management. DOI: 10.1057/s41291-021-00169-9.
(2)Sekiguchi, T., Takeuchi, N., Takeuchi, T., Nakamura, S., &Ebisuya, A. (2019). How Inpatriates Internalize Corporate Values at Headquarters: The Role of Developmental Job Assignments and Psychosocial Mentoring, Management International Review, 59(5): 825-853.
(3)Liu, T., Ebisuya, A., &Sekiguchi, T. (2019). Liability or asset? Multifaceted bridging functions in HQ-subsidiary relationships: Transfer, adaption, and within-subsidiary relationships from a multilevel perspective. Proceedings of Academy of International Business 2019.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIA, students are expected to complete a comprehensive literature review and at least one chapter of their dissertation that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop II.
(Learning activities outside of the classroom)

Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals. The doctoral dissertation must include at least one article that has been accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, the student must be the principal author.
(Grading Criteria)
Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated during the seminar.

MAN700F1 – 0004（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡＢ

戎谷　梓

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡＢでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）の合格に求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅡＢでは、博士コースワークショップの「第２段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２の合格に求められる水準を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際人的資源管理
＜研究テーマ＞
多文化チーム管理、国際バーチャルチーム管理
＜主要研究業績＞
(1)Ebisuya, A., Sekiguchi, T., &Hettiarachchi, G. P., (2023). Narrowing the communication gap in internationally distributed teams: the case of software-development teams in Sri Lanka and Japan. Asian Business &Management. DOI: 10.1057/s41291-021-00169-9.
(2)Sekiguchi, T., Takeuchi, N., Takeuchi, T., Nakamura, S., &Ebisuya, A. (2019). How Inpatriates Internalize Corporate Values at Headquarters: The Role of Developmental Job Assignments and Psychosocial Mentoring, Management International Review, 59(5): 825-853.
(3)Liu, T., Ebisuya, A., &Sekiguchi, T. (2019). Liability or asset? Multifaceted bridging functions in HQ-subsidiary relationships: Transfer, adaption, and within-subsidiary relationships from a multilevel perspective. Proceedings of Academy of International Business 2019.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIB, students are expected to complete a comprehensive literature review and at least one chapter of their dissertation that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop II.
(Learning activities outside of the classroom)

Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals. The doctoral dissertation must include at least one article that has been accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, the student must be the principal author.
(Grading Criteria)
Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated during the seminar.

MAN700F1 – 0003（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡA

佐野　嘉秀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡAでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）の合格に求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅡAでは、博士コースワークショップの「第２段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２の合格に求められる水準を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞人的資源管理・産業社会学
＜研究テーマ＞雇用システムの日英比較、就業形態の多様化と人事管理、人事部門とライン管理者の人事管理上の連携 等
＜近年の主な業績（市販書籍のみ）＞
①佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太朗（2025）『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房
②藤本真・佐野嘉秀（編著）（2024）『日本企業の能力開発システム―変化のなかの能力開発と人事・職場・社員』労働政策研究・研修機構
③佐野嘉秀（2023）「異動や昇進はしなくてはいけないのか」「ずっとパート・アルバイトではいけないのか」西村淳子・池田心豪（編著）『社会学で学ぶライフ＆キャリア』中央経済社
④佐野嘉秀（2021）『英国の人事管理・日本の人事管理―日英百貨店の仕事と雇用システム』東京大学出版会
⑤佐野嘉秀（2014）「生産職種の請負・派遣社員の就業意識」佐藤博樹・大木栄一（編）『人材サービス産業の新しい役割』有斐閣
⑥佐野嘉秀（2012）「企業内キャリアと人事管理」上林千恵子（編）『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房
⑦佐藤博樹・佐野嘉秀・堀田聰子（編）（2010）『実証　日本の人材ビジネス―新しい働き方と人事マネジメント』日本経済新聞社

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIA, students are expected to complete a comprehensive literature review and at least one chapter of their dissertation that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop II.
(Learning activities outside of the classroom)

Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals. The doctoral dissertation must include at least one article that has been accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, the student must be the principal author.
(Grading Criteria)
Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated during the seminar.

MAN700F1 – 0004（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡB

佐野　嘉秀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡBでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）の合格に求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅡBでは、博士コースワークショップの「第２段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２の合格に求められる水準を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞人的資源管理・産業社会学
＜研究テーマ＞雇用システムの日英比較、就業形態の多様化と人事管理、人事部門とライン管理者の人事管理上の連携 等
＜近年の主な業績（市販書籍のみ）＞
①佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太朗（2025）『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房
②藤本真・佐野嘉秀（編著）（2024）『日本企業の能力開発システム―変化のなかの能力開発と人事・職場・社員』労働政策研究・研修機構
③佐野嘉秀（2023）「異動や昇進はしなくてはいけないのか」「ずっとパート・アルバイトではいけないのか」西村淳子・池田心豪（編著）『社会学で学ぶライフ＆キャリア』中央経済社
④佐野嘉秀（2021）『英国の人事管理・日本の人事管理―日英百貨店の仕事と雇用システム』東京大学出版会
⑤佐野嘉秀（2014）「生産職種の請負・派遣社員の就業意識」佐藤博樹・大木栄一（編）『人材サービス産業の新しい役割』有斐閣
⑥佐野嘉秀（2012）「企業内キャリアと人事管理」上林千恵子（編）『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房
⑦佐藤博樹・佐野嘉秀・堀田聰子（編）（2010）『実証　日本の人材ビジネス―新しい働き方と人事マネジメント』日本経済新聞社

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIB, students are expected to complete a comprehensive literature review and at least one chapter of their dissertation that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop II.
(Learning activities outside of the classroom)

Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals. The doctoral dissertation must include at least one article that has been accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, the student must be the principal author.
(Grading Criteria)
Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated during the seminar.

MAN700F1 – 0003（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡA

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡAでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）の合格に求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅡAでは、博士コースワークショップの「第２段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２の合格に求められる水準を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。毎週15時間程度は必要となると思われる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
管理会計，社会環境会計，サステナブルマネジメント
＜研究テーマ＞
サステナビリティマネジメント
＜主要研究業績＞
- 北田皓嗣・安藤光展『サステナビリティ戦略の実装：組織行動を促す「社内浸透」の設計学』千倉書房，2026年。
– Katsuhiko Kokubu, Hirotsugu Kitada, Kimitaka Nishitani, Aki Shinohara (2023). How material flow cost accounting contributes to the SDGs through improving management decision-making. Journal of Material Cycles and Waste Management, 25(5), 2783-2793. [査読有り]
– Hirotsugu Kitada, Tatsumasa Tennojiya, Jaehong Kim, Akira Higashida (2022). Management practice of material flow cost accounting and its discontinuance. Cleaner Environmental Systems. [査読有り]
– Kimitaka Nishitani, Katsuhiko Kokubu, Qi Wu, Hirotsugu Kitada, Edeltraud Guenther, Thomas Guenther (2022). Material flow cost accounting (MFCA) for the circular economy: An empirical study of the triadic relationship between MFCA, environmental performance, and the economic performance of Japanese companies. Journal of Environmental Management, 303, 114219. [査読有り]

【Outline (in English)】
Course Outline
The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
Learning Objectives

The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.

Learning Activities Outside of Classroom

When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.

Students are expected to spend approximately 3 – 4 hours per week outside of class for preparation, including reading assigned articles, reviewing methodological approaches, and refining their individual research questions. Additional time may be required for drafting and revising reports related to the course.

Grading Criteria / Policy

Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

– Katsuhiko Kokubu, Hirotsugu Kitada, Kimitaka Nishitani, Aki Shinohara (2023). How material flow cost accounting contributes to the SDGs through improving management decision-making. Journal of Material Cycles and Waste Management, 25(5), 2783-2793. [査読有り]

– Hirotsugu Kitada, Tatsumasa Tennojiya, Jaehong Kim, Akira Higashida (2022). Management practice of material flow cost accounting and its discontinuance. Cleaner Environmental Systems. [査読有り]

– Kimitaka Nishitani, Katsuhiko Kokubu, Qi Wu, Hirotsugu Kitada, Edeltraud Guenther, Thomas Guenther (2022). Material flow cost accounting (MFCA) for the circular economy: An empirical study of the triadic relationship between MFCA, environmental performance, and the economic performance of Japanese companies. Journal of Environmental Management, 303, 114219. [査読有り]

MAN700F1 – 0004（経営学 / Management 700）

博士演習ⅡＢ

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡＢでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）の合格に求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅡＢでは、博士コースワークショップの「第２段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２の合格に求められる水準を目指す。週１５時間程度を目安に考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
管理会計，社会環境会計，サステナブルマネジメント
＜研究テーマ＞
サステナビリティマネジメント
＜主要研究業績＞
- 北田皓嗣・安藤光展『サステナビリティ戦略の実装：組織行動を促す「社内浸透」の設計学』千倉書房，2026年。
– Katsuhiko Kokubu, Hirotsugu Kitada, Kimitaka Nishitani, Aki Shinohara (2023). How material flow cost accounting contributes to the SDGs through improving management decision-making. Journal of Material Cycles and Waste Management, 25(5), 2783-2793. [査読有り]
– Hirotsugu Kitada, Tatsumasa Tennojiya, Jaehong Kim, Akira Higashida (2022). Management practice of material flow cost accounting and its discontinuance. Cleaner Environmental Systems. [査読有り]
– Kimitaka Nishitani, Katsuhiko Kokubu, Qi Wu, Hirotsugu Kitada, Edeltraud Guenther, Thomas Guenther (2022). Material flow cost accounting (MFCA) for the circular economy: An empirical study of the triadic relationship between MFCA, environmental performance, and the economic performance of Japanese companies. Journal of Environmental Management, 303, 114219. [査読有り]

【Outline (in English)】
Course Outline
The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.

Learning Objectives
The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.
Learning Activities Outside of Classroom
When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.
Students are expected to spend approximately 3 – 4 hours per week outside of class for preparation, including reading assigned articles, reviewing methodological approaches, and refining their individual research questions. Additional time may be required for drafting and revising reports related to the course.
Grading Criteria / Policy
Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).
– Katsuhiko Kokubu, Hirotsugu Kitada, Kimitaka Nishitani, Aki Shinohara (2023). How material flow cost accounting contributes to the SDGs through improving management decision-making. Journal of Material Cycles and Waste Management, 25(5), 2783-2793. [査読有り]
– Hirotsugu Kitada, Tatsumasa Tennojiya, Jaehong Kim, Akira Higashida (2022). Management practice of material flow cost accounting and its discontinuance. Cleaner Environmental Systems. [査読有り]
– Kimitaka Nishitani, Katsuhiko Kokubu, Qi Wu, Hirotsugu Kitada, Edeltraud Guenther, Thomas Guenther (2022). Material flow cost accounting (MFCA) for the circular economy: An empirical study of the triadic relationship between MFCA, environmental performance, and the economic performance of Japanese companies. Journal of Environmental Management, 303, 114219. [査読有り]

MAN700F1 － 0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＡ

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２を合格していない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIIA, students are expected to complete the main chapters comprising their dissertation at a level that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop III.
(Learning activities outside of the classroom)
Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals. The doctoral dissertation must include at least one article that has been accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, the student must be the principal author.
(Grading Criteria)

Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated during the seminar.

MAN700F1 – 0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２を合格していない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
著書に、『1からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動(第2版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIIB, students are expected to complete the main chapters comprising their dissertation at a level that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop III.
(Learning activities outside of the classroom)
Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals. The doctoral dissertation must include at least one article that has been accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, the student must be the principal author.
(Grading Criteria)

Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated during the seminar.

MAN700F1 – 0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＡ

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２を合格していない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
https://researchmap.jp/Niikura_Takashi

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIIA, students are expected to complete the main chapters comprising their dissertation at a level that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop III.
(Learning activities outside of the classroom)
Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals. The doctoral dissertation must include at least one article that has been accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, the student must be the principal author.
(Grading Criteria)
Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated during the seminar.

MAN700F1 – 0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２を合格していない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる。

【担当教員の専門分野等】
https://researchmap.jp/Niikura_Takashi

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIIB, students are expected to complete the main chapters comprising their dissertation at a level that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop III.
(Learning activities outside of the classroom)
Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals. The doctoral dissertation must include at least one article that has been accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, the student must be the principal author.
(Grading Criteria)
Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated during the seminar.

MAN700F1 – 0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＡ

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２を合格していない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
経営管理論、組織行動論
＜研究テーマ＞
組織社会化、組織文化、人材採用等
＜主要研究業績＞
・Norihiko Ogawa, Osato,D. &K.Takahashi (2015) “Criteria for Screening Job Applicants in Japanese Companies: Policy Capturing Approach,”Journal of Academy of Business and Economics,Vol.15 (1), pp.101-109.
・Norihiko Ogawa, Takahashi,K. &D.Osato (2014) “The Empathetic Sorting Technique: Measuring Corporate Culture by Sorting Illustrated Value Statements” Business Studies Journal, Vol.6, pp.81-103.
・小川憲彦(2013)「人材育成方針がもたらす若手従業員への影響」金井壽宏・鈴木竜太編著『日本のキャリア研究組織人のキャリア・ダイナミクス』白桃書房，第Ⅲ部第6章, 169 - 196頁.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIIA, students are expected to complete the main chapters comprising their dissertation at a level that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop III.
(Learning activities outside of the classroom)
Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals. The doctoral dissertation must include at least one article that has been accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, the student must be the principal author.
(Grading Criteria)

Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated during the seminar.

MAN700F1 – 0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２を合格していない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
経営管理論、組織行動論
＜研究テーマ＞
組織社会化、組織文化、人材採用等
＜主要研究業績＞
・Norihiko Ogawa, Osato,D. &K.Takahashi (2015) “Criteria for Screening Job Applicants in Japanese Companies: Policy Capturing Approach,”Journal of Academy of Business and Economics,Vol.15 (1), pp.101-109.
・Norihiko Ogawa, Takahashi,K. &D.Osato (2014) “The Empathetic Sorting Technique: Measuring Corporate Culture by Sorting Illustrated Value Statements” Business Studies Journal, Vol.6, pp.81-103.
・小川憲彦(2013)「人材育成方針がもたらす若手従業員への影響」金井壽宏・鈴木竜太編著『日本のキャリア研究組織人のキャリア・ダイナミクス』白桃書房，第Ⅲ部第6章, 169 - 196頁.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIIB, students are expected to complete the main chapters comprising their dissertation at a level that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop III.
(Learning activities outside of the classroom)
Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals. The doctoral dissertation must include at least one article that has been accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, the student must be the principal author.
(Grading Criteria)

Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated during the seminar.

MAN700F1 – 0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＡ

坂上　学

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２を合格していない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財務会計論、会計情報システム論
＜研究テーマ＞
AI環境下における会計ディスクロージャーの課題、電子開示とXBRL
＜主要研究業績＞
・『事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張』、中央経済社、2016年.（2016年度経営分析学会森脇賞受賞）
・"The Impact of XBRL Adoption on the Information Environment: Evidence from Japan," The Japanese Accounting Review, Vol. 4 (January 2015), pp. 49-74. (with Bai Zhenyang and Fumiko Takeda)
・"Value Relevance of Profit Available for Dividend," (with Shin'ya Okuda, and Atsushi Shiiba) Asia-Pacific Journal of Accounting &Economics, Vol. 17, 2010, pp. 41-56.
・"Japanese Accounting Profession in Transition," (with Hiroshi Okano and Hiroshi Yoshimi) Accounting, Auditing & Accountability Journal, Vol. 12 No. 3, March 1999, pp. 340-357.
・『新版 会計人のためのXBRL入門』（単著）、同文舘、2011年.
・『財務情報の利用可能性と簿記・会計の理論』（新田忠誓氏との共編著）、森山書店、2008年.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIIA, students are expected to complete the main chapters comprising their dissertation at a level that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop III.
(Learning activities outside of the classroom)
Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals. The doctoral dissertation must include at least one article that has been accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, the student must be the principal author.
(Grading Criteria)

Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated during the seminar.

MAN700F1 – 0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ

坂上　学

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２を合格していない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財務会計論、会計情報システム論
＜研究テーマ＞
AI環境下における会計ディスクロージャーの課題、電子開示とXBRL
＜主要研究業績＞
・『事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張』、中央経済社、2016年.（2016年度経営分析学会森脇賞受賞）
・"The Impact of XBRL Adoption on the Information Environment: Evidence from Japan," The Japanese Accounting Review, Vol. 4 (January 2015), pp. 49-74. (with Bai Zhenyang and Fumiko Takeda)
・"Value Relevance of Profit Available for Dividend," (with Shin'ya Okuda, and Atsushi Shiiba) Asia-Pacific Journal of Accounting &Economics, Vol. 17, 2010, pp. 41-56.
・"Japanese Accounting Profession in Transition," (with Hiroshi Okano and Hiroshi Yoshimi) Accounting, Auditing & Accountability Journal, Vol. 12 No. 3, March 1999, pp. 340-357.
・『新版 会計人のためのXBRL入門』（単著）、同文舘、2011年.
・『財務情報の利用可能性と簿記・会計の理論』（新田忠誓氏との共編著）、森山書店、2008年.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this doctoral seminar is to facilitate students' acquisition of advanced academic knowledge and research skills. Through ongoing guidance and feedback from their supervisor, students will work toward meeting the standards required at each of the three steps of the Doctoral Course Workshops I to III.
(Learning objectives)
In Doctoral Seminar IIIB, students are expected to complete the main chapters comprising their dissertation at a level that meets the requirements for successful completion of the Doctoral Course Workshop III.
(Learning activities outside of the classroom)
Under the guidance of their supervisor, students are expected to present their doctoral research at academic conferences and prepare manuscripts for submission to peer-reviewed journals. The doctoral dissertation must include at least one article that has been accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, the student must be the principal author.
(Grading Criteria)

Grading is based on research outputs, such as conference presentations and submissions to peer-reviewed journals; research activities, including seminar attendance and research presentations; and research progress and academic engagement, as demonstrated during the seminar.

MAN700F1 – 0005（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＡ

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２を合格していない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。週１５時間程度を目安に考えてください，

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
管理会計，社会環境会計，サステナブルマネジメント
＜研究テーマ＞
サステナビリティマネジメント
＜主要研究業績＞
- 北田皓嗣・安藤光展『サステナビリティ戦略の実装：組織行動を促す「社内浸透」の設計学』千倉書房，2026年。
– Katsuhiko Kokubu, Hirotsugu Kitada, Kimitaka Nishitani, Aki Shinohara (2023). How material flow cost accounting contributes to the SDGs through improving management decision-making. Journal of Material Cycles and Waste Management, 25(5), 2783-2793. [査読有り]
– Hirotsugu Kitada, Tatsumasa Tennojiya, Jaehong Kim, Akira Higashida (2022). Management practice of material flow cost accounting and its discontinuance. Cleaner Environmental Systems. [査読有り]
– Kimitaka Nishitani, Katsuhiko Kokubu, Qi Wu, Hirotsugu Kitada, Edeltraud Guenther, Thomas Guenther (2022). Material flow cost accounting (MFCA) for the circular economy: An empirical study of the triadic relationship between MFCA, environmental performance, and the economic performance of Japanese companies. Journal of Environmental Management, 303, 114219. [査読有り]

【Outline (in English)】
Course Outline
The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
Learning Objectives

The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.

Learning Activities Outside of Classroom

When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.

Students are expected to spend approximately 3 – 4 hours per week outside of class for preparation, including reading assigned articles, reviewing methodological approaches, and refining their individual research questions. Additional time may be required for drafting and revising reports related to the course.

Grading Criteria / Policy

Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

– Katsuhiko Kokubu, Hirotsugu Kitada, Kimitaka Nishitani, Aki Shinohara (2023). How material flow cost accounting contributes to the SDGs through improving management decision-making. Journal of Material Cycles and Waste Management, 25(5), 2783-2793. [査読有り]

– Hirotsugu Kitada, Tatsumasa Tennojiya, Jaehong Kim, Akira Higashida (2022). Management practice of material flow cost accounting and its discontinuance. Cleaner Environmental Systems. [査読有り]

– Kimitaka Nishitani, Katsuhiko Kokubu, Qi Wu, Hirotsugu Kitada, Edeltraud Guenther, Thomas Guenther (2022). Material flow cost accounting (MFCA) for the circular economy: An empirical study of the triadic relationship between MFCA, environmental performance, and the economic performance of Japanese companies. Journal of Environmental Management, 303, 114219. [査読有り]

MAN700F1 – 0006（経営学 / Management 700）

博士演習ⅢＢ

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１を合格していない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２を合格していない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの3つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの報告書をまとめることを目標とする。週１５時間程度を目安に。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）の合格に求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待される。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定される。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
管理会計，社会環境会計，サステナブルマネジメント
＜研究テーマ＞
サステナビリティマネジメント
＜主要研究業績＞
- 北田皓嗣・安藤光展『サステナビリティ戦略の実装：組織行動を促す「社内浸透」の設計学』千倉書房，2026年。
– Katsuhiko Kokubu, Hirotsugu Kitada, Kimitaka Nishitani, Aki Shinohara (2023). How material flow cost accounting contributes to the SDGs through improving management decision-making. Journal of Material Cycles and Waste Management, 25(5), 2783-2793. [査読有り]
– Hirotsugu Kitada, Tatsumasa Tennojiya, Jaehong Kim, Akira Higashida (2022). Management practice of material flow cost accounting and its discontinuance. Cleaner Environmental Systems. [査読有り]
– Kimitaka Nishitani, Katsuhiko Kokubu, Qi Wu, Hirotsugu Kitada, Edeltraud Guenther, Thomas Guenther (2022). Material flow cost accounting (MFCA) for the circular economy: An empirical study of the triadic relationship between MFCA, environmental performance, and the economic performance of Japanese companies. Journal of Environmental Management, 303, 114219. [査読有り]

【Outline (in English)】
Course Outline
The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master’s thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.
Learning Objectives

The learning objectives of this course are to enable master's thesis and research paper authors to clearly articulate their problem awareness regarding their chosen theme. By reviewing and critically examining relevant academic papers, students will acquire foundational academic knowledge related to their theme and the research methodologies employed therein. This aims to enable students to complete master's theses and research papers at an academically appropriate level.

Learning Activities Outside of Classroom

When preparing your master's thesis or research paper, please prepare in advance based on the content of each lecture.

Students are expected to spend approximately 3 – 4 hours per week outside of class for preparation, including reading assigned articles, reviewing methodological approaches, and refining their individual research questions. Additional time may be required for drafting and revising reports related to the course.

Grading Criteria / Policy

Grading will be based on regular attendance (20%), active participation in discussions (30%), and the content of your report (50%).

– Katsuhiko Kokubu, Hirotsugu Kitada, Kimitaka Nishitani, Aki Shinohara (2023). How material flow cost accounting contributes to the SDGs through improving management decision-making. Journal of Material Cycles and Waste Management, 25(5), 2783-2793. [査読有り]

– Hirotsugu Kitada, Tatsumasa Tennojiya, Jaehong Kim, Akira Higashida (2022). Management practice of material flow cost accounting and its discontinuance. Cleaner Environmental Systems. [査読有り]

– Kimitaka Nishitani, Katsuhiko Kokubu, Qi Wu, Hirotsugu Kitada, Edeltraud Guenther, Thomas Guenther (2022). Material flow cost accounting (MFCA) for the circular economy: An empirical study of the triadic relationship between MFCA, environmental performance, and the economic performance of Japanese companies. Journal of Environmental Management, 303, 114219. [査読有り]

MAN700F1 – 0007（経営学 / Management 700）

博士コースワークショップＩＡ

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容である。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員による質疑及び助言を受ける良い機会であると同時に、学生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。
博士コースワークショップＩＡでは、中間報告会での報告内容が、ステップ1合格に求められる「研究計画書」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】
この授業の目標は、学位論文審査の第一段階であるステップ1に合格することである。そのためには、提出された研究計画書に基づき、（1）対象分野の先行研究の批判的検討に基づいた研究課題、（2）採用する研究方法、（3）論文の構成、（4）執筆スケジュールなどを含めて発表することが要求される。
優れた論文執筆のためには、主指導教員や副指導教員はもとより、その他教員や院生、参加者からの質疑応答によるアドバイスやコメントから多くを学ぶことが必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の学生は、合格すべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた成果を中間報告会において報告し、複数の教員による批判や助言をもらい、報告会参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。
中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加することが求められる。修士課程の大学院生や研究生も研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を副指導教員に報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイを副指導教員に報告する
第3回	研究方法の報告	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法を副指導教員に報告する
第4回	博士論文の構成の報告	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第5回	プロポーザル論文執筆指導	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導を副指導教員からうける
第6回	博士コース中間報告会①	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、7 月第1 土曜日に開催予定である。
第7回	博士コース中間報告会②	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、7 月第1 土曜日に開催予定である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究を計画的かつ着実に進める。コース・ワークショップでの発表に必要な準備を行うとともに、学会発表や査読付き雑誌への投稿へ向けて準備する。ワークショップでの発表後の助言、批評、その他フィードバックを踏まえて自分の考えや課題を整理し、学位論文完成に向けた継続的な研鑽を積むことが必要である。

【テキスト（教科書）】
特に指定はない。

【参考書】
特に指定はない。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して決定する。A-(Aマイナス)以上の評価で合格となり、次のステップであるワークショップⅡA、ⅡBを受講することが可能となる。なお、ワークショップＩＡを合格すれば、ワークショップＩＢを受講する必要はない。

【学生の意見等からの気づき】
『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The Doctoral Course Workshop consists of a three-stage system designed to ensure that doctoral students make systematic and steady progress toward completion of their dissertations. The interim workshop sessions provide valuable opportunities for students to receive comments and advice from multiple faculty members, as well as to share research skills and information with fellow doctoral students.
(Learning objectives)
The objective of Workshop IA is to develop a research proposal and successfully complete Step 1, articulated in the Doctoral Program Guidelines. To meet this requirement, students must deliver a presentation that includes (1) a clearly defined research question grounded in a critical review of relevant prior literature, (2) the research methods to be employed, (3) the proposed structure of the doctoral dissertation, and (4) a writing schedule outlining the planned research and dissertation timeline.
(Learning activities outside of the classroom)
Students are expected to make the necessary preparations for presentations at Workshop I. In addition, they should prepare for academic conference presentations and the submission of manuscripts to peer-reviewed or equivalent academic journals.
(Grading criteria)
Grading is determined based on submitted written materials, presentations, and responses to questions raised at the interim workshop sessions. A grade of A - (A minus) or higher constitutes a passing grade and qualifies students to proceed to the next stage, Workshop II.

MAN700F1 – 0008（経営学 / Management 700）

博士コースワークショップＩＢ

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容である。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員による質疑及び助言を受ける良い機会であると同時に、学生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。
博士コースワークショップＩＢでは、中間報告会での報告内容が、ステップ1合格に求められる「研究計画書」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】
この授業の目標は、学位論文審査の第一段階であるステップ1に合格することである。そのためには、提出された研究計画書に基づき、（1）対象分野の先行研究の批判的検討に基づいた研究課題、（2）採用する研究方法、（3）論文の構成、（4）執筆スケジュールなどを含めて発表することが要求される。
優れた論文執筆のためには、主指導教員や副指導教員はもとより、その他教員や院生、参加者からの質疑応答によるアドバイスやコメントから多くを学ぶことが必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の学生は、合格すべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた成果を中間報告会において報告し、複数の教員による批判や助言をもらい、報告会参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。
中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加することが求められる。修士課程の大学院生や研究生も研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を副指導教員に報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイを副指導教員に報告する
第3回	研究方法の報告	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法を副指導教員に報告する
第4回	博士論文の構成の報告	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第5回	プロポーザル論文執筆指導	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導を副指導教員からうける
第6回	博士コース中間報告会①	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、12月第3土曜日に開催予定である。
第7回	博士コース中間報告会②	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、12月第3土曜日に開催予定である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究を計画的かつ着実に進める。コース・ワークショップでの発表に必要な準備を行うとともに、学会発表や査読付き雑誌への投稿へ向けて準備する。ワークショップでの発表後の助言、批評、その他フィードバックを踏まえて自分の考えや課題を整理し、学位論文完成に向けた継続的な研鑽を積むことが必要である。

【テキスト（教科書）】
特に指定はない。

【参考書】
特に指定はない。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して決定する。A-(Aマイナス)以上の評価で合格となり、次のステップであるワークショップⅡA、ⅡBを受講することが可能となる。なお、ワークショップＩＡを合格すれば、ワークショップＩＢを受講する必要はない。

【学生の意見等からの気づき】
『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The Doctoral Course Workshop consists of a three-stage system designed to ensure that doctoral students make systematic and steady progress toward completion of their dissertations. The interim workshop sessions provide valuable opportunities for students to receive comments and advice from multiple faculty members, as well as to share research skills and information with fellow doctoral students.
(Learning objectives)
The objective of Workshop IB is to develop a research proposal and successfully complete Step 1, articulated in the Doctoral Program Guidelines. To meet this requirement, students must deliver a presentation that includes (1) a clearly defined research question grounded in a critical review of relevant prior literature, (2) the research methods to be employed, (3) the proposed structure of the doctoral dissertation, and (4) a writing schedule outlining the planned research and dissertation timeline.
(Learning activities outside of the classroom)
Students are expected to make the necessary preparations for presentations at Workshop I. In addition, they should prepare for academic conference presentations and the submission of manuscripts to peer-reviewed or equivalent academic journals.
(Grading criteria)
Grading is determined based on submitted written materials, presentations, and responses to questions raised at the interim workshop sessions. A grade of A - (A minus) or higher constitutes a passing grade and qualifies students to proceed to the next stage, Workshop II.

MAN700F1 – 0009（経営学 / Management 700）

博士コースワークショップⅡA

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会での報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数教員からの批判、助言、質問等を受けられる良い機会であると同時に、博士課程院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。
博士コースワークショップⅡAでは、中間報告会での報告が、ステップ２合格に求められる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも１章分）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】
博士論文のステップ２となる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも１章分）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。
優れた論文執筆のためには、主指導教員や副指導教員はもとより、その他教員や院生、参加者からの質疑応答によるアドバイスやコメントから多くを学ぶことが必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の学生は、合格すべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた成果を中間報告会において報告し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。
なお、中間報告会には、報告しない博士課程院生も全員参加する。修士課程の院生、研究生は、研究科長の許可を得たうえで参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討及び現状の研究成果の報告	「研究計画書」の再検討の結果、及びそれに基づく研究成果を副指導教員に報告する
第2回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第3回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第4回	博士論文を構成する章の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第5回	博士論文を構成する章の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第6回	博士コース中間報告会①	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。
第7回	博士コース中間報告会②	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究を計画的かつ着実に進める。ワークショップでの発表に必要な準備を行うとともに、学会発表や査読付き雑誌への投稿へ向けて準備する。ワークショップでの発表後の助言、批評、その他フィードバックを踏まえて自分の考えや課題を整理し、学位論文完成に向けた継続的な研鑽を積むことが必要である。

【テキスト（教科書）】
特に指定はない。

【参考書】
特に指定はない。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して決定する。A-(Aマイナス)以上の評価で合格となり、次のステップであるワークショップⅢA、ⅢBを受講することが可能となる。なお、ワークショップⅡAに合格すれば、ワークショップⅡBを受講する必要はない。

【学生の意見等からの気づき】
『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
博士コースワークショップⅠAまたはⅠBにおいて、A-以上の評価を得た者のみが履修可能である。
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The Doctoral Course Workshop consists of a three-stage system designed to ensure that doctoral students make systematic and steady progress toward completion of their dissertations. The interim workshop sessions provide valuable opportunities for students to receive comments and advice from multiple faculty members, as well as to share research skills and information with fellow doctoral students.
(Learning objectives)
The objective of Workshop IIA is to fulfill the requirements of Step 2, as articulated in the Doctoral Program Guidelines. To meet this requirement, students must submit written materials and deliver a presentation that include a comprehensive literature review and at least one chapter of their dissertation.
(Learning activities outside of the classroom)
Students are expected to make the necessary preparations for presentations at Workshop II. In addition, they should prepare for academic conference presentations and the submission of manuscripts to peer-reviewed or equivalent academic journals.
(Grading criteria)
Grading is determined based on submitted written materials, presentations, and responses to questions raised at the interim workshop sessions. A grade of A - (A minus) or higher constitutes a passing grade and qualifies students to proceed to the next stage, Workshop III.

MAN700F1 – 0010（経営学 / Management 700）

博士コースワークショップⅡB

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会での報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数教員からの批判、助言、質問等を受けられる良い機会であると同時に、博士課程院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。
博士コースワークショップⅡBでは、中間報告会での報告が、ステップ２合格に求められる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも１章分）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】
博士論文のステップ２となる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも１章分）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。
優れた論文執筆のためには、主指導教員や副指導教員はもとより、その他教員や院生、参加者からの質疑応答によるアドバイスやコメントから多くを学ぶことが必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の学生は、合格すべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた成果を中間報告会において報告し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。
なお、中間報告会には、報告しない博士課程院生も全員参加する。修士課程の院生、研究生は、研究科長の許可を得たうえで参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討及び現状の研究成果の報告	「研究計画書」の再検討の結果、及びそれに基づく研究成果を副指導教員に報告する
第2回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第3回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第4回	博士論文を構成する章の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第5回	博士論文を構成する章の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第6回	博士コース中間報告会①	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。
第7回	博士コース中間報告会②	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究を計画的かつ着実に進める。ワークショップでの発表に必要な準備を行うとともに、学会発表や査読付き雑誌への投稿へ向けて準備する。ワークショップでの発表後の助言、批評、その他フィードバックを踏まえて自分の考えや課題を整理し、学位論文完成に向けた継続的な研鑽を積むことが必要である。

【テキスト（教科書）】
特に指定はない。

【参考書】
特に指定はない。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して決定する。A-(Aマイナス)以上の評価で合格となり、次のステップであるワークショップⅢA、ⅢBを受講することが可能となる。なお、ワークショップⅡAに合格すれば、ワークショップⅡBを受講する必要はない。

【学生の意見等からの気づき】
『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
博士コースワークショップⅠAまたはⅠBにおいて、A-以上の評価を得た者のみが履修可能である。
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The Doctoral Course Workshop consists of a three-stage system designed to ensure that doctoral students make systematic and steady progress toward completion of their dissertations. The interim workshop sessions provide valuable opportunities for students to receive comments and advice from multiple faculty members, as well as to share research skills and information with fellow doctoral students.
(Learning objectives)
The objective of Workshop IIB is to fulfill the requirements of Step 2, as articulated in the Doctoral Program Guidelines. To meet this requirement, students must submit written materials and deliver a presentation that include a comprehensive literature review and at least one chapter of their dissertation.
(Learning activities outside of the classroom)
Students are expected to make the necessary preparations for presentations at Workshop II. In addition, they should prepare for academic conference presentations and the submission of manuscripts to peer-reviewed or equivalent academic journals.
(Grading criteria)
Grading is determined based on submitted written materials, presentations, and responses to questions raised at the interim workshop sessions. A grade of A - (A minus) or higher constitutes a passing grade and qualifies students to proceed to the next stage, Workshop III.

MAN700F1 – 0011（経営学 / Management 700）

博士コースワークショップIII A

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員からの指導、助言、あるいは批判や疑問を受けることができる機会であると同時に、博士課程院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。
博士コースワークショップIIIAでは、中間報告会での報告で、ステップ３の合格に求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】
博士論文のステップ３となる「博士論文の全体構想と主要な部分（章）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。
主指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会に参加した複数の教員あるいは博士課程院生等との質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けて有意義な助言を得る。
なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の学生は、合格すべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に至るまでの成果を中間報告会で発表し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。
なお、中間報告会には、報告しない博士課程院生も全員参加する。修士課程の院生や研究生は研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章(論文)」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章(論文)」の再検討の結果、及びそれに基づく現状の研究成果を副指導教員に報告する
第2回	博士論文全体構成の提示と検討	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第3回	博士論文全体構成の提示と検討②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第4回	主要章の報告①	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第5回	主要章の報告②	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第6回	博士コース中間報告会①	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。
第7回	博士コース中間報告会②	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士演習はもとより、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告会終了後には、教員および院生からの助言や批判点を整理した上で、論文を改善する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して決定する。A-(Aマイナス)以上の評価を取得した場合、博士論文を提出する権利が与えられる。
なお、博士論文ワークショップIIIAの合格者は、博士論文ワークショップIIIBを受ける必要はない。

【学生の意見等からの気づき】
『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
博士コースワークショップIIAまたはIIBにおいて、A-評価以上の修得者のみが履修可能である。
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The Doctoral Course Workshop consists of a three-stage system designed to ensure that doctoral students make systematic and steady progress toward completion of their dissertations. The interim workshop sessions provide valuable opportunities for students to receive comments and advice from multiple faculty members, as well as to share research skills and information with fellow doctoral students.
(Learning objectives)
The objective of Workshop IIIA is to fulfill the requirements of Step 3, as articulated in the Doctoral Program Guidelines. To meet this requirement, students must submit written materials and deliver a presentation that include the overall structure of the doctoral dissertation and the main chapters of the dissertation.
The doctoral dissertation must include at least one article that has been published or accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, students are required to submit documentation certifying that they are the principal author.
(Learning activities outside of the classroom)
Students are expected to make the necessary preparations for presentations at Workshop III. In addition, they should prepare for academic conference presentations and the submission of manuscripts to peer-reviewed or equivalent academic journals.
(Grading criteria)
Grading is determined based on submitted written materials, presentations, and responses to questions raised at the interim workshop sessions. A grade of A- (A minus) or higher qualifies students to submit their doctoral dissertation.

MAN700F1 – 0012（経営学 / Management 700）

博士コースワークショップIII B

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員からの指導、助言、あるいは批判や疑問を受けることができる機会であると同時に、博士課程院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。
博士コースワークショップIIIBでは、中間報告会での報告で、ステップ３の合格に求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】
博士論文のステップ３となる「博士論文の全体構想と主要な部分（章）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。
主指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会に参加した複数の教員あるいは博士課程院生等との質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けて有意義な助言を得る。
なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の学生は、合格すべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に至るまでの成果を中間報告会で発表し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。
なお、中間報告会には、報告しない博士課程院生も全員参加する。修士課程の院生や研究生は研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章(論文)」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章(論文)」の再検討の結果、及びそれに基づく現状の研究成果を副指導教員に報告する
第2回	博士論文全体構成の提示と検討	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第3回	博士論文全体構成の提示と検討②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第4回	主要章の報告①	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第5回	主要章の報告②	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第6回	博士コース中間報告会①	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。
第7回	博士コース中間報告会②	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士演習はもとより、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告会終了後には、教員および院生からの助言や批判点を整理した上で、論文を改善する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して決定する。A-(Aマイナス)以上の単位を取得した場合、博士論文を提出する権利が与えられる。
なお、博士論文ワークショップIIIAの合格者は、博士論文ワークショップIIIBを受ける必要はない。

【学生の意見等からの気づき】
『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
博士コースワークショップIIAまたはIIBにおいて、A-評価以上の修得者のみが履修可能である。
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The Doctoral Course Workshop consists of a three-stage system designed to ensure that doctoral students make systematic and steady progress toward completion of their dissertations. The interim workshop sessions provide valuable opportunities for students to receive comments and advice from multiple faculty members, as well as to share research skills and information with fellow doctoral students.
(Learning objectives)
The objective of Workshop IIIB is to fulfill the requirements of Step 3, as articulated in the Doctoral Program Guidelines. To meet this requirement, students must submit written materials and deliver a presentation that include the overall structure of the doctoral dissertation and the main chapters of the dissertation.
The doctoral dissertation must include at least one article that has been published or accepted for publication in a peer-reviewed or equivalent academic journal. In the case of a co-authored article, students are required to submit documentation certifying that they are the principal author.
(Learning activities outside of the classroom)
Students are expected to make the necessary preparations for presentations at Workshop III. In addition, they should prepare for academic conference presentations and the submission of manuscripts to peer-reviewed or equivalent academic journals.
(Grading criteria)
Grading is determined based on submitted written materials, presentations, and responses to questions raised at the interim workshop sessions. A grade of A- (A minus) or higher qualifies students to submit their doctoral dissertation.

法政大学
HOSEI University